清武町埋蔵文化財調査報告書 第22集

NUMERIKAWA

滑川第2遺跡

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2007

清武町教育委員会

調査区全景（平成９年度）

調査区全景（平成 10 年度）

SR-42（旧石器時代の礫群）

SI-39（縄文時代草創期の集石遺構）

巻頭カラー 2

SI-19《^{14}C 年代：8190±40 年 BP》

貝殻条痕文土器
〔縄文時代早期遺物包含層出土土器 No.209〕

巻頭カラー 3

野口式土器
〔アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器 No.43〕

姫島産黒曜石製石核
〔縄文時代早期遺物包含層出土石器 No.506〕

巻頭カラー 4

序

本書は、清武町船引地区で進められている県営農地保全整備事業に伴い、平成９・10年度事業区で実施した滑川第２遺跡の発掘調査報告書です。

滑川第２遺跡では、旧石器時代の石器や縄文時代早期の蒸し焼き料理施設である集石遺構、又、弥生時代の竪穴式住居跡など数多くの資料が確認されましたが、なかでも様々な石器の材料として使われていた県内最大級の大分県姫島産の黒曜石は、当時の人々の交流範囲を知る貴重な資料といえるでしょう。

今後は、これら先人達の残した貴重な郷土の文化遺産を、学校や地域と十分な連携を図りながら授業や体験講座の教材として活用し、21世紀を担う子供たちに豊かな知識と誠実な心を確実に継承していきたいと考えております。又、一般の方々が直に資料を手にとることのできるような現地見学や歴史講座などの生涯学習の機会も積極的に設け、古の人々の息吹、想い、願いをより多くの方々に感じていただけるよう努めていく所存です。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり多大な御協力をいただきました船引土地改良区をはじめとする地元の皆様に対し、心より厚く御礼申し上げます。

平成19年１月

清武町教育委員会

教育長　水元　三千夫

例　　言

1．本書は、県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成 9･10 年度に実施された滑川第２遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査における測量･実測については、井田篤･松原一哉及び実測補助員が行った。
実測補助員：　　（50 音順）

3．遺物･図面の整理及び報告書作成業務については、一部を平成 9･10 年度に清武町文化財管理事務所で実施し、残りを平成 18 年度に清武町埋蔵文化財センターで実施した。
平成 9･10 年度
担　　当：井田、松原
整理作業員：　　（50 音順）
平成 18 年度
担　　当：井田、秋成雅博、今村結記
整理作業員：
（50 音順）

4．本書で使用した写真については、調査に関するものは井田･松原が撮影し、報告書掲載遺物については井田･秋成･今村が撮影した。又、空中写真については（株）スカイサーベイに委託した。

5．放射性炭素年代測定及び樹種同定については、（株）古環境研究所に委託した。分析結果については、本書Ｐ187･188 に掲載している。尚、本書で使用している放射性炭素年代測定値については、加速器質量分析法による補正 ^{14}Ｃ年代である。

6．石器実測及びトレースについては、一部をアイシン精機株式会社新規事業企画室及び株式会社九州文化財研究所に委託した。なおこれらの監修については、秋成が行った。

7．本書で使用した土層及び土器等の色調については、『新版　標準土色帖（1997 年後期版）』の土色に準拠した。

8．本書では、磁北と座標北の２種類の方位を使用している。（座標北を用いる場合のみＧ･Ｎと表示している。）又、標高については海抜絶対高である。

9．本書に使用した記号は次のとおりである。
ＳＲ：礫群　ＳＩ：集石遺構　ＳＣ：土坑　ＳＡ：竪穴式住居跡　ＳＥ：溝状遺構

10．本書に使用した遺構内出土遺物及び包含層出土遺物の掲載番号については、各章ごとに表記している。
第Ⅱ章　旧石器（ナイフ形石器文化期・細石器文化期）包含層出土遺物　‥　No.１～ 112
第Ⅲ章　遺構内出土遺物　‥　No.１～ 25　　縄文時代早期遺物包含層出土遺物　‥　No.１～ 513
第Ⅳ章　遺構内出土遺物　‥　No.１～ 19　　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土遺物　‥　No.１～ 309

11．本書に使用した土層番号は、第５図　基本土層柱状図　の番号を使用している。

12．本書の執筆と編集については井田･秋成･今村が担当し、文責については本文目次に記している。

13．出土遺物その他諸記録は、清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

（文責）

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織 …… 1　井田
　１．調査に至る経緯 …… 1　〃
　２．調査組織 …… 1　〃
第２節　遺跡の環境 …… 1　〃
　１．地理的環境 …… 1　〃
　２．歴史的環境 …… 1　〃
　３．周辺遺跡 …… 4　〃
第３節　調査の経過と方法 …… 4　〃
　１．調査の経過 …… 4　〃
　２．調査の方法 …… 4　〃
第４節　基本土層 …… 7　〃

第Ⅱ章　旧石器時代の調査

第１節　ナイフ形石器文化期の調査について …… 9　秋成
　１．遺構・遺物の出土状況と出土層位 …… 9　〃
　２．礫群 …… 9　〃
　３．出土遺物 …… 9　〃
第２節　細石器文化期の調査について …… 27　〃
　１．礫群 …… 27　〃
　２．出土遺物 …… 27　〃

第Ⅲ章　縄文時代早期についての調査

第１節　遺構 …… 39　井田
　１．集石遺構 …… 39　〃
　２．土坑 …… 49　〃
第２節　包含層出土遺物 …… 53　井田・秋成
　１．土器 …… 53　〃
　２．石器 …… 78～80・91　秋成

第Ⅳ章　アカホヤ火山灰層上位についての調査

第１節　遺構 …… 127　井田・今村
　１．集石遺構 …… 127　井田
　２．竪穴式住居跡 …… 127　今村
　３．溝状遺構 …… 131　井田
　４．土坑 …… 131　〃
第２節　包含層出土遺物 …… 136　井田・秋成・今村
　１．縄文土器 …… 136　井田
　２．弥生時代以降の土器 …… 144　今村
　３．石器 …… 153　秋成

第Ⅴ章　まとめ

滑川第２遺跡のナイフ形石器文化について …… 185　秋成
アカホヤ火山灰層前後の石器群について …… 185　〃
刻目突帯文土器について …… 186　今村
山陰系土器（図91　188）について …… 186　〃
滑川第２遺跡における自然科学分析 …… 187・188
調査抄録 …… 189

挿図目次

第 1 図　遺跡位置図(S=1/25000) …… 2
第 2 図　遺跡周辺地形図(S=1/2000) …… 3
第 3 図　グリッド図(S=1/750) …… 5
第 4 図　遺跡地形図(S=1/750) …… 6
第 5 図　基本土層柱状図 …… 7
第 6 図　Ａ２－Ｃ２グリッド土層図(S=1/60) …… 8
第 7 図　ナイフ形石器文化期礫分布図(S=1/300) …… 11
第 8 図　ナイフ形石器文化期礫群平面図(S=1/30) …… 12
第 9 図　ナイフ形石器文化期出土石器分布図【器種別】(S=1/300) …… 13
第 10 図　ナイフ形石器文化期出土石器分布図【石材別】(S=1/300) …… 14
第 11 図　ナイフ形石器文化期出土石器接合状況(S=1/200) …… 15
第 12 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図①(S=2/3) …… 16
第 13 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図②(S=2/3) …… 17
第 14 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図③(S=2/3) …… 18
第 15 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図④(S=2/3) …… 19
第 16 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑤(S=2/3) …… 20
第 17 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑥(S=2/3) …… 21
第 18 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑦(S=2/3) …… 22
第 19 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑧(S=2/3) …… 23
第 20 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑨(S=2/3) …… 24
第 21 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑩(S=2/3) …… 25
第 22 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑪(S=1/2･2/3) …… 26
第 23 図　細石器文化期遺構･遺物分布図(S=1/750) …… 28
第 24 図　細石器文化期礫群実測図(S=1/30) …… 29
第 25 図　細石器文化期出土石器実測図(S=2/3) …… 29
第 26 図　縄文時代早期集石遺構実測図①(S=1/30) …… 40
第 27 図　縄文時代早期遺構配置図(S=1/750) …… 41
第 28 図　縄文時代早期集石遺構実測図②(S=1/30) …… 42
第 29 図　縄文時代早期集石遺構実測図③(S=1/30) …… 43
第 30 図　縄文時代早期集石遺構実測図④(S=1/30) …… 44
第 31 図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤(S=1/30) …… 45
第 32 図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥(S=1/30) …… 46
第 33 図　集石遺構内出土遺物実測図(S=2/3) …… 47
第 34 図　縄文時代早期土坑実測図①(S=1/30) …… 49
第 35 図　縄文時代早期土坑実測図②(S=1/30) …… 50
第 36 図　土坑内出土遺物実測図①(S=1/3･2/3･1/2) …… 50
第 37 図　土坑内出土遺物実測図②(S=1/3) …… 51
第 38 図　縄文時代早期土坑実測図③(S=1/30) …… 52
第 39 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図(S=1/750) …… 56
第 40 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①(S=1/3) …… 57
第 41 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②(S=1/3) …… 58
第 42 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③(S=1/3) …… 59
第 43 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④(S=1/3) …… 60
第 44 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤(S=1/3) …… 61
第 45 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥(S=1/3) …… 62
第 46 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦(S=1/3) …… 63
第 47 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧(S=1/3) …… 64
第 48 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑨(S=1/3) …… 65
第 49 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩(S=1/3) …… 66
第 50 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑪(S=1/3) …… 67
第 51 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑫(S=1/3) …… 68
第 52 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑬(S=1/3) …… 69
第 53 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑭(S=1/3) …… 70
第 54 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑮(S=1/3) …… 71
第 55 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑯(S=1/3) …… 72
第 56 図　縄文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図【石材別】(S=1/750) …… 81
第 57 図　縄文時代早期遺物包含層出土石鏃分布図(S=1/750) …… 82
第 58 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図【加工具･調理具】(S=1/750) …… 83
第 59 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①(S=2/3) …… 84
第 60 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②(S=2/3) …… 85
第 61 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③(S=2/3) …… 86
第 62 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④(S=2/3) …… 87

第 63 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤(S=2/3) …… 88
第 64 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥(S=2/3) …… 89
第 65 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦(S=2/3) …… 90
第 66 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧(S=2/3) …… 91
第 67 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨(S=2/3) …… 92
第 68 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩(S=1/2) …… 93
第 69 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪(S=1/2) …… 94
第 70 図　SI-1《アカホヤ火山灰層上面検出》実測図(S=1/30) …… 127
第 71 図　アカホヤ火山灰層上位検出遺構配置図(S=1/750) …… 128
第 72 図　SA-1 実測図(S=1/40)及び SA-1 出土遺物実測図①(S=1/3) …… 129
第 73 図　SA-1 出土遺物実測図②(S=1/3・2/3) …… 130
第 74 図　SE-1 実測図(S=1/40) …… 131
第 75 図　SE-1 土層断面図(S=1/20) …… 131
第 76 図　アカホヤ火山灰層上位検出土坑実測図①(S=1/30) …… 132
第 77 図　アカホヤ火山灰層上位検出土坑実測図②(S=1/30) …… 133
第 78 図　アカホヤ火山灰層上位検出土坑実測図③(S=1/30) …… 134
第 79 図　アカホヤ火山灰層上位検出土坑実測図④(S=1/30) …… 135
第 80 図　土坑内出土遺物実測図(S=1/3・2/3) …… 135
第 81 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器分布図(S=1/750) …… 137
第 82 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図①(S=1/3) …… 138
第 83 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図②(S=1/3) …… 139
第 84 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図③(S=1/3) …… 140
第 85 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図④(S=1/3) …… 141
第 86 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器実測図⑤(S=1/3) …… 142
第 87 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》実測図①(S=1/3) …… 145
第 88 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》実測図②(S=1/3) …… 146
第 89 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》実測図③(S=1/3) …… 147
第 90 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》実測図④(S=1/3) …… 148
第 91 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》実測図⑤(S=1/3) …… 149
第 92 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》実測図⑥(S=1/3) …… 150
第 93 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土主要剥片石器分布図【石材別】(S=1/750) …… 155
第 94 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石鏃分布図(S=1/750) …… 156
第 95 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器分布図【加工具・調理具】(S=1/750) …… 157
第 96 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図①(S=2/3) …… 158
第 97 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図②(S=2/3) …… 159
第 98 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図③(S=2/3) …… 160
第 99 図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図④(S=2/3) …… 161
第100図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図⑤(S=2/3) …… 162
第101図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図⑥(S=2/3・1/2) …… 163
第102図　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器実測図⑦(S=1/2) …… 164

写真図版目次

巻頭カラー 1　調査区全景(平成 9 年度)
　　調査区全景(平成 10 年度)
巻頭カラー 2　SI-42(旧石器時代の礫群)
　　SI-39(縄文時代草創期の集石遺構)
巻頭カラー 3　SI-19《^{14}C 年代：8190±40 年 BP》
　　貝殻条痕文土器
巻頭カラー 4　野口式土器
　　姫島産黒曜石製石核
写真図版 1　基本土層 …… 7
写真図版 2　旧石器時代遺構① …… 32
写真図版 3　旧石器時代遺構② …… 33
写真図版 4　旧石器時代遺構③ …… 34
写真図版 5　旧石器時代遺物包含層出土石器① …… 35
写真図版 6　旧石器時代遺物包含層出土石器② …… 36
写真図版 7　旧石器時代遺物包含層出土石器③ …… 37
写真図版 8　旧石器時代遺物包含層出土石器④ …… 38
写真図版 9　縄文時代早期遺構① …… 99
写真図版10　縄文時代早期遺構② …… 100
写真図版11　縄文時代早期遺構③ …… 101
写真図版12　縄文時代早期遺構④ …… 102

写真図版13　縄文時代早期遺構⑤ …… 103
写真図版14　縄文時代早期遺構⑥ …… 104
写真図版15　遺構内（集石遺構・土坑）出土遺物① …… 105
写真図版16　遺構内（集石遺構・土坑）出土遺物② …… 106
写真図版17　縄文時代早期遺物包含層出土土器① …… 107
写真図版18　縄文時代早期遺物包含層出土土器② …… 108
写真図版19　縄文時代早期遺物包含層出土土器③ …… 109
写真図版20　縄文時代早期遺物包含層出土土器④ …… 110
写真図版21　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤ …… 111
写真図版22　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥ …… 112
写真図版23　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦ …… 113
写真図版24　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑧ …… 114
写真図版25　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑨ …… 115
写真図版26　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑩ …… 116
写真図版27　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑪ …… 117
写真図版28　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑫ …… 118
写真図版29　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑬ …… 119
写真図版30　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑭ …… 120
写真図版31　縄文時代早期遺物包含層出土石器① …… 121
写真図版32　縄文時代早期遺物包含層出土石器② …… 122
写真図版33　縄文時代早期遺物包含層出土石器③ …… 123
写真図版34　縄文時代早期遺物包含層出土石器④ …… 124
写真図版35　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑤ …… 125
写真図版36　縄文時代早期遺物包含層出土石器⑥ …… 126
写真図版37　アカホヤ火山灰層上位検出遺構① …… 167
写真図版38　アカホヤ火山灰層上位検出遺構② …… 168
写真図版39　アカホヤ火山灰層上位検出遺構③ …… 169
写真図版40　アカホヤ火山灰層上位検出遺構④ …… 170
写真図版41　アカホヤ火山灰層上位検出遺構内出土遺物 …… 170
写真図版42　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器① …… 171
写真図版43　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器② …… 172
写真図版44　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器③ …… 173
写真図版45　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器④ …… 174
写真図版46　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》① …… 175
写真図版47　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》② …… 176
写真図版48　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》③ …… 177
写真図版49　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》④ …… 178
写真図版50　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》⑤ …… 179
写真図版51　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》⑥ …… 180
写真図版52　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器① …… 181
写真図版53　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器② …… 182
写真図版54　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器③ …… 183
写真図版55　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器④ …… 184

表　目　次

第 1 表　旧石器（ナイフ形石器文化期）計測分類表 …… 27･30･31
第 2 表　旧石器（細石器文化期）計測分類表 …… 31
第 3 表　縄文時代早期集石遺構出土石器計測分類表 …… 47
第 4 表　縄文時代早期集石遺構観察表 …… 48
第 5 表　縄文時代早期土坑出土土器観察表 …… 51
第 6 表　縄文時代早期土坑出土石器計測分類表 …… 51
第 7 表　滑川第２遺跡及び近隣遺跡における縄文時代早期土器の形式別割合表 …… 55
第 8 表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表 …… 73～77
第 9 表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表 …… 94～98
第 10 表　SA-1 出土遺物観察表 …… 130
第 11 表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土縄文土器観察表 …… 142･143
第 12 表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土土器《弥生時代以降》観察表 …… 150～152
第 13 表　アカホヤ火山灰層上位遺物包含層出土石器計測分類表 …… 162･165･166
第 14 表　滑川第２遺跡出土縄文石器の割合 …… 185
第 15 表　滑川第２遺跡出土石鏃の使用石材の割合 …… 185

1st Period

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と調査組織

１．調査に至る経緯

平成７年度より実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、事業区に滑川第２遺跡の一部が含まれることが宮崎県教育委員会文化課の試掘結果等により明らかになった。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会文化課、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会など関係各局で協議を重ねた結果、やむを得ず削平などにより遺跡の現状保存が困難な事業区について、宮崎県中部農林振興局から委託された清武町教育委員会が発掘調査することとなった。

調査は平成９年度・10 年度の２ヶ年度にわたって行われ、それぞれの調査期間は平成９年度が平成９年８月１日から平成 10 年３月 31 日、平成 10 年度が平成 10 年５月６日から平成 11 年３月 31 日であった。

尚、調査面積については、平成９年度が 820 ㎡で平成 10 年度が 9600 ㎡、計 10420 ㎡であった。

２．調査組織

調査主体　清武町教育委員会

調　査（平成９年度）		調　査（平成 10 年度）		整理作業（平成 18 年度）	
事務局		**事務局**		**事務局**	
教育長	湯地　敏郎	教育長	湯地　敏郎	教育長	水元　三千夫
教育次長	谷口　忠誓	教育次長	清　俊郎	教育次長	小城　員久
社会教育課長	戸高　輝利	社会教育課長	戸高　輝利	生涯学習課長	落合　兼雄
〃補佐兼文化係長	落合　兼雄	〃補佐兼文化係長	落合　兼雄	〃　補佐	窪田　清士
〃　主任	川越　健	〃　主任	川越　健	〃　係長	伊東　但
調査員		**調査員**			
社会教育課主任	伊東　但	社会教育課主任	伊東　但	生涯学習課主任	井田　篤
社会教育課主事	井田　篤	社会教育課主事	井田　篤	生涯学習課主事	秋成　雅博
		社会教育課嘱託	松原　一哉	生涯学習課嘱託	今村　結記
				生涯学習課嘱託	平山　景将

第２節　遺跡の環境

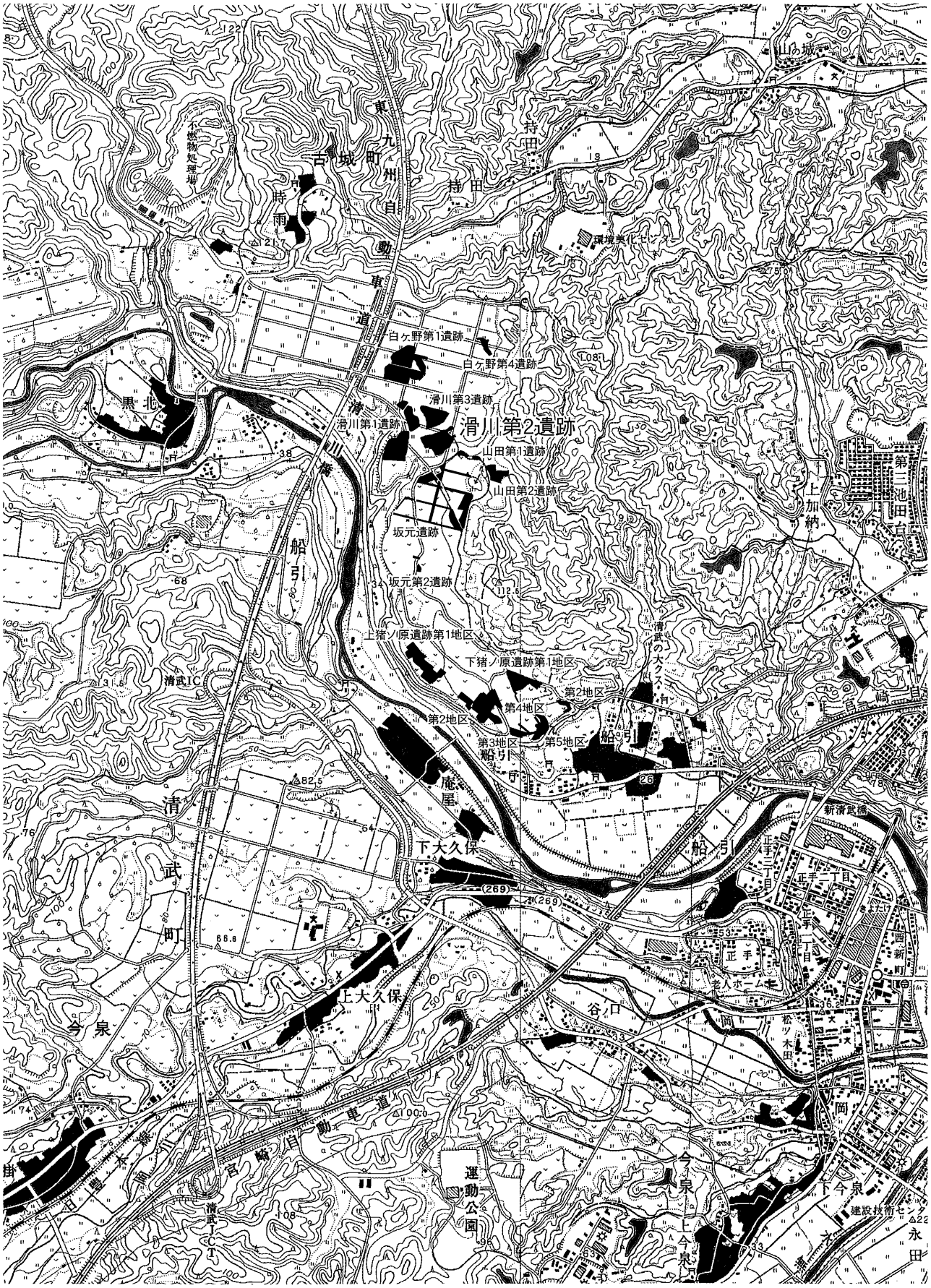
１．地理的環境

清武町は、県内最大の宮崎平野の南端に位置し、県都宮崎市の南西に隣接している。町内ほぼ中央には清武川が東流し、河川周辺には沖積地や河岸段丘がみられその上位には台地が発達している。

滑川第２遺跡は、町内西方の標高約 80m～ 85mの台地上に位置している。この台地は、大淀川南岸丘陵とよばれる四万十層群からなる標高 200m～ 400m丘陵が、高岡方面から東に向かってしだいに低くなり平坦な台地地形へと変化したもので、地質は宮崎平野の基盤である宮崎層群の上位にシラスや火山灰等が堆積して形成されたものである。尚、このシラス台地上及び崖面には、湧水点が数多く点在しており、遺跡が立地するうえでの好条件の一つであった考えられる。

２．歴史的環境

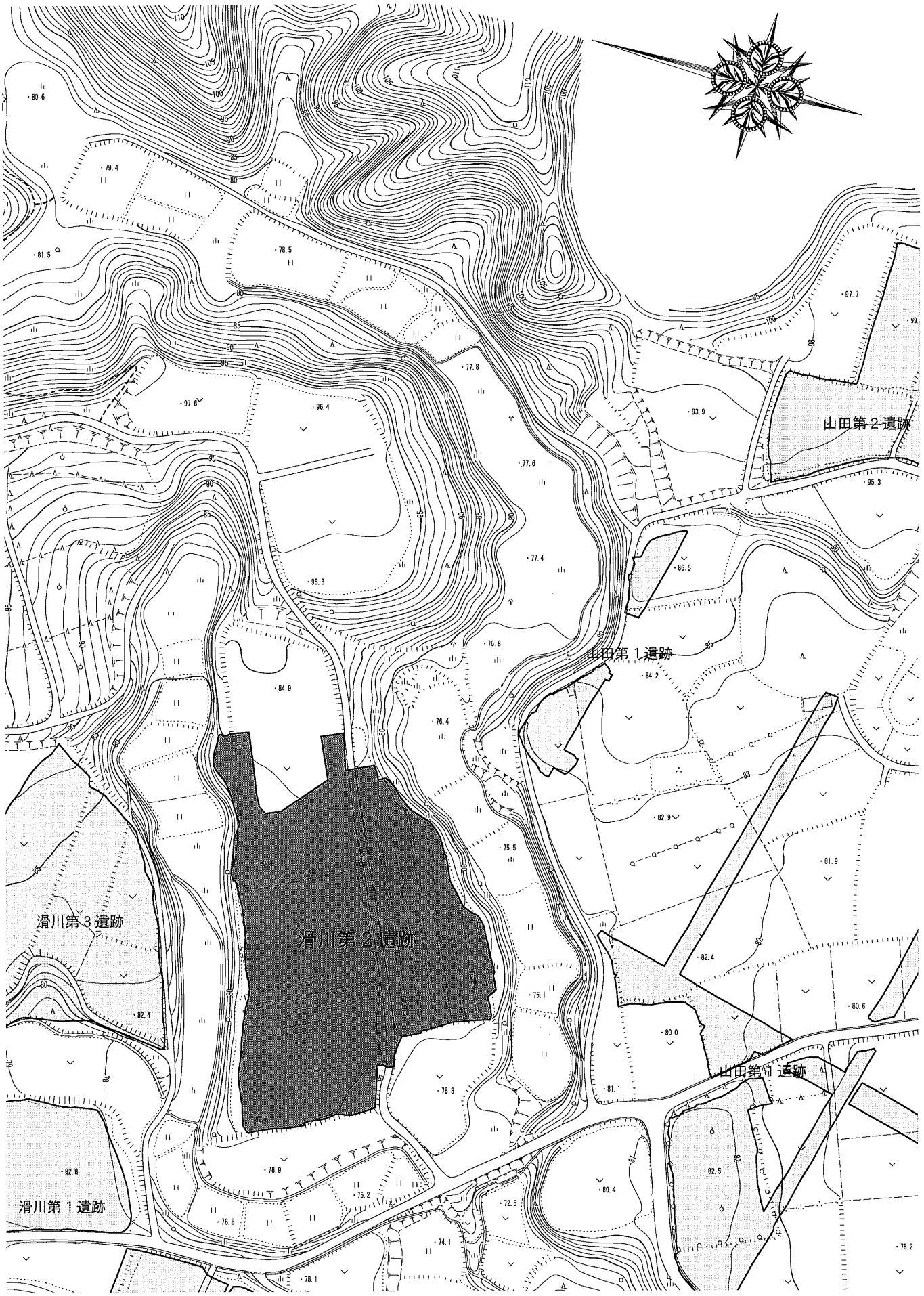
滑川第２遺跡は、清武町内船引地区に所在する。船引の名が歴史上に登場するのは古代末から中世にかけてで



0 1.0km

＊旧日本測地系による

第１図　遺跡位置図（S=1/25000）



第２図　遺跡周辺地形図（S=1/2000）

ある。建久八(1197)年鎌倉幕府が各国の現地役人に命じて作成させた『建久の図田帳』には、「船曳五十町、右宮崎郡内　弁済使法印、不知實名、」とあり、平安末には宇佐八幡宮と強い結びつきをもった荘園がこの地に存在していたのではないかと推測される。

室町・戦国期においては、この地は主に伊東氏の所領であったが、豊臣秀吉の九州征伐後高橋元種の所領となり、江戸時代初期には幕府領（天領）となっている。加納・木原・今泉といった清武町内の他の地区は、秀吉により伊東祐兵に与えられ江戸時代をとおして飫肥藩領であったため、現在の清武町においては船引地区だけが異なる支配体制のもと近世という時を刻んだこととなる。

明治維新後は、船引村として清武郡治所の管轄下となり、明治24(1891)年には清武村、昭和25(1950)年には清武町の一地区として、現在も発展を続けている。

又、江戸時代の中期には定着していた“船引神楽”は、主に稲作豊穣と子孫繁栄を祈願して春（春分の日）に奉納される作祈祷神楽であるが、数多くの番数が今も尚伝承されていることから、県の無形民俗文化財に指定されている。

3．周辺遺跡

滑川第2遺跡が立地する台地上では、平成3年頃から県営農地保全整備事業（時屋工区）、東九州自動車建設、県営農地保全整備事業（船引工区）などの大型公共工事が相次いでいる。

それに伴い発掘調査が実施された遺跡は20遺跡を数え（平成17年度現在）、旧石器から近世まで貴重な資料が多数確認されている。特に、台地上という地形からか、狩猟・採集を主な生業としていた縄文時代早期の遺構・遺物がすべての遺跡で確認されている。

第3節　調査の経過と方法

1．調査の経過

【平成9年度】

重機による表土の剥ぎ取り後調査区を精査したところ、現代の耕作により旧地形がかなり削平されており、縄文時代早期と旧石器時代の文化層のみが残存している状況であった。旧石器時代の文化層については、既に露出している範囲もあったため、その部分については縄文時代早期の遺構の記録作業と同時に遺物の取り上げ作業や遺構の記録作業を行った。尚、縄文時代早期文化層下位の旧石器時代文化層の調査終了をもって、平成9年度調査は全工程を終了した。

【平成10年度】

重機による表土の剥ぎ取り後、まずアカホヤ火山灰層残存範囲において、遺物の取上げ作業と遺構の検出作業を行った。アカホヤ火山灰層上位の遺物包含層からは、縄文時代前期の遺物を中心に縄文時代から古代にかけての遺物が出土した。又、遺構については、集石遺構や弥生時代の竪穴式住居跡などが検出されため、遺物の取上げ作業と並行して遺構の記録作業を実施した。

縄文時代前期以降についての調査終了後、人力によりアカホヤ火山灰層を除去、つづいて縄文時代早期についての調査を実施した。検出された遺構としては、集石遺構や土坑などが挙げられるが、特に集石遺構については41基も検出され、記録にはかなりの時間と労力を費やすこととなった。

又、旧石器時代については、平成9年度の調査結果をもとに、文化層が残存していると判断したA2･B2グリッドを中心に調査を実施した。

2．調査の方法

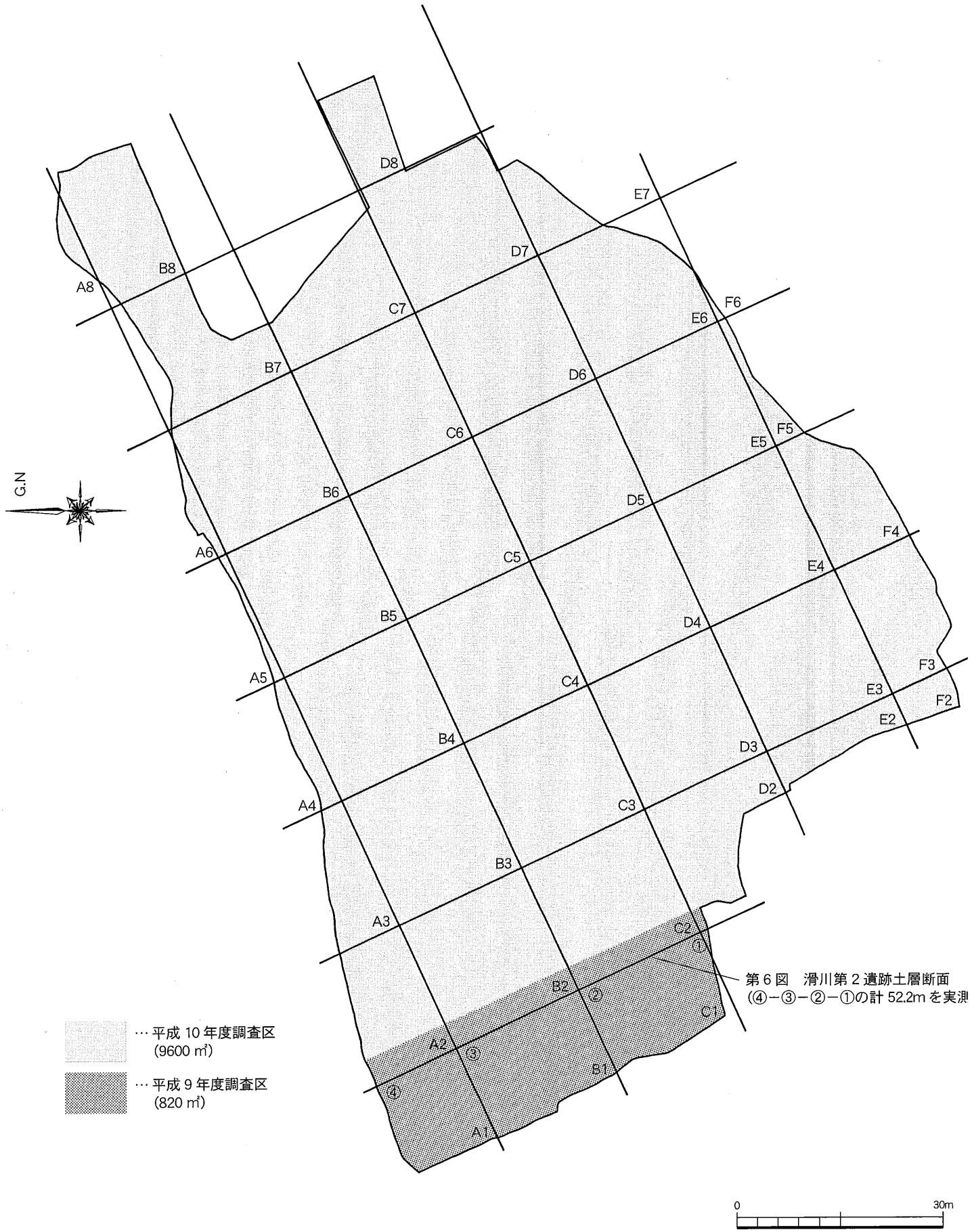
表土等の剥ぎ取り：調査員の指示のもと重機を使用して実施した。

基準杭の設定：ほとんどは業者に委託し、補助的な部分は調査員が行った。

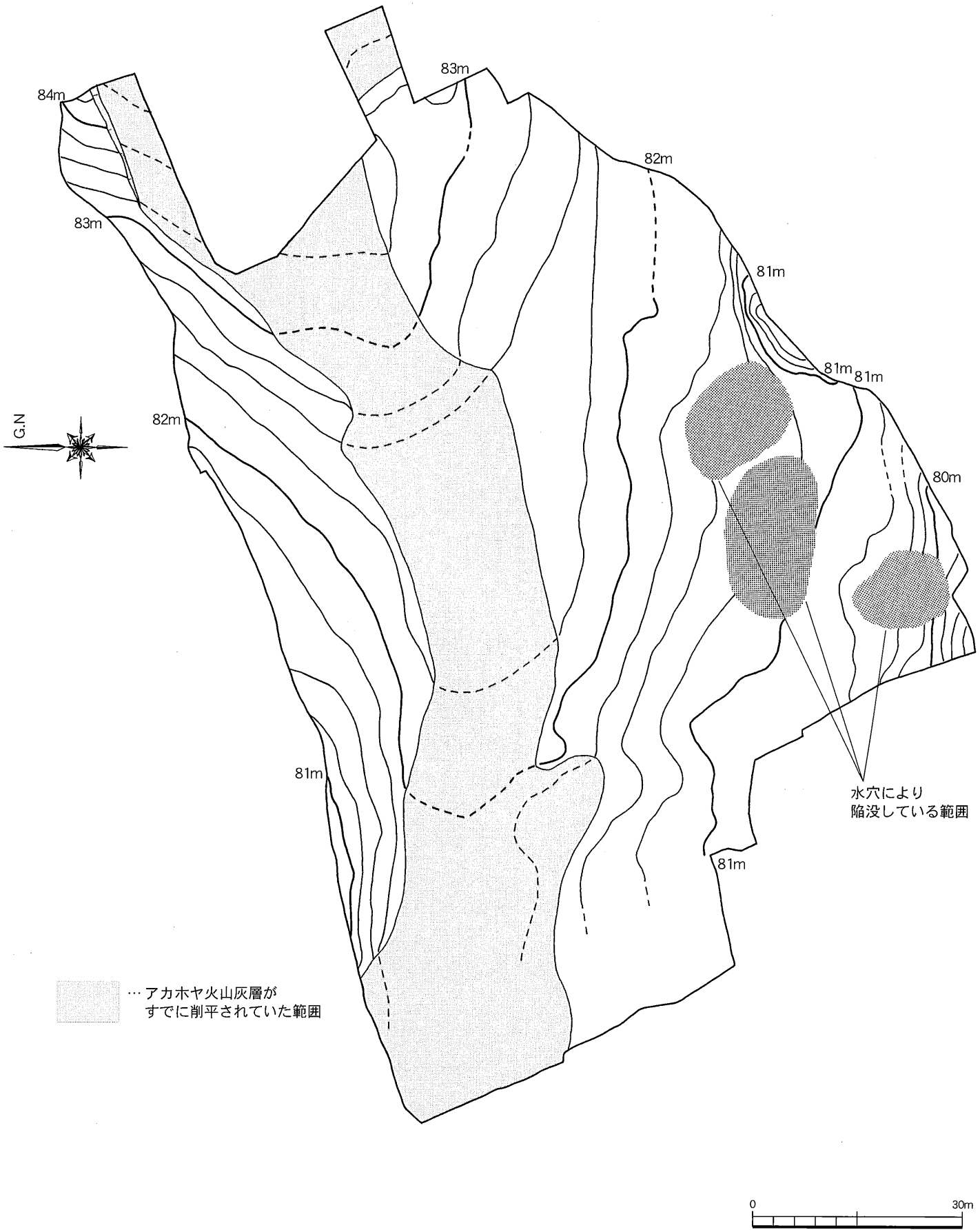
遺物包含層の掘り下げ作業：主にジョレン・ねじり鎌で行った。包含層中に存在する遺構の検出作業も兼ねているので、一枚一枚包含層を剥ぐ意識を作業員に徹底させ丁寧に行った。

遺構実測：遺構のサイズに応じて1/10又は1/20で作図した。

測量関係：光波測量器及びデータコレクタを使用し、現場でデータを収集した後、清武町文化財管理事務所（現清武町埋蔵文化財センター）において、AUTOCADを利用してデジタルデータとして整理・管理した。



第３図　グリッド図（S=1/750）



第４図　遺跡地形図（S=1/750）

写真撮影：6×6・6×9 版モノクロ・リバーサル、35mmモノクロ・リバーサル写真を併用し空中写真については業者に委託した。

第４節　基本土層

当遺跡が所在する船引台地における基本土層は第５図（ 基本土層柱状図 ）のとおりである。尚、当遺跡の基本土層についてもほぼ第５図と同じであるが、Ⅶ層については確認されていない。

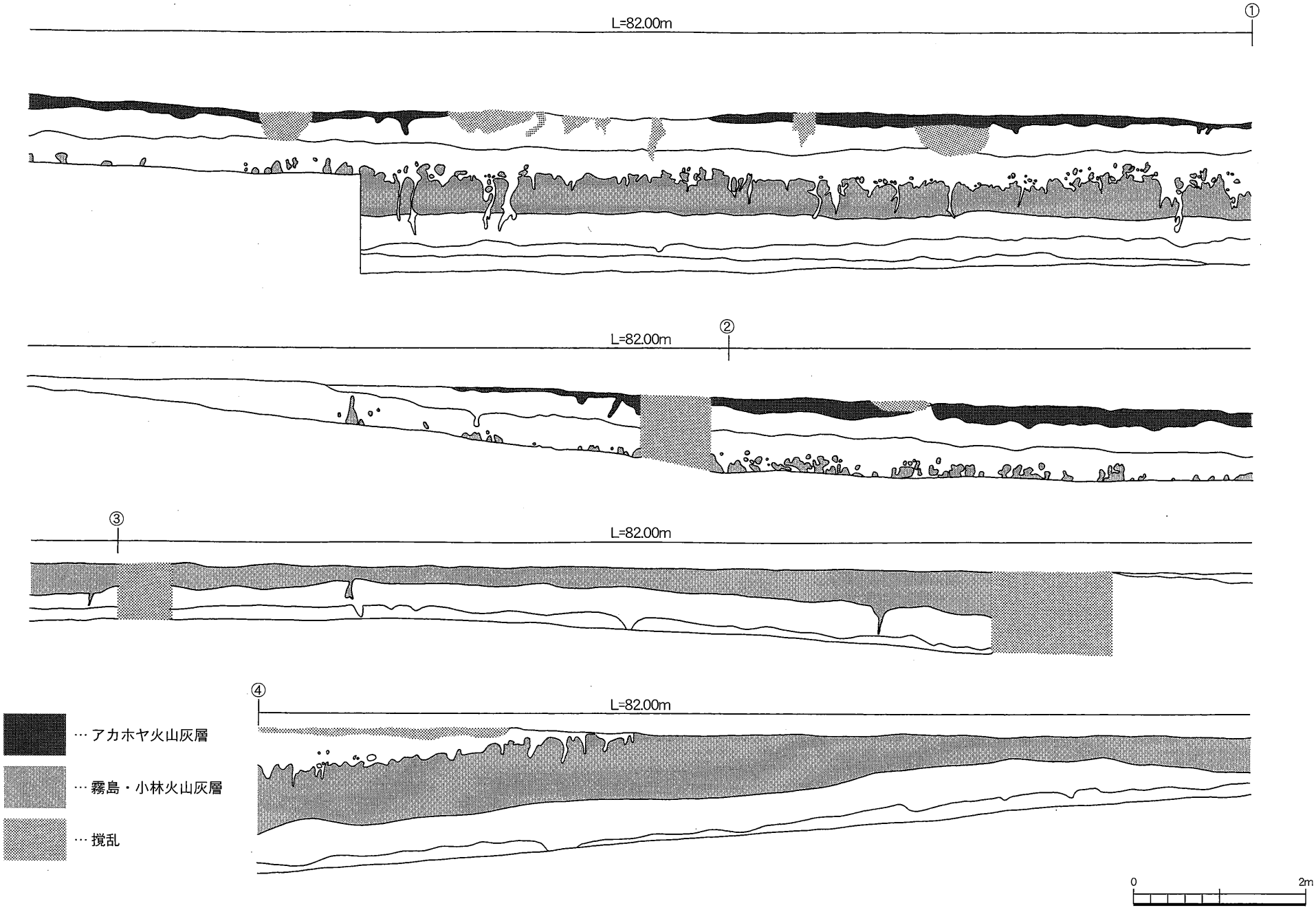
Ⅱ・Ⅲ層…縄文時代前期以降の遺物包含層。〈縄文土器･弥生土器･土師器･石器などが出土〉
Ⅳ層上面…縄文時代前期以降の遺構検出面。〈集石遺構･溝状遺構などが検出されている〉
Ⅴ・Ⅵ層…縄文時代早期の遺物包含層。〈集石遺構は主にこの層で検出されている〉
Ⅸ層上面…縄文時代早期の遺構検出面。〈土坑は主にこの面で検出されている〉
Ⅹ・Ⅺ層…旧石器時代の遺物包含層。〈礫群はこの層で検出されている〉

＊当報告書における土層番号については、第５図の番号を使用している。

Ⅰ	耕作土
Ⅱ	黒色シルト土
Ⅲ	鬼界アカホヤ火山灰風化層 (= 通称「2 次アカ」)
Ⅳ(a)	**鬼界アカホヤ火山灰層（K-Ah）**
Ⅳ(b)	鬼界アカホヤ火山灰降下軽石層
Ⅴ(a)	黒色シルト質ローム層
Ⅴ(b)	黒褐色ローム層
Ⅵ	褐色シルト質ローム層
Ⅶ	桜島薩摩テフラ（Sz-S）
Ⅷ	霧島小林軽石風化層
Ⅸ	**霧島小林軽石層（Kr-Kb）**
Ⅹ	暗褐色シルト質ローム層
Ⅺ	褐色シルト質ローム層
Ⅻ(a)	シラス（2 次）
Ⅻ(b)	シラス

第５図　基本土層柱状図

写真図版１　基本土層



第6図　A2-C2グリッド土層図（S=1/60）

2nd Period

第Ⅱ章　旧石器時代の調査

第１節　ナイフ形石器文化期の調査について

１．遺構・遺物の出土状況と出土層位

平成 9 年度の調査区の一部（北側・南側）においては縄文時代早期の遺物包含層が削平を受けており、旧石器時代の遺物包含層と考えられる 9 ～ 10 層が露出している状況であった。そこで旧石器時代の遺物包含層と考えられる 9 層下位を掘り下げたところ遺物・礫群の検出が確認された。平成 10 年度の調査では平成 9 年度の旧石器時代の調査区を拡張し、遺物・遺構の広がりを確認した。設定された旧石器時代の調査区以上に遺物・遺構の広がりは予想されるが、縄文早期の調査に時間を取られ、部分的な調査となってしまった。最終的には本遺跡における旧石器時代の調査面積は 355 ㎡を測る。

船引地区遺跡群の発掘調査では縄文早期の遺構・遺物の密度が非常に濃いことが多い。そのため縄文早期の調査に労力がかかることとなり、その結果として旧石器時代の調査にとりかかることができないということが実情である。基本的なことと考えるが、試掘調査結果に基づいた十分な調査期間の確保と旧石器時代調査の効率化が課題であると考える。

石器や礫は設定された調査区をほぼ全面に広がる。前述のとおりその広がりは設定された調査区よりも広がることが予想される。石器群も礫群も 10 層～ 11 層にかけて出土しているが、石器の接合資料や礫の接合関係によると 10 層と 11 層の資料が接合するという結果が把握できている。また石器群も礫群の垂直分布状況も同じ状況であり、ほとんど同一レベルで出土している様相が見受けられる。これらの状況から礫群と石器群は同時期に存在したものであり、また出土した石器群の一括性も高いと考えられる。なお出土遺物は 11 層よりも 10 層のほうがより多く出土している。

石器の分布状況は設定された調査区の中央付近よりも東側に製品類（決定器種）が多く分布している。中央付近よりも西側には石核や接合資料が多いという傾向が見られる。また中央付近には黒曜石製の石器の分布が集中している。砂岩製のものについては調査区の東側の境界付近と西側の境界付近の二ヶ所に集中が見られる。

２．礫群

設定された旧石器時代の調査区からは 320 点の礫が出土した。特に焼礫が密集する範囲である 2 箇所を SR－2・3 として図化をおこなった。SR－2・3 は 10 層中にて検出され、ともに赤化した 10cm ～ 15cm 程度の砂岩の円礫または亜円礫を使用する礫群であったが炭化物は確認されなかった。礫群の接合関係は調査区の西側と中央で 7 組見られ、また SR－2 とその他の礫との 5 組の接合関係が確認された。ほかには SR－2 の中で 14 組の礫の接合を確認している。一方 SR－3 の中での接合関係は確認されなかった。

SR－2 は 4.0m×3.2mの範囲で礫の広がりが確認され、構成礫の点数は 78 点である。SR－3 は 2.4m×1.9m の範囲で礫の広がりが確認され、構成礫の点数は 37 点である。

３．出土遺物

出土遺物はナイフ形石器 11 点、台形様石器 1 点、角錐状石器 6 点、剥片尖頭器 1 点、スクレイパー 4 点、石錐 1 点、剥片 145 点、石核 5 点、敲石 4 点が出土した。石材については頁岩・流紋岩が最も多く他に黒曜石（桑ノ木津留産）・安山岩・砂岩が使用される。

最初に決定器種について述べ、次に工程器種についての述べることとする。工程器種については接合資料を中心に解説をおこなって、個別の剥片・石核については注目すべき資料についてのみ述べる。各々の資料については計測表を参照にしていただきたい。

ナイフ形石器（1 ～ 11）

ナイフ形石器は素材剥片・加工部位・平面形態などにより以下の 4 種類に分類される。石材については流紋岩・頁岩のみが使用されている。

・A 類（1 ～ 5）：いわゆる翼状剥片と呼ばれる横長剥片を素材として打面部側の一側縁に刃潰し加工を施すもの。瀬戸内技法によって生産される国府型ナイフ形石器に分類される資料。

・B 類（6 ～ 9）：縦長剥片を素材として打面部や端部の一部に刃潰し加工を施すもの。

・C 類（10）　：ななめ剥ぎの剥片を素材として二側縁に刃潰し加工を施すもの。

・D類（11）　：ななめ剥ぎの剥片を素材としてその片縁の一部に刃潰し加工を施すもの。
B・C類のナイフ形石器は旧石器時代の調査区の東側に偏って出土している傾向が見られる。

台形様石器（12）

頁岩製の横剥ぎの剥片を素材として両側縁に刃潰し加工を施すもの。

角錐状石器（13～18）

欠損品が3点あるが、加工状況により以下の2種類に分類される。使用石材は頁岩が中心であるが、黒曜石製のものも1点含まれている。角錐状石器は旧石器時代の調査区の東側に偏って出土している傾向が見られる。

・A類（14・15・17）：調整が背面全部に及ばす、背面に自然面を残すもの。
・B類（13・16・18）：調整が背面の全域に及び、背面に自然面を残さないもの。

稜上調整については先端部を中心におこなわれており、先端部の残存している13～15についてはすべて確認される。また13については基部付近にも稜上調整が見られる。

剥片尖頭器（19）

幅広の縦長剥片を素材とする。縦裂け現象によって幅の狭くなった打面部付近を基部として設定している。ノッチ状の加工は背面左側では平坦剥離のような加工になっている。先端は欠損しているためはっきりしないが、二次加工を施し、尖頭部を作り出していたようである。

スクレイパー（20～23）

20は砂岩製の縦長剥片を素材とし、片縁に細かい刃部調整を施す。21～23は流紋岩製の幅広の縦長剥片や不整形な剥片を素材とするが側縁に施された刃部調整は大振りであり、後述する**接合資料⑥**と同様に剥片素材の石核の可能性が考えられる。

石錐（69）

69は幅広の縦長剥片を素材として背面左側の下端部に主要剥離面側から数回の加撃による二次加工によって錐部を作り出す。

敲石（104～107）

104は頁岩製で使用痕は明瞭ではなく軽量な楕円形の礫を使用する。それに対して重量のある105～107は砂岩製で使用痕も顕著である。使用痕は円礫の端部または周縁に確認される。

接合資料①(24・25)

下端部が広がる縦長剥片2点の接合資料である。25→24の剥片剥離の順序が確認される。

接合資料③(28～30)

自然面を有する不整形な縦長剥片3点の接合資料である。28は打面を作り出すための剥片で28→29→30の剥片剥離の順序が確認される。

接合資料②・④・⑤・⑭

これらは頁岩・砂岩製で剥片が縦裂け現象又は切断により欠損した資料同士が接合したものである。

接合資料⑥

流紋岩製だと考えられるがホルンフェルス製の可能性もある。風化が著しくすべての剥片の表面には剥落している部分が観察される。縦長剥片47の作出後、その主要剥離面を打面として3枚の剥片を作出する。3枚の剥片の作出順序は46→45・48となる。

接合資料⑦

接合資料⑥と同様に流紋岩製だと考えられるがホルンフェルス製の可能性もあり、風化により表面には剥落している部分が見られる。幅広の縦長剥片2点の接合資料である。49→50の剥片剥離の順序が確認される。

接合資料⑧

砂岩製の不整形な縦長剥片3点の接合資料である。自然面を打面として71→72→70の剥片剥離の順序が確認される。

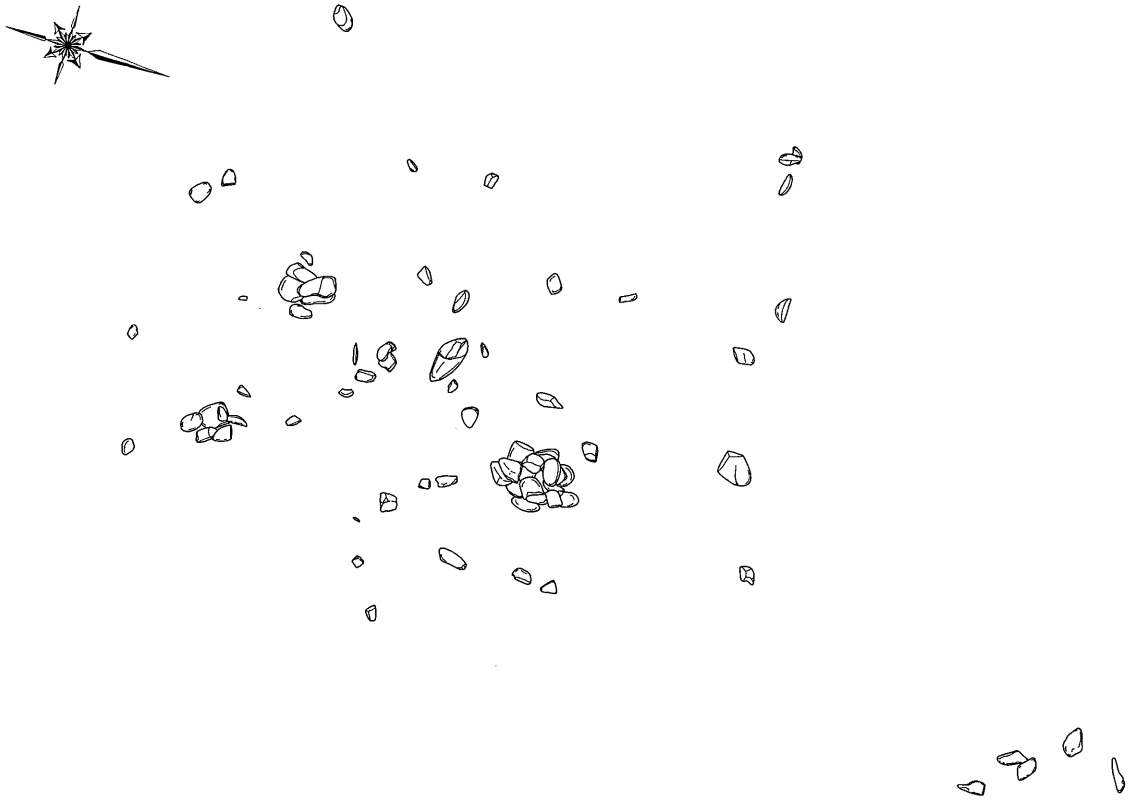
接合資料⑨

砂岩製の不整形な縦長剥片2点の接合資料である。自然面を打面として73→74の剥片剥離の順序が確認される。73・74ともに一部に二次加工が確認される。

接合資料⑩

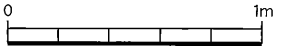
砂岩製の不整形な幅広の縦長剥片2点の接合資料である。自然面を打面として75→76の剥片剥離の順序が確認される。

第７図　ナイフ形石器文化期礫分布図（S=1/300）

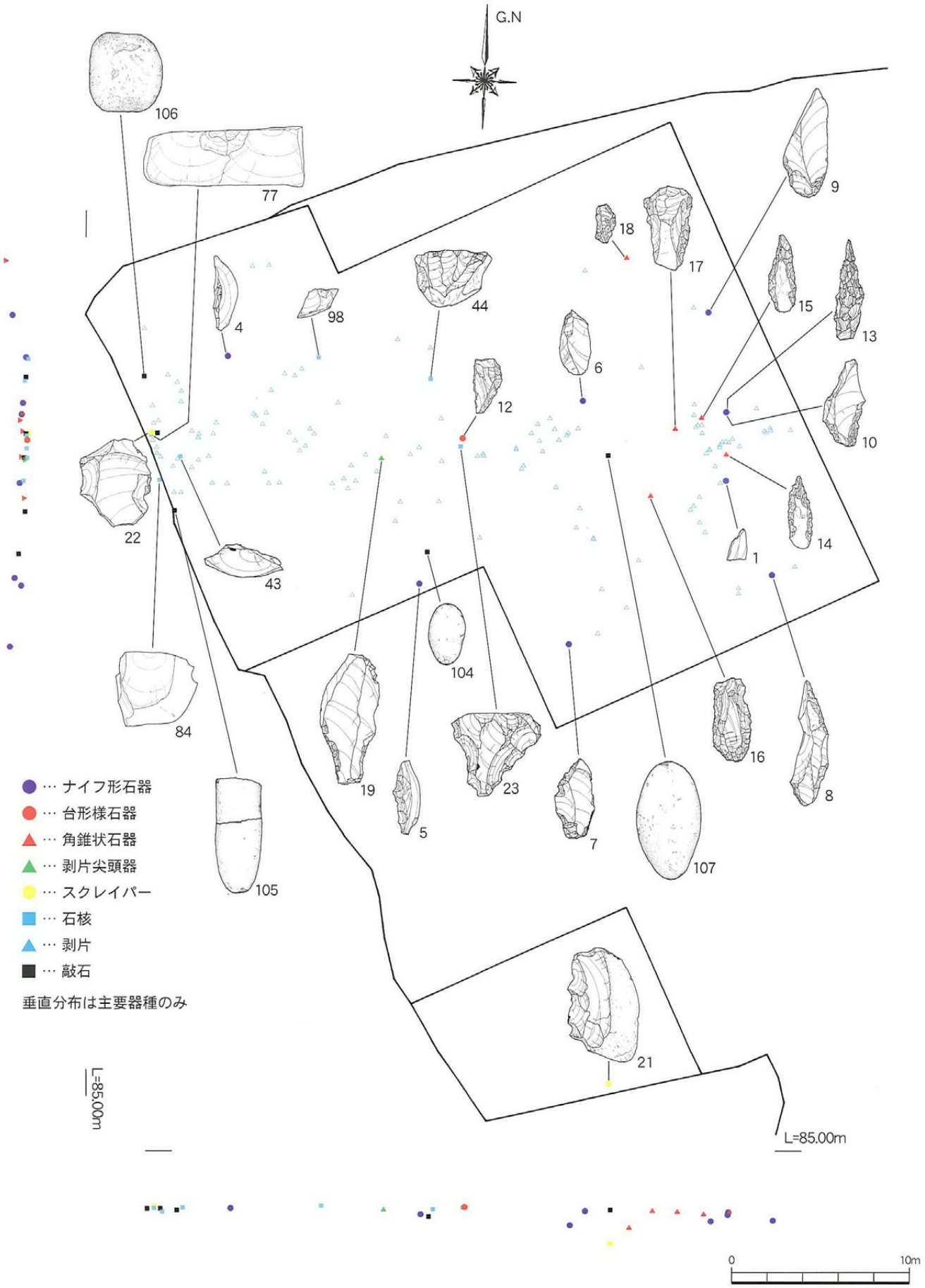


SR-2

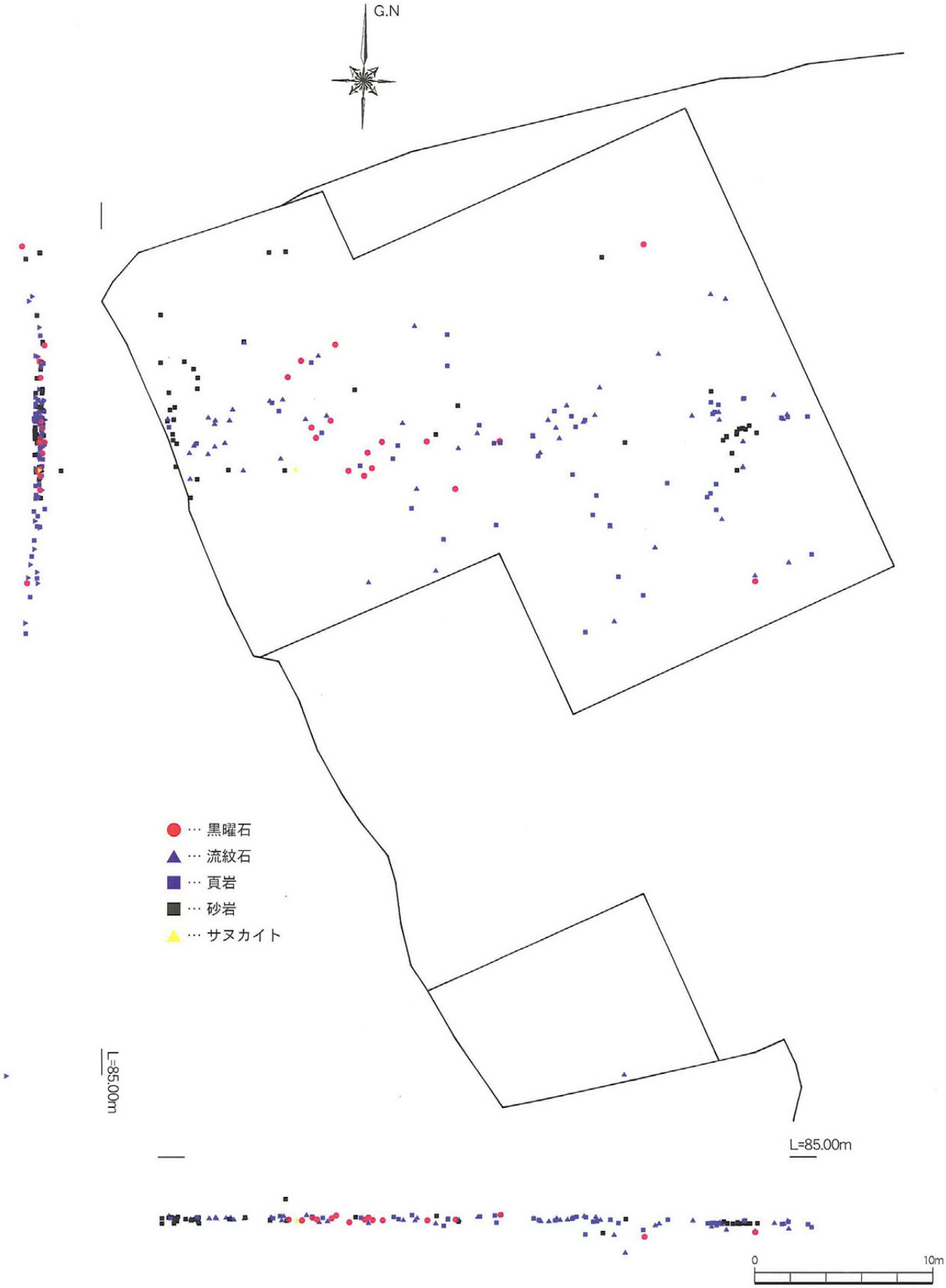
SR-3



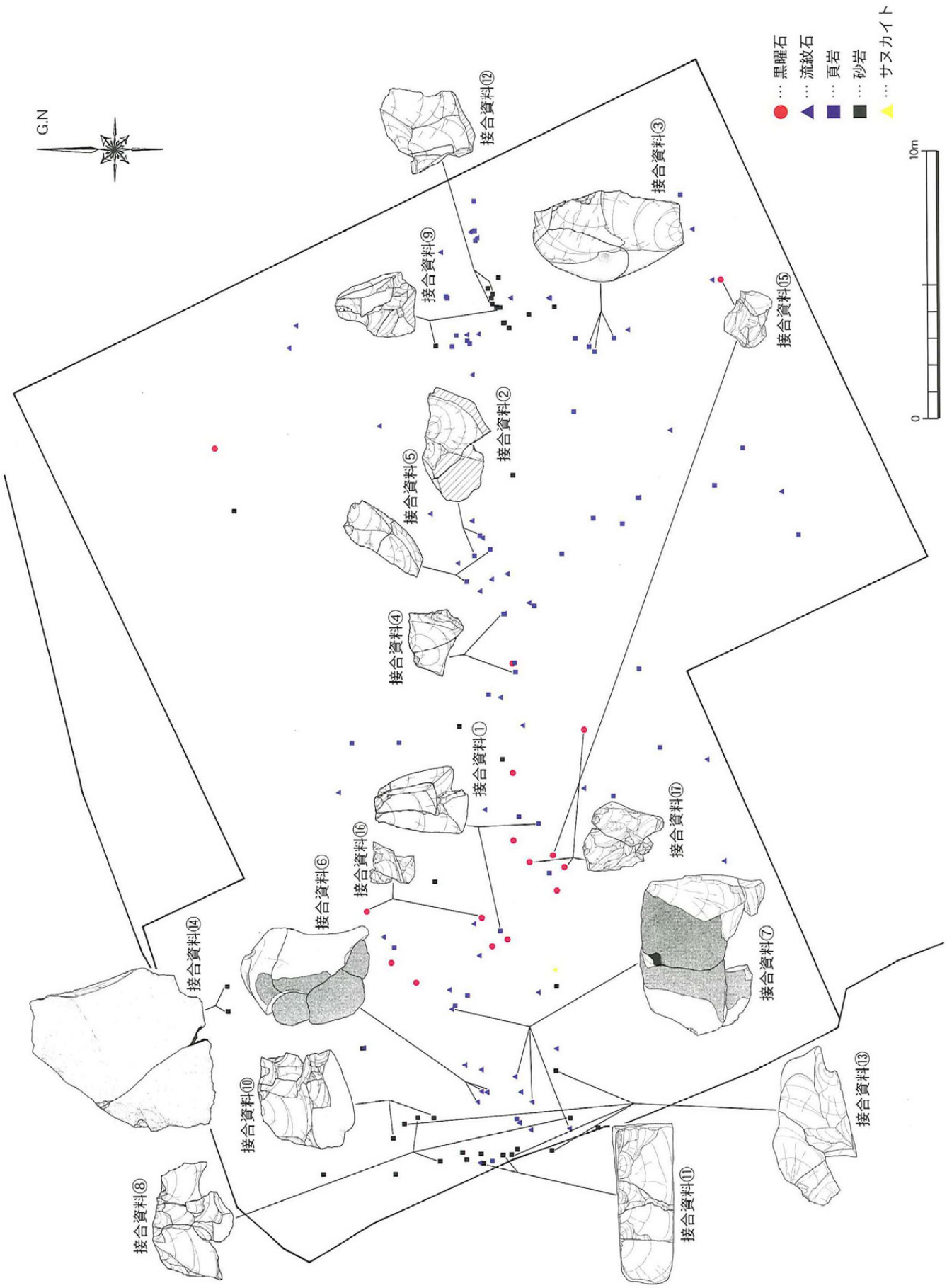
第８図　ナイフ形石器文化期礫群平面図（S=1/30）



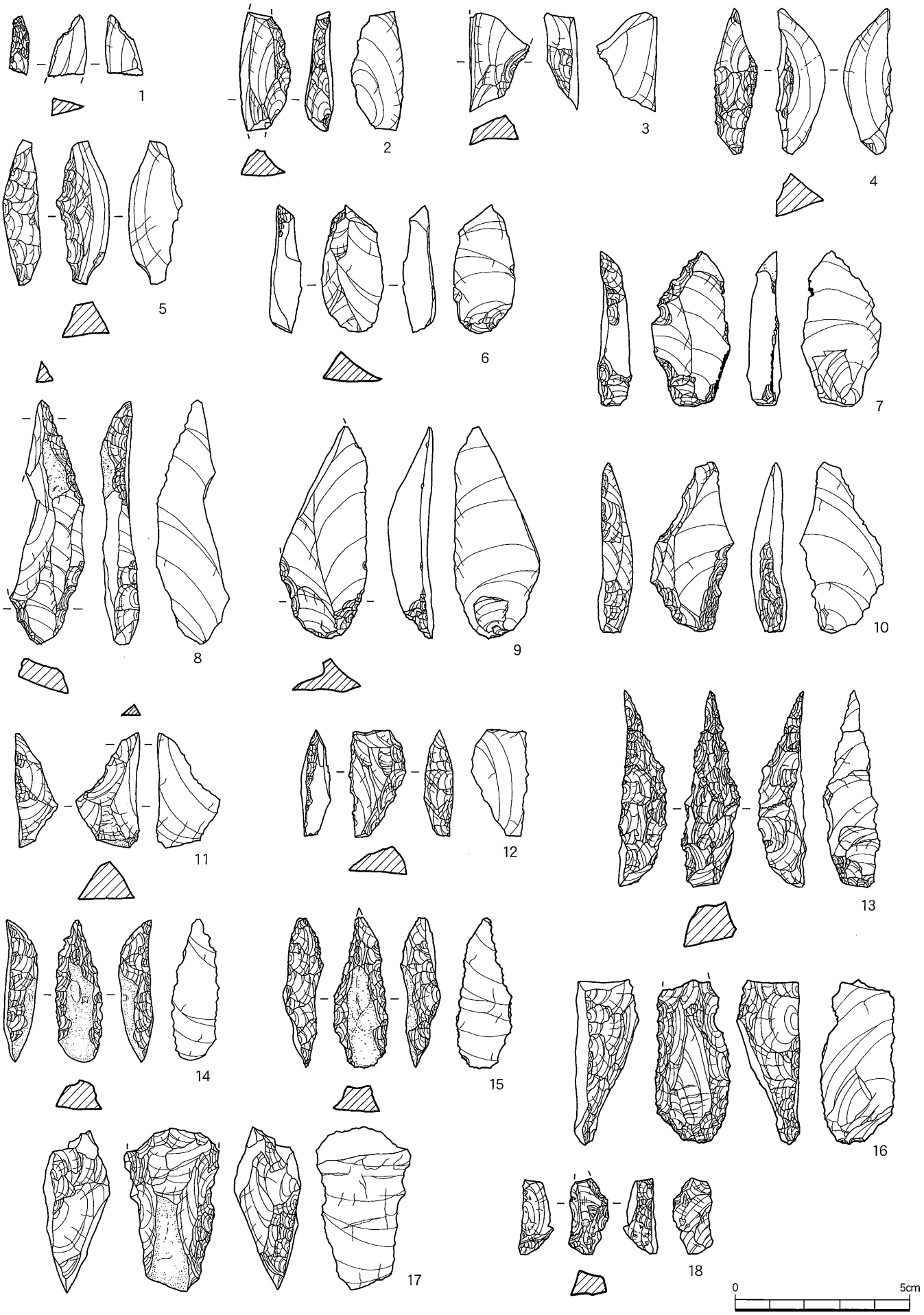
第９図　ナイフ形石器文化期出土石器分布図【器種別】(S=1/300)



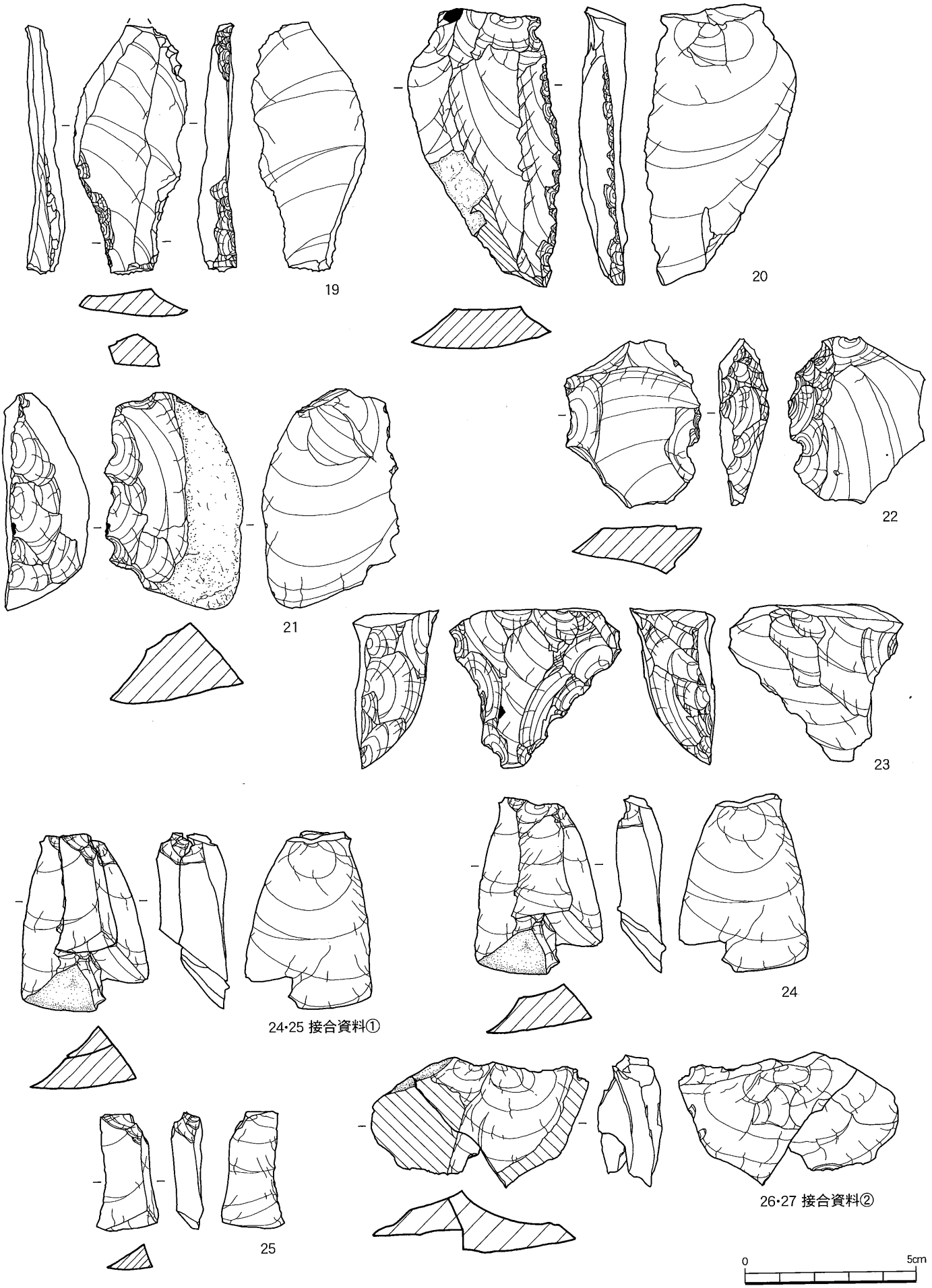
第 10 図　ナイフ形石器文化期出土石器分布図【石材別】(S=1/300)



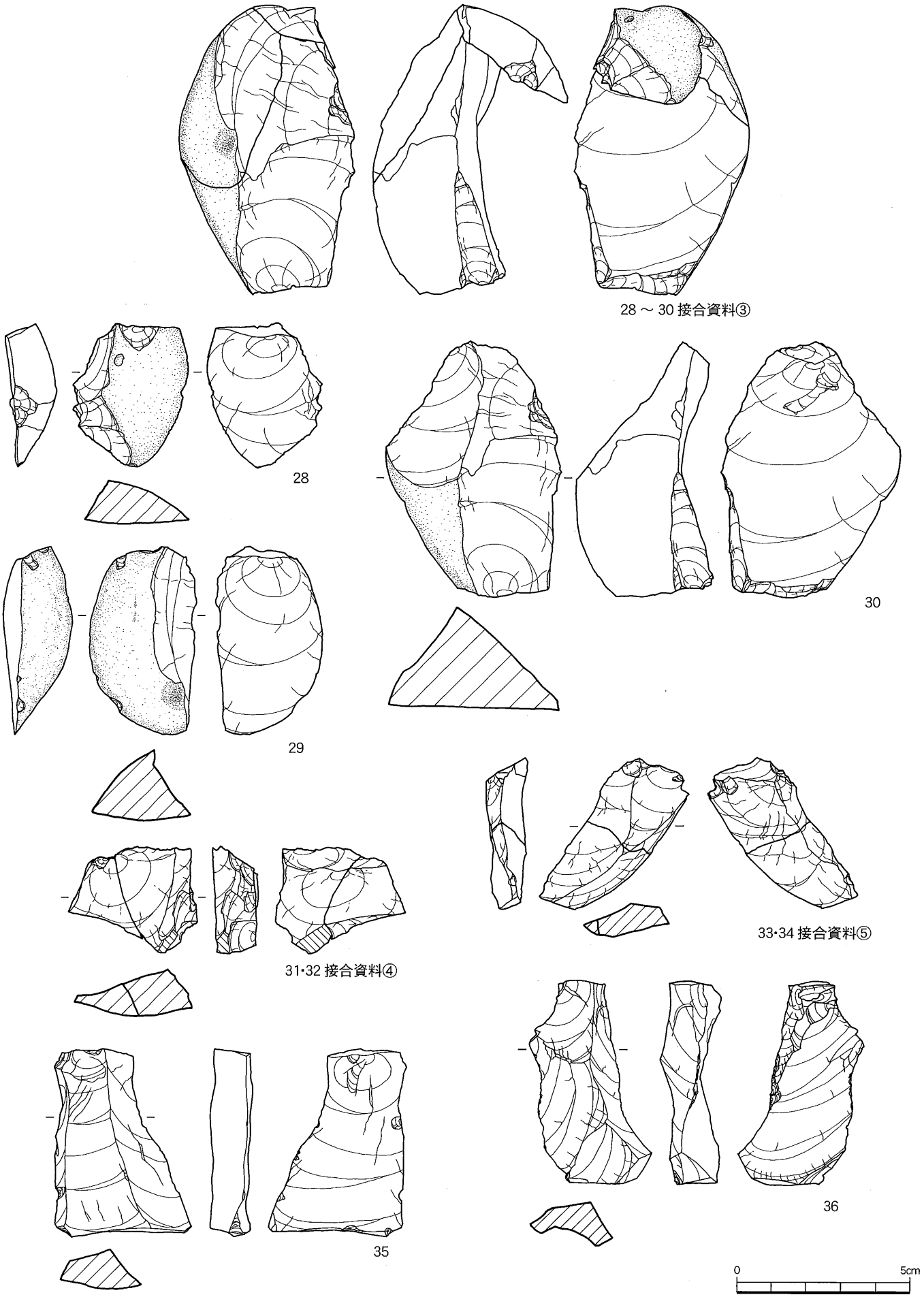
第 11 図　ナイフ形石器文化期出土石器接合状況（S=1/200）



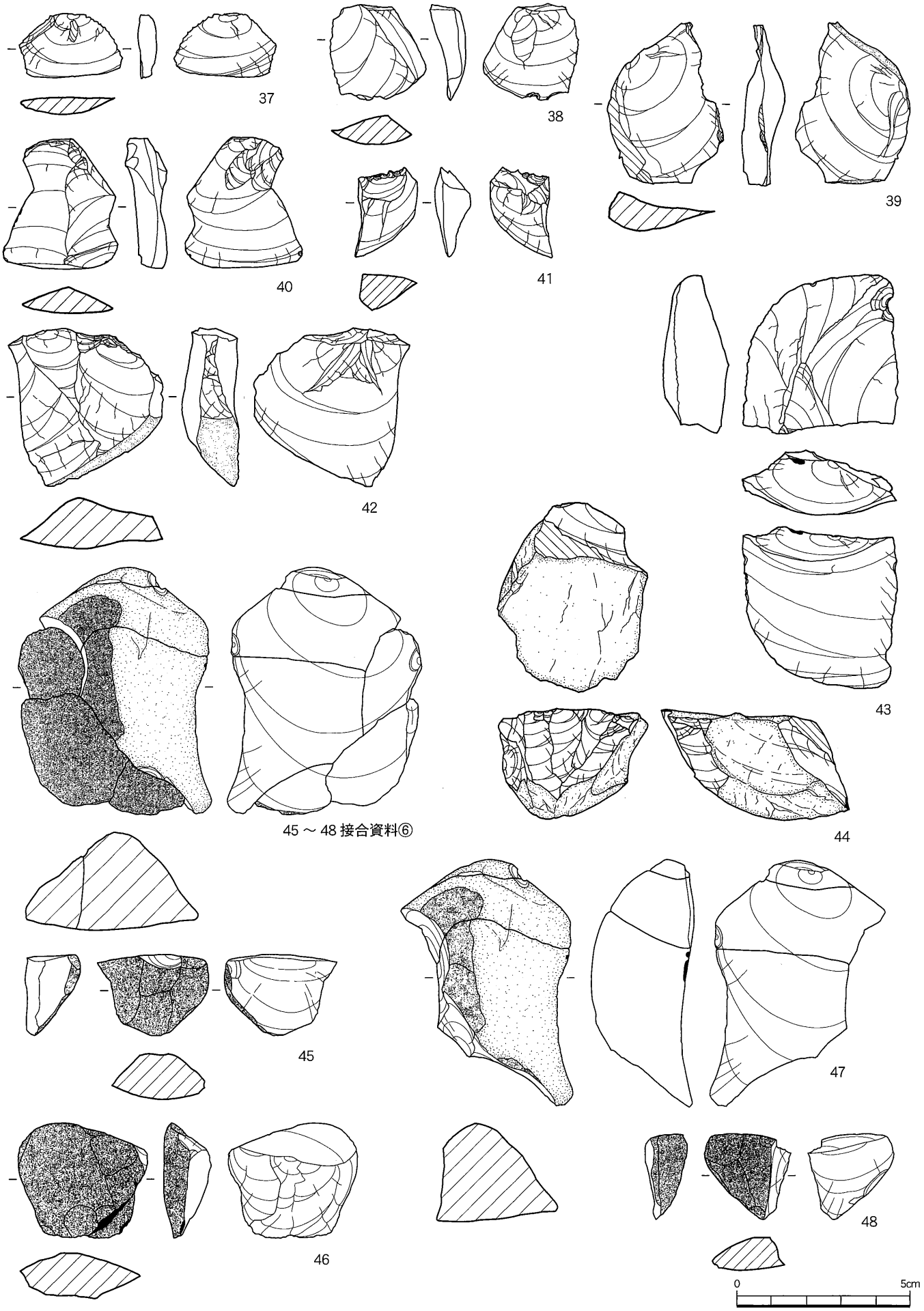
第 12 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図①(S=2/3)



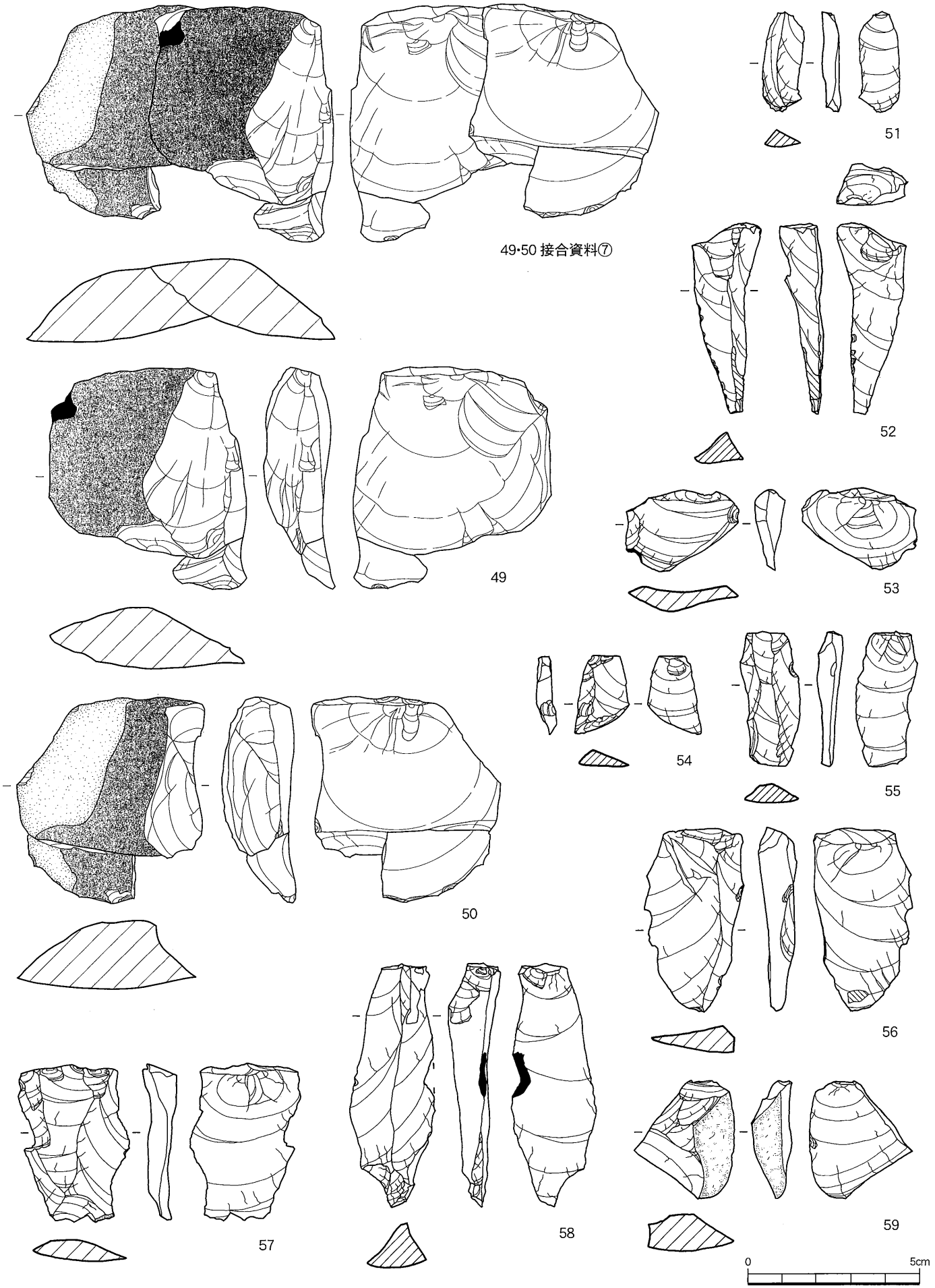
第 13 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図②(S=2/3)



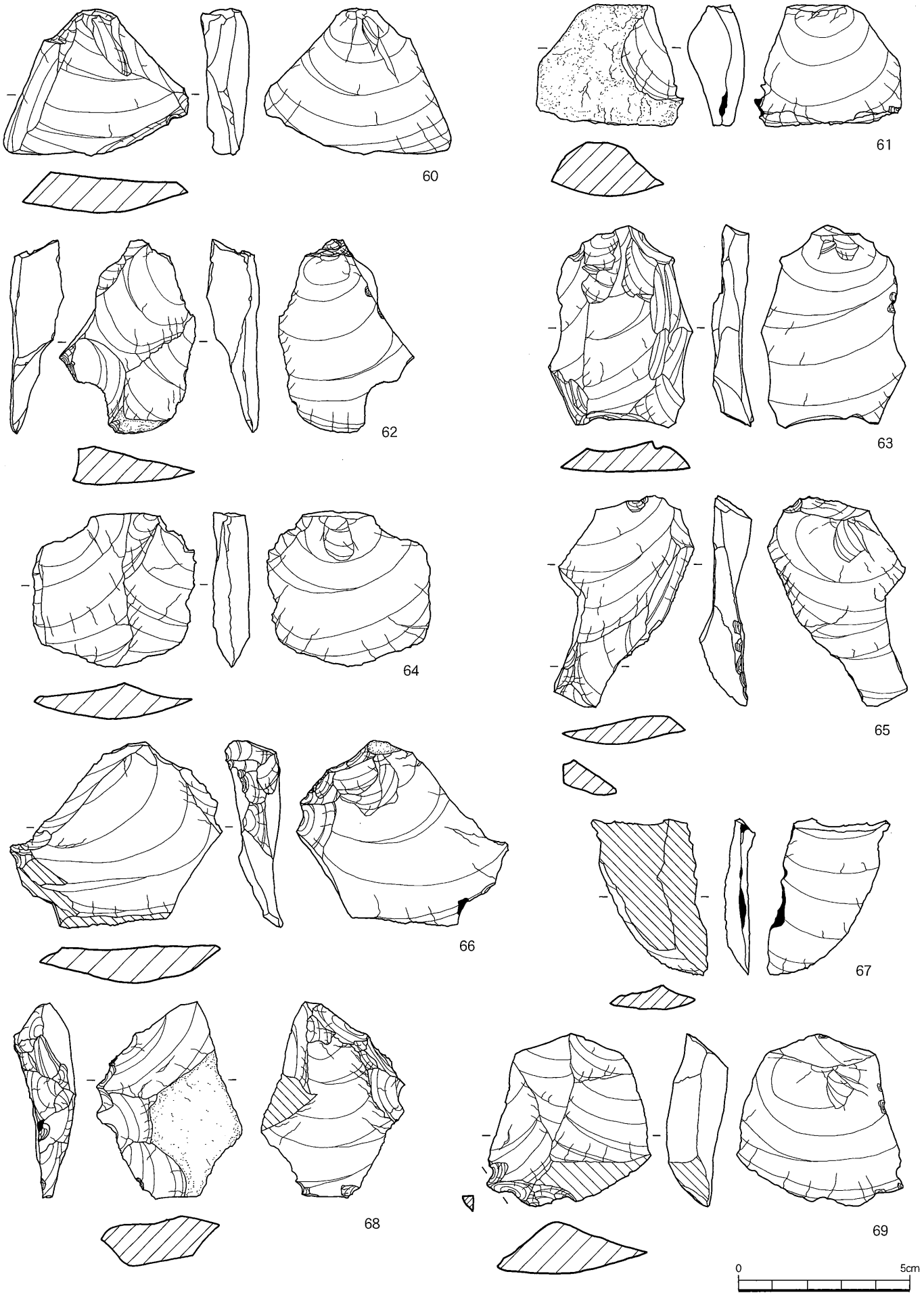
第 14 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図③(S=2/3)



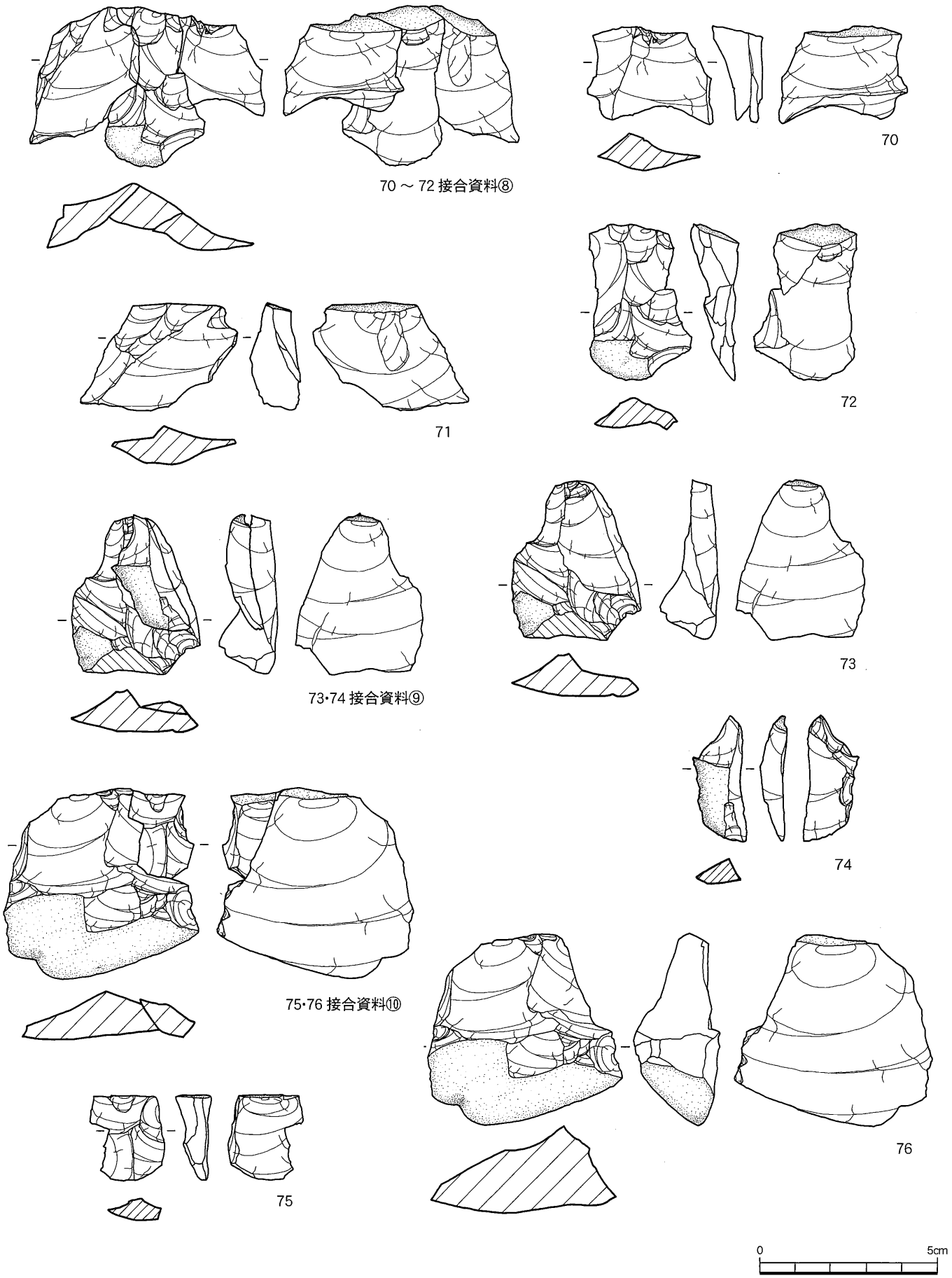
第 15 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図④(S=2/3)



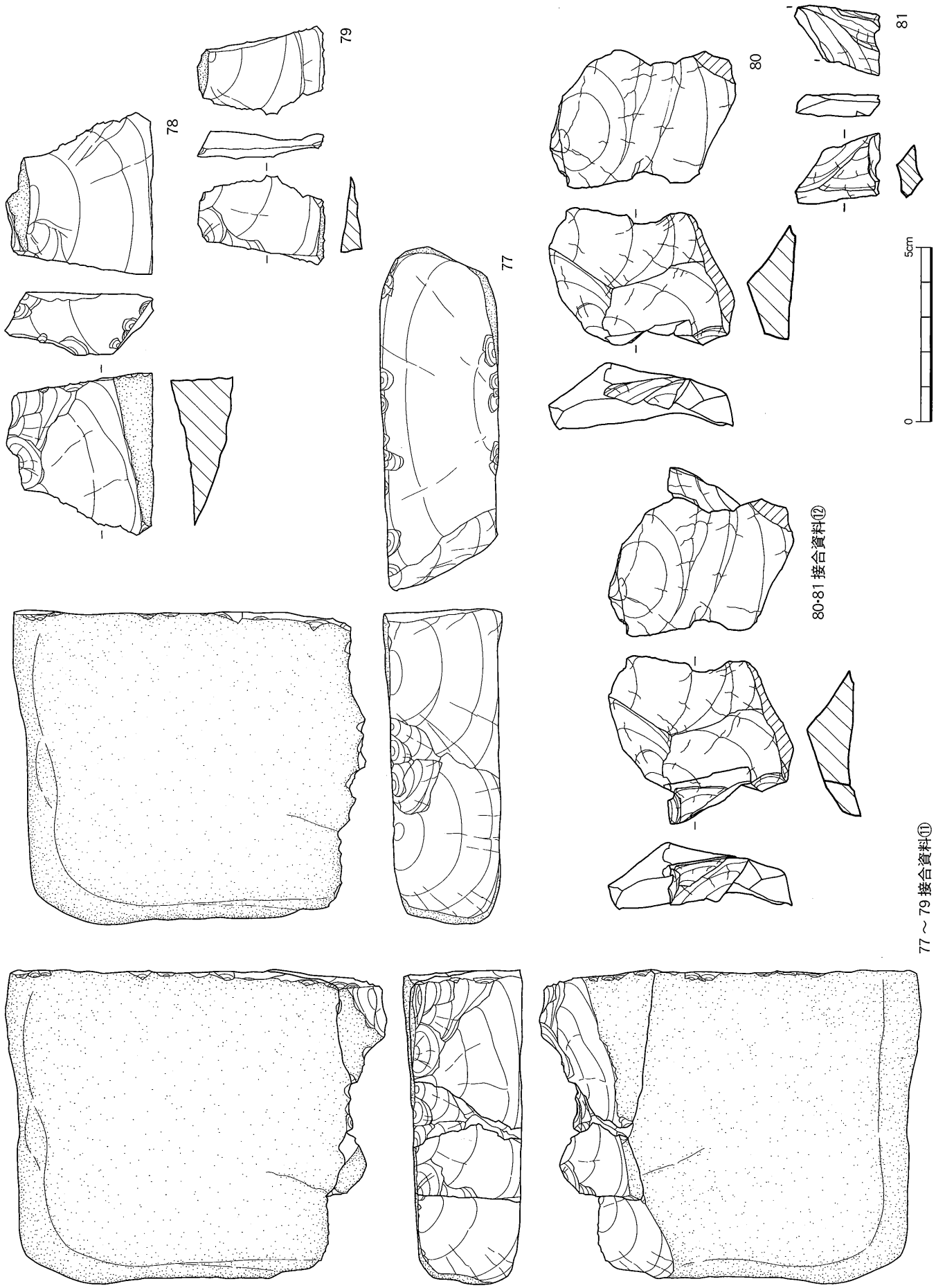
第 16 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑤(S=2/3)



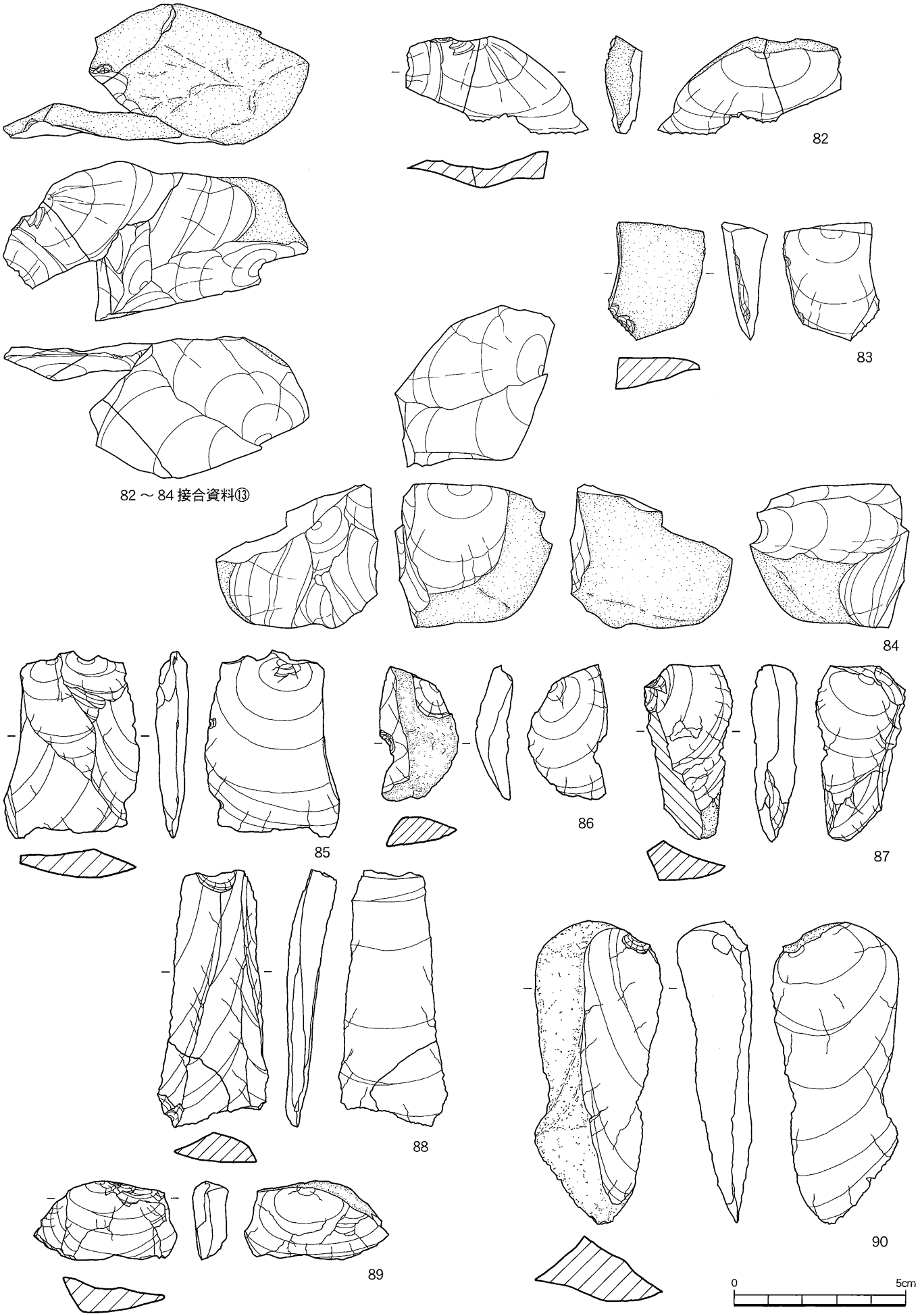
第 17 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑥(S=2/3)



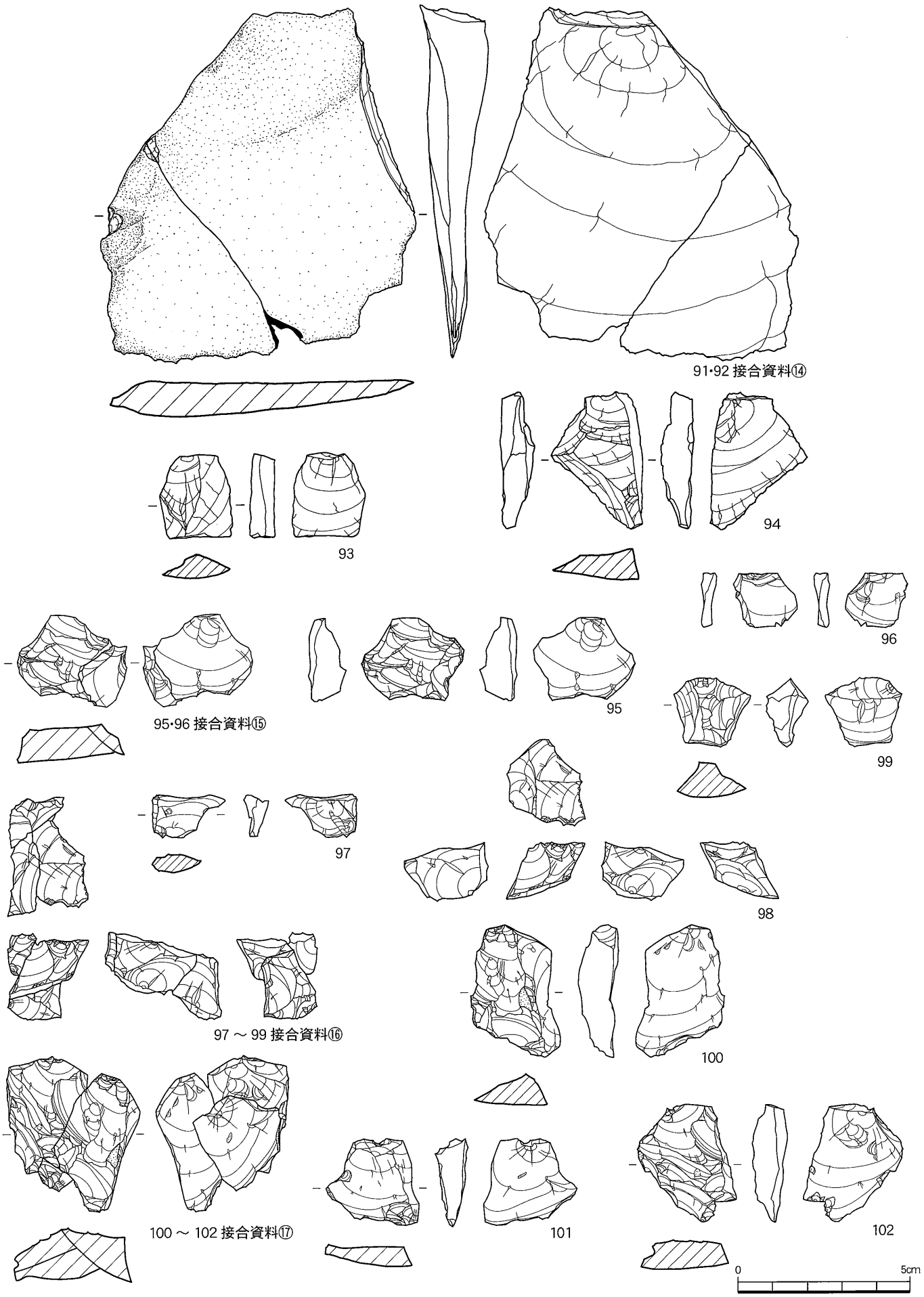
第 18 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑦(S=2/3)



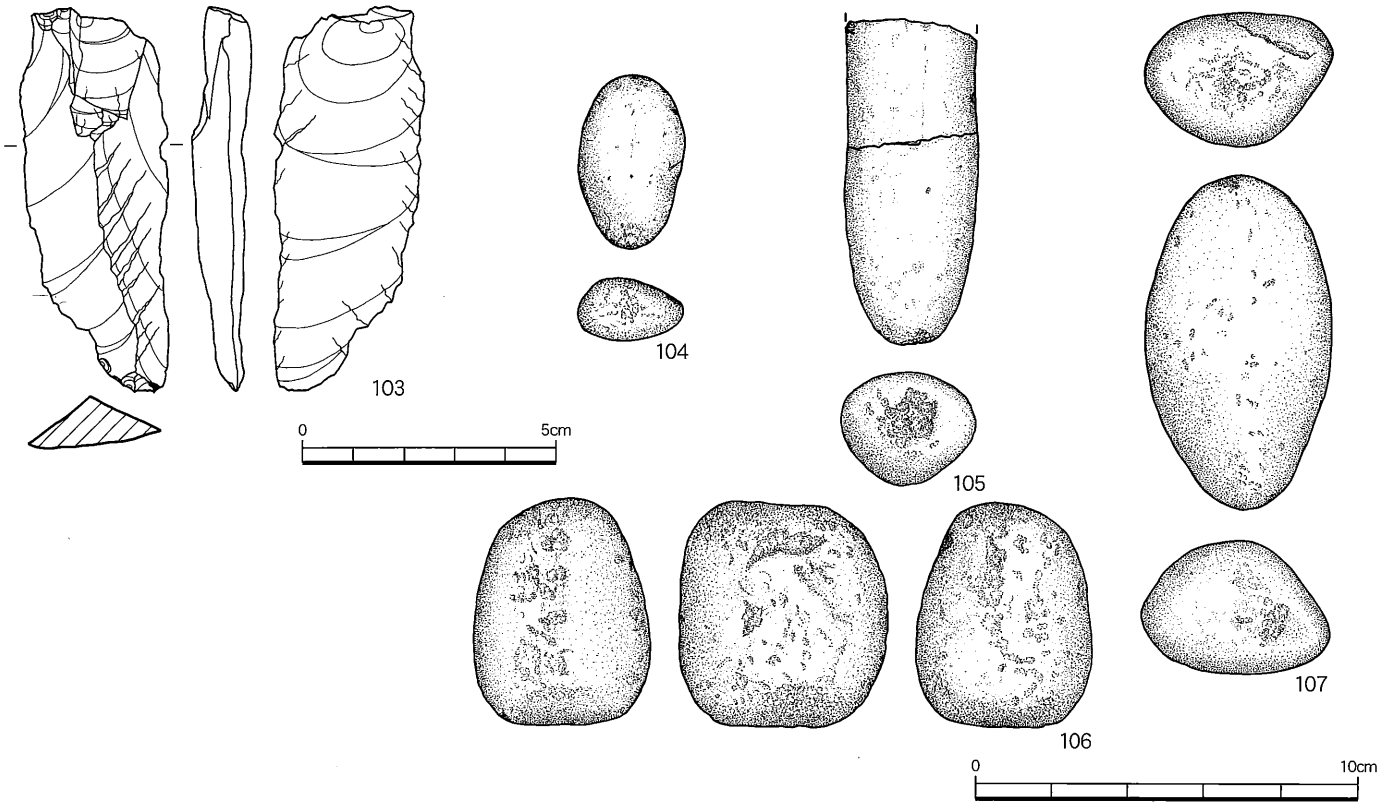
第 19 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑧(S=2/3)



第 20 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑨(S=2/3)



第 21 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑩(S=2/3)



第 22 図　ナイフ形石器文化期出土石器実測図⑪(S=1/2･2/3)

接合資料⑪

砂岩製の石核 1 点と縦長剥片 2 点の接合資料である。扁平な板状の礫を石核 77 とし、平坦な自然面を打面として幅広の縦長剥片（78・79）を作出している。

接合資料⑫

砂岩製の不整形な縦長剥片と剥片の破片の接合資料である。剥片 81 は 80 の反対方向からの加撃により作出されている。

接合資料⑬

砂岩製の石核1点と縦長剥片2点の接合資料である。石核84から何点かの剥片を作出した後に剥片82を作出し、さらに何点かの剥片を作出後、剥片 83 が作出される。

接合資料⑮

黒曜石製の不整形な剥片と剥片の破片の接合資料である。96→95 の剥片剥離の順序が確認される。

接合資料⑯

黒曜石製の石核 1 点と不整形な剥片 2 点の接合資料である。石核 98 は打面を転回しながら小規模な剥片を作出している。剥片の剥離順序は 97→99 である。

接合資料⑰

黒曜石製の不整形な縦長剥片 3 点の接合資料である。100→102→101 の剥片剥離の順序が確認される。

石核（43・44）

43 は頁岩製の幅広の剥片を素材とした石核である。求心状の大きな剥離により山形の打面を持ち、横長剥片を作出する石核である。おそらく横長剥片を連続して作出するもので、背面にこの石核の主要剥離面をもつものとなる。瀬戸内技法の影響をうけた資料であろう。44 は頁岩製の亜角礫を素材としその一端に小規模な縦長剥片を作出した痕跡が確認される。

剥片類

剥片類についてはさまざまな形態のものが確認されている。黒曜石製のものは小規模で流紋岩・頁岩・砂岩製のものは大振りのものから小規模のものまで様々である。形態については各石材ともに様々であるが縦長剥片のほうがやや多い感がある。中には B 類のナイフ形石器の素材の可能性が考えられる資料（55・56・58・103）も見られる。66 は背面の右側縁と左側縁の一部に二次加工が確認される。左側縁の二次加工は錐部を作り出した可能性も考えられる。

第２節　細石器文化期の調査について

１．礫群

本遺跡における細石器文化期の調査は明確に文化層を確認した上で調査を行ったわけではない。特に遺物については縄文早期の遺物包含層から出土している状況である。ここに報告する２基の礫群についても整理作業の段階で検出された層位が 8 層中であることや縄文早期の集石遺構と使用礫や形態を比較すると大きく異なることから、これらが細石器文化期の礫群の可能性が高いという結論に至った資料である。

しかし、C14 分析などの根拠があるわけではないので、当台地上における今後の発掘調査や整理作業を進めていく中で再度検討を行う必要があることは指摘しておく。

SR－27・42 は宮崎層群の砂岩を使用した礫群で、縄文早期の集石遺構とは使用礫が異なる。また掘り込みも確認されておらず、赤化し脆くなった板状の砂岩礫が平坦に広がるという状況である。

SR－27 は 1.75m×2.26mの範囲で礫の広がりが確認され、礫の点数は 163 点で総重量は 8.8kg を量る。SR－42 は 0.52m×0.62mの範囲で礫の広がりが確認され、礫の点数は 38 点で総重量は 3.5kg を量る。

２．出土遺物

前述のとおり本遺跡では明確に細石器文化期の文化層を確認できたわけではない。近年の宮崎平野部の細石刃核の出土状況と同様に縄文早期の遺物包含層の中から５点の細石刃核が出土している。縄文早期の遺物包含層中にはこれらの他にも細石器文化期の遺物の混在が予想される。しかし、多量に出土している縄文早期の遺物の中から細石器文化期の遺物を区別するのは困難である。ここでは確実に細石器文化期のものと判断される細石刃核だけを細石器文化期の遺物として報告を行う。

出土した細石刃核は使用石材・素材によりＡ類・Ｂ類の２種類に分類される。

・Ａ類（108 ～ 110）：黒曜石製の細石刃核が該当する。おそらく桑ノ木津留産黒曜石の小礫または分割礫を素材とする。打面調整を行わず細石刃の生産を行う。109 は作業面を２面設けている。

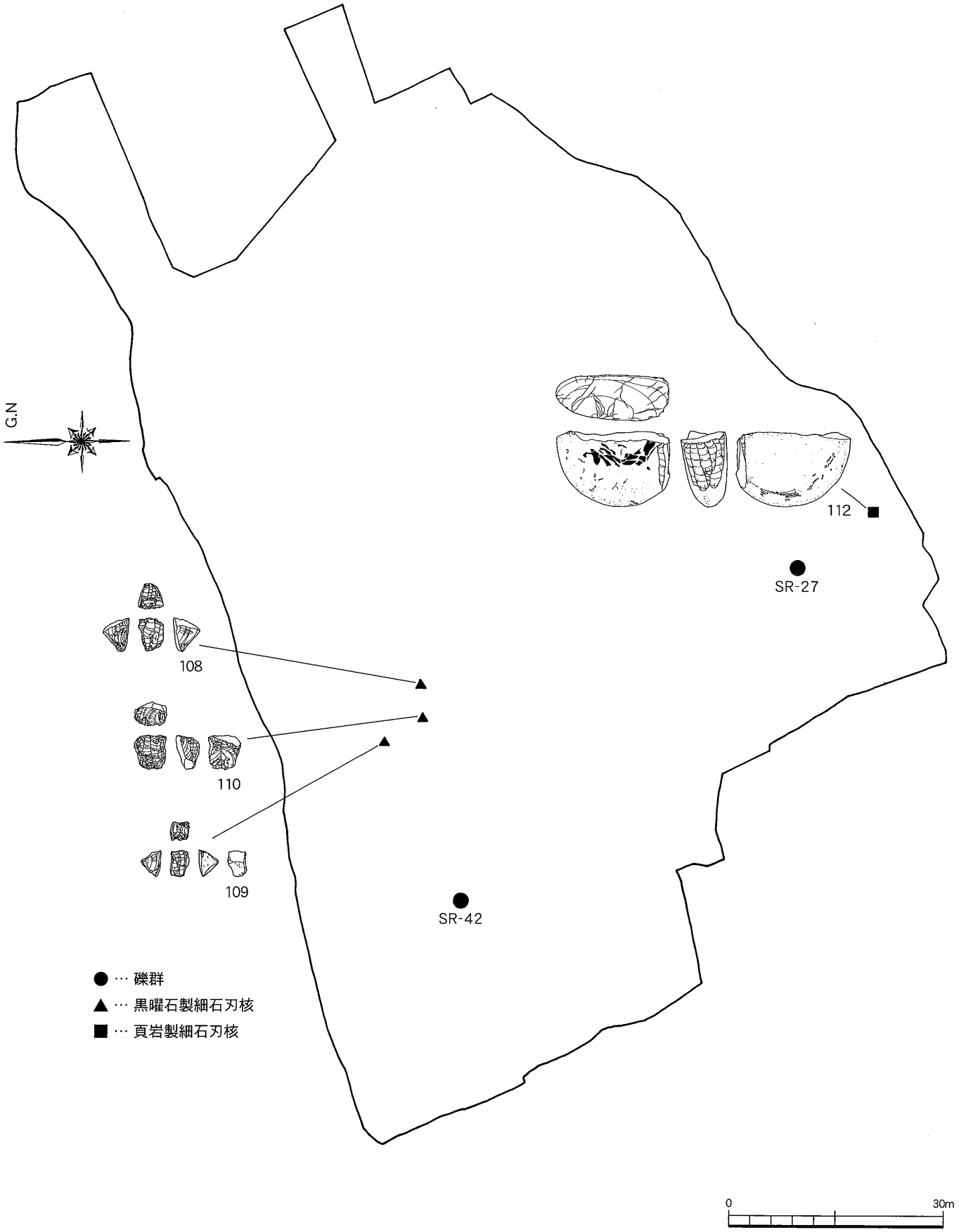
・Ｂ類（111・112）：頁岩の円礫素材とする細石刃核が該当する。円礫を半分に分割してできた平坦面を打面とし、打面調整を行わずに細石刃の生産を行うもので、いわゆる畦原型細石刃核に分類される。両者ともに作業面は１面設けている。細石刃の生産以外には一切調整等は行われていない。

Ａ類の細石刃核は調査区中央のやや西側において３点とも出土している。Ｂ類の細石刃核は出土位置が１点しか把握できていないが調査区の南側で出土しており、Ａ類とは明らかに分布状況が異なる様子が伺える。

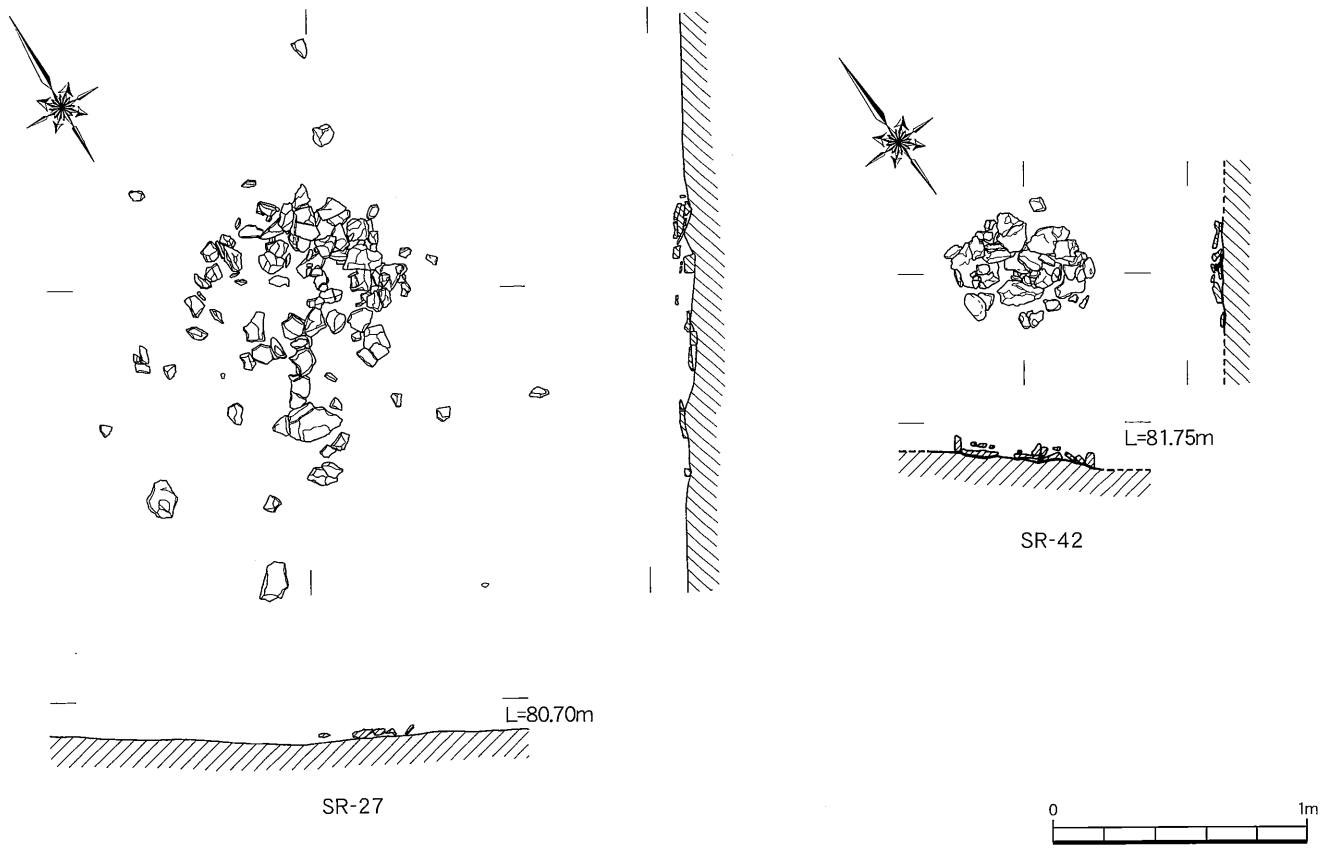
第１表　旧石器（ナイフ形石器文化期）計測分類表

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　　考
1	974	ナイフ形石器	B2	10	流紋岩	(1.75)	1.1	0.55	(0.7)	国府型、下半部欠損
2	972	ナイフ形石器	C6	10	頁岩	(3.45)	1.4	0.8	(3.7)	国府型、先端・基部欠損
3	53	ナイフ形石器	B2	10	流紋岩	(2.9)	1.7	1.0	(3.3)	国府型、上半部欠損
4	2	ナイフ形石器	A1	10	流紋岩	3.25	1.35	1.2	4.4	国府型
5	3	ナイフ形石器	B1	10	流紋岩	3.2	1.55	1.0	5.4	国府型
6	971	ナイフ形石器	B2	10	頁岩	3.7	1.8	0.9	4.2	
7	8	ナイフ形石器	B2	10	頁岩	4.5	2.3	1.0	6.4	
8	54	ナイフ形石器	B2	10	流紋岩	7.05	(2.2)	1.05	(8.8)	刃部欠損
9	970	ナイフ形石器	B2	10	流紋岩	(6.15)	2.5	1.35	(9.4)	先端部欠損
10	51	ナイフ形石器	B2	10	頁岩	4.9	2.3	1.0	8.3	
11	6	ナイフ形石器	B2	10	流紋岩	3.3	1.85	1.25	3.9	
12	50	台形様石器	B2	10	頁岩	3.1	1.7	0.8	3.3	

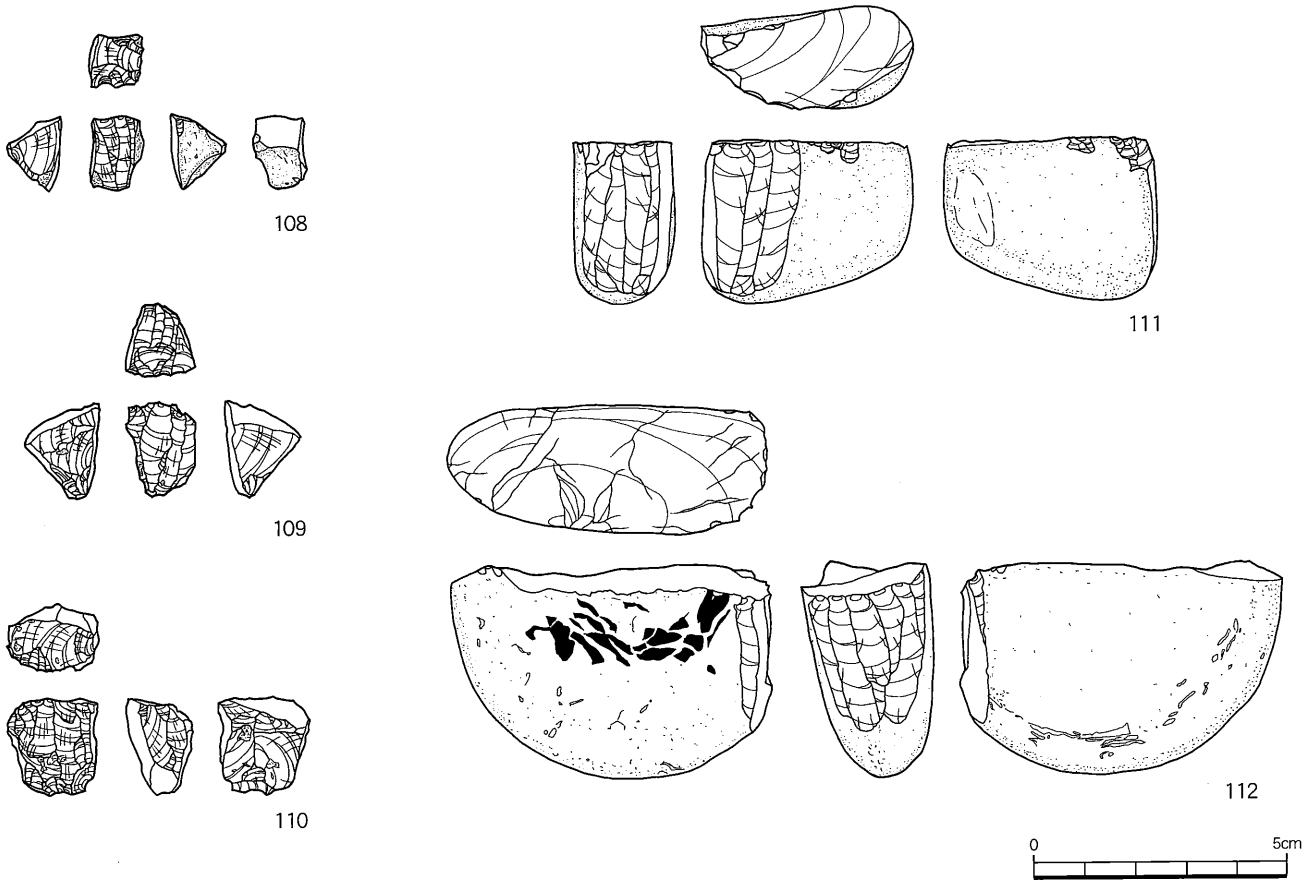
（　）の値は残存値を示す。



第 23 図　細石器文化期遺構･遺物分布図（S=1/750）



第 24 図　細石器文化期礫群実測図（S=1/30）



第 25 図　細石器文化期出土石器実測図（S=2/3）

第１表　旧石器（ナイフ形石器文化期）計測分類表②

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　　考
13	55	角錐状石器	B2	10	頁岩	5.6	1.6	1.4	8.4	
14	52	角錐状石器	B2	10	頁岩	4.1	1.4	1.0	5.1	
15	1066	角錐状石器	B2	10	頁岩	(4.4)	1.6	1.1	(6.2)	先端部欠損
16	1067	角錐状石器	B2	10	頁岩	(4.75)	2.2	1.9	(14.6)	先端部欠損
17	1065	角錐状石器	B2	10	頁岩	(4.7)	(2.7)	(1.9)	(18.6)	先端部欠損
18	1068	角錐状石器	A2	10	黒曜石	(2.2)	1.2	1	(1.9)	先端部欠損
19	5	剥片尖頭器	B1	10	頁岩	(7.9)	3.3	1.1	(19.2)	先端部欠損
20	60	スクレイパー	B1	10	砂岩	8.3	4.4	1.4	45.1	
21	42	スクレイパー	C1	11	流紋岩	6.45	4.05	2.55	59.6	
22	44	スクレイパー	A1	10	流紋岩	4.5	4.0	1.4	25.5	
23	1117	スクレイパー	B2	10	流紋岩	4.7	5.0	2.5	47.0	石核の可能性有り
24	951	２次加工ある剥片	A1	10	頁岩	5.25	3.75	1.4	25.85	接合資料①
25	952	２次加工ある剥片	B1	10	頁岩	3.5	1.85	0.95	4.7	接合資料①
26･27	967	剥片	B2	10	頁岩	3.9	6.45	1.9	31.3	接合資料②
28	947	２次加工ある剥片	B2	10	頁岩	4.2	3.4	1.5	17.9	接合資料③
29	949	剥片	B2	10	頁岩	5.5	3.1	2.05	30.8	接合資料③
30	948	２次加工ある剥片	B2	10	頁岩	7.5	5.65	4.05	103.6	接合資料③
31･32	963	２次加工ある剥片	B2	10	頁岩	3.1	3.8	1.3	15.1	接合資料④
33･34	965	２次加工ある剥片	B2	10	頁岩	4.45	4.35	1.2	11.7	接合資料⑤
35	20	剥片	B1	10	頁岩	5.5	6.0	1.2	24.2	
36	39	微細剥離ある剥片	B2	10	頁岩	5.95	3.65	1.75	18.0	
37	16	剥片	B2	10	頁岩	1.85	2.95	0.5	2.4	
38	13	剥片	B2	10	頁岩	2.8	2.85	1.05	5.5	
39	32	剥片	B2	10	頁岩	4.85	3.45	1.0	13.6	
40	27	剥片	B2	10	頁岩	3.8	3.85	1.25	10.5	
41	41	剥片	A1	11	頁岩	2.6	1.8	1.0	3.4	
42	18	剥片	B2	10	頁岩	4.6	4.5	1.65	28.5	
43	973	石核	A1	10	頁岩	4.65	4.55	1.9	31.2	
44	1059	石核	A2	10	頁岩	5.55	4.4	3.2	70.3	
45	1044	剥片	A1	11	流紋岩	2.35	3.3	1.6	10.49	接合資料⑥
46	1043	剥片	A1	11	流紋岩	3.4	3.7	1.3	14.36	接合資料⑥
47	1041	剥片	A1	11	流紋岩	7.15	5.0	3.0	73.06	接合資料⑥
48	1042	剥片	A1	11	流紋岩	2.5	2.5	1.2	5.65	接合資料⑥
49	1039	剥片	A1	10	流紋岩	6.55	5.75	1.8	65.46	接合資料⑦
50	1038	剥片	A1	11	流紋岩	6.05	5.55	2.1	62.7	接合資料⑦
51	46	剥片	B1	11	流紋岩	2.95	1.25	0.5	1.5	
52	36	剥片	B2	10	流紋岩	5.65	2.0	1.3	7.4	
53	31	剥片	B2	10	流紋岩	2.4	3.35	0.95	5.1	
54	38	剥片	B2	10	流紋岩	2.45	1.65	0.55	1.7	
55	12	剥片	B2	10	流紋岩	4.0	1.8	0.7	4.0	
56	22	剥片	A1	11	流紋岩	5.4	2.9	1.15	12.1	
57	34	剥片	A2	10	流紋岩	4.65	3.25	1.0	10.1	
58	14	剥片	B2	10	流紋岩	7.15	2.55	1.5	16.4	
59	15	剥片	A1	11	流紋岩	3.45	3.0	1.2	9.0	
60	25	剥片	B2	10	流紋岩	4.3	5.45	1.4	24.1	
61	45	剥片	B1	10	流紋岩	3.65	4.3	1.6	24.3	
62	29	剥片	B2	10	流紋岩	5.7	4.0	1.55	19.7	
63	23	剥片	B2	10	流紋岩	5.95	4.25	1.3	25.3	
64	28	剥片	A1	10	流紋岩	4.65	4.8	1.05	22.4	
65	26	剥片	B2	10	流紋岩	6.2	4.1	1.5	20.1	

（　）の値は残存値を示す。

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　　考
66	37	2次加工ある剥片	A1	11	流紋岩	5.45	6.25	1.75	38.2	
67	43	剥片	B2	10	流紋岩	4.6	3.45	0.7	6.7	
68	49	2次加工ある剥片	B2	10	流紋岩	5.8	4.25	1.8	28.7	
69	21	2次加工ある剥片	A1	10	流紋岩	5.1	4.9	1.8	34.0	
70	957	剥片	A1	11	砂岩	2.75	3.55	1.05	7.7	接合資料⑧
71	959	剥片	A1	11	砂岩	3.1	4.45	1.1	11.4	接合資料⑧
72	958	剥片	A1	11	砂岩	4.4	2.9	1.35	11.7	接合資料⑧
73	961	2次加工ある剥片	B2	10	砂岩	4.5	3.65	1.65	16.3	接合資料⑨
74	962	2次加工ある剥片	B2	10	砂岩	3.55	1.55	0.7	2.7	接合資料⑨
75	955	剥片	A1	11	砂岩	2.45	2.1	1.05	3.6	接合資料⑩
76	954	剥片	A1	11	砂岩	5.45	5.55	2.5	53.0	接合資料⑩
77	1046	石核	A1	11	砂岩	3.4	9.1	10.0	518.0	接合資料⑪
78	1047	剥片	A1	11	砂岩	4.2	4.7	1.9	32.0	接合資料⑪
79	1048	剥片	―	10	砂岩	3.6	2.6	0.8	5.0	接合資料⑪
80	1049	剥片	B2	10	砂岩	5.3	4.0	1.9	29.1	接合資料⑫
81	1050	剥片	B2	10	砂岩	2.4	2.1	0.7	2.5	接合資料⑫
82	1036	剥片	A1	11	砂岩	2.85	5.35	1.1	8.6	接合資料⑬
83	1035	剥片	A1	11	砂岩	3.45	2.8	1.35	11.85	接合資料⑬
84	1034	石核	A1	11	砂岩	4.25	4.65	4.8	88.95	接合資料⑬
85	33	剥片	A1	10	砂岩	5.55	4.95	0.95	17.3	
86	47	剥片	B2	10	砂岩	4.0	2.35	0.95	6.3	
87	40	剥片	A1	10	砂岩	5.2	2.6	1.35	15.1	
88	19	剥片	A1	10	砂岩	7.6	3.25	1.15	21.6	
89	48	剥片	A1	11	砂岩	2.35	4.2	1.05	8.9	
90	24	剥片	B1	10	砂岩	9.0	3.75	2.2	45.6	
91･92	966	剥片	A1	10	砂岩	10.4	9.2	2.0	129.0	接合資料⑭
93	30	剥片	B2	10	砂岩	2.45	2.15	0.75	3.9	
94	35	剥片	A1	11	砂岩	4.05	2.75	0.95	7.9	
95	996	剥片	B1	11	黒曜石	24.5	29.5	10.8	6.6	接合資料⑮
96	995	剥片	B1	10	黒曜石	15.8	18.2	4.6	0.9	接合資料⑮
97	1000	剥片	B1	10	黒曜石	1.25	2.2	7.5	1.1	接合資料⑯
98	998	石核	―	10	黒曜石	1.7	2.3	2.5	5.9	接合資料⑯
99	999	剥片	―	10	黒曜石	2.05	2.3	1.2	3.1	接合資料⑯
100	992	剥片	B1	10	黒曜石	3.85	2.7	1.2	8.9	接合資料⑰
101	991	剥片	B1	10	黒曜石	2.55	2.8	1.0	4.5	接合資料⑰
102	993	剥片	B1	10	黒曜石	3.45	2.95	1.0	7.8	接合資料⑰
103	17	剥片	B1	10	安山岩	7.6	2.95	11.5	18.1	
104	943	敲石	B1	11	砂岩	4.6	2.8	1.6	27.5	
105	945	敲石	A1	11	砂岩	(8.6)	3.6	2.95	126.3	上半部欠損
106	942	敲石	A1	11	砂岩	6.05	5.5	4.7	217.3	
107	944	敲石	B2	10	砂岩	8.8	4.9	3.5	182.9	

（　）の値は残存値を示す。

第2表　旧石器（細石器文化期）計測分類表

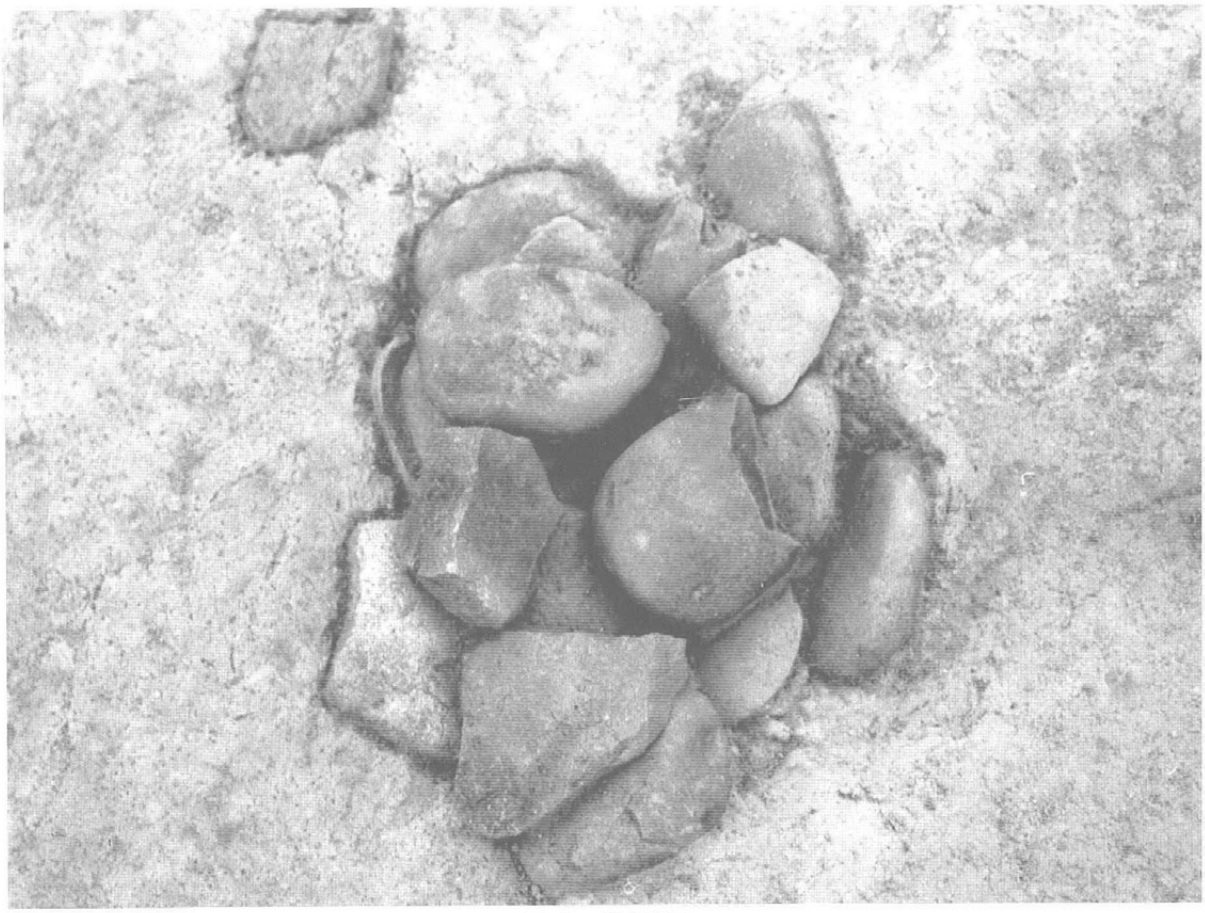
遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備　　考
108	1061	細石刃核	B4	Ⅵ	黒曜石	1.45	1.1	1.1	1.5	
109	1063	細石刃核	B3	Ⅵ	黒曜石	1.9	1.4	1.45	3.1	
110	1062	細石刃核	B3	Ⅵ	黒曜石	1.95	1.8	1.35	4.4	
111	4	細石刃核	C9	Ⅴ	頁岩	3.2	4.2	2.0	41.9	
112	7	細石刃核	F3	Ⅵ	頁岩	4.25	6.4	2.6	97	

（　）の値は残存値を示す。

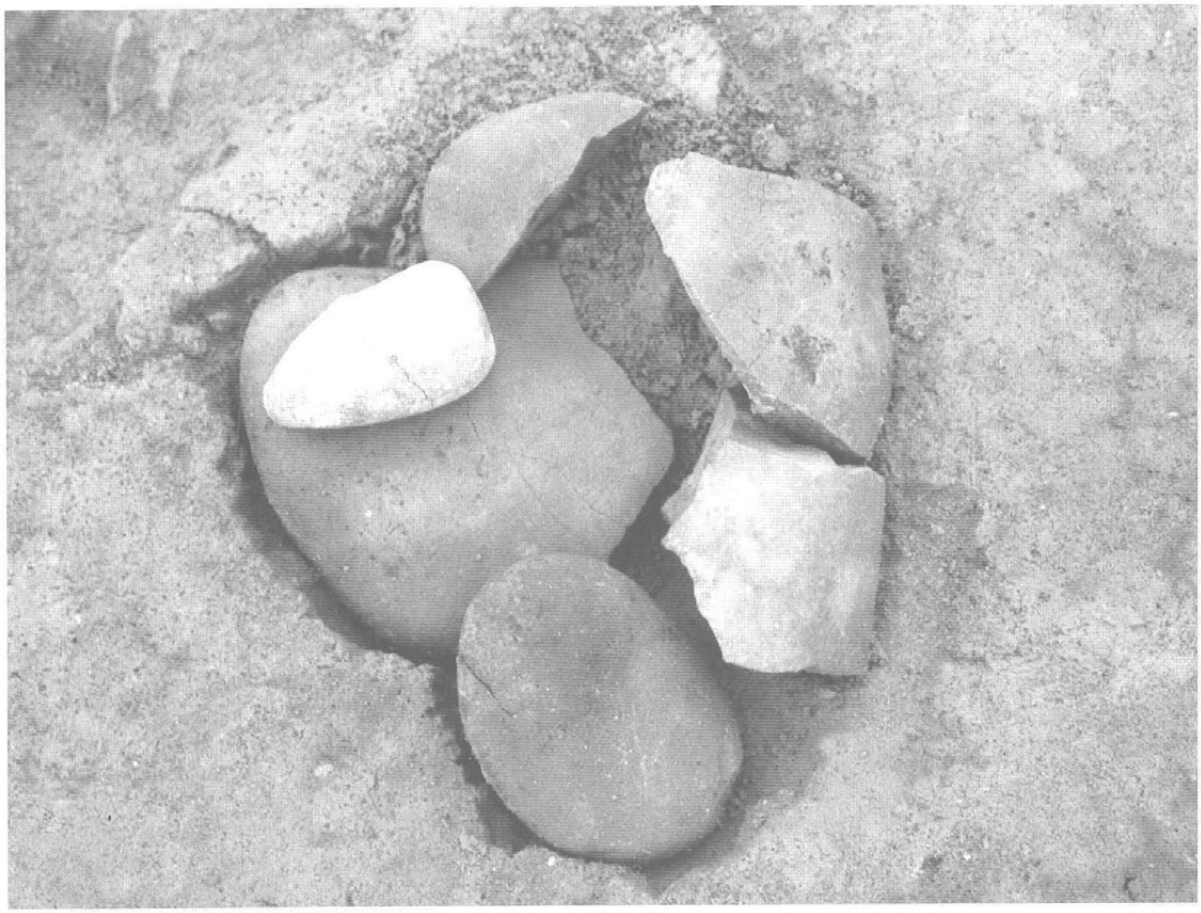
滑川第２遺跡　旧石器出土状況

SR-2

写真図版２　旧石器時代遺構①



SR-2　集中部 1



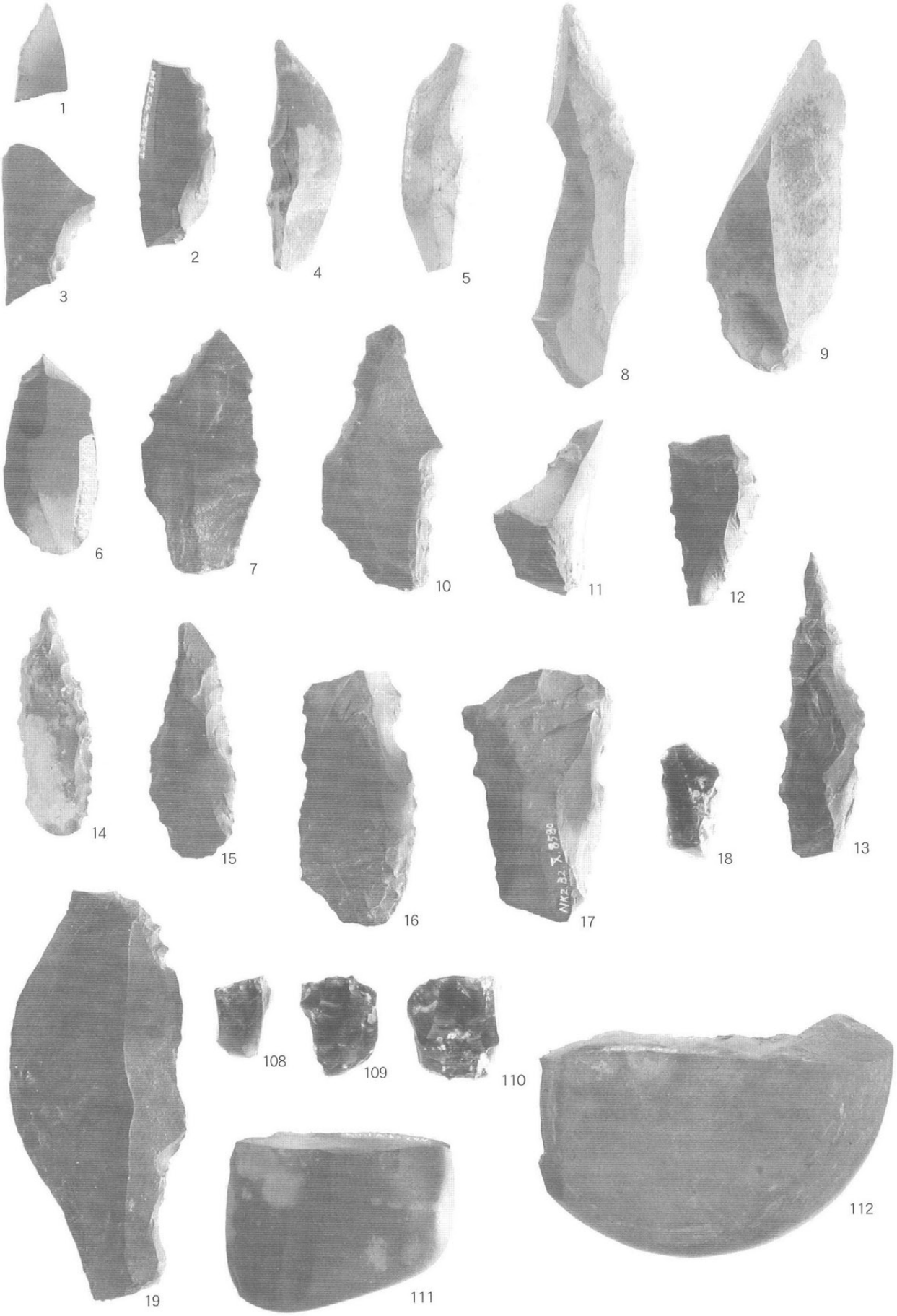
SR-2　集中部 2

写真図版 3　旧石器時代遺構②

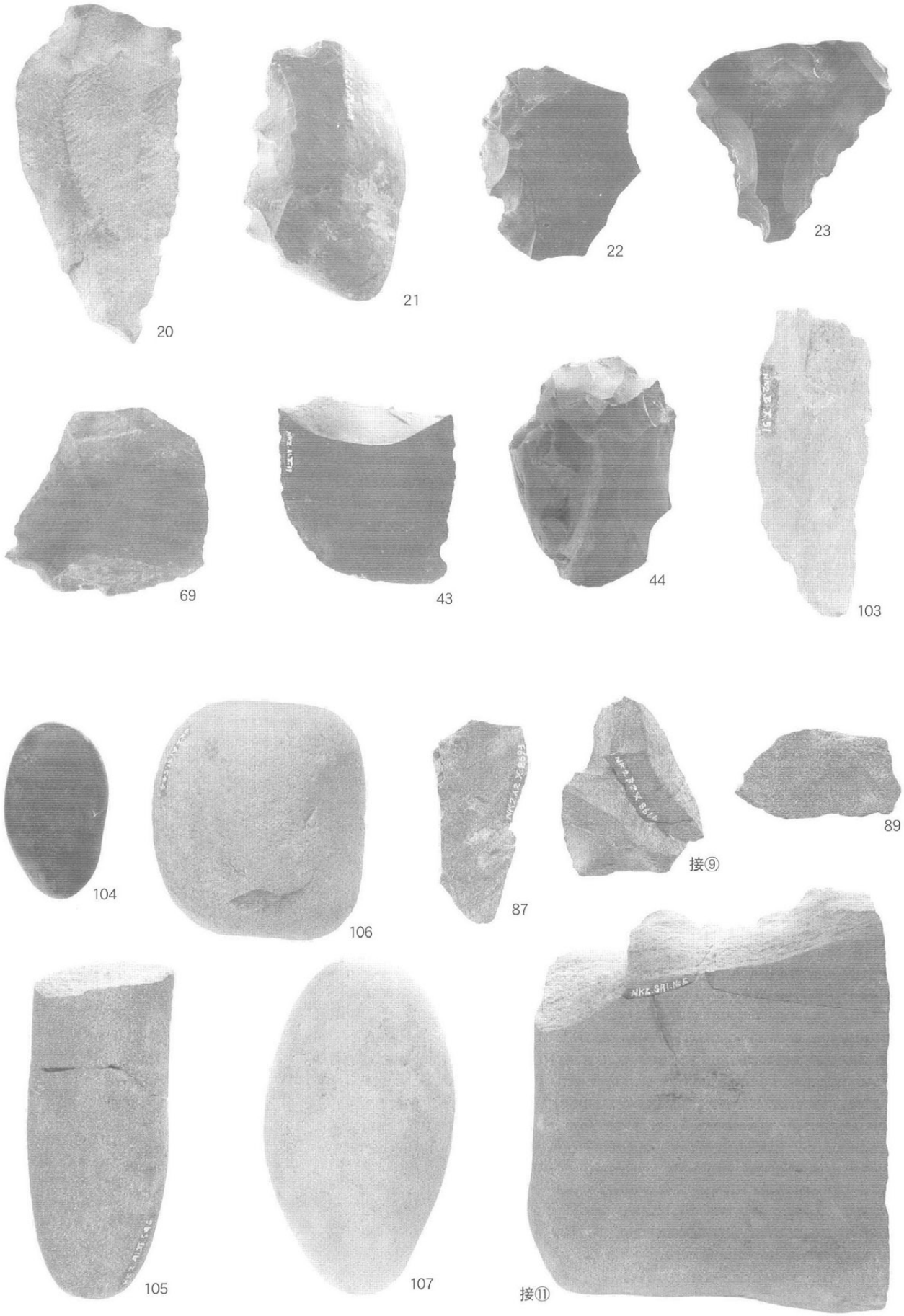
SR-27

SR-42

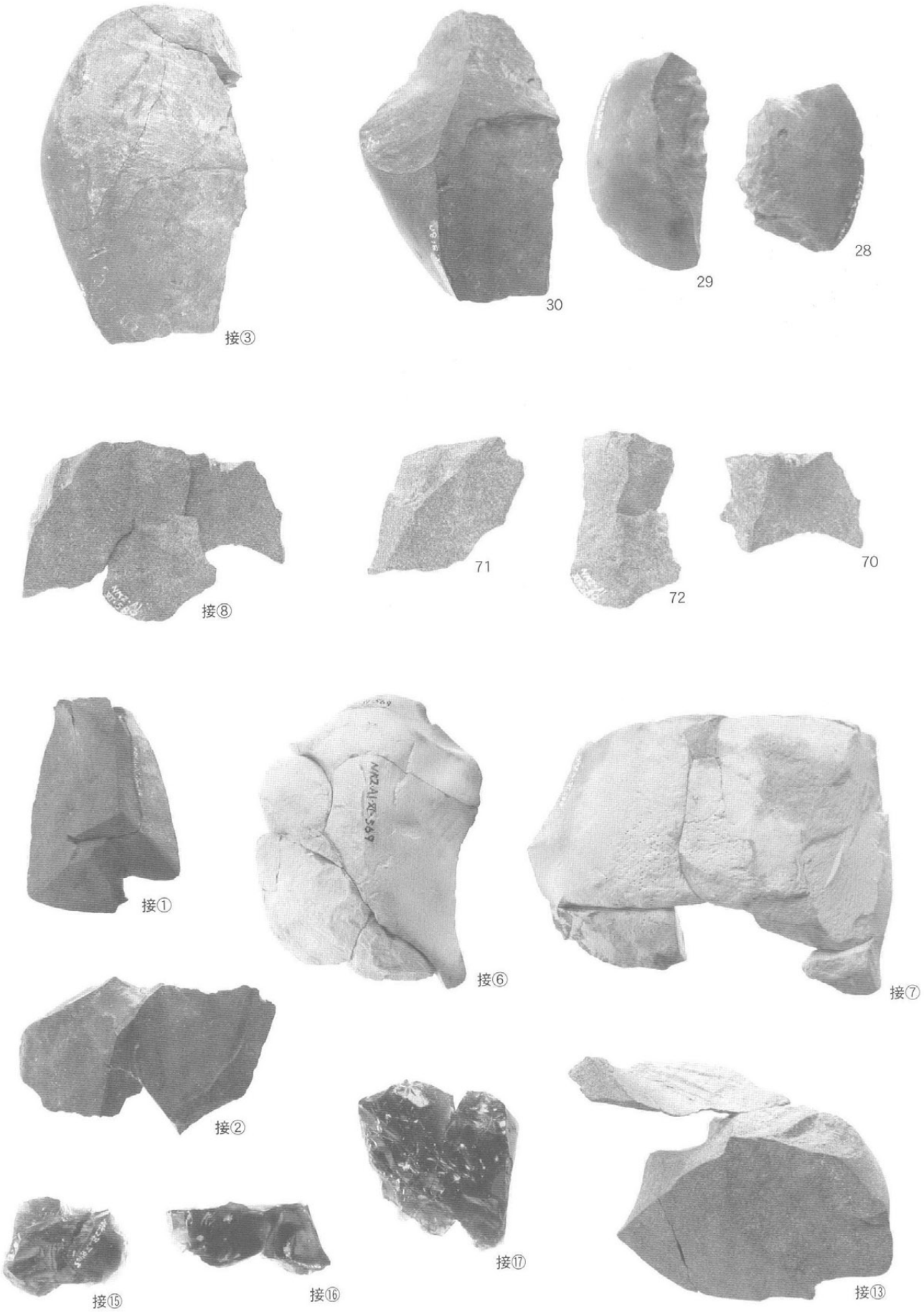
写真図版４　旧石器時代遺構③



写真図版５　旧石器時代遺物包含層出土石器①



写真図版 6　旧石器時代遺物包含層出土石器②



写真図版７　旧石器時代遺物包含層出土石器③

写真図版８　旧石器時代遺物包含層出土石器④

3rd Period

第Ⅲ章　縄文時代早期についての調査

第１節　遺構

今回の調査において確認された縄文時代早期の遺構は、集石遺構４１基と土坑８基である。

記録図面については、調査期間などの諸条件を考慮して、集石遺構が使用礫･掘り込みともに「平面図」+「両断面図」、土坑が「平面図」+「両断面見通し図」(一部例外あり)、という内容で作成した。

１．集石遺構

SI-39

縄文時代早期の土器もほとんど出土しなくなったⅧ層上位で検出され、掘り込みの形状はあまり明瞭ではないが平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫については亜円礫や角礫がほとんどで、掘り込みに詰った状態で検出された。他の集石遺構との検出面の差からみて、縄文時代草創期のものである可能性が高いと推測される。

SI-19

Ⅵ層上位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がＶ字状である。当遺跡最大規模の集石遺構で、使用礫はそのほとんどが角礫であった(2番目に大型のSI-17の使用礫総重量が55.5kgでこの遺構が192.5kgなので、使用礫からみても当遺跡では群を抜いて大型)。又、掘り込み底部には、人頭大の平らな礫１個と手のひらほどの平らな礫が６個敷き詰められるように配置されていた。

埋土については炭化物を含んだ茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期は8190±40年BPであるという結果が得られた。尚、埋土からは姫島産黒曜石及びチャート製の剥片が３点出土している。

SI-2･38

Ⅵ層上位から中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫は掘り込みにたいし極めて疎らな状況で、そのほとんどは亜円礫と角礫であった。埋土については炭化物を含んだ茶黒色土で、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、使用推定時期はSI-２が8190±40年BPでSI-38が8100±120年BPであるという結果が得られた。

SI-17

Ｖ層中位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫については円礫や亜円礫の割合が比較的高く、充填状況はやや密で、掘り込み中位からは拳大の円礫がギッシリと敷き詰められていた。

SI-25･26･28～31

Ｖ･Ⅵ層の掘り下げ作業を行っていたところ、Ｂ７グリッドで焼礫が多量にする範囲が確認された。この焼礫群を精査したところ、特に焼礫が集中する部分が３ヶ所あったため、これらを集石遺構(SI-25･26･28)と判断し記録作業を行った。又、この他に黒く丸いシミも３ヶ所検出されたため、慎重な確認調査を行ったところ、いずれも掘り込みを持つタイプの集石遺構(SI-29～31)であることが明らかになった。

SI-29：掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫については角礫の割合が高く、充填状況は疎らである。尚、掘り込み底部には、人頭大の平らな礫が２個配置されていた。

SI-30：掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫については角礫の割合が高く、充填状況はかなり疎らである。尚、掘り込み底部には、人頭大の平らな礫が１個配置されていた。

SI-31：掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫については角礫の割合が高く、充填状況はかなり疎らである。

SI-20･21･32･33

Ｖ･Ⅵ層の掘り下げ作業を行っていたところ、Ｅ５グリッドで焼礫が多量にする範囲が確認された。この焼礫群

を精査したところ、特に焼礫が集中する部分が１ヶ所あったため、これらを集石遺構（SI-20）と判断し記録作業を行った。又、この他に黒く丸いシミも３ヶ所検出されたため、慎重な確認調査を行ったところ、いずれも掘り込みを持つタイプの集石遺構(SI-21･32･33)であることが明らかになった。

SI-21･32：掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫については角礫の割合が高く、充填状況はやや疎らである。

SI-33：掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状である。使用礫については角礫の割合が高く、充填状況はやや疎らである。SI-21･32 と比較すると大型の集石遺構だが、それぞれの関係について判断できる資料は確認されていない。

SI-13･18･14 ～ 16･22･23

いずれもＶ層下位からⅥ層中位で検出されている。掘り込みの形状は平面が円形で断面が浅皿状で、掘り込み内の埋土は茶褐色土である。使用礫については角礫の割合が高く、充填状況はいずれもやや密である。

SI-43

Ⅵ層上位で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面が皿状である。使用礫については角礫の割合が高く、充填状況はかなり疎らであった。

SI-44

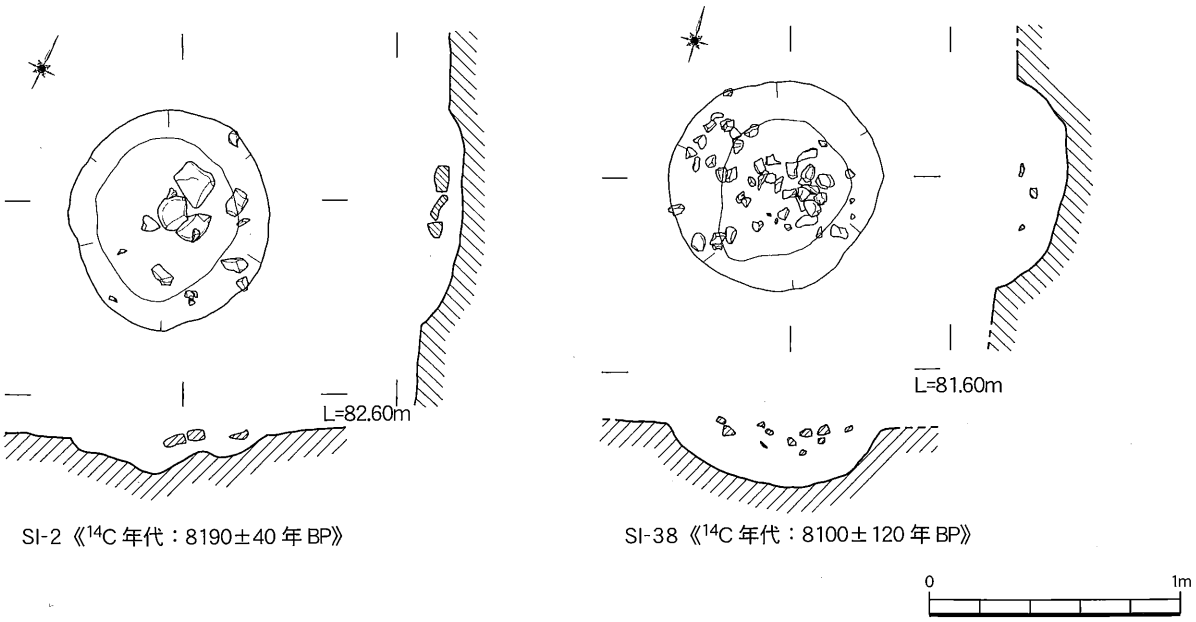
Ⅵ層中位で検出され、掘り込みは確認されていない。角礫が約 0.4 ㎡の範囲に平面的に集中していたため、集石遺構と判断した。尚、後述の SI-3 などとは検出面からみて別時期の集石遺構ではないかと推測される。

SI- 5

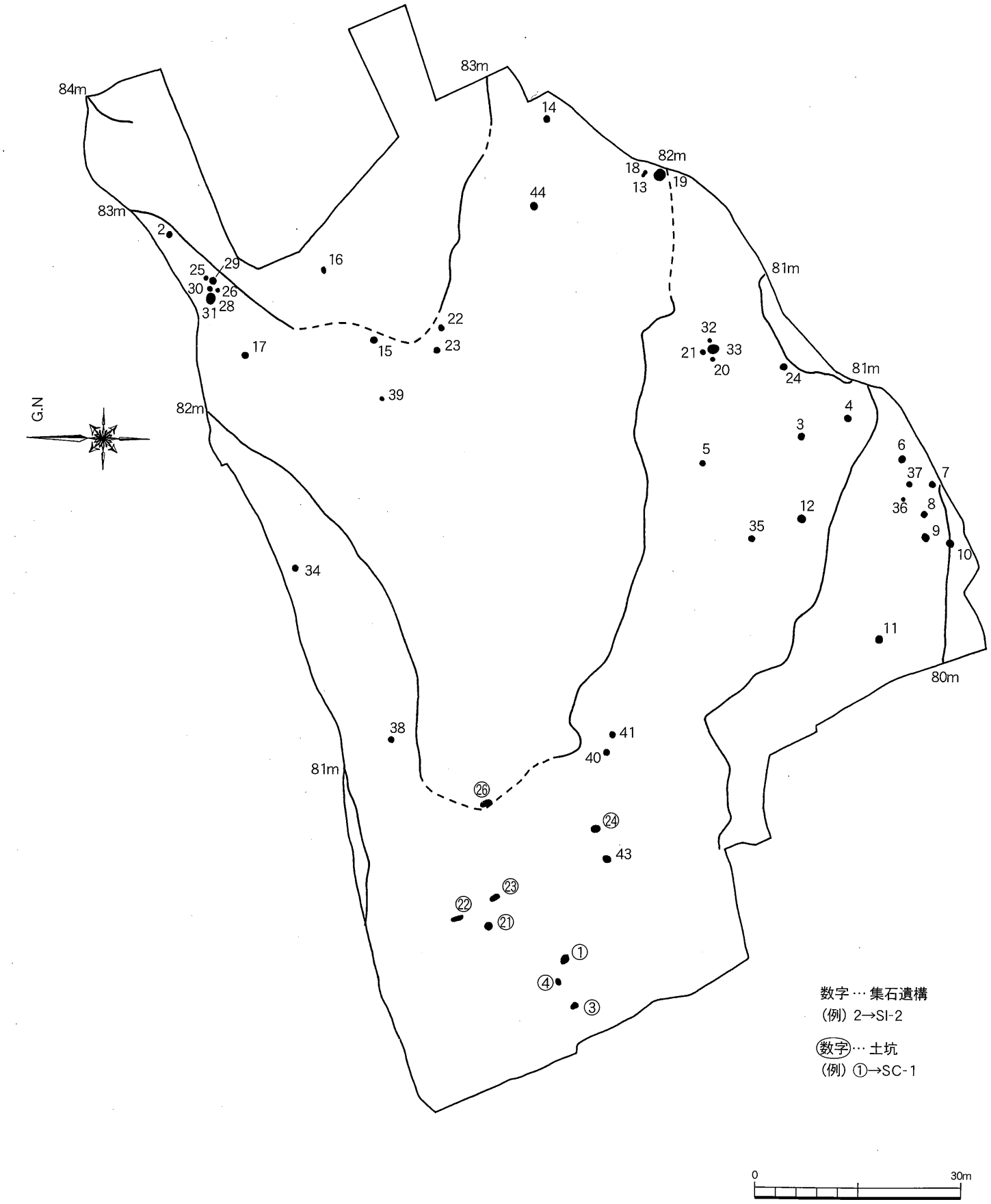
Ｖ層上面で検出され、掘り込みの形状は平面が円形で断面がボウル状である。使用礫は亜円礫や角礫の割合が高く、掘り込みにギッシリと詰った極めて密な状態で充填されていた。最下位の礫と掘り込み底部との間の約 15cm には炭化物を含む黒色土が堆積していたが、そのなかから採取された炭化材で放射性炭素年代測定分析を実施したところ、この集石遺構の使用推定時期は 6290±40 年 BP であるという結果が得られた。

SI-3･4･6 ～ 12･34 ～ 37･40･41

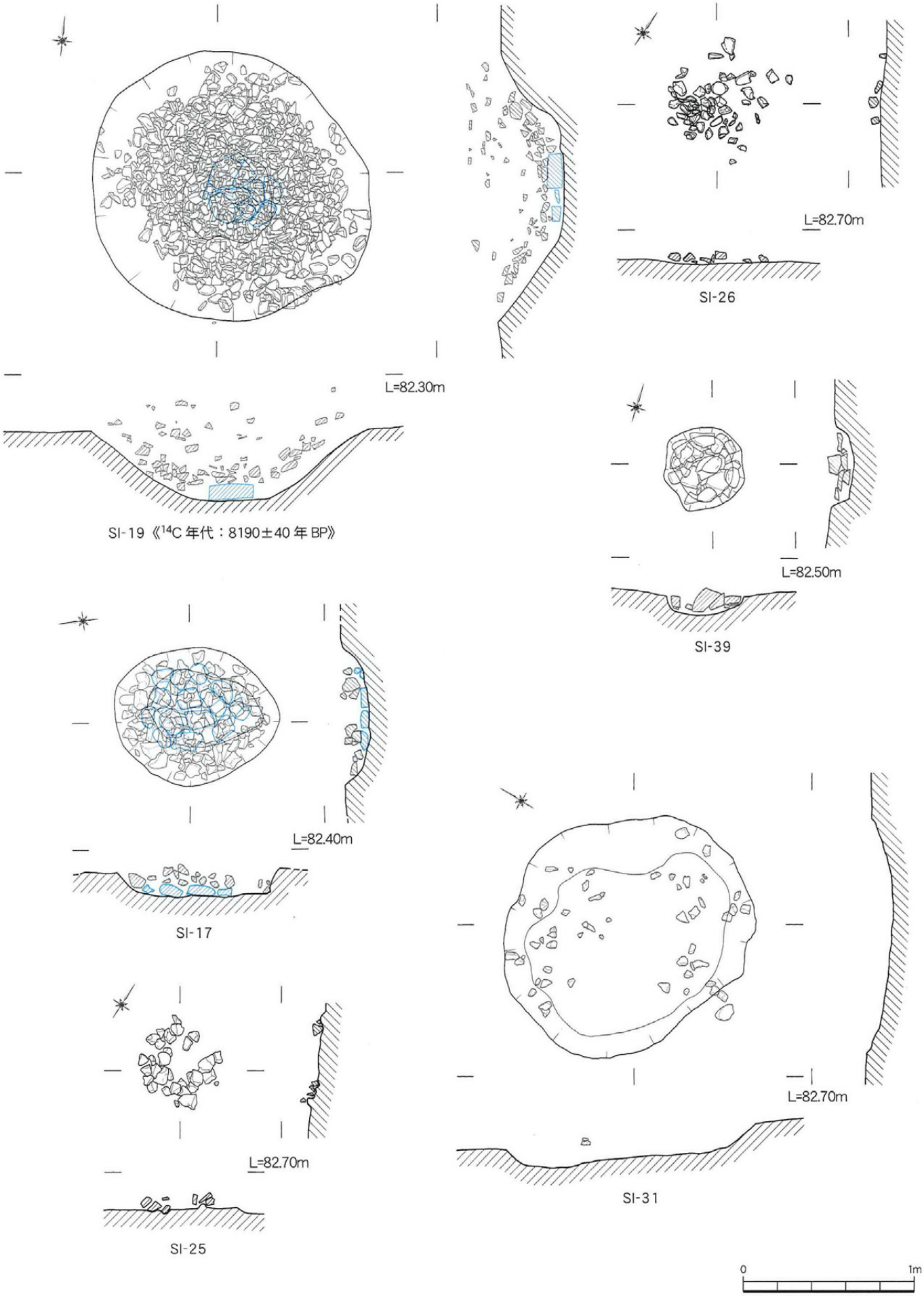
いずれもＶ層上位で検出され、掘り込みは確認されていない。角礫が 0.3 ㎡～１㎡の範囲に平面的に集中するタイプの集石遺構で、検出面からみても縄文時代早期後半の遺構であると推測される。



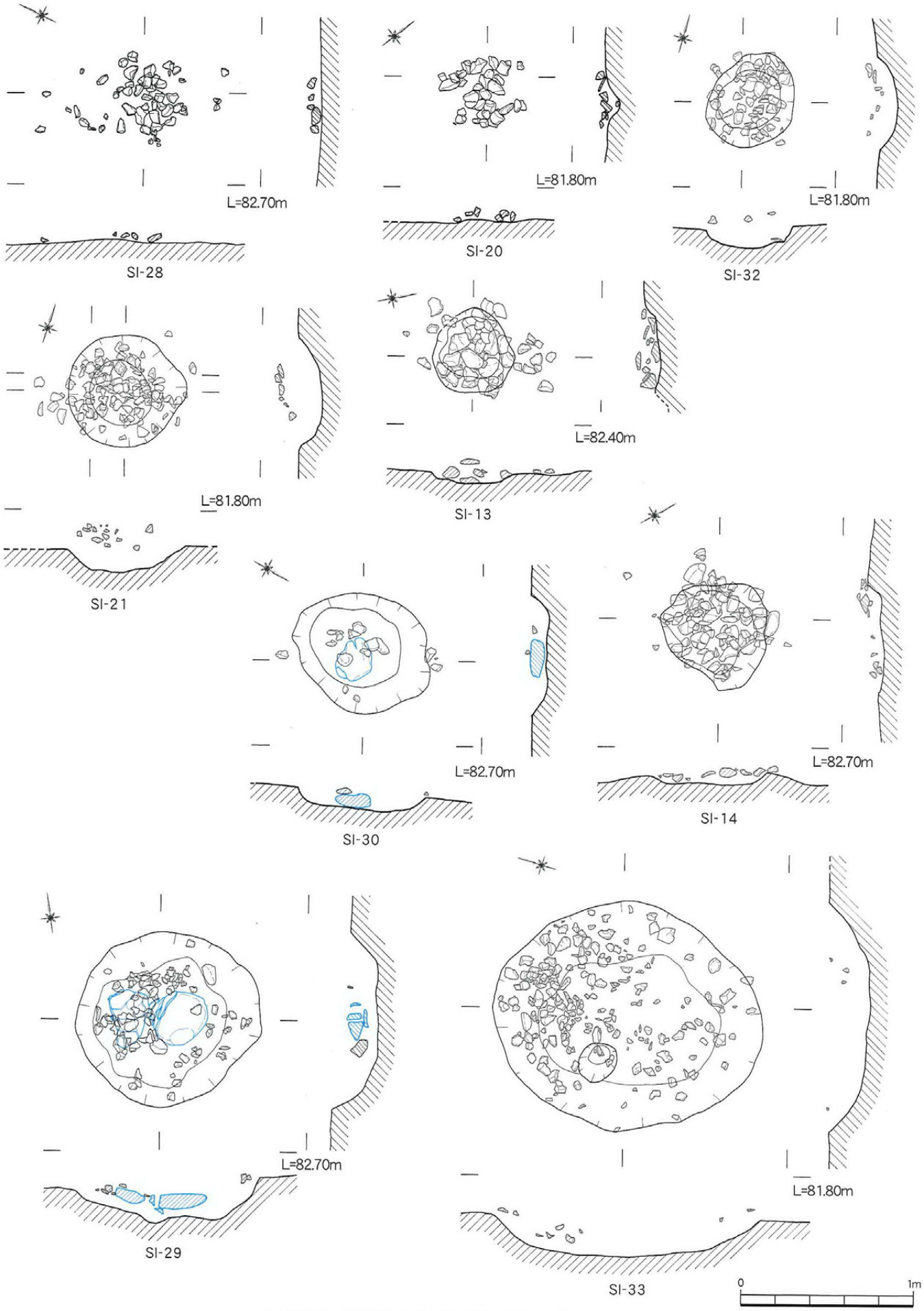
第 26 図　縄文時代早期集石遺構実測図①(S=1/30)



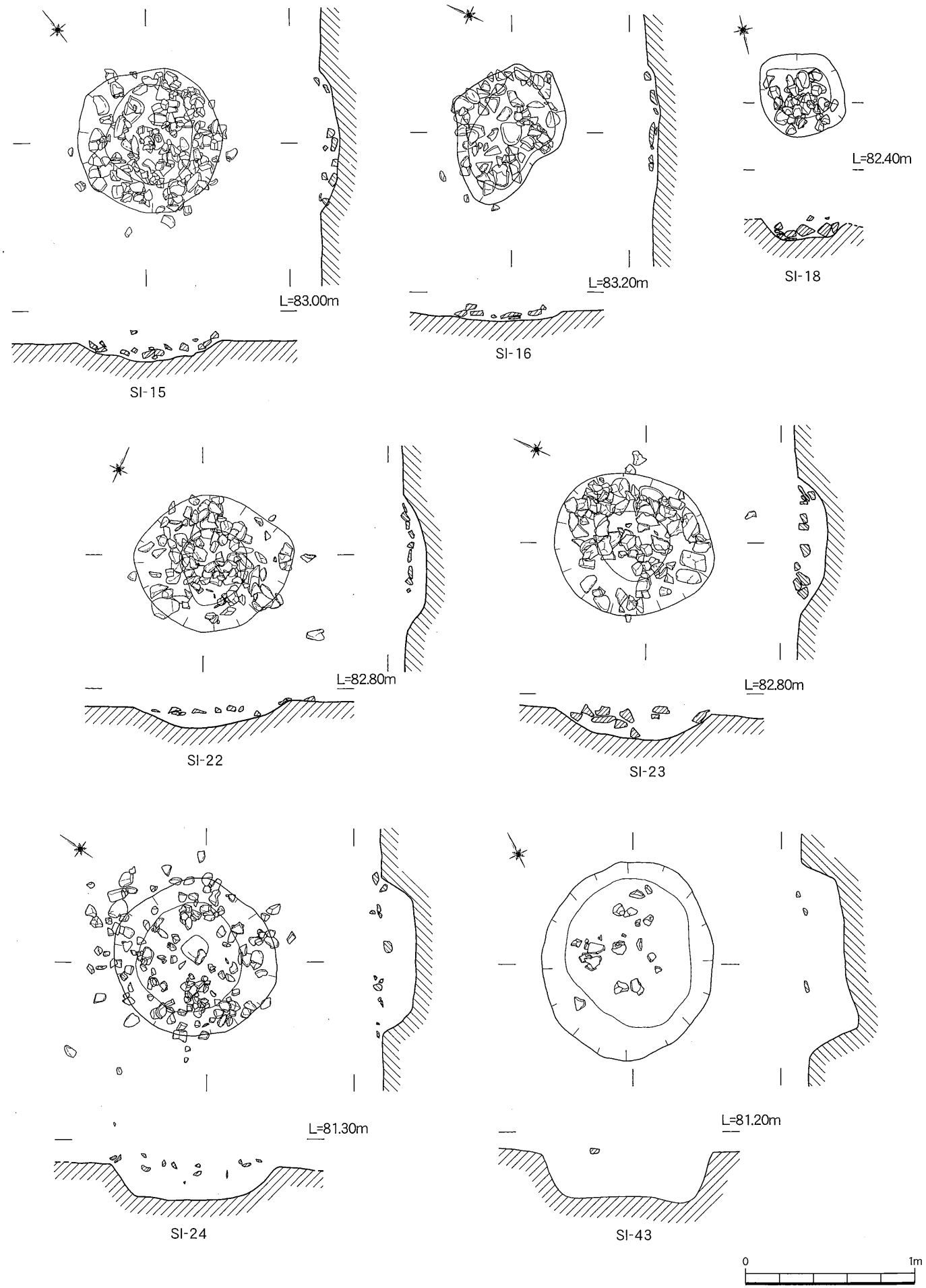
第 27 図　縄文時代早期遺構配置図（S=1/750）



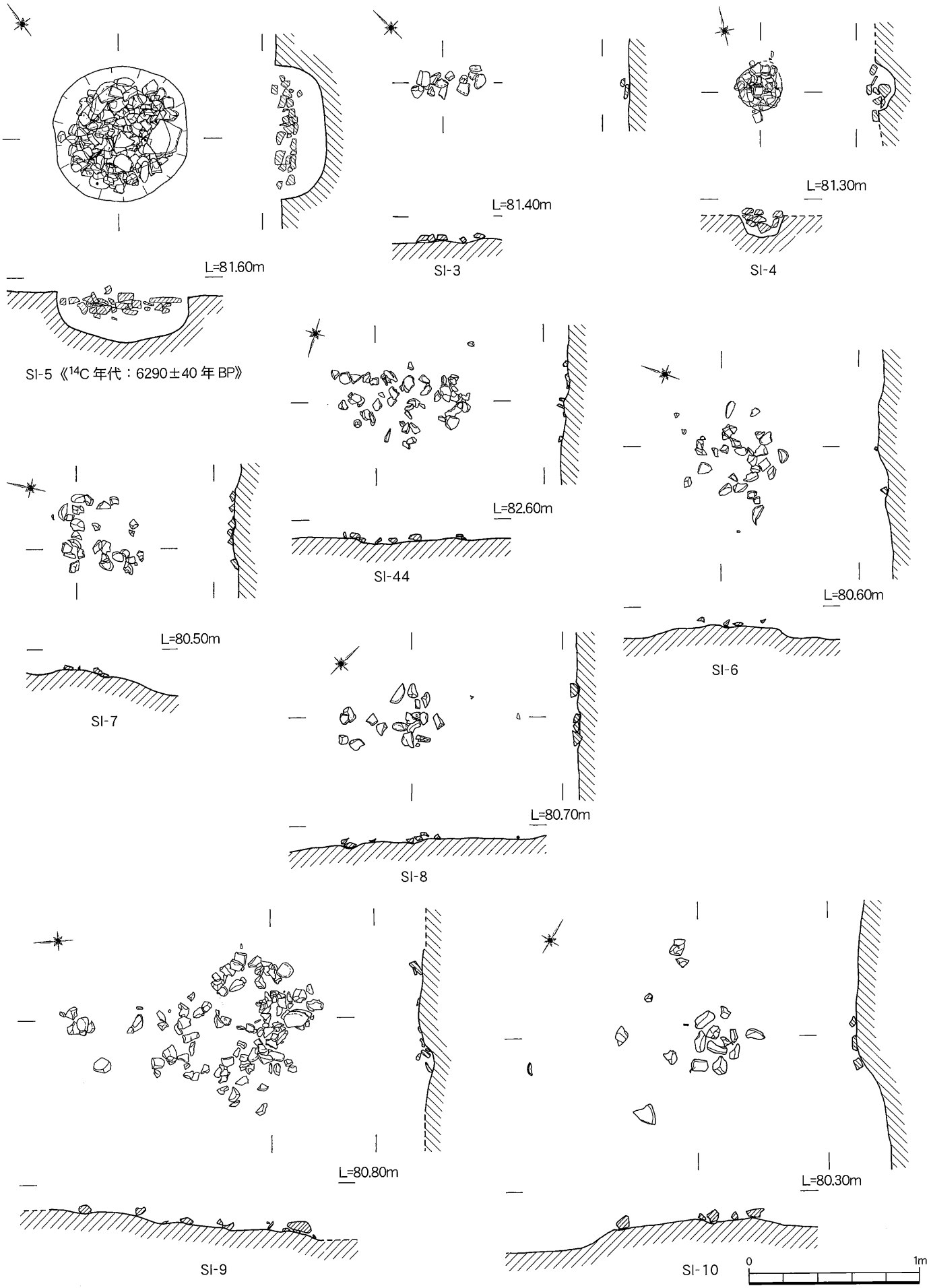
第 28 図　縄文時代早期集石遺構実測図②(S=1/30)



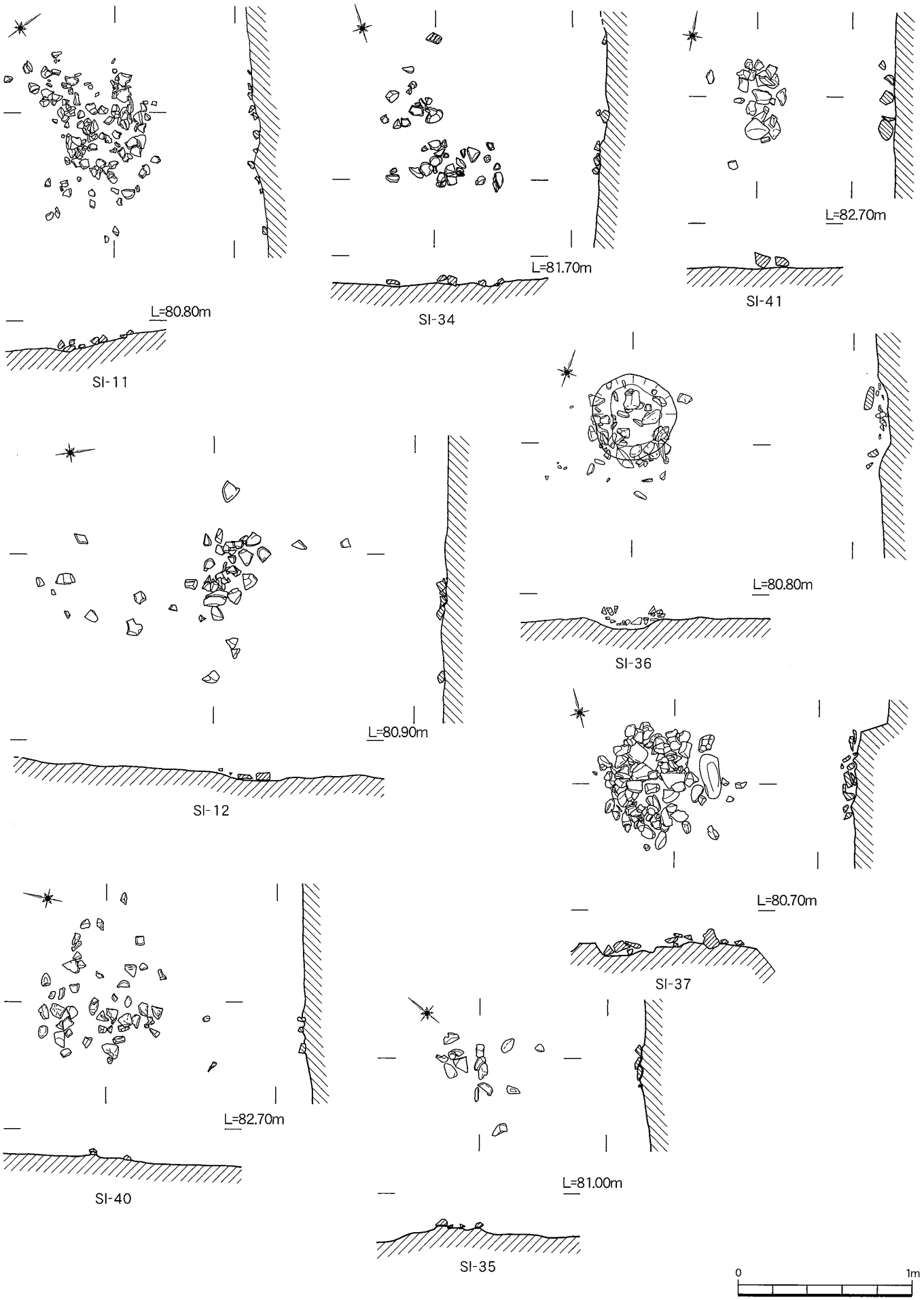
第 29 図　縄文時代早期集石遺構実測図③(S=1/30)



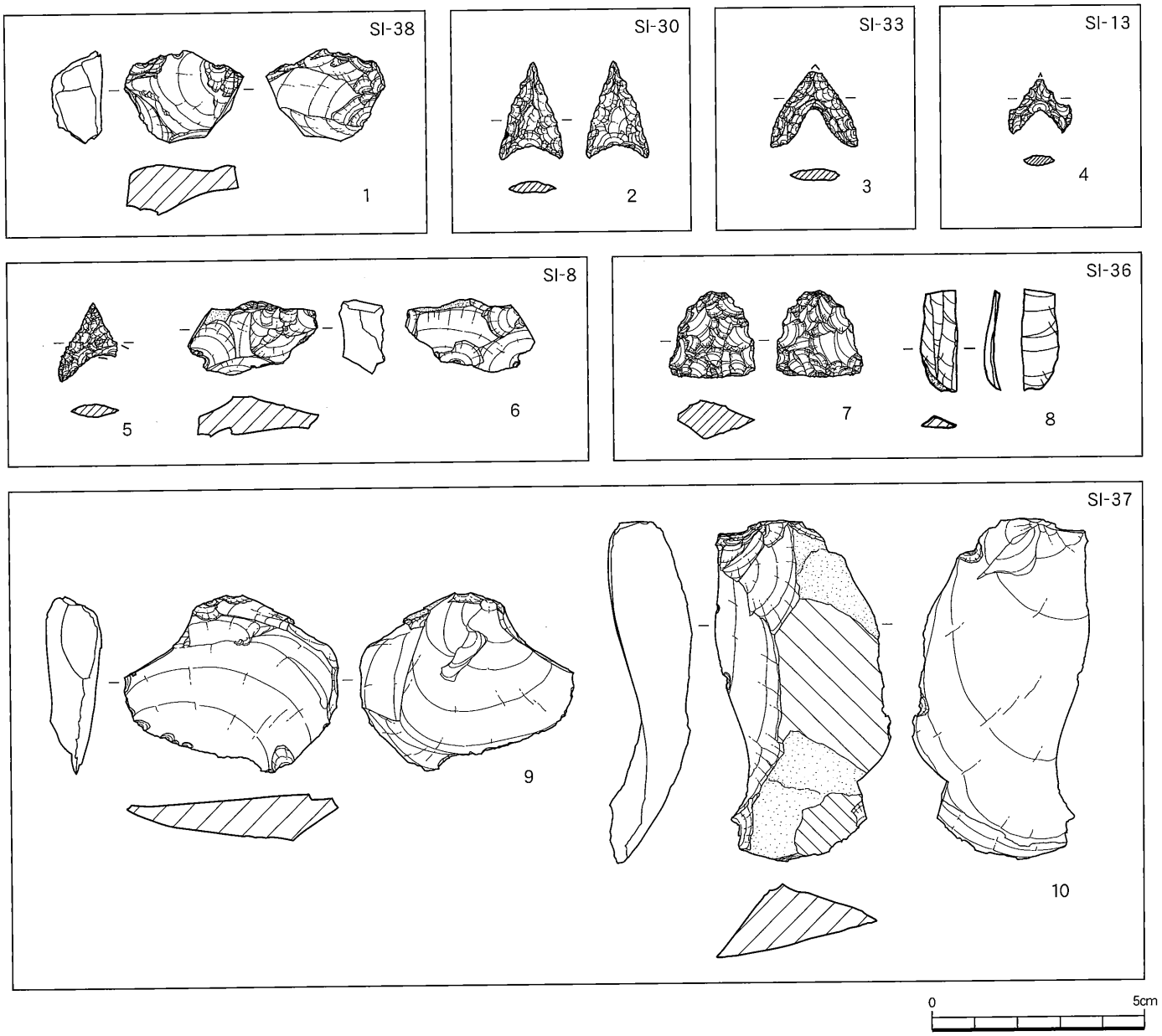
第 30 図　縄文時代早期集石遺構実測図④(S=1/30)



第 31 図　縄文時代早期集石遺構実測図⑤(S=1/30)



第 32 図　縄文時代早期集石遺構実測図⑥(S=1/30)



第 33 図　集石遺構内出土遺物実測図（S=2/3）

第 3 表　縄文時代早期集石遺構出土石器計測分類表

No.	遺構番号	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備　　考
1	SI-38	石核	チャート	2.20	2.80	1.20	6.70	
2	SI-30	石鏃	頁岩	3.20	1.50	0.25	0.70	
3	SI-33	石鏃	サヌカイト	(1.75)	2.05	0.30	(0.8)	先端部欠損
4	SI-13	石鏃	チャート	(1.25)	1.45	0.25	(0.3)	先端部欠損
5	SI- 8	石鏃	黒曜石	(1.85)	(1.40)	0.30	(0.4)	脚部欠損。黒曜石は西北九州産か？
6	SI- 8	石核	黒曜石	1.75	3.10	1.05	4.50	黒曜石は桑ノ木津留産
7	SI-36	石鏃未製品	チャート	2.05	2.00	0.90	3.11	
8	SI-36	細石刃 (?)	頁岩	2.45	0.85	0.25	0.40	打面部を欠損
9	SI-37	剥片	頁岩	4.20	5.10	1.30	24.30	
10	SI-37	剥片	頁岩	8.20	4.20	1.70	43.90	

第４表　縄文時代早期集石遺構観察表

No.	番号	検出層	^{14}C年代（年BP）	使用礫				堀込み				底石の有無	炭化物の有無	備考
				礫分布範囲<長軸×短軸>(m)	総礫数(個)	総重量(kg)	礫１個あたりの重量(kg)	有無	断面形状	直径(m)	深さ(m)			
1	SI-39	Ⅷ層上位	-	0.42×0.42	43	13.0	0.30	有	（浅）皿状	0.48	0.10	無	炭化粒のみ	草創期可能性が高い
2	SI-19	Ⅵ層上位	8190±40	1.50×1.40	1875	192.5	0.10	有	Ｖ字状	1.60	0.40	有	有	剥片３点出土（姫島産黒曜石、チャート）
3	SI-2	Ⅵ層上位～中位	8190±40	0.85×0.52	17	6.5	0.38	有	（浅）皿状	0.90	0.11	無	有	
4	SI-38	Ⅵ層中位	8100±120	0.80×0.70	60	3.8	0.06	有	皿状	0.90	0.30	無	有	
5	SI-17	Ⅴ層中位	-	0.90×0.76	151	55.5	0.37	有	皿状	1.00	0.18	（有）	炭化粒のみ	
6	SI-25	Ⅴ層下位～Ⅵ層上位	-	0.58×0.50	29	8.3	0.29	無	-	-	-	-	無	散礫の可能性もある
7	SI-26	Ⅴ層下位～Ⅵ層上位	-	0.76×0.72	63	7.4	0.12	無	-	-	-	-	無	散礫の可能性もある
8	SI-28	Ⅴ層下位～Ⅵ層上位	-	1.20×0.60	54	7.2	0.13	無	-	-	-	-	無	散礫の可能性もある
9	SI-29	Ⅵ層上位～中位	-	1.00×0.92	96	23.0	0.24	有	皿状	1.10	0.25	有	炭化粒のみ	
10	SI-30	Ⅵ層上位～中位	-	0.95×0.50	18	7.9	0.44	有	皿状	0.70	0.11	有	炭化粒のみ	
11	SI-31	Ⅵ層上位～中位	-	1.50×1.20	57	4.6	0.08	有	（浅）皿状	1.50	0.15	無	炭化粒のみ	
12	SI-20	Ⅴ層下位～Ⅵ層上位	-	0.50×0.42	44	6.9	0.16	無	-	-	-	-	無	散礫の可能性もある
13	SI-21	Ⅵ層上位～中位	-	0.90×0.65	129	8.2	0.06	有	皿状	0.70	0.15	無	炭化粒のみ	
14	SI-32	Ⅵ層上位～中位	-	0.58×0.50	70	5.0	0.07	有	皿状	0.60	0.11	無	炭化粒のみ	
15	SI-33	Ⅵ層上位～中位	-	1.40×1.35	231	15.3	0.07	有	皿状	1.60	0.25	無	炭化粒のみ	
16	SI-13	Ⅴ層下位～Ⅵ層上位	-	0.80×0.54	60	13.0	0.22	有	（浅）皿状	0.50	0.06	無	炭化粒のみ	
17	SI-18	Ⅴ層下位～Ⅵ層上位	-	0.48×0.40	35	6.6	0.19	有	（浅）皿状	0.50	0.10	無	炭化粒のみ	
18	SI-14	Ⅴ層下位～Ⅵ層上位	-	0.80×0.76	94	15.5	0.16	有	（浅）皿状	0.60	0.15	無	炭化粒のみ	
19	SI-15	Ⅵ層中位	-	1.00×0.95	177	22.0	0.12	有	（浅）皿状	0.90	0.12	無	炭化粒のみ	
20	SI-16	Ⅵ層中位	-	0.90×0.70	89	14.0	0.16	有	（浅）皿状	0.80	0.05	無	炭化粒のみ	
21	SI-22	Ⅵ層中位	-	0.90×0.90	126	13.5	0.11	有	（浅）皿状	1.00	0.15	無	炭化粒のみ	
22	SI-23	Ⅵ層中位	-	0.95×0.86	95	27.5	0.29	有	皿状	0.90	0.20	無	炭化粒のみ	
23	SI-24	Ⅵ層上位	-	1.30×1.05	130	9.8	0.08	有	皿状	1.00	0.30	無	炭化粒のみ	
24	SI-43	Ⅵ層上位	-	0.80×0.60	34	2.5	0.07	有	皿状	1.20	0.30	無	炭化粒のみ	
25	SI-44	Ⅵ層中位	-	0.85×0.58	52	4.0	0.08	無	-	-	-	-	無	砕片１点出土（チャート）
26	SI-5	Ⅴ層直上	6290±40	0.76×0.70	470	40.4	0.09	有	ボウル状	0.80	0.30	無	有	
27	SI-3	Ⅴ層直上(?)	-	0.42×0.20	14	2.0	0.14	無	-	-	-	-	無	
28	SI-4	Ⅴ層上位(?)	-	0.36×0.30	32	5.5	0.17	（有）	ボウル状(?)	0.40	0.20	無	無	砕片２点出土（安山岩、姫島産黒曜石）
29	SI-6	Ⅴ層上位(?)	-	0.80×0.65	33	3.5	0.11	無	-	-	-	-	無	剥片１点出土（流紋岩）
30	SI-7	Ⅴ層直上(?)	-	0.60×0.50	28	2.5	0.09	無	-	-	-	-	無	
31	SI-8	Ⅴ層直上(?)	-	0.62×0.40	21	3.0	0.14	無	-	-	-	-	無	
32	SI-9	Ⅴ層直上(?)	-	1.60×1.00	127	14.5	0.11	無	-	-	-	-	無	剥片１点出土（砂岩）
33	SI-10	Ⅴ層上位(?)	-	1.10×0.90	18	6.5	0.36	無	-	-	-	-	無	
34	SI-11	Ⅴ層直上(?)	-	1.10×1.00	129	7.0	0.05	無	-	-	-	-	無	石核２点（姫島産黒曜石） 剥片２点（流紋岩、チャート）
35	SI-12	Ⅴ層直上(?)	-	1.60×1.20	47	7.0	0.15	無	-	-	-	-	無	
36	SI-34	Ⅴ層中位(?)	-	0.90×0.60	39	3.5	0.09	無	-	-	-	-	無	
37	SI-35	Ⅴ層直上(?)	-	0.68×0.60	15	2.5	0.17	無	-	-	-	-	無	
38	SI-36	Ⅴ層上位(?)	-	0.80×0.60	65	4.0	0.06	無	-	-	-	-	無	剥片３点、石鏃１点、石核１点 出土（いずれも桑ノ木津留産黒曜石）
39	SI-37	Ⅴ層上位(?)	-	0.90×0.80	112	25.8	0.23	無	-	-	-	-	無	剥片５点出土（頁岩）
40	SI-40	Ⅴ層上位(?)	-	1.00×0.80	50	6.0	0.12	無	-	-	-	-	無	
41	SI-41	Ⅴ層上位(?)	-	0.50×0.30	22	6.5	0.30	無	-	-	-	-	無	

2．土坑

SC-1

Ⅵ層下位での検出であったため、遺構の全容は把握することが出来ず（＝掘り込み面は検出面より数十 cm 上位であったと推測される）、プラン等についてはあくまでも検出面におけるデータである。
平面プランが長軸 1.5m、短軸 1.2mの楕円形で、検出面からの深さは 0.15mである。壁面については緩やかに立ち上がっているが、先述のとおり遺構の底部のみが残存している状況である可能性が高いことも考慮すべきであろう。

埋土はやや軟質の茶褐色土で、埋土中からは口縁部片１点･底部片３点を含む数十点の塞ノ神式土器（撚り糸文）や砂岩製の敲石などが出土している。

SC-3

SC-１同様プラン等についてはあくまでも検出面におけるデータである。

平面プランが長軸 1.2m、短軸 0.9mの楕円形で、検出面からの深さは 0.2mである。壁面については緩やかに立ち上がっているが、SC-１同様検出状況は考慮すべきである。

埋土はSC-１とほぼ同質のやや軟質の茶褐色土で、埋土中からは塞ノ神式土器（撚り糸文）の口縁部片が１点出土している。

SC-4

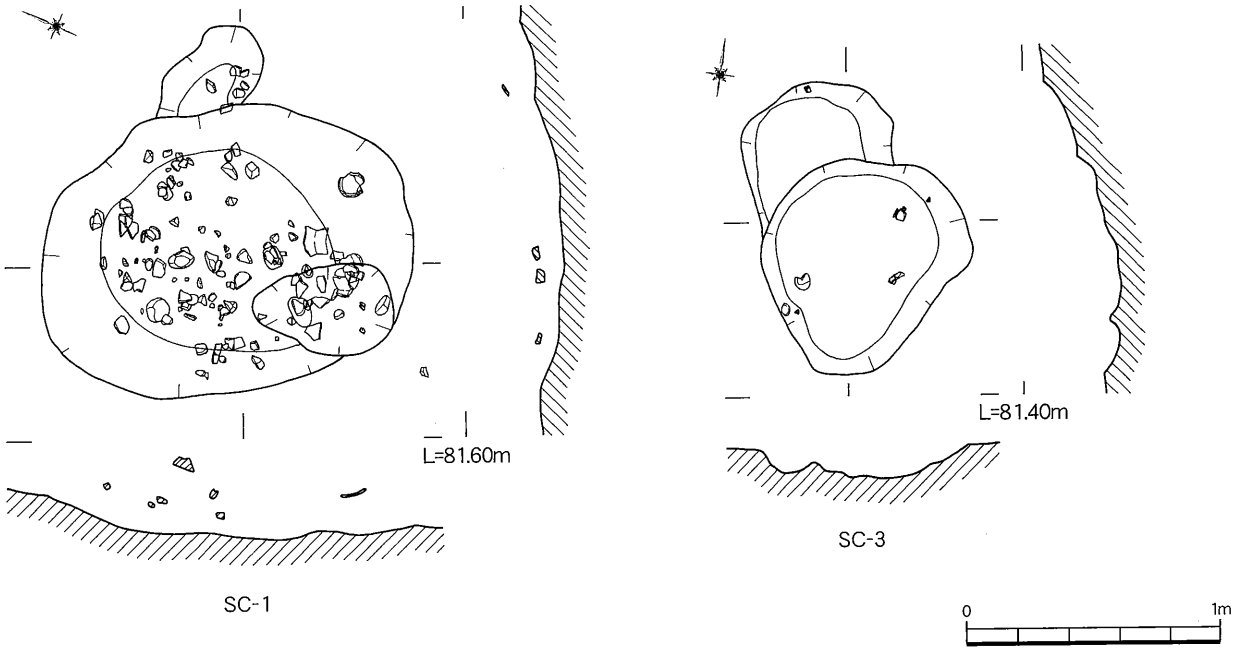
SC-１･３同様プラン等についてはあくまでも検出面におけるデータである。

平面プランが長軸 1.05m、短軸 0.75mの楕円形で、検出面からの深さは 0.1mである。壁面については緩やかに立ち上がっているが、SC-１･３同様検出状況は考慮すべきである。

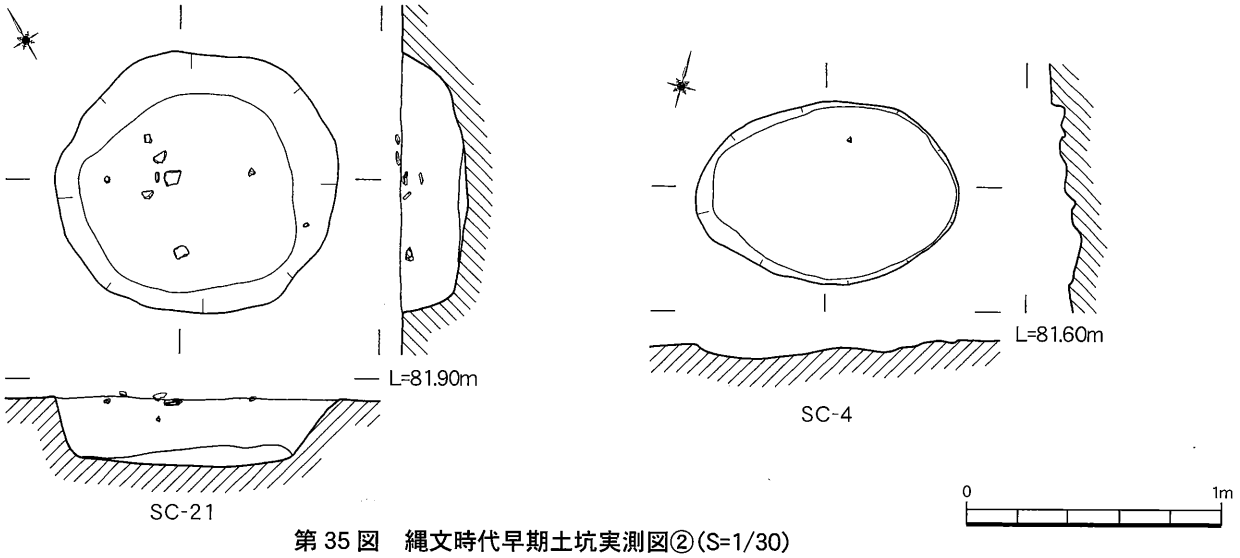
SC-21

Ⅵ層中位で検出され、平面プランが直径約 1.1mの円形で、検出面からの深さは 0.3m（断面プランはボウル状）である。

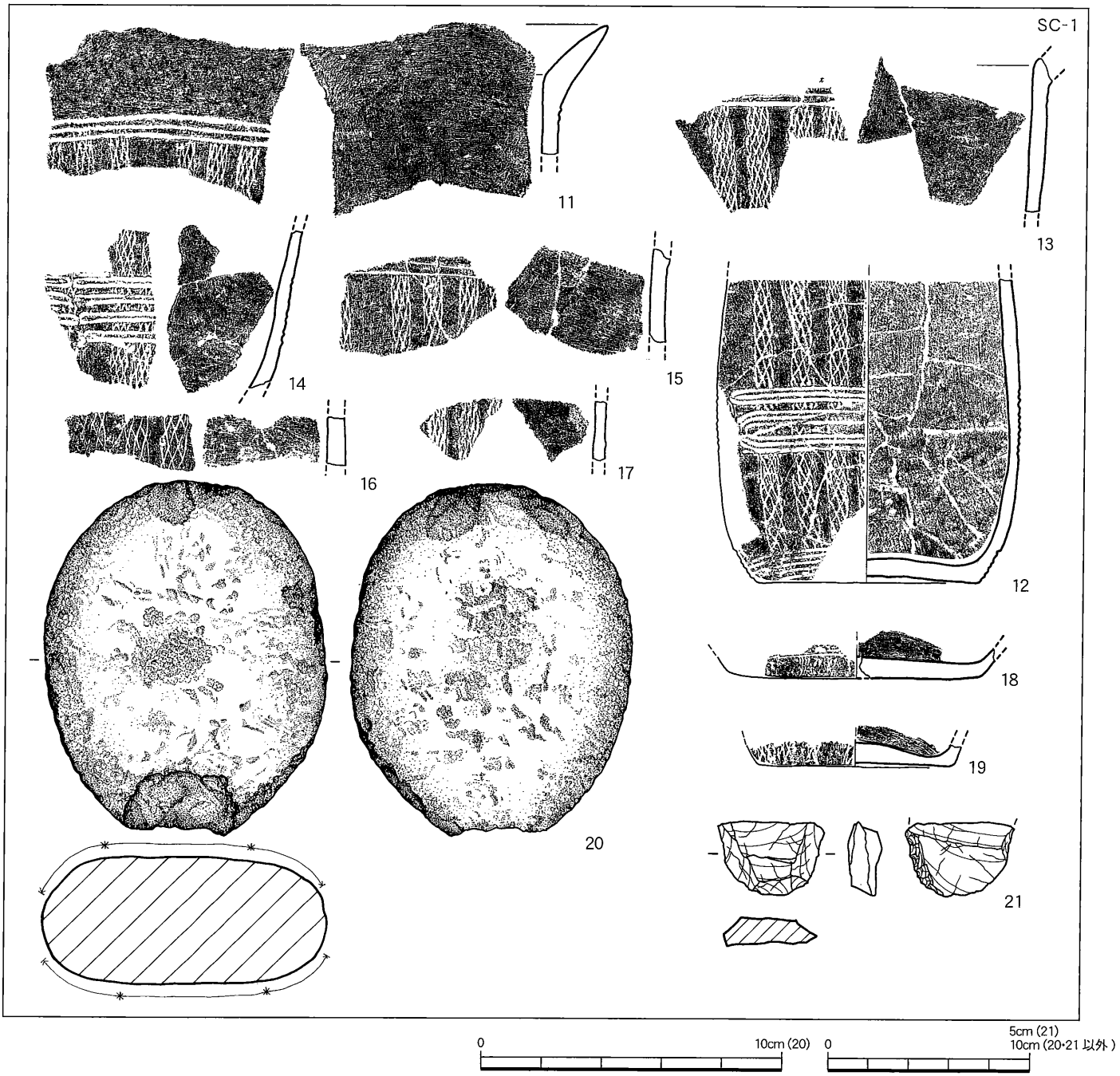
埋土はやや硬質の茶褐色土で、埋土中からは塞ノ神式土器（撚り糸文）の胴部片及び底部片数点が出土している。



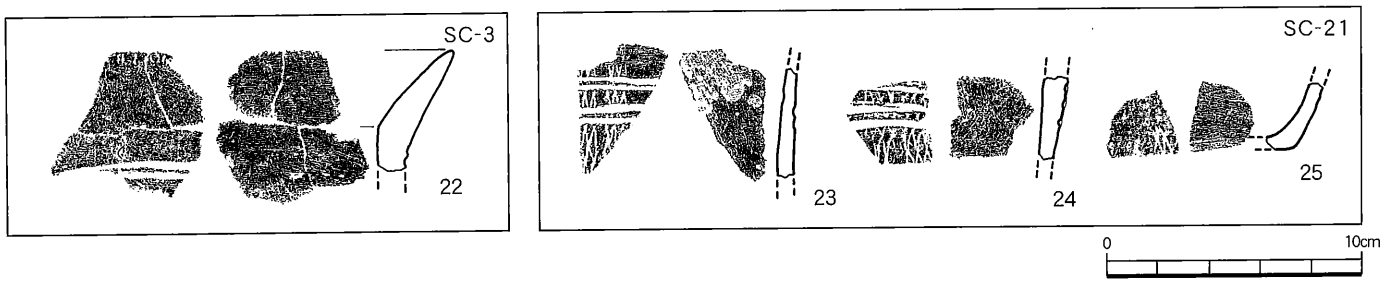
第 34 図　縄文時代早期土坑実測図①（S=1/30）



第 35 図　縄文時代早期土坑実測図②(S=1/30)



第 36 図　土坑内出土遺物実測図①(S=1/3･2/3･1/2)



第 37 図　土坑内出土遺物実測図②(S=1/3)

第 5 表　縄文時代早期土坑出土土器観察表

No.	遺構番号	器種	残存部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
11	SC-1	鉢	口縁～胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○1.5mm 以下	
12	SC-1	鉢	胴～底部	沈線文　撚糸文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/4（にぶい滑）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1.5mm 以下	
13	SC-1	鉢	頸～胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○1mm 以下	
14	SC-1	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	7.5YR7/1（明褐灰）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○	○			○2mm 以下	
15	SC-1	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○1.5mm 以下	
16	SC-1	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm 以下	
17	SC-1	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	2.5Y5/1（黄灰）	2.5Y4/2（暗灰黄）	○	○				○2mm 以下	
18	SC-1	鉢	底部	沈線文　撚糸文　ナデ	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	2.5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○1.5mm 以下	
19	SC-1	鉢	底部	撚糸文　ナデ	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○		○			○2mm 以下	
22	SC-3	鉢	口縁～頸部	沈線文　撚糸文　ナデ	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○1.5mm 以下	口唇部にキザミを施している
23	SC-21	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○2mm 以下	
24	SC-21	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○1.5mm 以下	
25	SC-21	鉢	胴～底部	沈線文　撚糸文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○1mm 以下	

第 6 表　縄文時代早期土坑出土石器計測分類表

No.	遺構番号	器種	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
20	SC-1	敲石	砂岩	11.80	9.40	4.20	641.40	
21	SC-1	スクレイパー	流紋岩(?)	1.80	2.65	0.85	3.60	打面部欠損

SC-22

Ⅸ層上面で検出され、平面プランが長軸 1.4m･短軸 0.75mの長楕円形で、検出面からの深さは 0.5mである。埋土はかなり硬質の灰黄褐色土で、白色･黄色パミスを含んでいる。

SC-23

Ⅸ層上面で検出され、平面プランが長軸 1.75m･短軸 0.6mの長楕円形で、検出面からの深さは 0.8mである。埋土は SC-22 とほぼ同質である。

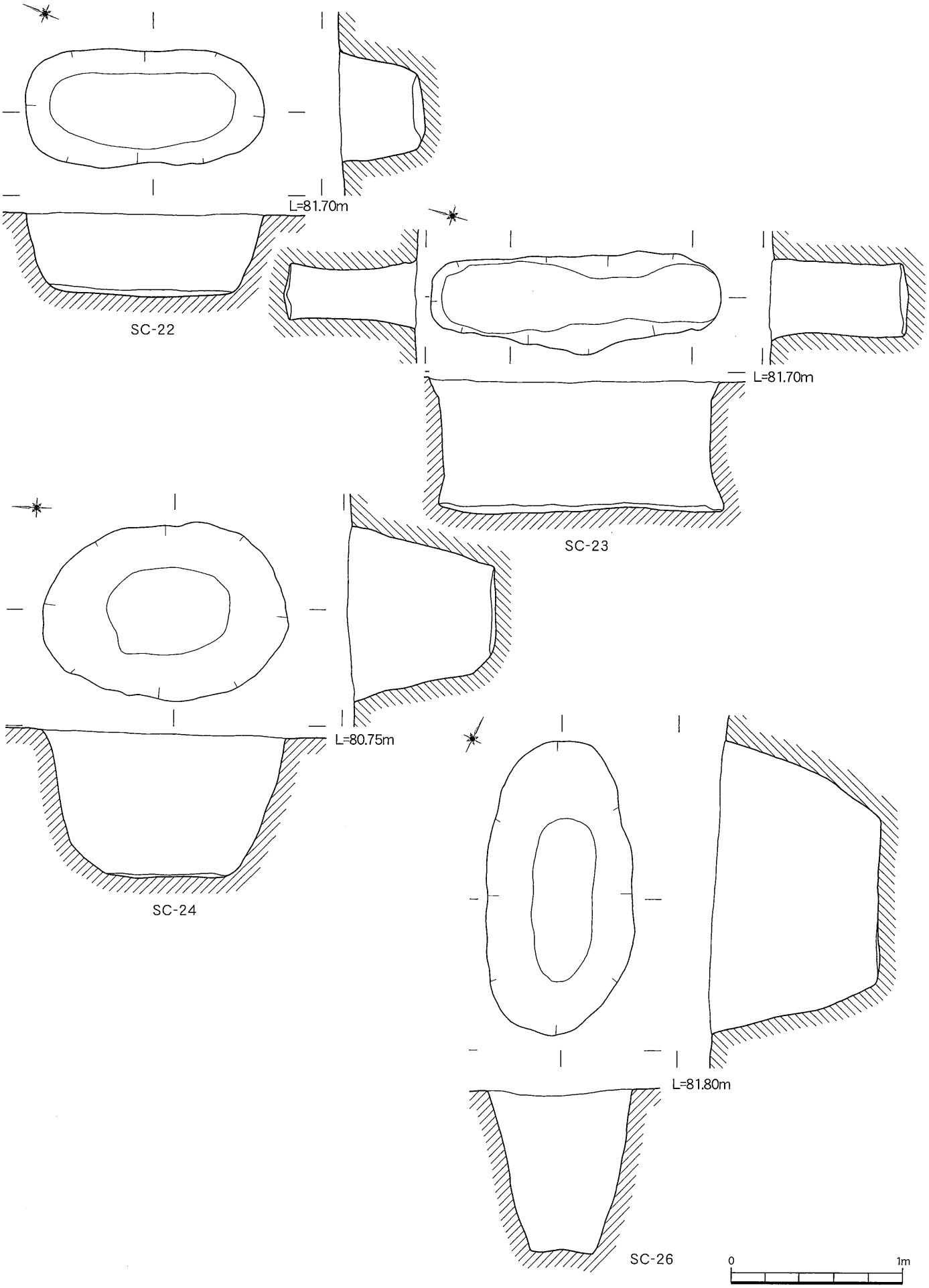
SC-24

Ⅸ層上面で検出され、平面プランが長軸 1.45m･短軸 1.1mの楕円形で、検出面からの深さは 0.9mである。埋土は SC-22･23 とほぼ同質である。

SC-26

Ⅸ層上面で検出され、平面プランが長軸 1.75m･短軸 0.9mの楕円形で、検出面からの深さは 0.95mである。埋土は SC-22 ～ 24 とほぼ同質である。

＊SC-22 ～ 24･26 については、形状や埋土からみて近隣遺跡で検出された陥し穴である可能性も高いと判断したため、記録作業終了後断ち割り確認を行ったが、逆茂木痕等は見当たらなかった。



第 38 図　縄文時代早期土坑実測図③(S=1/30)

第２節　包含層出土遺物

１．土器

当遺跡における縄文時代早期の遺物包含層は主にⅤからⅥ層中位にかけてである。縄文時代早期の遺物包含層の掘り下げ作業については、包含層残存範囲については全て実施したが、第４図遺跡地形図に表記してあるように既に包含層が削平されている範囲（一部及び全部）と水穴により層序が撹乱されている範囲については十分な掘り下げ作業は行っておらず、包含層出土土器の正確な分布状況の把握までには至っていない。

今回の調査で出土した縄文時代早期の土器については、貝殻円筒形土器、押型文土器、平栫式土器、塞ノ神式土器、貝殻条痕文土器の５分類に大別し考察を進めていくこととするが、各分類の出土層位については貝殻円筒形土器から塞ノ神式土器までは明確な層位差は無く、唯一貝殻条痕文土器がその他の土器群よりも明らかに上位から出土していた。

貝殻円筒形土器（１～ 13）

貝殻円筒形土器は 29 点出土し、そのうち 13 点を資料化している。

1・2 は地文に貝殻条痕文を施し、それに縦位や斜位の貝殻腹縁刺突文を重ねて施したいわゆる知覧式土器の胴部片である。**3～ 12** は外面に貝殻刺突文を施したいわゆる下剥峯式土器である。3・4・(5)8・(10)・11 は内湾した口縁部片で、9・12は口縁部にほぼ直行する口縁部片である。口唇部についてはほとんどが平らに仕上げている。又、6・7は同形式の胴部片である。**13** は外面に貝殻条痕による横位の流水文を施した口縁部片で、口唇部外面にキザミを施している。尚、１～ 13 は小破片であるため器形的特長は断定しづらいが、いずれも円筒形の深鉢であろう。

押型文土器（14 ～ 65）

押型文土器は 215 点出土し、そのうち 52 点を資料化している。

14～ 23 は山形押型文土器の口縁部片で、口縁部とほぼ直行するもの（15 ～ 18）、胴部から口縁部にかけてゆるやかに外反するもの（21 ～ 23）、口縁部付近で外反するもの（14・20）、やや内湾するもの（19）などがみられる。口唇部については、平らに仕上げているもの（15・16・19・23）、外面に斜行するような平坦面を作りだしているもの（14・17・18・22）、丸く仕上げているもの（20・21）がみられ、そこにキザミ（20 など）や刺突文（14 など）を施しているものもみられる。**24～ 32** は山形押型文土器の胴部片である（30 については口縁部にむけて外反する部位）。施文は縦位・横位・斜位がみられる。**33・34** は山形押型文土器の底部でいずれも平底である。**35～ 45** は楕円押型文の胴部片である。**46** は楕円押型文と山形押型文を施した胴部片で、**47・48** は格子目押型文土器の胴部片である。**49・50** は外面に縦位の縄文内面に横位の条線を施した口縁部片で、いずれも外反している（ヤトコロ式）。

51～ 65 は手向山式土器である。大きく外反する口縁部片（51・53・54・61・62・65）、屈曲している胴部片（52・55 ～ 60・63・64）いずれも出土しており、施文的特徴は、山形押型文（57 ～ 60）・菱形文（53 ～ 56）・ミミズばれ文（51・52）、沈線文（65）、貝殻条痕による曲線文（61 ～ 64）などがみられる。又、51 については、ミミズばれ文の下位（= 屈曲した胴部の下位）に施されていたと推測される山形押型文を口唇部から口縁部内面にかけて施し、53・54 については口縁部外面と同じ文様を口唇部から口縁部内面にかけても施している。

平栫式系土器（66 ～ 123）

平栫式系土器は 154 点出土し、そのうち 58 点を資料化している。

66～ 75 は妙見式土器であるが、今回は平栫式土器とほぼ同時期の土器ということでこの分類で紹介している。66 ～ 69 は地文に貝殻条痕文を施したあと、口縁部に平行な突帯を３～４条巡らし、その突帯にキザミを施した一群である。又、70 ～ 75 は地文に細い棒状工具による沈線文を施したあと、口縁部に平行な突帯を３～４条巡らし、その突帯にキザミを施した一群である。66 ～ 75 の器形はいずれも胴部がやや張る深鉢である。

76～ 87 は平栫式土器の深鉢の口縁部片で、口唇部直下に断面三角形の突帯を巡らした一群である。いずれもラッパ状に開いた口縁部であるが、くびれた頸部まで含めて確認されているのは 76・77 のみである。口縁部の形状については平口縁(79～87)と波状口縁(76～78)いずれもみられる。施文的特徴としては、沈線文（直線や曲線）や連点文、刺突文を組み合わせた幾何学的な文様を施しており、又、ほとんどの口唇部にはキザミを施している。**88～ 96** は同じく平栫式土器の深鉢の口縁部片（口唇部が破損しているもの有り）で、口縁部に肥厚帯を巡らした一群である。いずれもラッパ状に開いた口縁部であるが、頸部が残存している 95 がその根拠となろう。口縁

部の形状については平口縁（89 ～ 91･96）と波状口縁（88）いずれもみられる。施文的特徴としては、沈線文（直線や曲線）や連点文、刺突文を組み合わせた幾何学的な文様を施しているが、なかでも肥厚帯下位には連点文を施している。**97 ～ 104･107･108･110** も同じく平栫式土器の深鉢の口縁部片である。いずれもラッパ状に開いた口縁部で、平口縁（99 ～ 104･107･108）と波状口縁（97･98･110）いずれもみられる。施文的特徴としては、先述の口縁部片とほぼ同様である。尚、**105･111** は先述の口縁部とほぼ同じ施文的特徴をもつ平栫式土器の深鉢の頸部、**106･109** は胴部である。**112 ～ 123** は平栫式土器の深鉢の胴部片で、単節縄文及び結節縄文を施した一群である。いずれもやや張った器形の胴部片であるが、頸部から胴部が残存する 112 がその根拠となろう。

塞ノ神式土器（124 ～ 208）

塞ノ神式土器は 352 点出土し、そのうち 85 点を資料化している。

124･125 は壺の口縁部片及び胴部片（口縁部付近か）である。いずれも口縁部に平行な微隆帯を巡らしているが、小破片のため全部で何条の微隆帯を巡らしているのかは定かではない。**126 ～ 131** は撚糸文系塞ノ神式土器の深鉢の口縁部片で（128 は口唇部が破損している）、いずれも頸部からラッパ状に開いている。口縁部の形状については平口縁（127･129 ～ 131）と波状口縁（126）があり、口唇部については外面にやや斜行する平坦面を作りだし、そこにヘラ状工具によるキザミを施している。施文的特徴としては、２条ないし３条１単位の沈線文を巡らしているが、いずれも頸部にはまるで胴部に施された撚糸文のスタート地点を表すかのごとくかならず１単位の沈線文を巡らしている。**132 ～ 135** は撚糸文系塞ノ神式土器の深鉢の頸部片で、先述のとおり沈線文と撚糸文を施している。**136 ～ 152** は同形式深鉢の胴部片で、間隔をおいて縦位に施した撚糸文に重ねるように横位の沈線文を施している。尚、144･146 はやや張った器形の胴部であろう。**153 ～ 174** は貝殻文系塞ノ神式土器の深鉢の口縁部で、153 ～ 155･157･162･は頸部からラッパ状に開いている（おそらく 156･158 ～ 161･163 ～ 174 もラッパ状に開いていたと推測される）。施文的特徴については、横位の貝殻刺突文を施すもの（153 ～ 159･162 ～ 174）と棒状工具によって作られた区画に貝殻刺突文を施すもの（160･161）がみられる。口縁部の形状についてはいずれも平口縁で、口唇部については平らに仕上げているもの（158）外面に斜行するような平坦面を作りだしているもの（153･156･157･162 ～ 166･168･169･174）丸く仕上げているもの（154･159 ～ 161･167･170 ～ 173）やや尖り気味に仕上げているもの（155）などがみられ、153 ～ 157･162 ～ 166･168 ～ 174 はそこに貝殻を使用してキザミを施している。**175 ～ 190** は貝殻文系塞ノ神式土器の深鉢の頸部片で、頸部から胴部にかけては棒状工具によって作られた区画に縄文を施し、頸部の稜線付近には横位の貝殻刺突文を施している。191 ～ 206 は同形式の深鉢の底部片で、横位の貝殻刺突文が施されているが、小破片のため底部の形状は不明である。

貝殻条痕文土器（209 ～ 290）

貝殻条痕文土器は 542 点出土し、そのうち 82 点を資料化している。

209 ～ 236 は口縁部が残存する一群である。口縁部の形状についてはいずれも平口縁で、口唇部については平らに仕上げているもの（209 ～ 211･213 ～ 219･222 ～ 227･230･231･236）外面に斜行するような平坦面を作りだしているもの（212･221･228･229･235）丸く仕上げているもの（220･232 ～ 234）がみられ、そこに細い棒状工具（209･210･219･221 ～ 230）及びヘラ状工具（211 ～ 218･220･231）によりキザミを施している。**237 ～ 290** は胴部片で、外面のみ貝殻条痕文を施しているもの（232･243･255 など）や内外面に貝殻条痕文を施しているもの（210･242･259 など）がみられ、器形については 262 については尖底・丸底が推測できるが、その他については底部が残存している土器片がないため詳細は不明である。

小　結

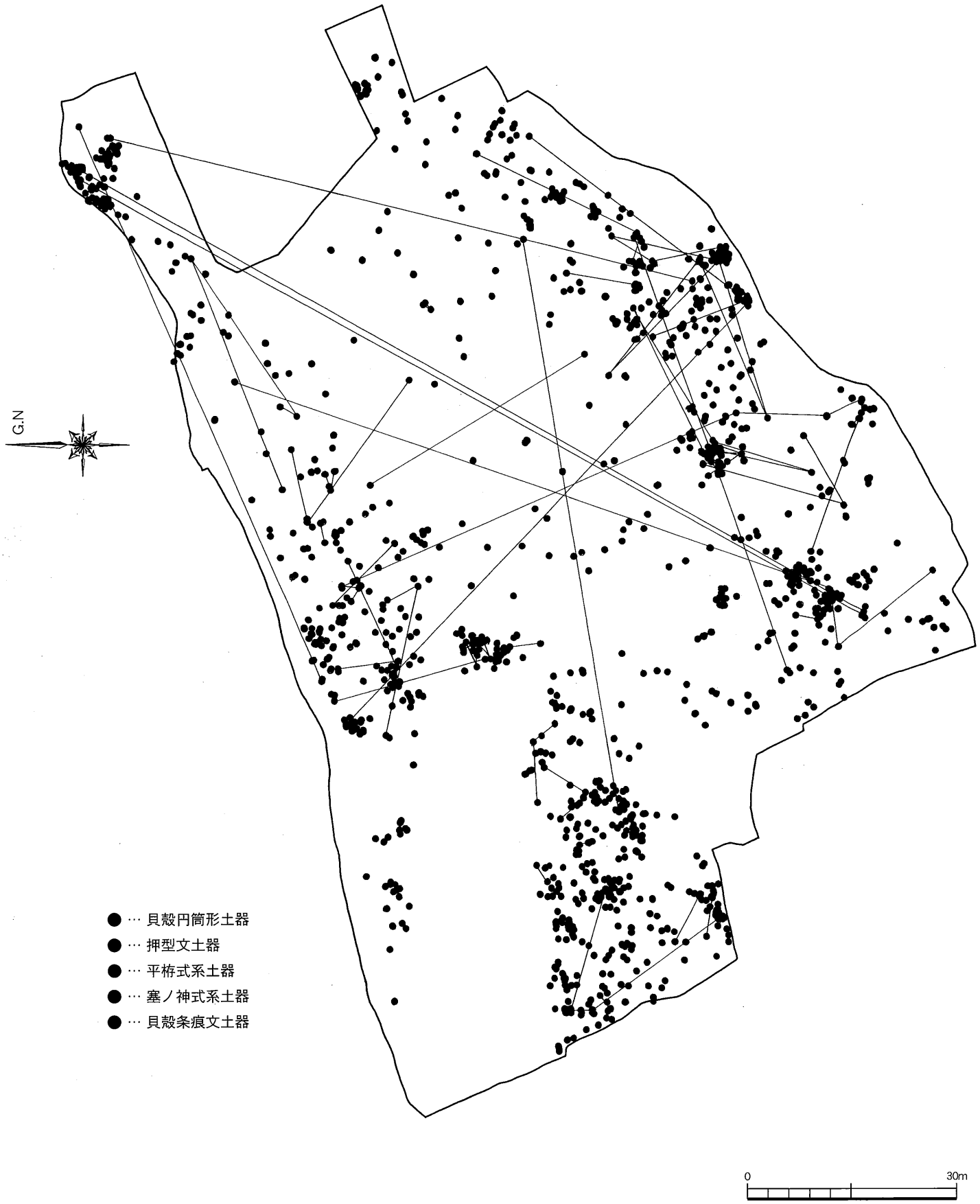
当遺跡における縄文時代早期遺物包含層出土土器の形式別出土状況は第７表のとおりである。当遺跡での出土傾向は塞ノ神式土器が 27%、貝殻条痕文土器が 42%と早期後半から末の土器群が大部分を占めており、これは他の近隣遺跡と比べるとめずらしい状況である。貝殻条痕文土器の出土数をみても、他の７遺跡での出土総数が 142 点であるのに対し、当遺跡だけで 542 点の出土と群を抜いており、早期末が当遺跡の主たる生活時期の一つであったことは間違いないであろう。又、他の遺跡ではあまり検出されていない“角礫が 0.3 ㎡～１㎡の範囲に平面的に集中するタイプの集石遺構”が、Ｖ層上位（アカホヤ火山灰層直下）において数多く検出されており、このタイプの集石遺構の一つが（坂元遺跡で検出）放射性炭素年代分析により 6470±40 年 BP 頃に使用されたことが明らかになっていることも、アカホヤ火山灰層降下直前まで当遺跡において生活が営まれていたことの有力な根拠となっている。

アカホヤ火山灰層上位に目を向けると、滑川第１遺跡と同様に貝殻条痕文土器や轟Ｂ式土器、曽畑式土器など縄文時代前期の土器が多数出土している。そのため当台地上においては、アカホヤ火山灰層下で貝殻条痕文土器が多数出土している遺跡では、縄文時代前期の土器も多数出土しているということになる。そしてこのことは、縄文時代早期から前期への変換点であるアカホヤ火山灰降下が、当遺跡群での人々の生活を完全には断絶させていない、すなわち人々は火山灰降下にかなりの影響を受けながらも細々とではあるがなんとか生活を継続させていた可能性が高いということになろう。

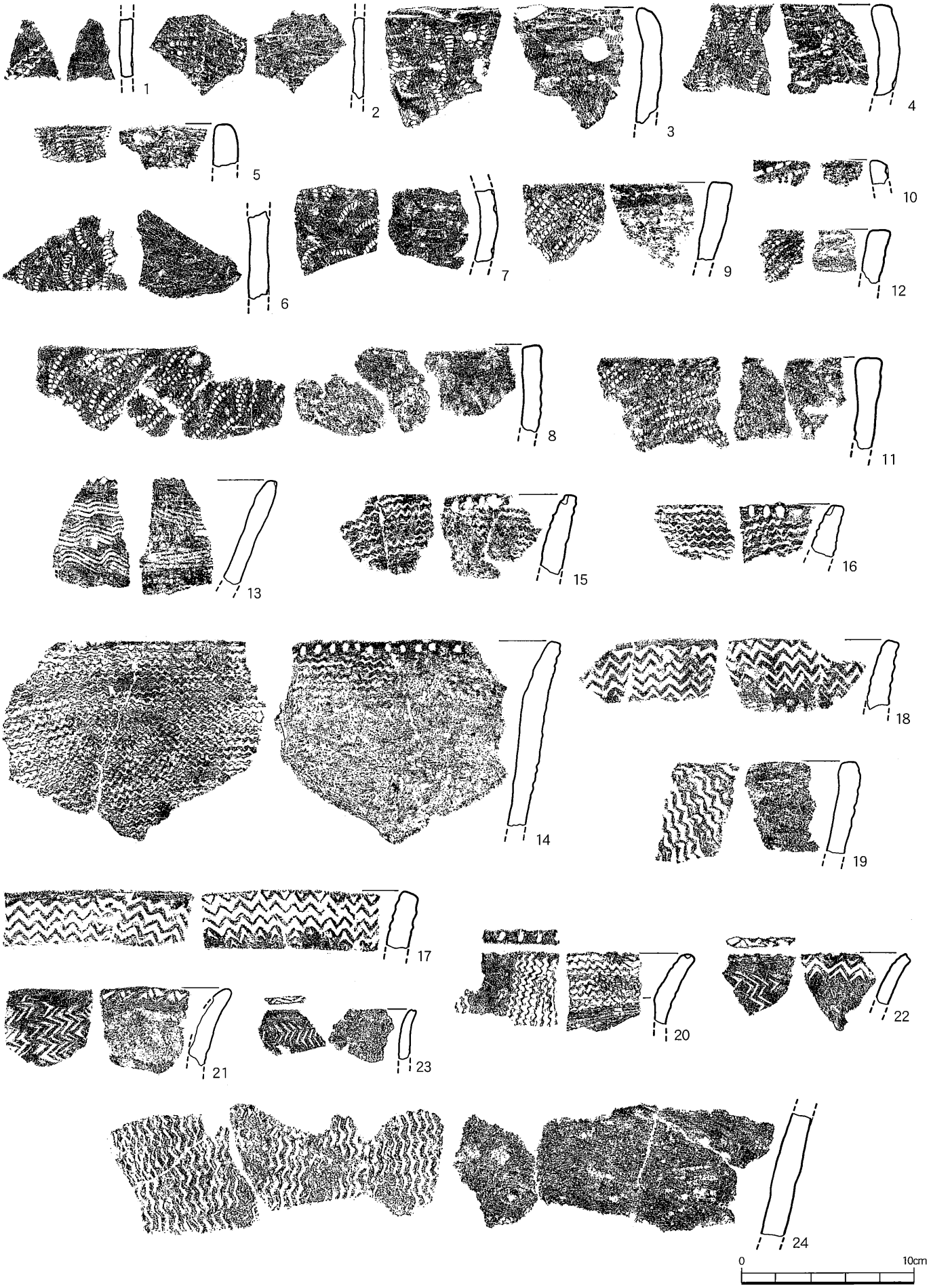
ただし、これらのアカホヤ火山灰層を挟んだ様々な考察は、まだ資料も整理作業も十分でないため、今後も他遺跡との比較検討を重ねながら、縄文時代早期末の生活の様子を解明していきたい。

第７表　滑川第２遺跡及び近隣遺跡における縄文時代早期土器の形式別割合表

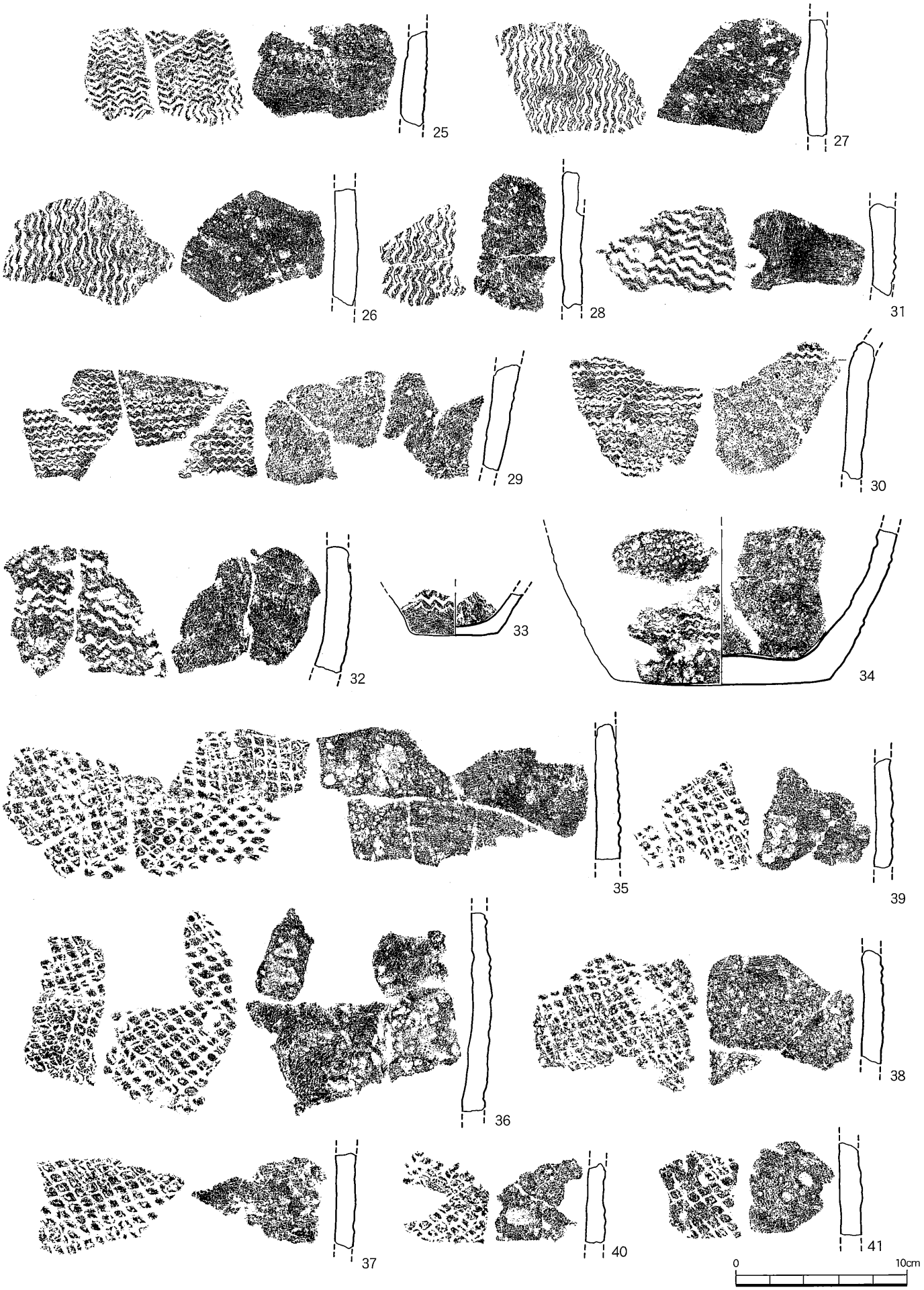
	貝殻円筒形土器		押型文土器		平栫式土器		塞ノ神式土器		貝殻条痕文土器		分類可能全土器片数
	出土数	分類可能全土器片に対する割合	出土数	分類可能全土器片に対する割合	出土数	分類可能全土器片に対する割合	出土数	分類可能全土器片に対する割合	出土数	分類可能全土器片に対する割合	
☆滑川第２遺跡	**29**	**2%**	**215**	**17%**	**154**	**12%**	**352**	**27%**	**542**	**42%**	**1292**
滑川第１遺跡	23	8%	30	10%	144	48%	32	10%	74	24%	303
白ヶ野第１遺跡	3	8%	9	23%	23	59%	4	10%	0	0%	39
白ヶ野第４遺跡	23	35%	14	21%	3	5%	18	27%	8	12%	66
坂元遺跡（Ｂ区）	88	22%	210	53%	0	0%	100	25%	0	0%	398
坂元遺跡（Ｅ区）	192	64%	52	17%	2	1%	55	18%	0	0%	301
山田第１遺跡	146	4%	607	17%	194	6%	2496	72%	41	1%	3484
山田第２遺跡	379	62%	15	2%	15	2%	187	30%	19	3%	615
各分類合計出土数	883		1152		535		3244		684		



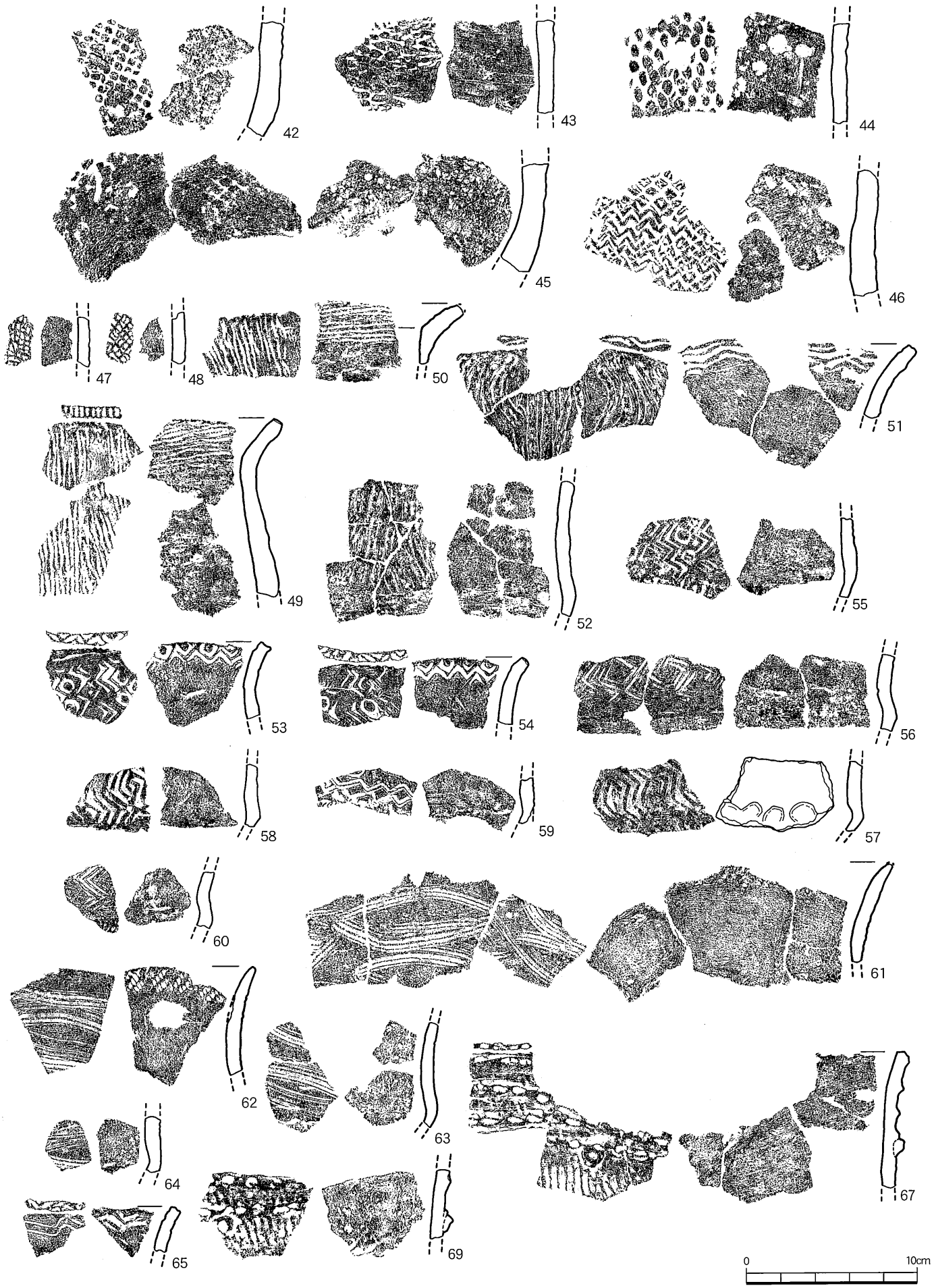
第 39 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図（S=1/750）



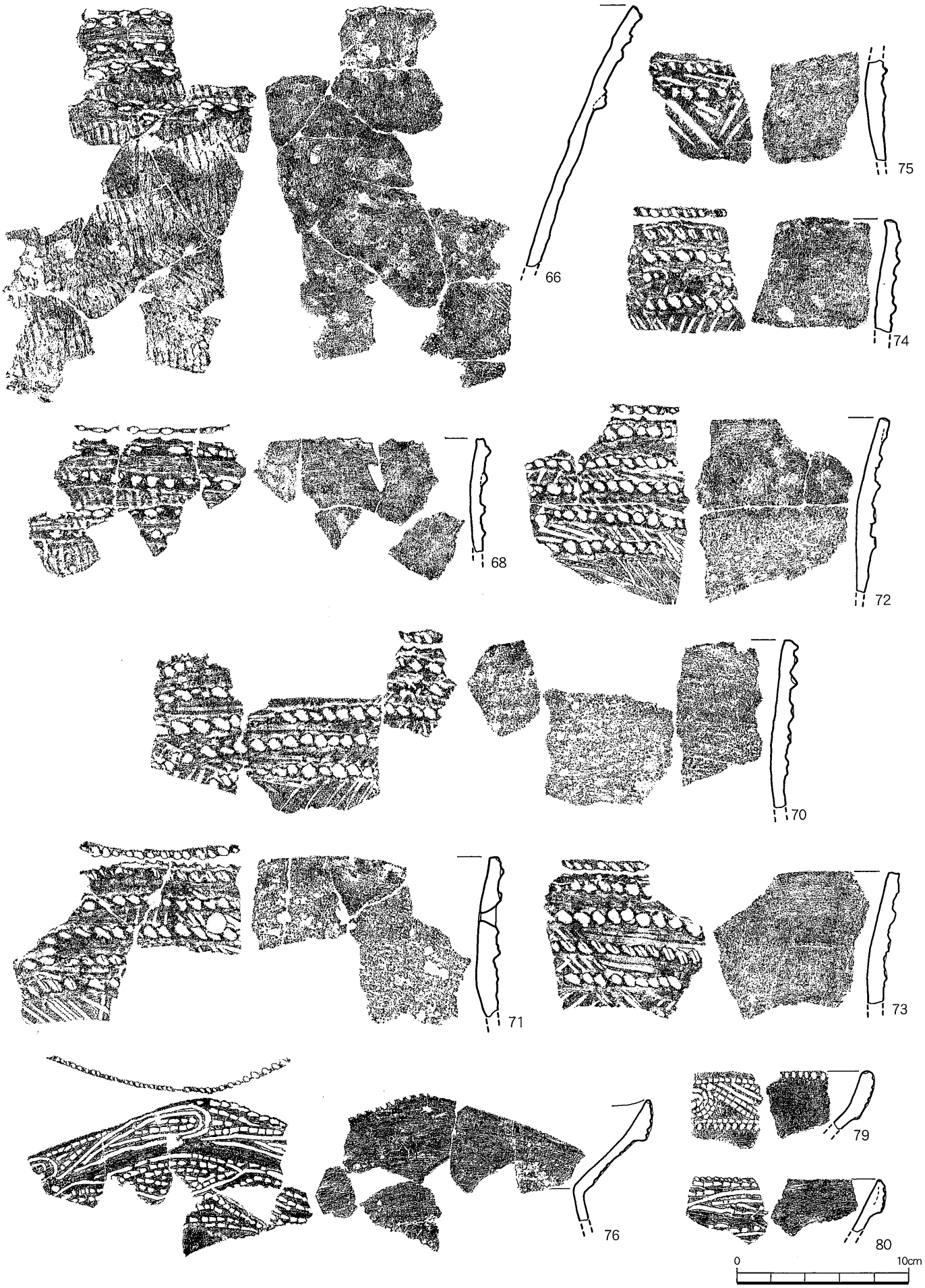
第 40 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①(S=1/3)



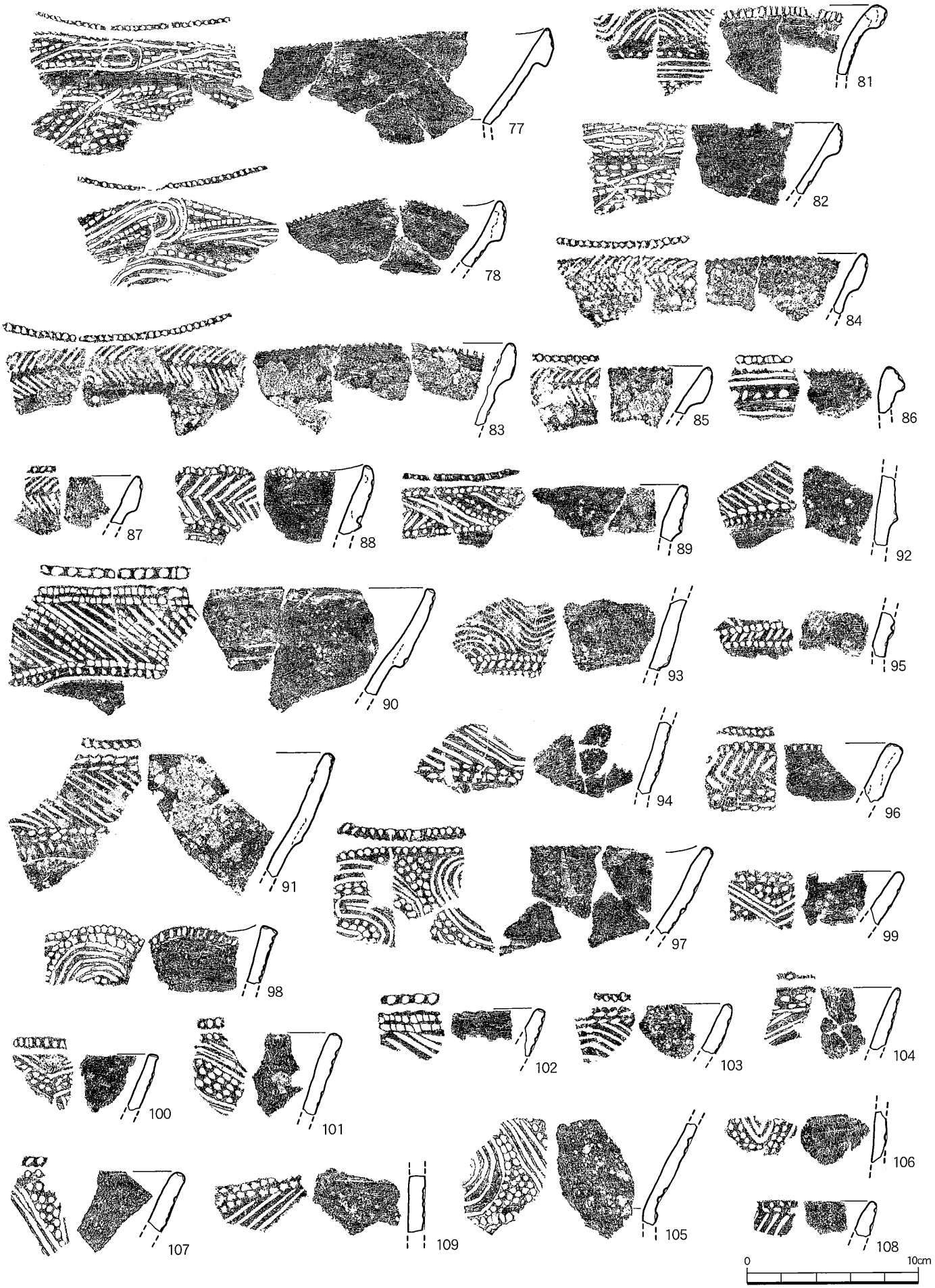
第 41 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②(S=1/3)



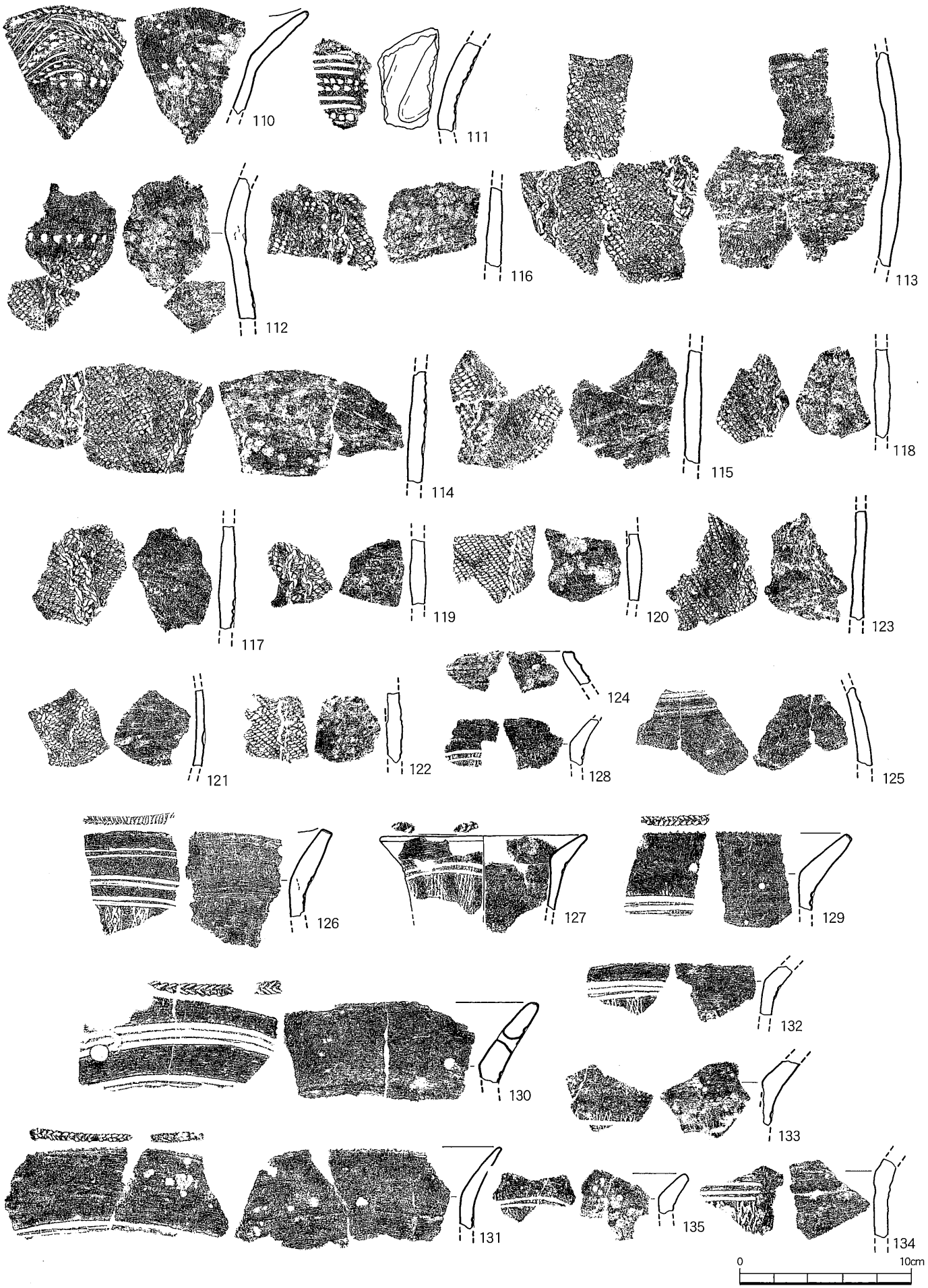
第 42 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③(S=1/3)



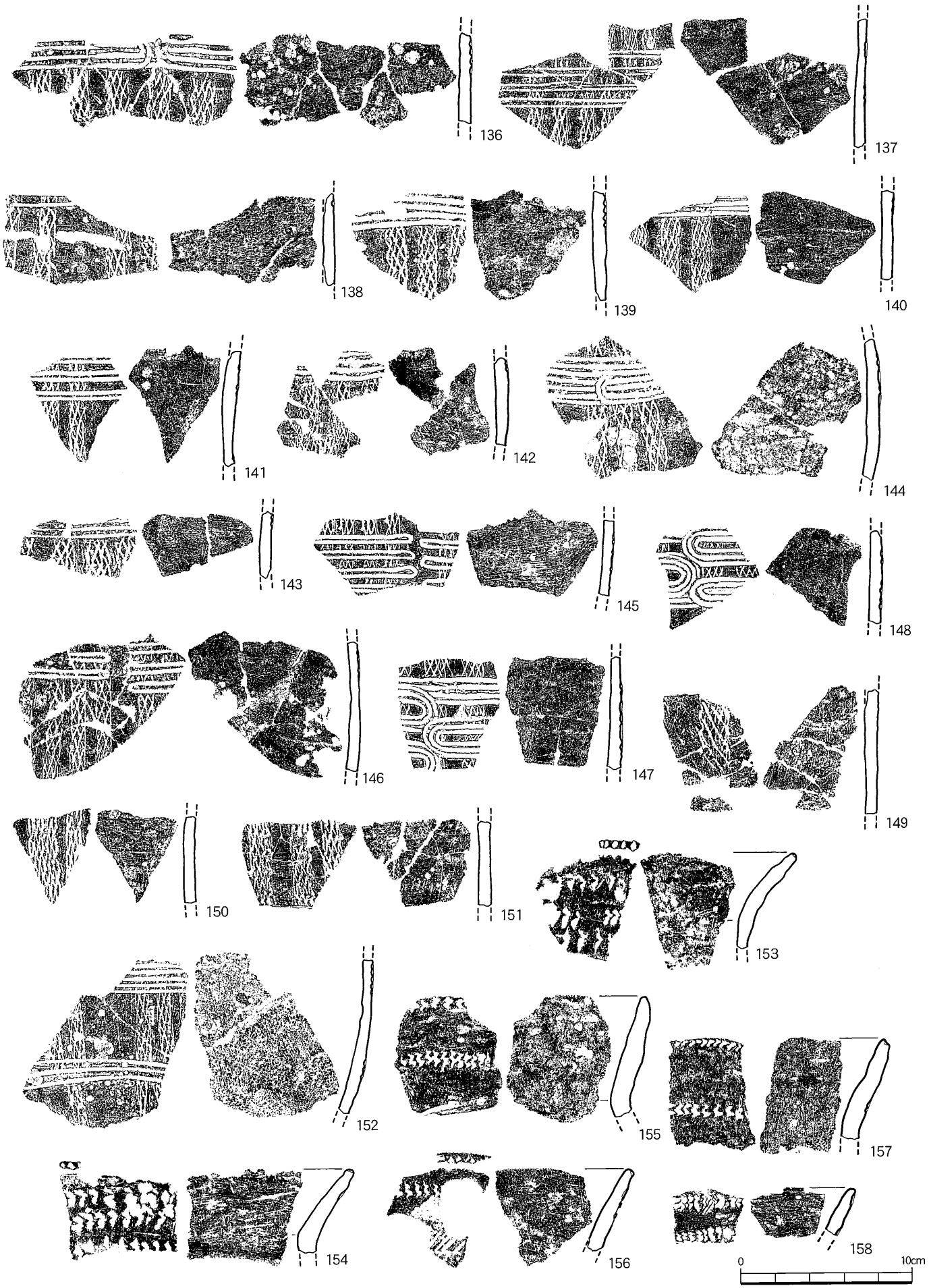
第 43 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図④(S=1/3)



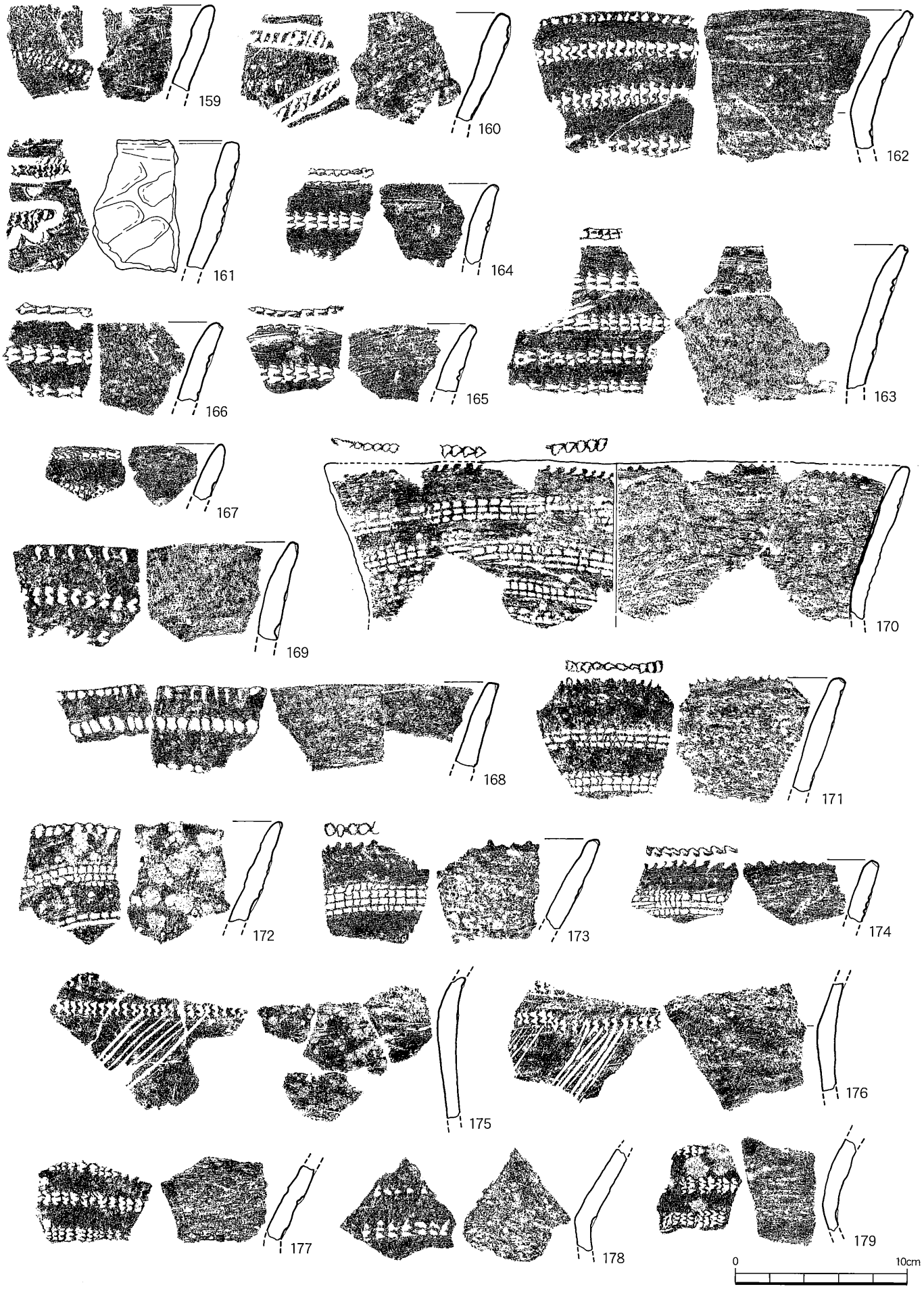
第 44 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑤(S=1/3)



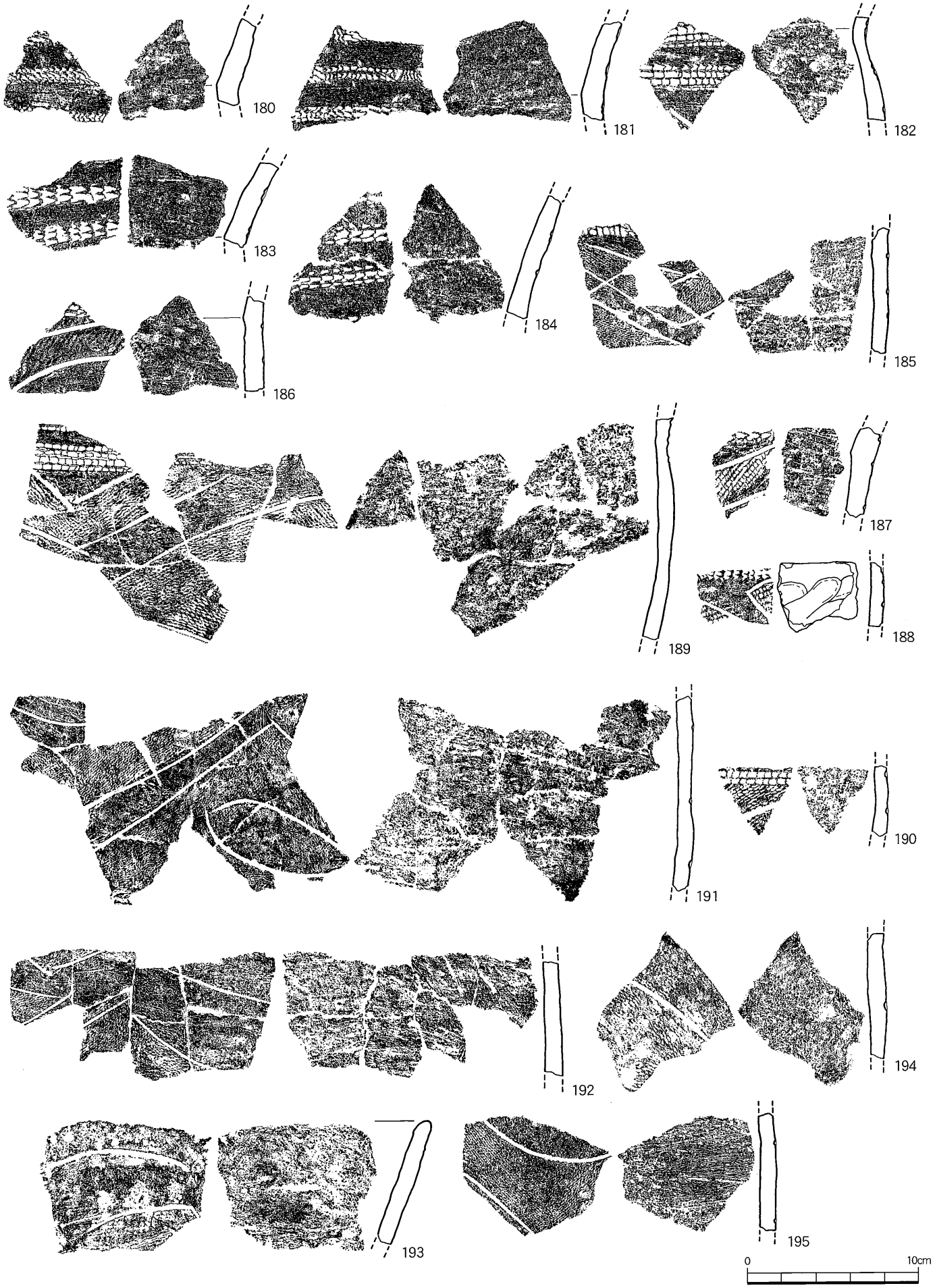
第 45 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑥(S=1/3)



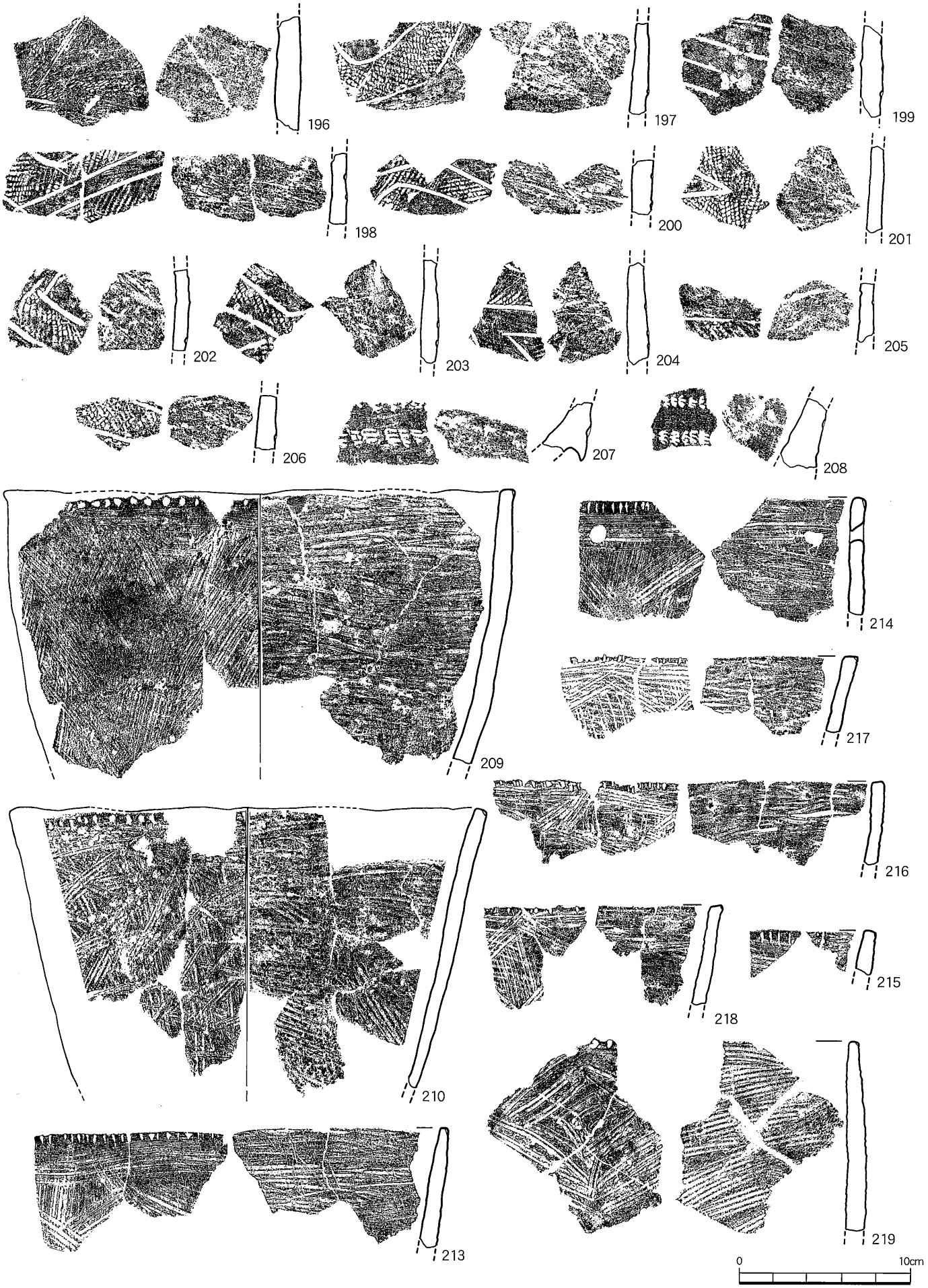
第 46 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑦(S=1/3)



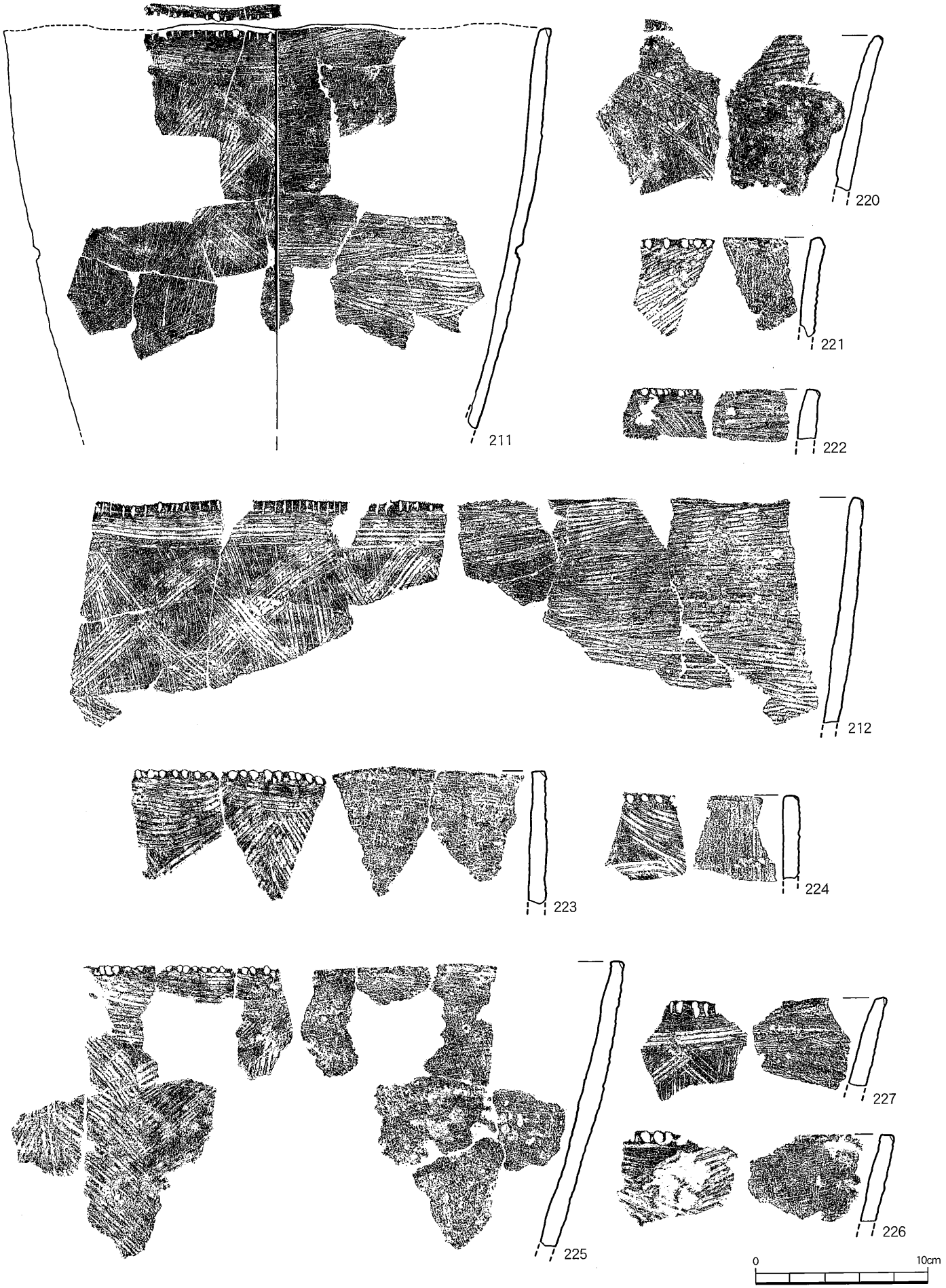
第 47 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑧(S=1/3)



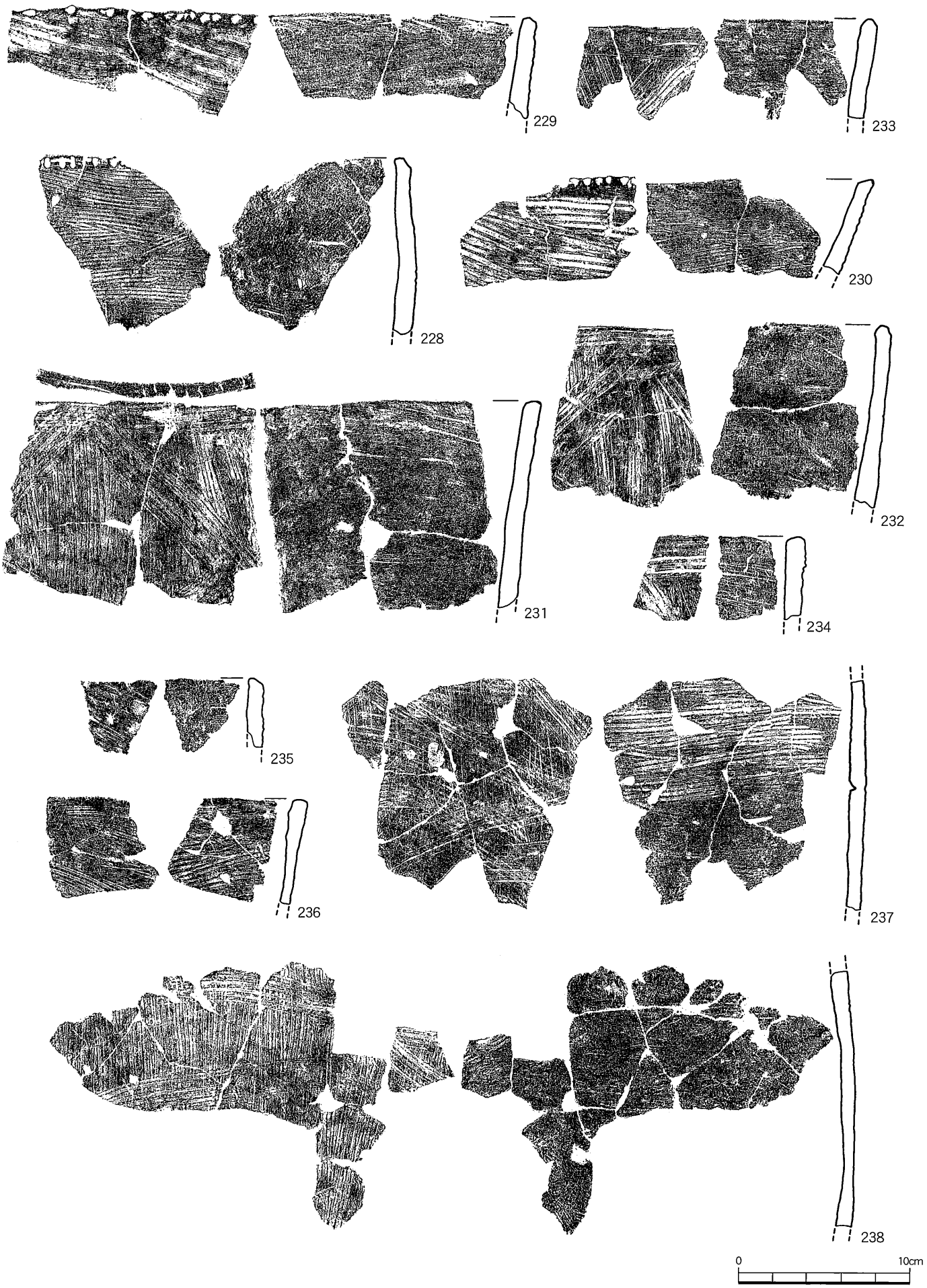
第48図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑨(S=1/3)



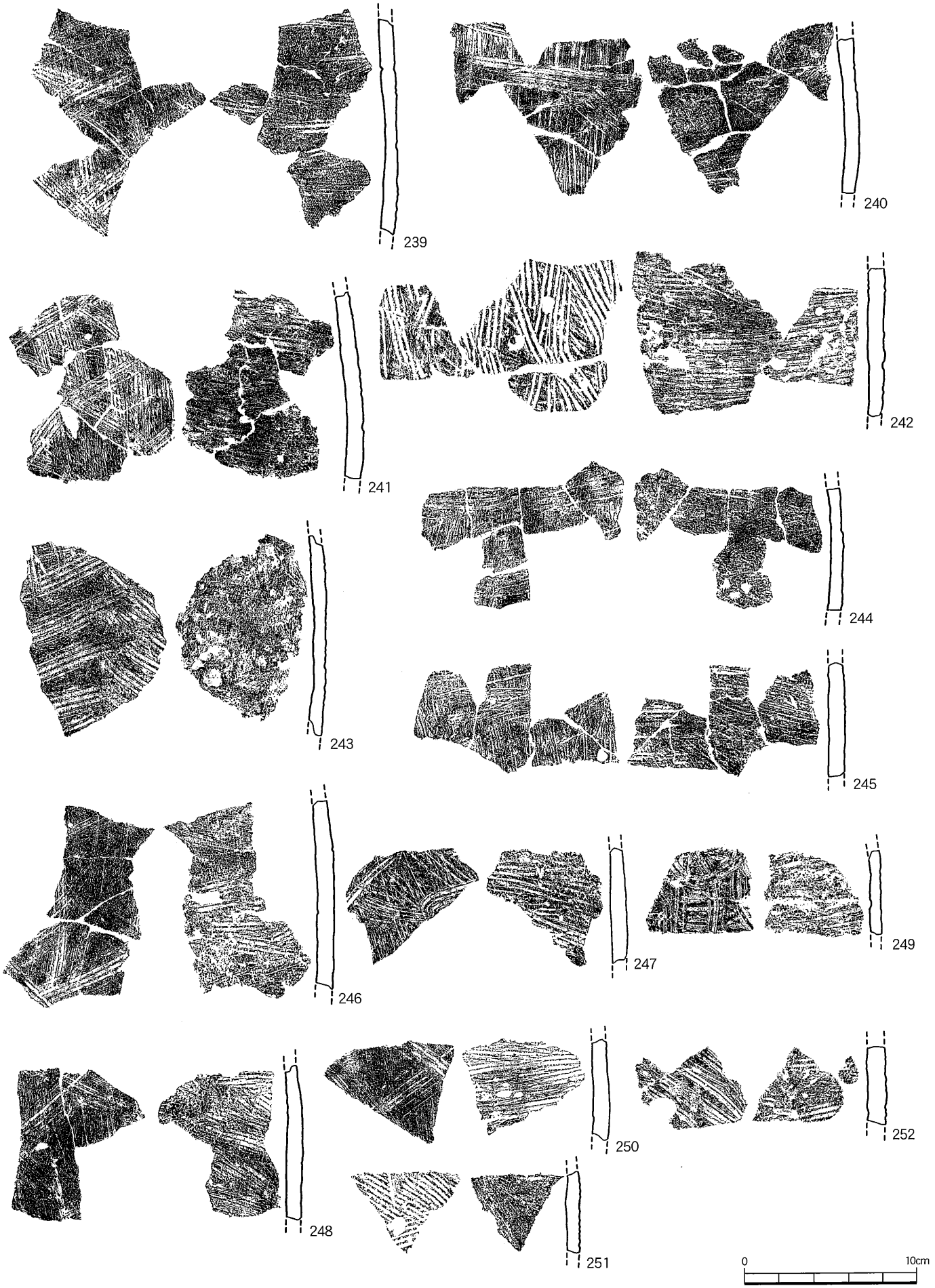
第 49 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑩(S=1/3)



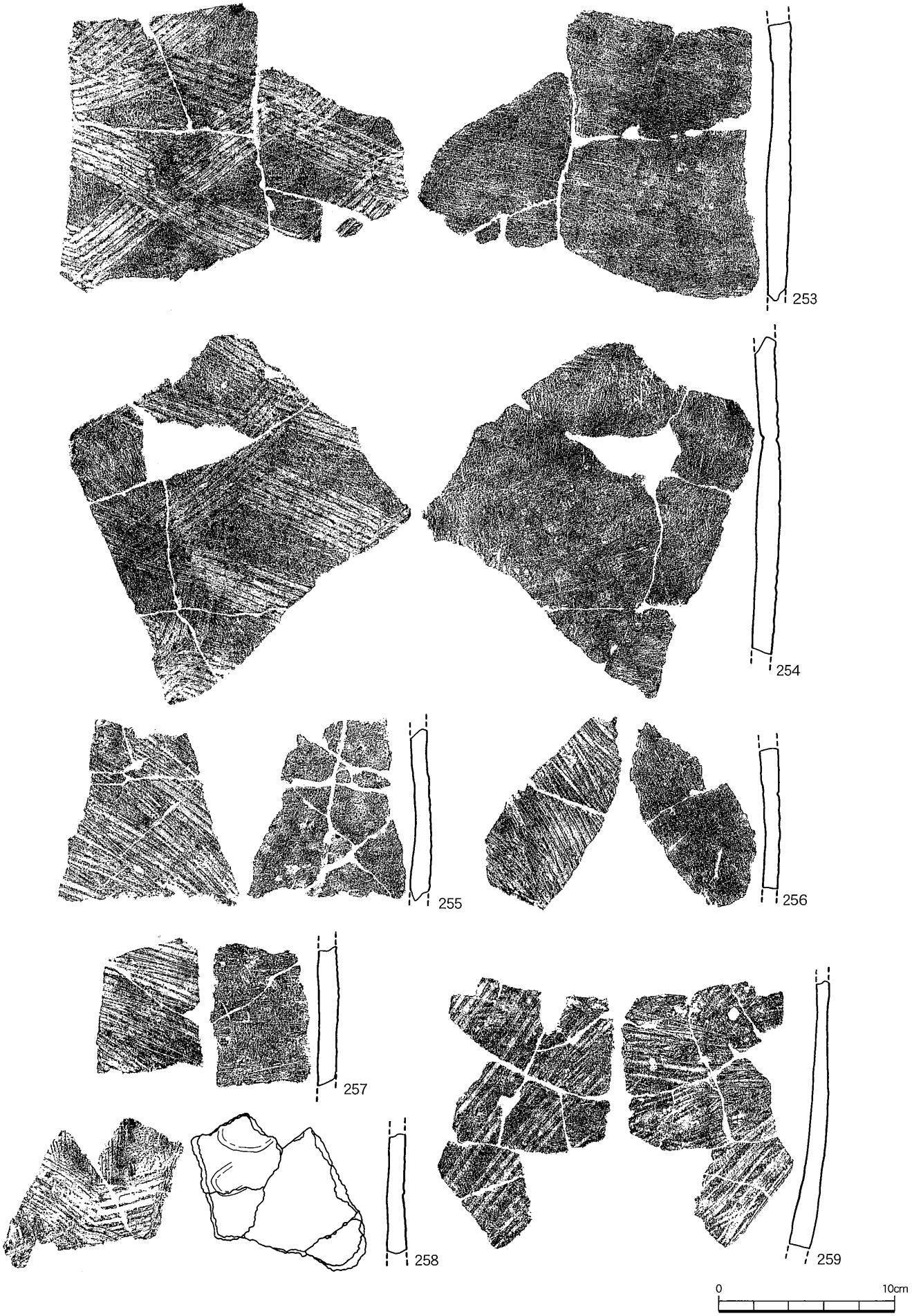
第 50 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑪(S=1/3)



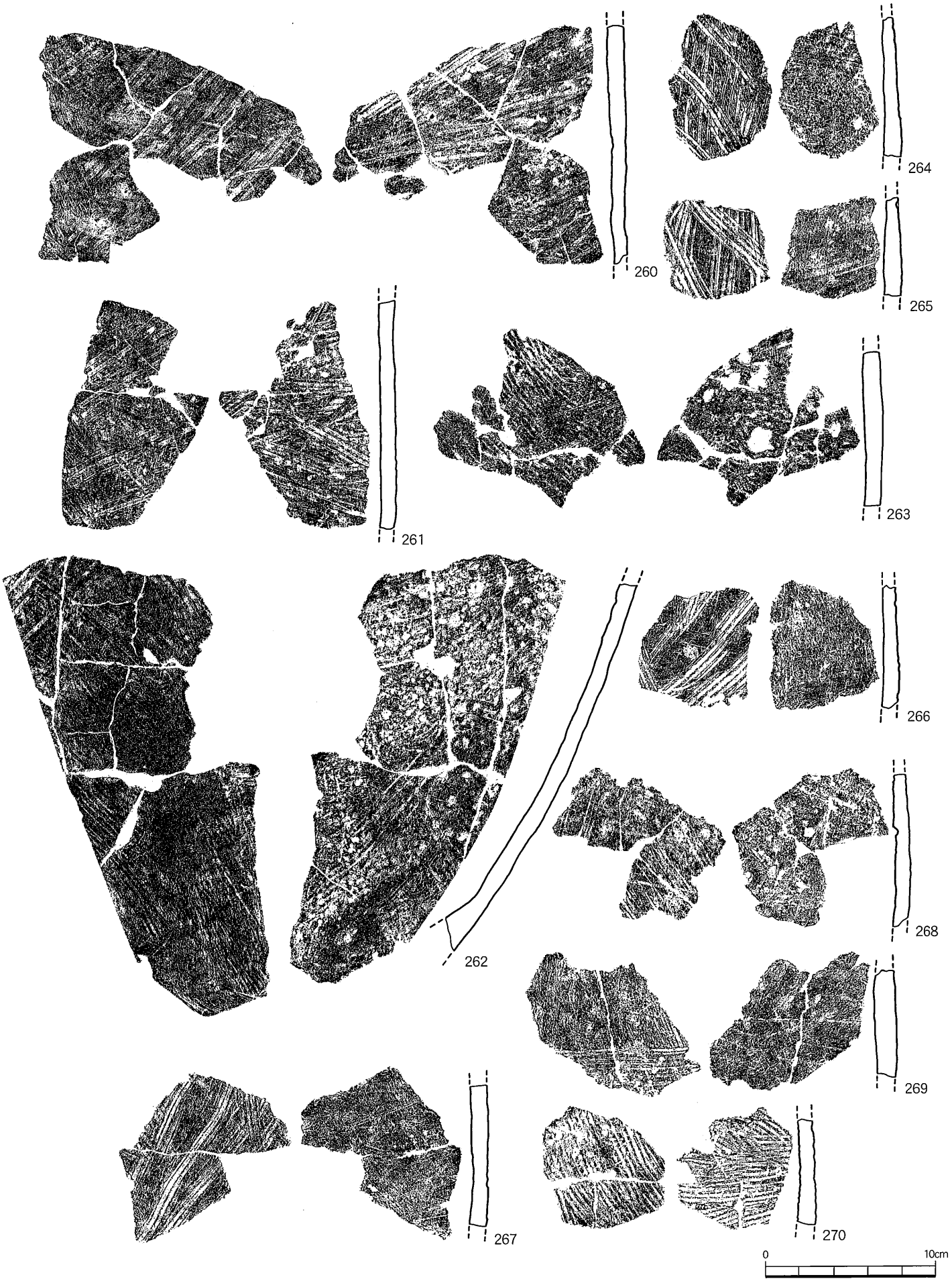
第 51 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑫(S=1/3)



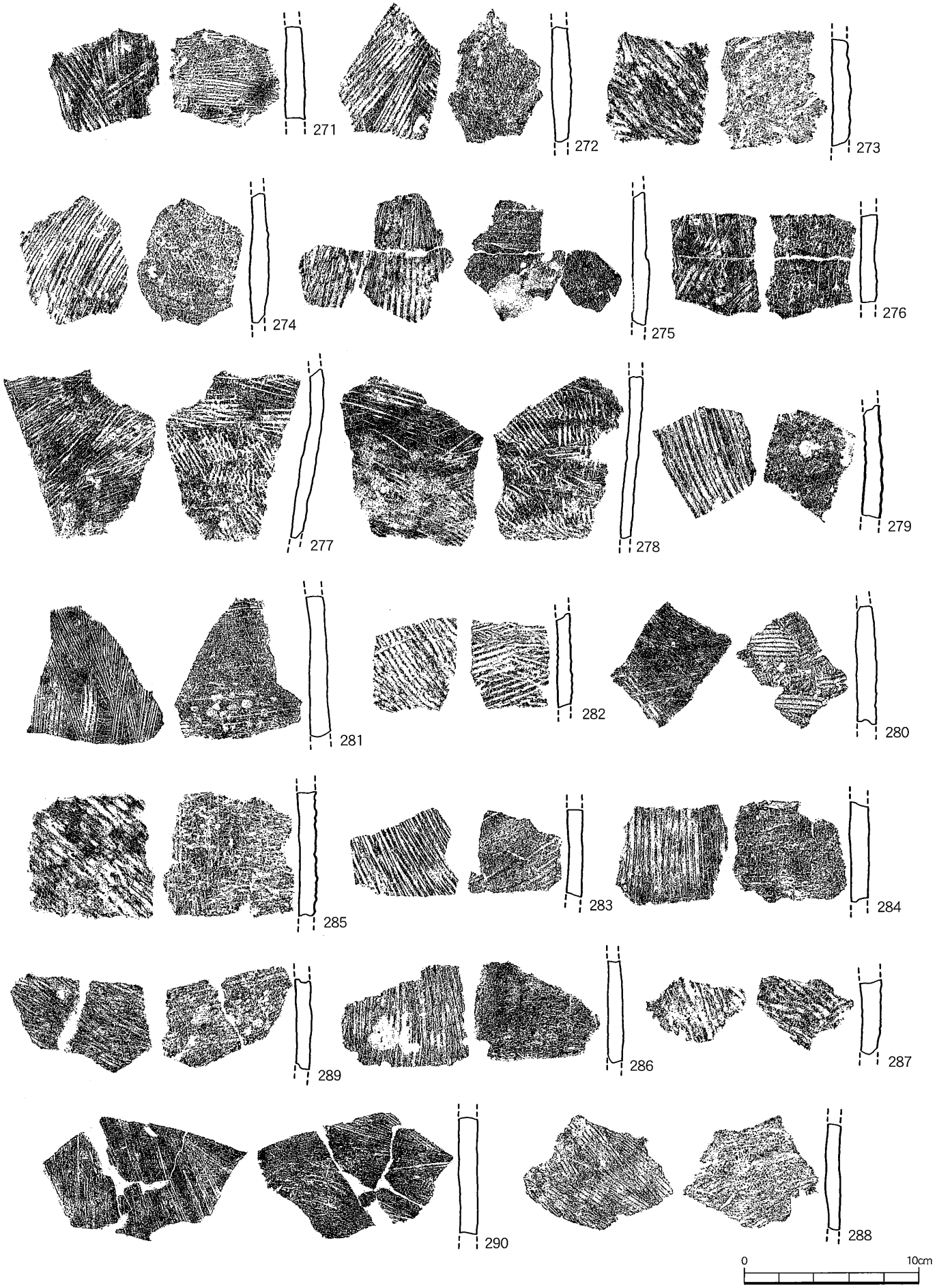
第 52 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑬(S=1/3)



第 53 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑭(S=1/3)



第 54 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑮(S=1/3)



第 55 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図⑯(S=1/3)

第８表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表

No.	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
1	－	鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1.5mm 以下	
2	－	鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1mm 以下	
3	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2mm 以下	
4	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）					○	○2.5mm 以下	
5	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	2.5Y6/3（にぶ黄）	10YR6/4（にぶい黄橙）						○5mm 以下	
6	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	2.5Y6/3（にぶ黄）	○					○3mm 以下	
7	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）						○2mm 以下	
8	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1.5mm 以下	
9	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○2mm 以下	
10	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/1（褐灰）	7.5YR4/1（褐灰）	○	○				○1.5mm 以下	スス付着
11	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○5mm 以下	
12	－	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○2mm 以下	
13	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	貝殻刺突文	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○5mm 以下	
14	Ⅵ層	鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文　ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○8mm 以下	スス付着 口唇部内面に刺突文を施している
15	Ⅵ層	鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文 刺突文	2.5Y7/1（灰白）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4mm 以下	
16	Ⅴ層	鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文 刺突文	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○			○	○3mm 以下	
17	Ⅵ層	鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文	2.5Y6/3（にぶ黄）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○5mm 以下	
18	Ⅵ層	鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○1.5mm 以下	
19	Ⅵ層	鉢	口縁部	山形押型文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○3mm 以下	
20	Ⅵ層	鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文	7.5YR4/3（褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○				○2mm 以下	口唇部に刺突文を施している
21	Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	山形押型文	山形押型文　ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2mm 以下	
22	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	山形押型文	山形押型文　ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm 以下	口唇部に短沈線文を施している
23	Ⅴ層	鉢	口縁部	菱形文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm 以下	口唇部に短沈線文を施している
24	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）			○			○3mm 以下	
25	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○				○3mm 以下	
26	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○	○			○4mm 以下	
27	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○	○			○5mm 以下	
28	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○	○			○3mm 以下	
29	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4mm 以下	
30	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	山形押型文　ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○6mm 以下	
31	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○2mm 以下	
32	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○4mm 以下	
33	Ⅴ層	鉢	胴～底部	山形押型文　ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○	○			○3mm 以下	
34	Ⅵ層	鉢	胴～底部	山形押型文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○5mm 以下	
35	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○7mm 以下	
36	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4.5mm 以下	
37	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○2mm 以下	
38	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○7mm 以下	
39	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○3mm 以下	
40	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm 以下	
41	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○5mm 以下	
42	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4mm 以下	
43	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○3mm 以下	炭化物有
44	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2mm 以下	
45	Ⅵ層	鉢	胴部	楕円押型文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm 以下	
46	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文 楕円押型文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○3mm 以下	
47	Ⅴ層	鉢	胴部	格子目押型文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○3mm 以下	
48	Ⅴ層	鉢	胴部	格子目押型文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）		○				○5mm 以下	
49	Ⅵ層	鉢	口縁～頸～胴部	撚糸文	ナデ　撚糸文	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR4/2（赤灰）	○	○	○			○3mm 以下	口唇部にキザミを施している
50	Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	撚糸文	ナデ　撚糸文	10YR4/2（灰黄褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○	○			○3mm 以下	
51	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	ミミズばれ文 ナデ	山形押型文　ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○5mm 以下	口唇部に沈線文を施している
52	Ⅵ層	鉢	胴部	ミミズばれ文 ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○5mm 以下	
53	Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	菱形･山形押型文	菱形･山形押型文 ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm 以下	スス付着 口唇部に菱形･山形押型文を施している
54	Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	菱形文	菱形文　ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○			○	○2mm 以下	口唇部に短沈線文を施している
55	Ⅵ層	鉢	胴部	菱形･山形押型文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4mm 以下	
56	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	頸部	菱形文　ナデ	ナデ	7.5YR4/3（褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○3mm 以下	スス付着
57	Ⅵ層	鉢	胴部	山形押型文　ナデ 指押さえ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○5mm 以下	

No.	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
58	Ⅴ層	鉢	胴部	山形押型文　ナデ	ナデ	2.5Y5/1（黄灰）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○4mm以下	スス付着
59	Ⅴ層	鉢	胴部	菱形文　ナデ	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○4mm以下	
60	Ⅴ層	鉢	胴部	山形押型文　ナデ	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○			○	○3mm以下	スス付着
61	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文　ナデ	ナデ　貝殻刺突文	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○5mm以下	スス付着
62	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文　ナデ	ナデ　貝殻刺突文	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR8/1（灰白）	○	○			○	○4mm以下	
63	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文　ナデ	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○4mm以下	
64	Ⅵ層	鉢	胴部	貝殻条痕文　ナデ	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y6/3（にぶ黄）	○	○				○4mm以下	
65	Ⅵ層	鉢	口縁部	沈線文　ナデ	山形押型文　ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○			○	○4mm以下	口唇部に短沈線文を施している
66	―	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○				○9mm以下	口唇部にキザミを施している
67	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○6mm以下	口唇部にキザミを施している
68	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○4mm以下	口唇部にキザミを施している
69	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3mm以下	スス付着
70	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	沈線文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○			○	○5mm以下	スス付着 口唇部にキザミを施している
71	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	沈線文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	2.5Y4/2（暗灰黄）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○5mm以下	口唇部にキザミを施している 穿孔有
72	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	沈線文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○5mm以下	口唇部にキザミを施している
73	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	沈線文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3mm以下	口唇部にキザミを施している
74	Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	沈線文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○5mm以下	口唇部にキザミを施している
75	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文 貼付突帯（刺突連点文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○6mm以下	
76	Ⅴ層	深鉢	口縁～頸部	沈線文　刺突文 肥厚帯（沈線文　刺突文）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミを施している 隆起部に波状口縁
77	Ⅴ層	深鉢	口縁～頸部	沈線文　刺突文 肥厚帯（沈線文　刺突文）	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミを施している 隆起部に波状口縁
78	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文　刺突文 肥厚帯（沈線文　刺突文）	ナデ	2.5YR5/1（赤灰）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○3mm以下	口唇部にキザミを施している 隆起部に波状口縁
79	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文　連続刻目）	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している
80	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している 波状口縁か？
81	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/3（にぶい黄褐）						○2mm以下	口唇部にキザミを施している
82	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○3mm以下	波状口縁か？
83	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	口縁部	沈線文（羽状文） 肥厚帯（沈線文《羽状文》）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2.5mm以下	口唇部内面にキザミを施している
84	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文《羽状文》）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○3mm以下	口唇部にキザミを施している
85	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文《羽状文》）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm以下	口唇部にキザミを施している
86	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）			○			○3mm以下	口唇部にキザミを施している
87	Ⅵ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文《羽状文》）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○2mm以下	
88	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○1mm以下	口唇部にキザミを施している 波状口縁
89	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	2.5Y5/3（黄褐）	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミを施している
90	Ⅵ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している
91	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミを施している
92	Ⅴ層	深鉢	胴部	肥厚帯 （沈線文　刺突文　連続刻目）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○1mm以下	
93	Ⅵ層	深鉢	胴部	肥厚帯 （沈線文　刺突文　連続刻目）	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○		○			○2mm以下	
94	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	胴部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）			○			○2.5mm以下	
95	Ⅵ層	深鉢	頸部？	肥厚帯 （刺突文　連続刻目）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1.5mm以下	
96	Ⅴ層	深鉢	口縁部	肥厚帯 （沈線文　刺突文）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○2mm以下	口唇部に連続刺突文 内面外面キザミを施している
97	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミを施している
98	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○4mm以下	口唇部にキザミを施している
99	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○4mm以下	
100	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○2mm以下	口唇部にキザミを施している
101	Ⅵ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	7.5YR4/1（褐灰）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○3mm以下	スス付着 口唇部にキザミを施している
102	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1mm以下	
103	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	2.5Y5/2（灰赤）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○1mm以下	
104	Ⅵ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○	○			○2mm以下	口唇部にキザミを施している
105	Ⅴ層	深鉢	頸部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○3mm以下	
106	Ⅴ層	深鉢	胴部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/2（灰黄褐）	○	○				○1mm以下	
107	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○4mm以下	口唇部にキザミを施している
108	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○3mm以下	
109	Ⅴ層	深鉢	胴部	沈線文 刺突文（連点文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○3mm以下	
110	Ⅴ層	深鉢	口縁部	沈線文　刺突文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1.5mm以下	波状口縁
111	Ⅴ層	深鉢	頸部	沈線文　刺突文	ナデ　指押さえ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○		○			○2mm以下	
112	Ⅴ層	深鉢	頸部	縄文 貼付突帯（刺突文）	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）			○			○3mm以下	
113	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○	○			○3mm以下	
114	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○	○			○2mm以下	
115	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）			○			○2.5mm以下	

No.	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
116	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR7/1（明褐灰）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○		○			○2mm以下	
117	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○		○			○2mm以下	
118	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○	○			○3mm以下	
119	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○		○			○3mm以下	
120	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2mm以下	
121	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○1.5mm以下	
122	Ⅵ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm以下	
123	Ⅴ層	深鉢	胴部	縄文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○2mm以下	
124	Ⅴ層	壺	口縁部	微隆帯	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○2mm以下	
125	Ⅴ層	壺	胴部	微隆帯（キザミ）ナデ	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○	○			○1mm以下	
126	Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	撚糸文　沈線文 ナデ	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○	○			○2mm以下	口唇部にキザミを施している
127	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	撚糸文　沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR4/3（褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○			○	○2mm以下	口唇部にキザミを施している
128	Ⅴ層	鉢	口縁～頸部	撚糸文　沈線文 ナデ	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○			○	○1.5mm以下	
129	Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	撚糸文　沈線文 ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○1mm以下	口唇部にキザミを施している
130	Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	沈線文　ナデ 穿孔	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○			○	○1.5mm以下	口唇部にキザミを施している
131	Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	沈線文　ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○2mm以下	口唇部にキザミを施している
132	Ⅵ層	鉢	頸部	撚糸文　沈線文 ナデ	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○			○	○1.5mm以下	
133	Ⅵ層	鉢	頸部	撚糸文　沈線文 ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	2.5Y6/3（にぶ黄）	○	○				○1mm以下	
134	Ⅴ層	鉢	頸部	撚糸文　沈線文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2mm以下	
135	Ⅴ層	鉢	口縁～頸部	撚糸文　沈線文 ナデ	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○			○	○1.5mm以下	
136	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR4/3（褐）	○	○			○	○2mm以下	
137	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○1mm以下	
138	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○3mm以下	
139	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	5YR7/2（明褐灰）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1.5mm以下	
140	Ⅵ層	鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○1.5mm以下	
141	Ⅴ層	鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○1.5mm以下	
142	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○				○1.5mm以下	
143	Ⅵ層	鉢	胴部	撚糸文　沈線文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○1mm以下	
144	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○			○	○2mm以下	
145	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○1.5mm以下	
146	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○1.5mm以下	
147	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○	○			○3mm以下	
148	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○		○			○2mm以下	
149	Ⅵ層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○2mm以下	
150	Ⅵ層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○			○	○1.5mm以下	スス付着
151	Ⅴ層	鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR3/1（黒褐）	5YR4/2（灰褐）	○	○				○2mm以下	
152	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　撚糸文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○				○2mm以下	
153	Ⅴ層	鉢	口縁～頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○2mm以下	口唇部にキザミを施している
154	Ⅴ層	鉢	口縁～頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	2.5Y6/3（にぶ黄）	○	○			○	○5mm以下	口唇部にキザミを施している
155	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3mm以下	
156	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文 貝殻条痕文（?）	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○2mm以下	
157	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3mm以下	
158	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○4mm以下	
159	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○3mm以下	
160	—	鉢	口縁部	貝殻刺突文　沈線文	ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○4mm以下	
161	—	鉢	口縁部	貝殻刺突文　沈線文	指押さえ　ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○3mm以下	
162	Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○5mm以下	口唇部に貝殻復縁によるキザミを施している
163	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○2mm以下	口唇部に貝殻復縁によるキザミを施している
164	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○5mm以下	
165	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2mm以下	
166	—	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○5mm以下	
167	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	2.5Y5/2（暗灰黄）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4mm以下	
168	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文（?）	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○7mm以下	
169	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻刺突文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○3mm以下	
170	Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	貝殻押引文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○3mm以下	口唇部に貝殻復縁によるキザミを施している
171	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻押引文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○3mm以下	口唇部に貝殻復縁によるキザミを施している
172	—	鉢	口縁部	貝殻押引文 貝殻刺突文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○2.5mm以下	内面剥離著しい 口唇部に貝殻復縁によるキザミを施している
173	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻押引文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○1.5mm以下	内面剥離著しい 口唇部に貝殻復縁によるキザミを施している

No.	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
174	Ⅵ層	鉢	口縁部	貝殻押引文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○2mm以下	口唇部に貝殻復縁によるキザミを施している
175	Ⅵ層	鉢	頸～胴部	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○3mm以下	
176	Ⅴ層	鉢	頸～胴部	貝殻刺突文 貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/4（にぶい黄橙）	○	○				○3mm以下	
177	Ⅵ層	鉢	口縁～頸部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○2mm以下	
178	Ⅵ層	鉢	頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm以下	
179	Ⅴ層	鉢	頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm以下	
180	Ⅴ層	鉢	頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○				○6mm以下	
181	Ⅴ層	鉢	頸部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm以下	
182	Ⅵ層	鉢	頸部	貝殻押引文 沈線文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○			○	○2mm以下	
183	Ⅴ層	鉢	口縁～頸部	貝殻押引文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○1mm以下	
184	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○5mm以下	
185	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻刺突文 沈線文　縄文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2mm以下	
186	Ⅵ層	鉢	頸～胴部	沈線文　縄文 貝殻刺突文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○9mm以下	
187	Ⅵ層	鉢	胴部	貝殻刺突文 沈線文　縄文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○7mm以下	
188	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻刺突文 沈線文　縄文	指押さえ　ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm以下	
189	Ⅵ層	鉢	頸～胴部	貝殻刺突文 沈線文　縄文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○4mm以下	
190	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻刺突文 沈線文　縄文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○2mm以下	
191	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○6mm以下	
192	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○5mm以下	
193	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文 縄文　ナデ	ナデ	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○7mm以下	
194	—	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○2mm以下	
195	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3mm以下	
196	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○3mm以下	
197	Ⅴ.Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）			○			○3mm以下	
198	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4mm以下	
199	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3mm以下	
200	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm以下	
201	Ⅵ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○	○			○3mm以下	
202	—	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○2mm以下	
203	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	7.5YR6/3（にぶい褐）	○	○				○4mm以下	
204	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○6mm以下	
205	Ⅴ層	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/2（灰黄褐）			○			○3mm以下	
206	—	鉢	胴部	沈線文　縄文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○	○			○2mm以下	
207	Ⅵ層	鉢	底部	貝殻刺突文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）	○	○	○			○4mm以下	
208	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/2（灰褐）	○	○	○			○5mm以下	
209	Ⅴ.Ⅵ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm以下	口縁部外面（口唇部直下）にキザミを施している
210	Ⅴ層	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○	○			○3mm以下	口縁部外面（口唇部直下）にキザミを施している
211	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○				○	○3mm以下	口唇部にキザミを施している
212	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR3/1（黒褐）	7.5YR4/1（褐灰）	○	○			○	○2mm以下	口唇部にキザミを施している
213	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR3/1（黒褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している
214	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR4/1（褐灰）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している 穿孔有
215	—	鉢	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR3/1（黒褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している
216	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○				○3mm以下	口唇部にキザミを施している
217	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○5mm以下	口唇部にキザミを施している
218	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	2.5Y4/1（黄灰）	2.5Y4/1（黄灰）	○	○				○3mm以下	口唇部にキザミを施している
219	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR4/2（灰褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○2mm以下	スス付着
220	—	深鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR4/3（にぶい赤褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○	○			○3mm以下	口縁部外面（口唇部直下）にキザミを施している
221	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm以下	口唇部にキザミを施している
222	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	2.5Y5/2（暗灰黄）	○	○				○5mm以下	口唇部にキザミを施している
223	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○6mm以下	口唇部にキザミを施している
224	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している
225	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○4mm以下	口唇部にキザミを施している
226	Ⅵ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2mm以下	口唇部にキザミを施している
227	—	鉢	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/3（褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○2mm以下	スス付着 口唇部にキザミを施している
228	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR4/2（灰黄褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○				○1mm以下	口唇部にキザミを施している
229	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○8mm以下	口唇部にキザミを施している
230	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	2.5Y4/2（暗灰黄）	○	○				○2mm以下	スス付着 口唇部にキザミを施している
231	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○5mm以下	スス付着 口唇部にキザミを施している

No.	出土層位	器種	残存部位	文様及び調整		色調		胎土						備考
				外面	内面	外面	内面	石英	長石	キンウンモ	クロウンモ	角閃石	砂粒	
232	−	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR4/1（灰黄褐）	2.5Y4/1（黄灰）	○	○				○5mm以下	スス付着
233	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	5YR7/1（明褐灰）	○	○				○4mm以下	スス付着
234	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR4/1（褐灰）	10YR4/1（褐灰）	○	○				○8mm以下	
235	Ⅴ層	鉢	口縁部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○2mm以下	
236	Ⅴ層	鉢	口縁～胴部	貝殻条痕文	ナデ　貝殻条痕文	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○				○4mm以下	
237	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/1（褐灰）	○	○			○	○2mm以下	
238	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○2mm以下	
239	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR4/2（灰褐）	5YR6/1（褐灰）	○	○			○	○2mm以下	
240	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	2.5YR4/2（灰赤）	5YR4/2（灰褐）	○	○				○3mm以下	
241	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○3mm以下	
242	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR5/4（にぶい褐）	○	○				○6mm以下	
243	−	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR4/2（灰褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○3mm以下	
244	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	2.5Y4/1（黄灰）		○			○	○1mm以下	
245	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR4/1（褐灰）	○	○				○1mm以下	
246	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○1mm以下	
247	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR5/3（にぶい赤褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○4mm以下	
248	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR7/1（明褐灰）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○1mm以下	
249	−	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR4/1（褐灰）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○3mm以下	
250	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR3/1（黒褐）	10YR4/1（褐灰）	○	○				○1mm以下	
251	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	10YR4/2（灰黄褐）	○	○				○1mm以下	
252	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○2mm以下	スス付着
253	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○3mm以下	スス付着
254	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕⇒ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○6mm以下	スス付着
255	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○5mm以下	スス付着
256	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○3mm以下	スス付着
257	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/2（灰黄褐）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○				○3mm以下	スス付着
258	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文 指押さえ	ナデ	2.5Y5/2（灰赤）	2.5Y4/1（黄灰）	○	○				○4mm以下	
259	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR5/3（にぶい黄褐）	10YR7/1（灰白）	○	○				○5mm以下	スス付着
260	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm以下	スス付着
261	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	2.5Y5/2（灰赤）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3mm以下	
262	Ⅴ層	鉢	胴～底部	貝殻条痕文	貝殻条痕⇒ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○			○	○9mm以下	スス付着
263	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕⇒ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○3mm以下	
264	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm以下	
265	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR6/3（にぶい黄橙）	○	○				○3mm以下	スス付着
266	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○			○	○2mm以下	
267	Ⅵ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR7/2（にぶい黄橙）	○	○				○5mm以下	
268	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3（にぶい黄橙）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○7mm以下	
269	−	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	5YR7/1（明褐灰）	○	○			○	○6mm以下	
270	−	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○2mm以下	
271	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm以下	
272	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○5mm以下	
273	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○5mm以下	
274	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○4mm以下	
275	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR5/4（にぶい赤褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○			○	○1mm以下	
276	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR5/3（にぶい赤褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○				○2mm以下	
277	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○			○	○2mm以下	
278	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	7.5YR5/3（にぶい褐）	7.5YR4/2（灰褐）	○	○				○2mm以下	
279	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	2.5Y4/1（黄灰）	○	○				○1mm以下	
280	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR4/2（灰褐）	5YR4/3（にぶい赤褐）	○	○			○	○1mm以下	スス付着
281	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○				○1mm以下	
282	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	10YR4/2（灰黄褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）		○				○2mm以下	スス付着
283	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR4/2（灰褐）	5YR5/3（にぶい赤褐）	○	○				○1mm以下	スス付着
284	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	5YR4/3（にぶい赤褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○				○1mm以下	
285	−	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/4（にぶい褐）	10YR5/3（にぶい黄褐）	○	○			○	○3mm以下	
286	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	7.5YR5/3（にぶい褐）	5YR5/4（にぶい赤褐）	○	○			○	○2mm以下	
287	−	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文	5YR5/4（にぶい赤褐）	10YR4/1（褐灰）	○	○				○3mm以下	
288	Ⅴ層	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	10YR6/4（にぶい黄橙）	10YR5/2（灰黄褐）	○	○			○	○5mm以下	
289	−	鉢	胴部	貝殻条痕文	貝殻条痕文⇒ナデ	7.5YR6/4（にぶい橙）	7.5YR6/4（にぶい橙）	○	○			○	○3mm以下	
290	Ⅵ層	鉢	胴部	貝殻条痕文⇒ナデ	貝殻条痕文⇒ナデ	5YR4/2（灰褐）	7.5YR5/3（にぶい褐）	○	○			○	○1mm以下	

2．石器

縄文時代早期の遺物包含層中より約 2205 点の石器が出土している。ここでは製品類を中心に報告を行う。なお石器の整理作業に当たっては従来使用されている器種についての分類基準を設定し、器種分類をおこなった。器種分類については滑川第２遺跡の整理作業における分類であり、他の遺跡のものと共通するものではない。

石鏃（291 ～ 444）

剥片を素材として両面調整や半両面調整によって鋭い先端部を作り出し、平面形がおおむね三角形や五角形を想定させるものを石鏃として分類した。欠損品を含め包含層中より総数 182 点出土している。平面形態や加工状況により以下の細分類が可能である。またこの細分類については本遺跡の縄文早期の石器資料にのみ使用される分類である。

・Ⅰ類（291 ～ 309）：長さと幅が 1.5cm 以下で、長幅比が概ね 1：1 に収まるもの。チャートや桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立つ。総数で 20 点出土している。297 ～ 299、301 ～ 305 は先端部付近で屈曲し、尖頭部を作り出しており、さらに細分される可能性も指摘される。

・Ⅱ類（311 ～ 318）：抉りが浅く下半部に最大幅を持ち、その付近から屈曲し全体の形状が 5 角形を呈するもの。いわゆる帖地型石鏃と呼ばれる類。チャートの使用が目立つ。総数で 8 点出土している。

・Ⅲ類（319・320）：上半部から外側に屈曲して脚部において最大幅を持ち、全体の形状が将棋の駒のような形を呈するもの。総数で 2 点出土しており、針尾産黒曜石や安山岩を使用している。

・Ⅳ類（321 ～ 333）：特徴的な抉り・脚部を呈するもの。いわゆる鍬形鏃と呼ばれる類。チャートや頁岩の使用が目立つ。総数で 13 点が出土している。

・Ⅴ類（334 ～ 344）：体部に対して脚部が外側に大きく広がり、途中で屈曲するもの。335・339 は脚部に突出部をもっている。姫島産黒曜石や安山岩が使用されている。総数で 11 点出土している。

・Ⅵ類（345 ～ 348）：体部に対して脚部が外側に大きく広がり、途中で屈曲せずに直線的に伸びるもの。姫島産黒曜石が使用されている。総数で 4 点出土している。

・Ⅶ類（349 ～ 362）：加工が周縁部付近にとどまり、素材剥片の形状を大きく残しているもの。一部には石鏃未製品も含まれている可能性も考えられる。針尾産・姫島産黒曜石や安山岩の使用が目立つ。総数で 15 点が出土している。

・Ⅷ類（363・364）：局部磨製を施すもの。総数で 2 点が出土しており、いずれも頁岩を使用している。鋸歯状の刃縁を持つことも特徴である。

・Ⅸ類（365 ～ 389）：刃縁が鋸歯状を呈するもの、または一部に突出部を持つものをまとめた。このⅨ類については検討不足で分類基準に曖昧さが残ることを反省したい。一応細分できる案としては先端部から脚部まで直線的に広がるもの（365 ～ 367・371・373・375・376・382・383）、脚部にて屈曲するもの（378 ～ 381・384 ～ 389）脚部付近にのみ突出部を持つもの（368 ～ 370・372・374・377）などが考えられる。総数で 25 点が出土している。

・Ⅹ類（390 ～ 405）：Ⅰ類～Ⅸ類の分類に当てはまらないもの中から抉りのないもの又は浅いものをまとめた。総数で 17 点が出土している。

・Ⅺ類（406 ～ 444）：Ⅰ類～Ⅸ類の分類に当てはまらないものの中から抉りの深いものをまとめた。総数で 42 点が出土している。脚部が丸くおさまるもの、四角くなるもの、端部がとがるものなど脚部の形態による細分が可能である。

石鏃未製品（445 ～ 465）

剥片を素材とし石鏃とほぼ同規模で両面調整や半両面調整によって平面形が三角形や楕円形を呈するもの。石鏃に比べ先端部が鈍いものや加工状況が未熟なもの、分厚いものなどを石鏃の未製品であると判断した。一部にはⅦ類の石鏃や尖頭状石器、石錐も含まれている可能性が考えられる。総数で 24 点が出土している。

槍先形尖頭器未製品（466）

剥片を素材として両面調整又は半両面調整により尖端部を作り出すもので、平面形が木葉形または柳葉形を想定させるものを尖頭器として分類した。1 点が出土している。466 はガラス質安山岩製で一部に自然面を残している。また平面形も木葉形には近いが不整形な状態であり、未製品であると考えられる。

尖頭状石器未製品（467 ～ 469）

剥片を素材として両面調整または半両面調整によりやや鈍い先端部と抉りのない丸みを持った基部を作り出しているもの。石鏃よりも規模は大きく調整は荒い。石鏃の未製品が含まれている可能性も考えられる。いずれも

頁岩製で総数 3 点が出土しているがいずれも調整が全面に及ばず、先端部や基部の判断もつかないため、尖頭状石器の未製品であると考えている。しかし、これらのような未製品の場合スクレイパーや小型の石核であるの可能性も考えられる。

抉入石器（470）

剥片を素材としその一部にノッチ状の調整を施すもの。ノッチ状の調整以外には特に加工を施さない。腰岳産黒曜石製のもの 1 点のみ出土している。

異形石器（471 ～ 473）

剥片を素材とする石器の中で、定形的な石器とは異なる形状をしたもの。頁岩製のもの 2 点と桑ノ木津留産黒曜石製のもの 1 点が出土している。残念ながらいずれの資料も風倒木などの撹乱を受けたところより出土しており、原位置を保っていなかった。471 の先端部は両側よりわずかに抉りだしており、石錐の錐部にも似ているため石錐の可能性も考えられるが、石錐にはない石鏃のような脚部を作り出しているところから異形石器に分類をした。472 はつまみ状の抉りを持ち、下端部は鋸歯状を呈する。473 はトロトロ石器に平面形は似ているが研磨はおこなわれてはいない。

石錐（474 ～ 482）

剥片を素材として両面調整・半両面調整によるかまたは素材剥片の一部に調整を施し、尖端部を作り出したもの。以下の 2 種類に分類される。一部には石鏃の未製品が含まれている可能性も考えられる。総数で 11 点が出土している。チャートや姫島産黒曜石の使用が目立つ。

・a 類（474 ～ 476・479・482）：両面調整により全体の形状を菱形や逆三角形を想定する形に整えるもの。479 はつまみ部分を作り出し、長い錐部を作り出している。

・b 類（477・478・480・481）：剥片の形状を大きく残すもの。481 は縦長剥片を素材としており、背面の稜線には稜上調整を施し、厚みを減じている。

石匙（483 ～ 485）

剥片を素材とし、一部に両側縁からの調整によりつまみ部分を作り出し、その他の部分には刃部加工を施すもの。総数で 3 点が出土している。

スクレイパー（486 ～ 493）

剥片を素材とし、その縁辺に連続的な調整により刃部を作り出したもの。刃部調整は周縁部にとどまる。流紋岩・頁岩の使用が目立ち、総数で 10 点が出土している。487 は尾鈴山酸性岩製である。船引地区遺跡群においては尾鈴山酸性岩製の石器のほとんどが磨石・敲石であり、剥片石器の存在は注目される。

磨製石斧（494 ～ 496）

剥片または扁平な礫を素材とし、平面形が三角形または四角形を呈し、その短辺に研磨による刃部を作成するもの。494・495 は小型の石斧で研磨痕が著しく残存している。496 は安山岩製で大振りのもので一部に自然面を残す。幅の狭い方を刃部としている。刃部付近にのみ研磨が著しいが体部にはあまりおこなわれていない。

剥片・砕片（497 ～ 499）

剥片を素材として、意図が不明瞭な加工を施しているものやまったく加工が施されていないものをまとめた。整理作業での砕片との違いは規模によって分類をおこなった（砕片は 1cm 四方に収まる規模のものとした）。総数で 1865 点出土している。様々な石材が使用されており、内訳は以下のとおりである。（チャート 166 点：708.9g、流紋岩・頁岩 280 点：4596g、砂岩 65 点：1471g、姫島産黒曜石 917 点：768.8g、桑ノ木津留産黒曜石 170 点：157.4g、西北九州産黒曜石 210 点：217g、鹿児島県産黒曜石 17 点：26.8g、安山岩・サヌカイト 127 点：175.8 g、玉髄 88 点：291g、その他 6 点：23g　※石材鑑定については肉眼観察によるものであり、分析方法によっては数字が変動する可能性が考えられる。）

全体の傾向では砂岩・頁岩・流紋岩製のものは大振りな剥片が多く、そのほかの石材のものは小規模な剥片を主に作出しているようである。そのうち 3 点を図示した。497・498 は一部に二次加工を施している。

石核（500 ～ 506）

礫または剥片を素材とするが形態を整えるためとは見なしがたいネガティブな剥離面をもつもの。総数で 68 点出土している。剥片同様に様々な石材を使用しており、内訳は以下のとおりである。（チャート 10 点：438.3g、流紋岩・頁岩 7 点：836.4g、砂岩 9 点：3635g、姫島産黒曜石 7 点：1300g、桑ノ木津留産黒曜石 17 点：55g、西北九州産黒曜石 9 点：53.4g、鹿児島県産黒曜石 4 点：20g、安山岩・サヌカイト 2 点：12g、玉髄 2 点：57.2g、その他 1 点：292.1g　※石材鑑定については剥片と同様に肉眼観察によるものであり、分析方法によっては数字が変動する可能性が考えられる。）

剥片と同様に砂岩・頁岩・流紋岩製のものは大振りな石核で、そのほかの石材のものは小規模のものとなっている。そのうちの 6 点を図示した。500・501 は頁岩製で作業面を転回しながら打面調整を行わず剥片剥離をおこなっている。502・504 は一方向からのみ剥片剥離をおこなっている。503 は剥片剥離をおこなった作業面を打面として剥片を作出し続けている。506 は姫島産黒曜石製でこの石材の石核としては例外的に大きな石核である。重量は 1245ｇを量り、現状では南九州最大の規模を誇る資料である。片面には剥離面のみが見られもう片面には自然面を大きく残していることから原礫を分割した後に剥片の作出をおこなっていると考えられる。自然面の様子からは転石であったと考えられる。剥片剥離は平坦な自然面を打面として幅広の剥片を作出していたと考えられるが一部に交互剥離した部分が見られる。

敲石・磨石（507 ～ 513）

敲石は円礫・角礫の一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる割れや敲打痕、敲打によるものと推定されるくぼみを持つものを分類した。また磨石は円礫の平らな面の片面または両面に平滑な面をもつものを分類した。総数で 43 点出土しており、うち 7 点を図示した。使用石材については砂岩製のものが圧倒的に多く、尾鈴山酸性岩製のものが 2 点だけ混じる。素材である礫の状況と使用痕によって以下に分類できる（図示していないものも含めての分類である）。

・a 類：扁平な円礫・楕円形の礫・亜角礫を素材としてその中央部分に使用による凹みを持つもの。使用痕が片面にのみあるものと両面に見られるもの（507 ～ 511）とに細分できる。本遺跡では 24 点出土している。

・b 類：円礫・角礫を素材としてその周縁部に敲打痕が確認されるもの。3 点出土している。

・c 類：厚みのある円礫・棒状の礫を素材としてその端部に敲打痕が確認されるもの。4 点出土している。

・d 類：円礫を素材として平滑な面をもつもの。使用痕が片面にのみあるものと両面に見られるもの（512・513）とに細分できる。10 点出土している。

・e 類：円礫を素材として使用による凹みと平滑な面をもつもの。これについては異なる使用痕を片面ずつ持つものと異なる使用痕が切りあい関係により存在するものとに細分される。2 点出土している。

石皿（写真図版 36 の下段を参照）

大振りな河原礫の平らな面に平滑な面やくぼんだ滑らかな面を持つもの。図示しなかったが、総数で 5 点が出土している。すべて砂岩製である。

縄文早期遺物包含層出土の土器と石器の分布状況について

本遺跡の縄文早期遺物包含層から出土した土器は押型文土器・平栫式・塞ノ神式・条痕文土器が中心であり、貝殻文円筒形の土器はあまり出土していない。そのため出土石器についても大まかではあるが、早期中葉～終末のものが主体であると考えられる。主要な石器の分布状況を見ると調査区の北西部と中央部以外の全域に広がっている状況であった。しかし、整理作業により細分された剥片石器ごとに分布状況を観察していくといくつかの特徴が見られた。以下に列挙し、縄文早期の遺物包含層から出土した石器について分布状況からの考察を試みる。

① 石鏃Ⅰ類・未製品と桑ノ木津留産黒曜石製の石器が調査区南側中央部に集中する。

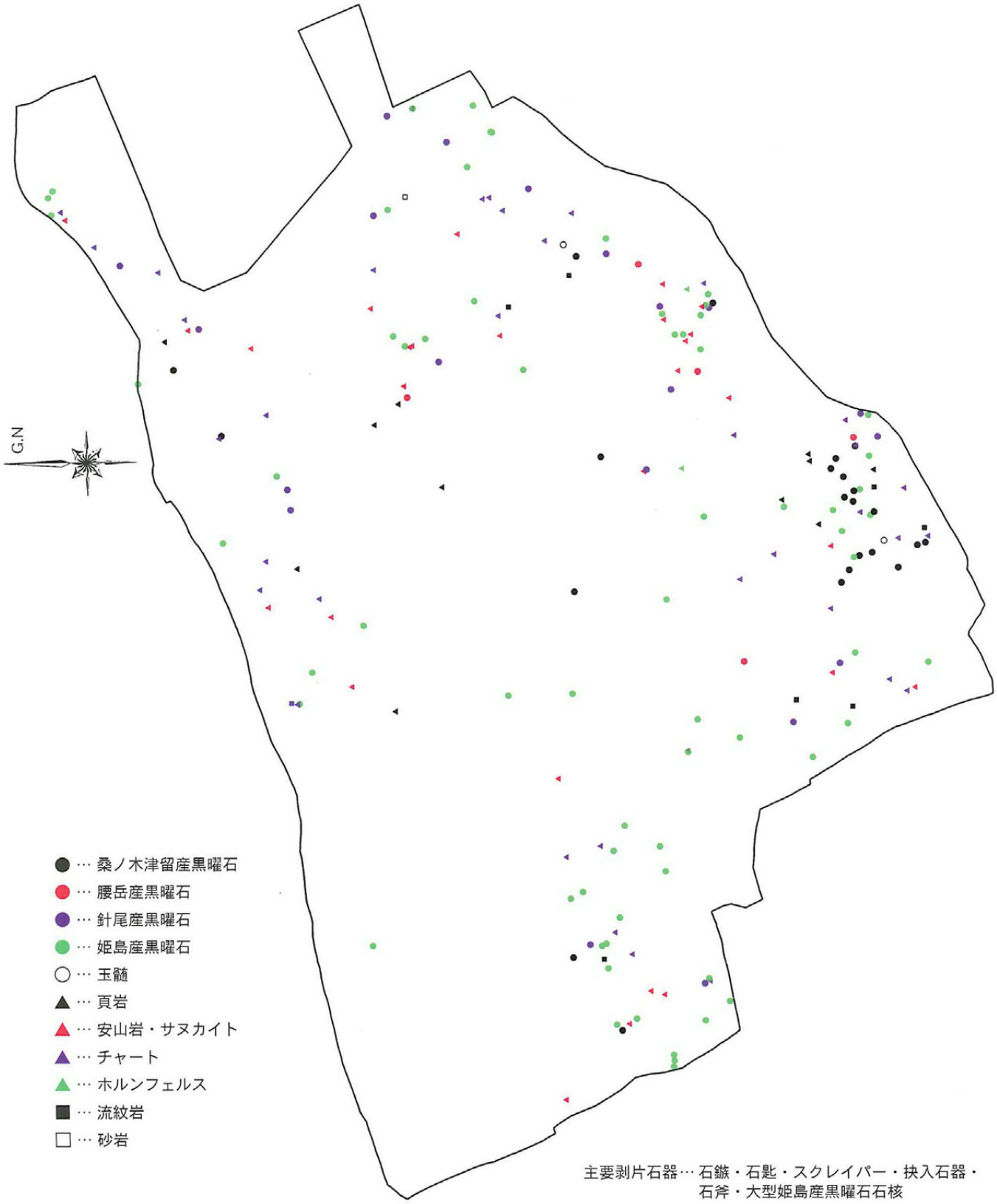
桑ノ木津留産黒曜石とチャートは石鏃Ⅰ類の主要石材であり、また石鏃の未製品にはチャート製のものと桑ノ木津留産黒曜石製のものが多くみられる。このような関連性があるためこれらの資料の分布域が重なっているのである。そこで石鏃Ⅰ類及び未製品と桑ノ木津留産黒曜石製石器が集中する区域の出土土器に注目するとその辺りからはあまり土器が出土していない。剥片・砕片の分布状況をきちんと踏まえていないため推論の域をでないが、石鏃Ⅰ類・未製品が集中しているという点から石鏃Ⅰ類の製作場所と考えることができるだろう。しかし、石鏃Ⅰ類の時期決定については分布の重なる土器が確認されないことから断定することができない。

② 石鏃Ⅱ類が調査区の南東側に分布する。

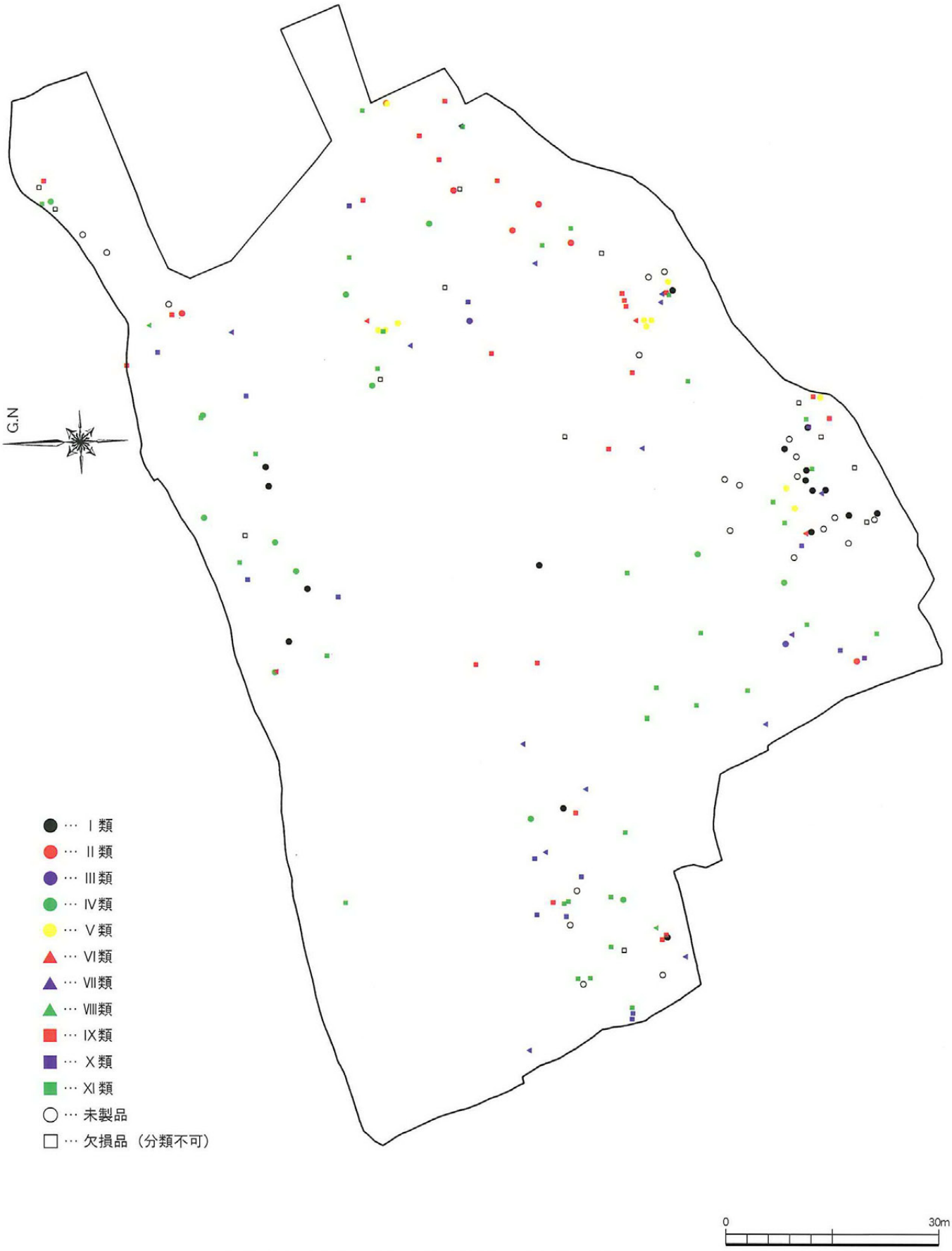
石鏃Ⅱ類はいわゆる帖地型石鏃と呼ばれる資料であるが、本遺跡では調査区の南東側に分布している傾向が見られる。そこで調査区の南東部の土器の分布状況を観察すると密度の粗密はあるけれど、押型文土器・平栫式・塞ノ神式・条痕文土器の分布が確認される。これらの中で最も出土量の多い土器は条痕文土器であるが、同台地上の山田第一遺跡では帖地型石鏃は早期中葉の土器と分布が重なっており、単純に出土量の多い土器の時期に当てはまものであるかはもっと検証材料を増やした上で結論付ける必要があるだろう。とりあえず本遺跡の状況からは石鏃Ⅱ類は押型文土器の段階以降に存在するものとして考えられる。

③ 姫島産黒曜石製の石器が調査区の南半部に分布する。

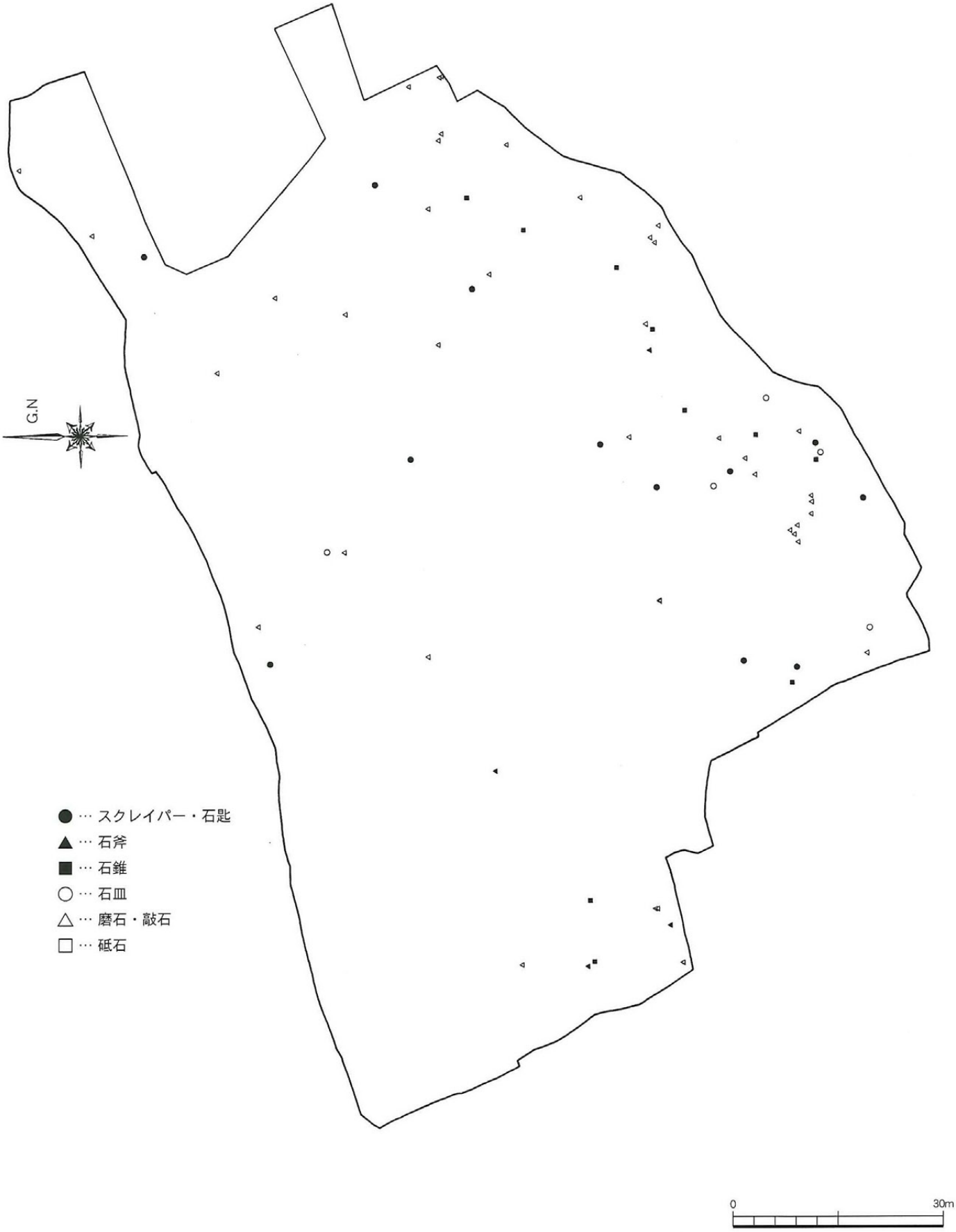
姫島産黒曜石製の石器は調査区の南半部に広がっている状況である。そこで、土器の分布状況に注目すると調査区の南半部は複数の型式の土器が存在するものの特に塞ノ神式土器と条痕文土器の分布が著しい。本遺跡においては縄文早期後半以降に姫島産黒曜石が多用されることとなったという仮説が立てられるだろう。



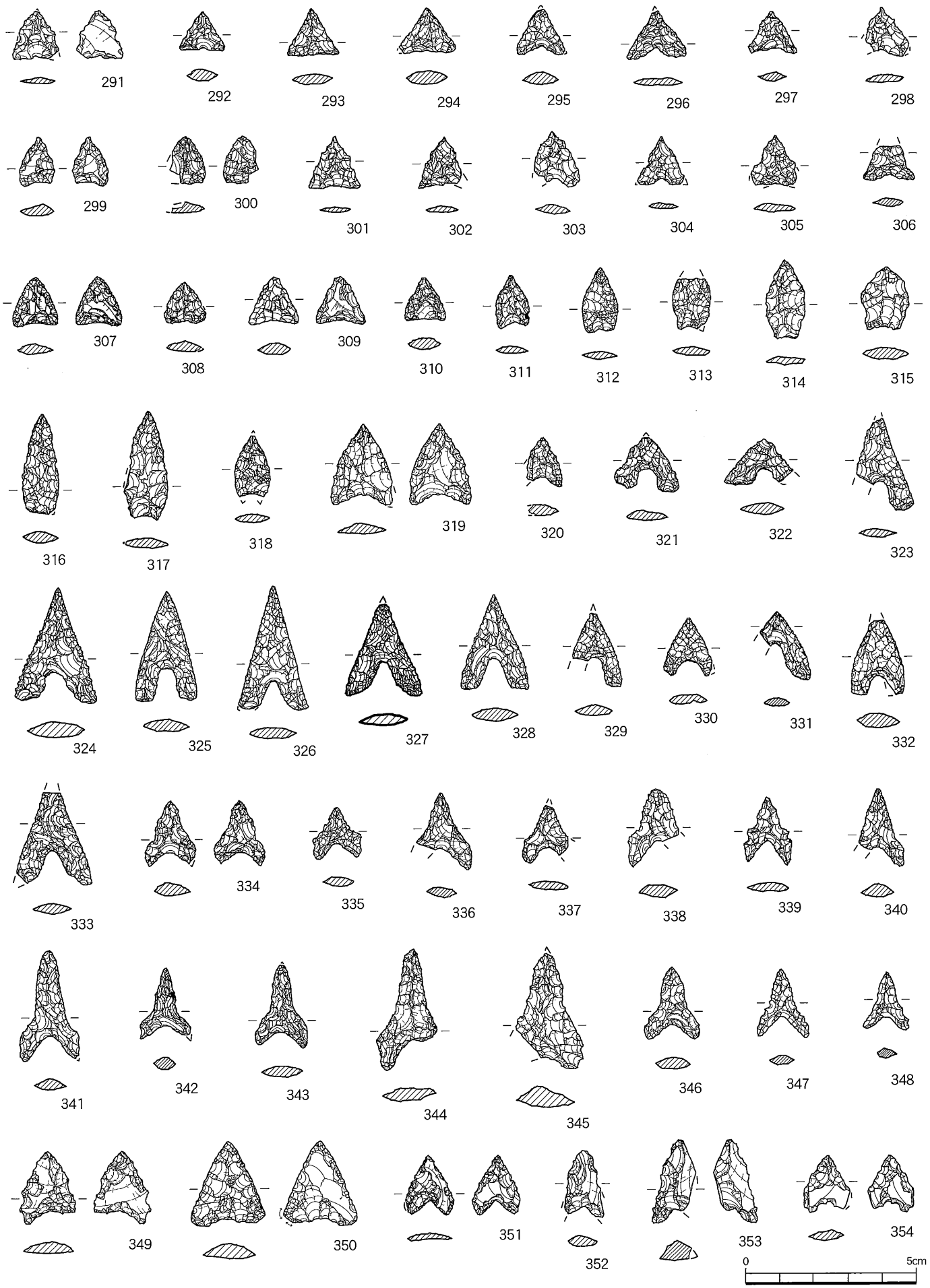
第 56 図　縄文時代早期遺物包含層出土主要剥片石器分布図【石材別】(S=1/750)



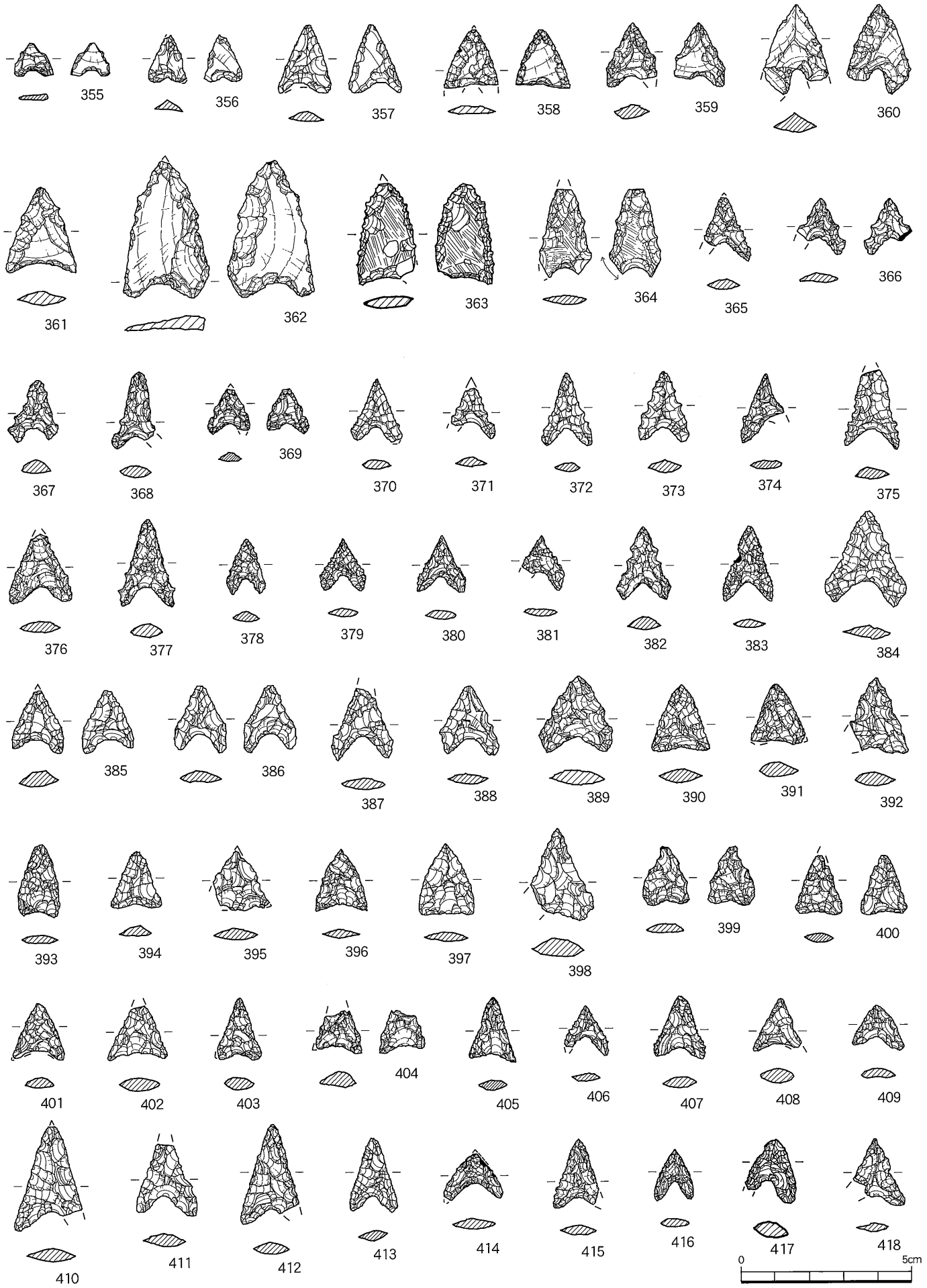
第 57 図　縄文時代早期遺物包含層出土石鏃分布図（S=1/750）



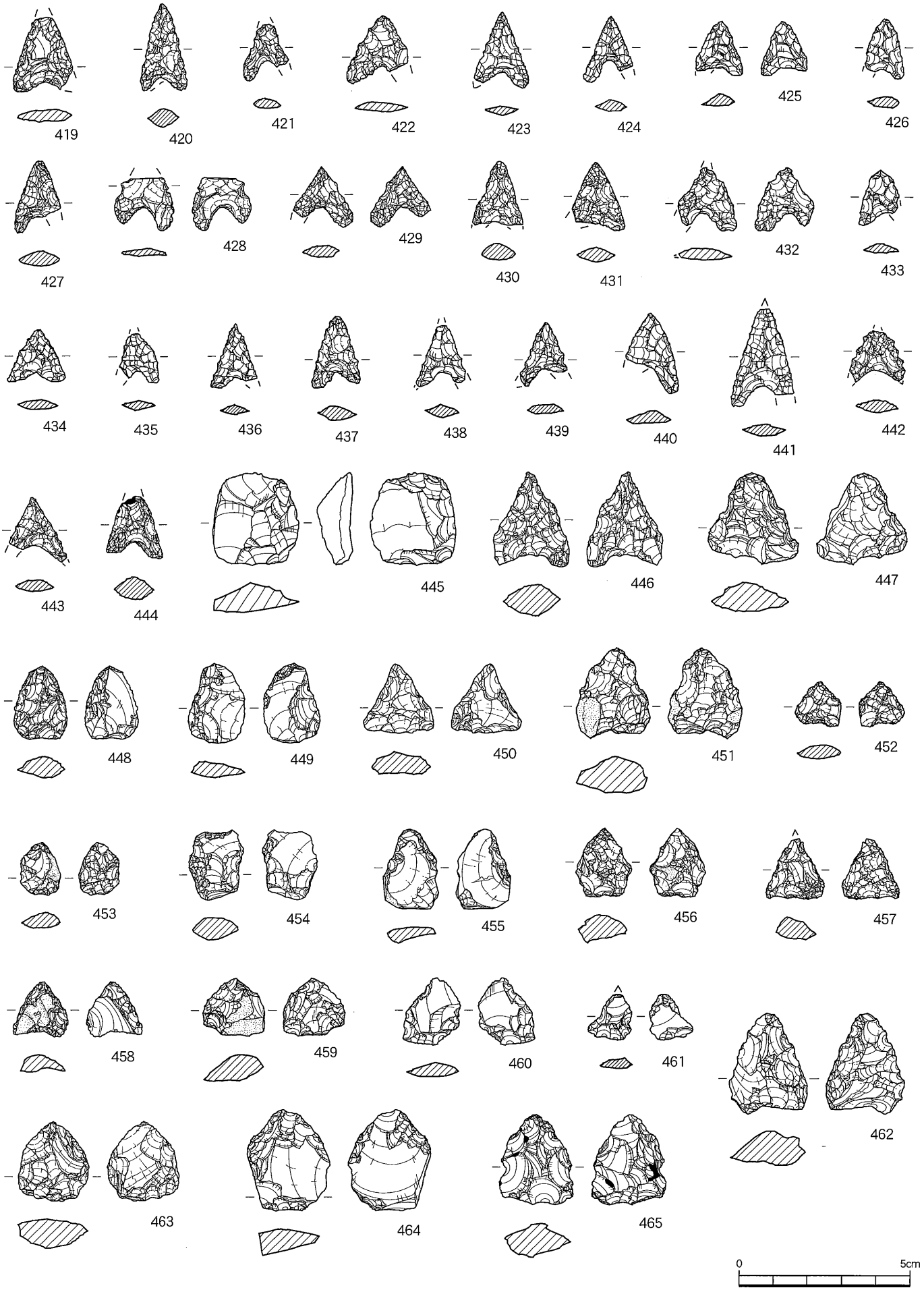
第 58 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器分布図【加工具・調理具】(S=1/750)



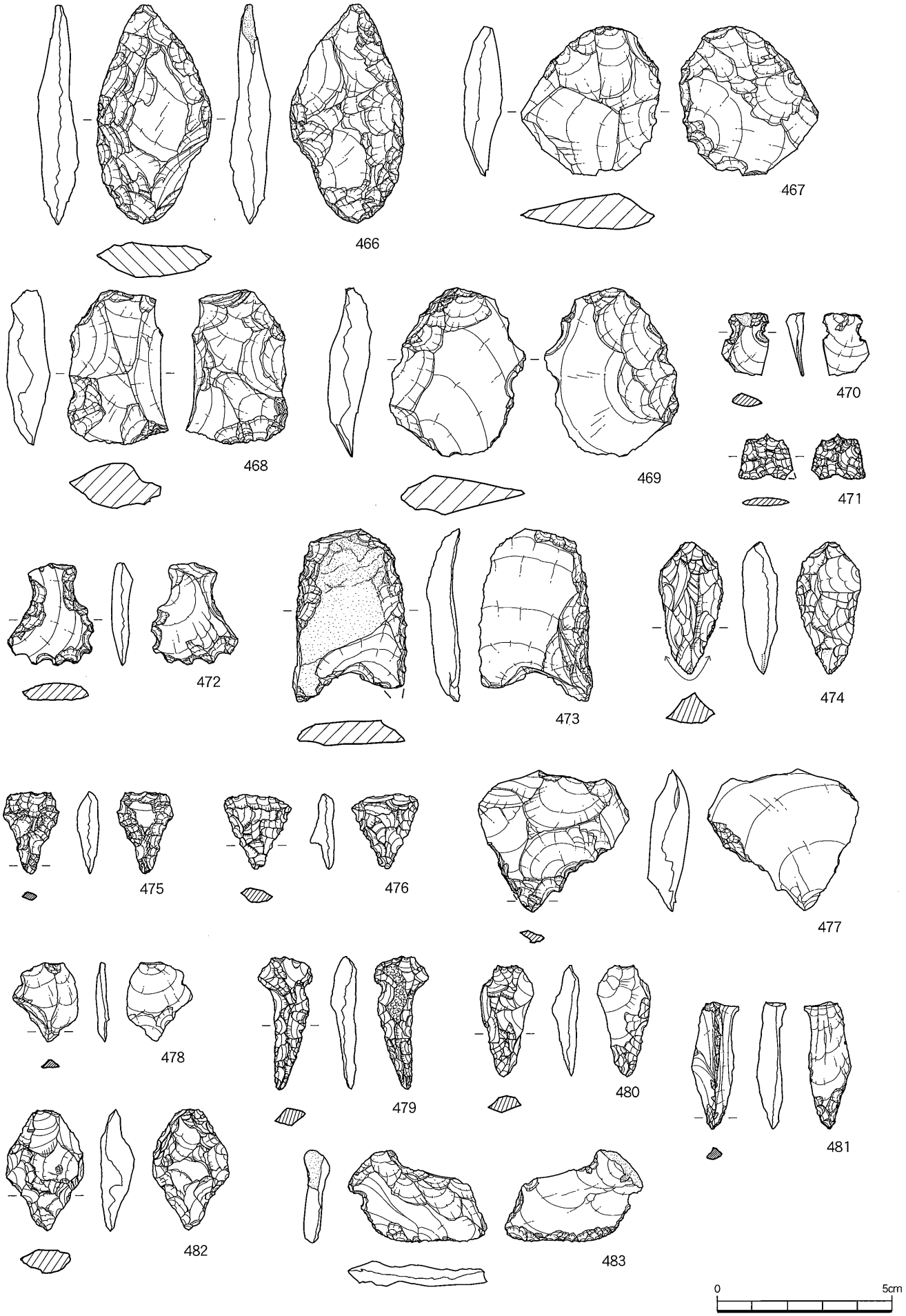
第 59 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図①(S=2/3)



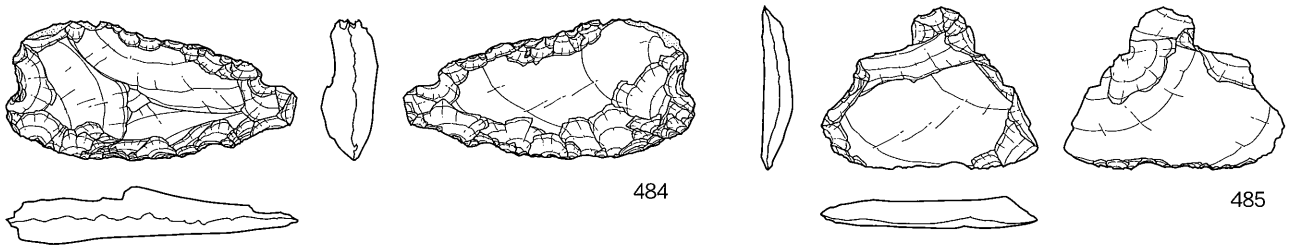
第 60 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図②(S=2/3)

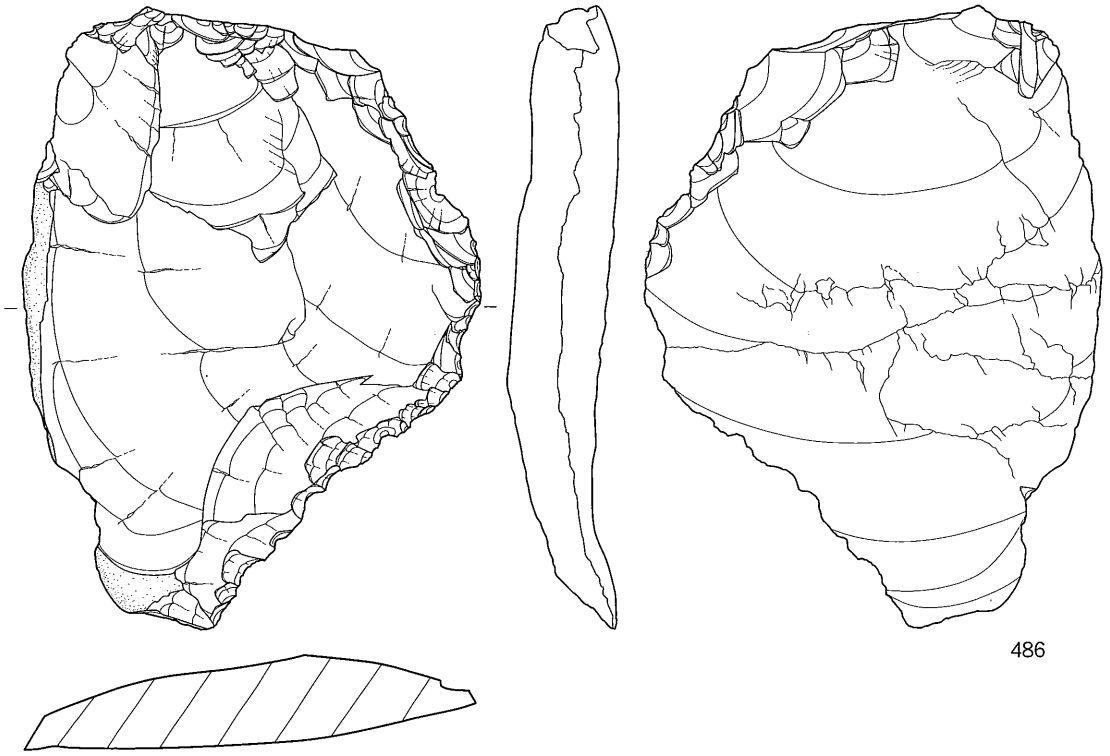


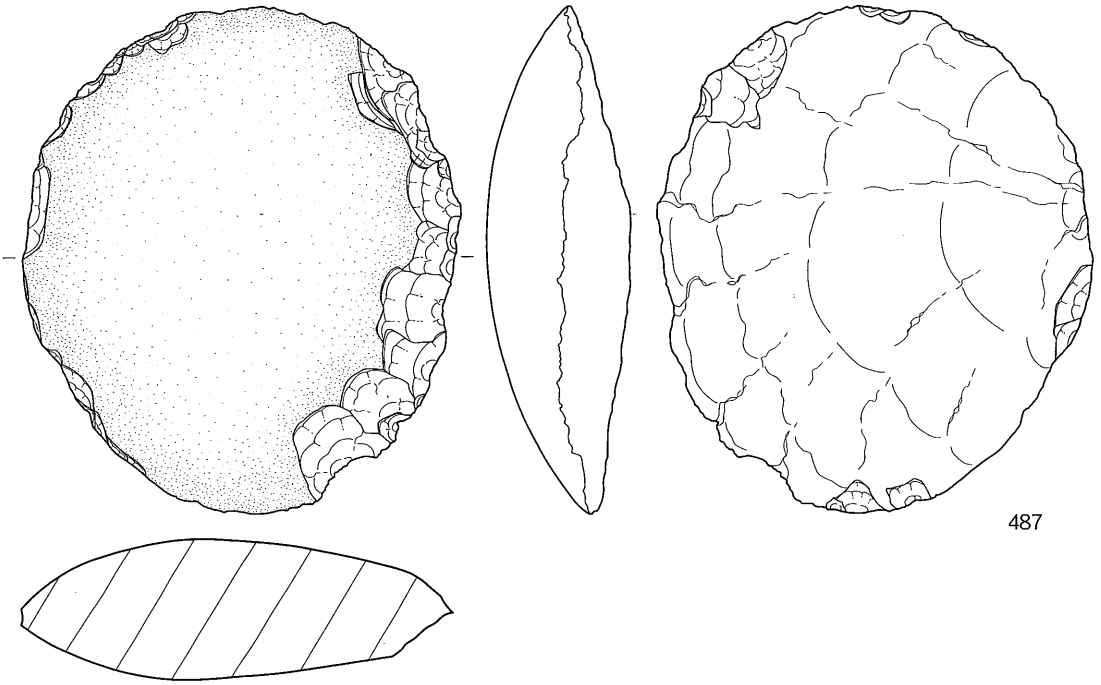
第 61 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図③(S=2/3)

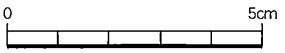


第 62 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図④(S=2/3)

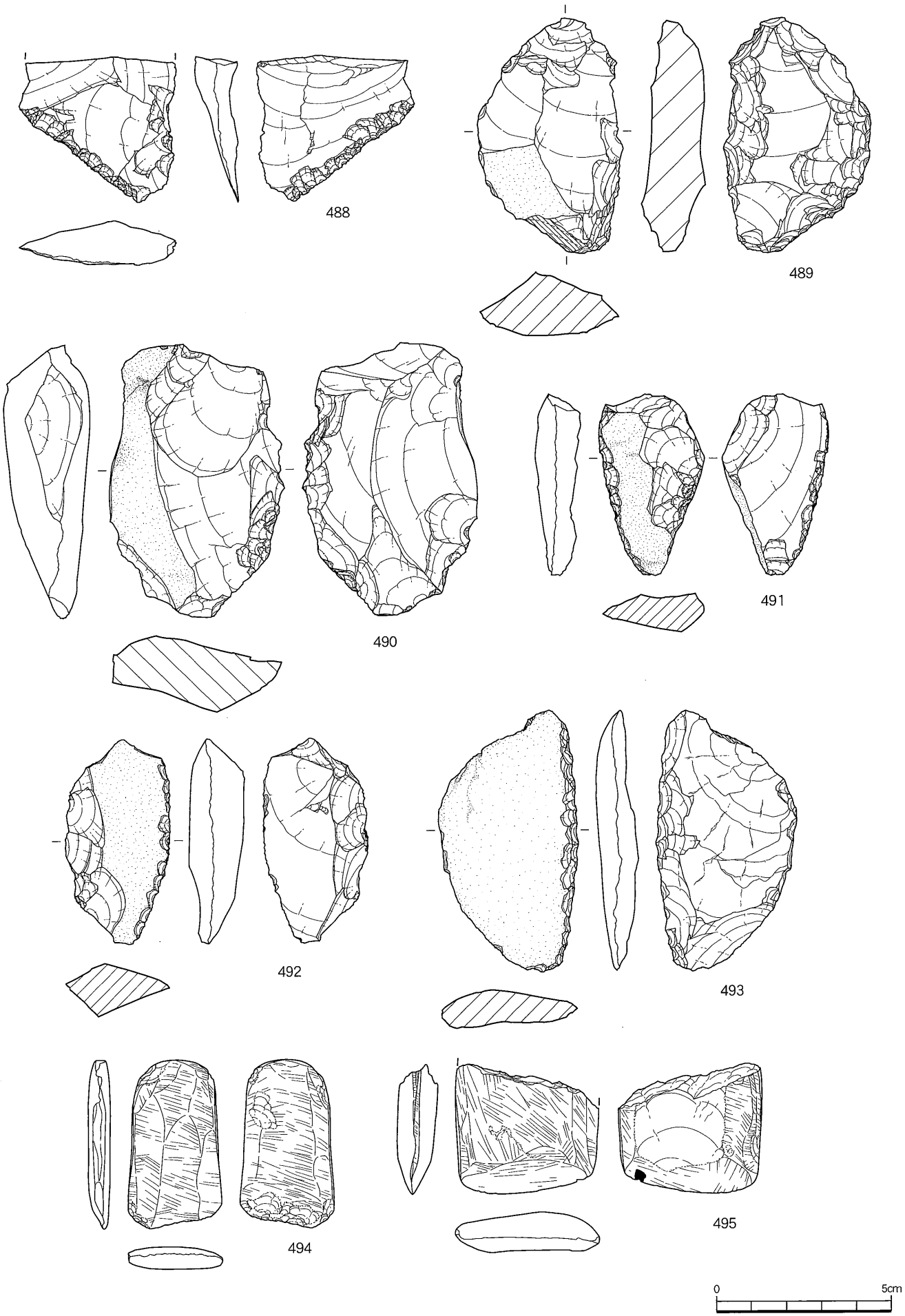




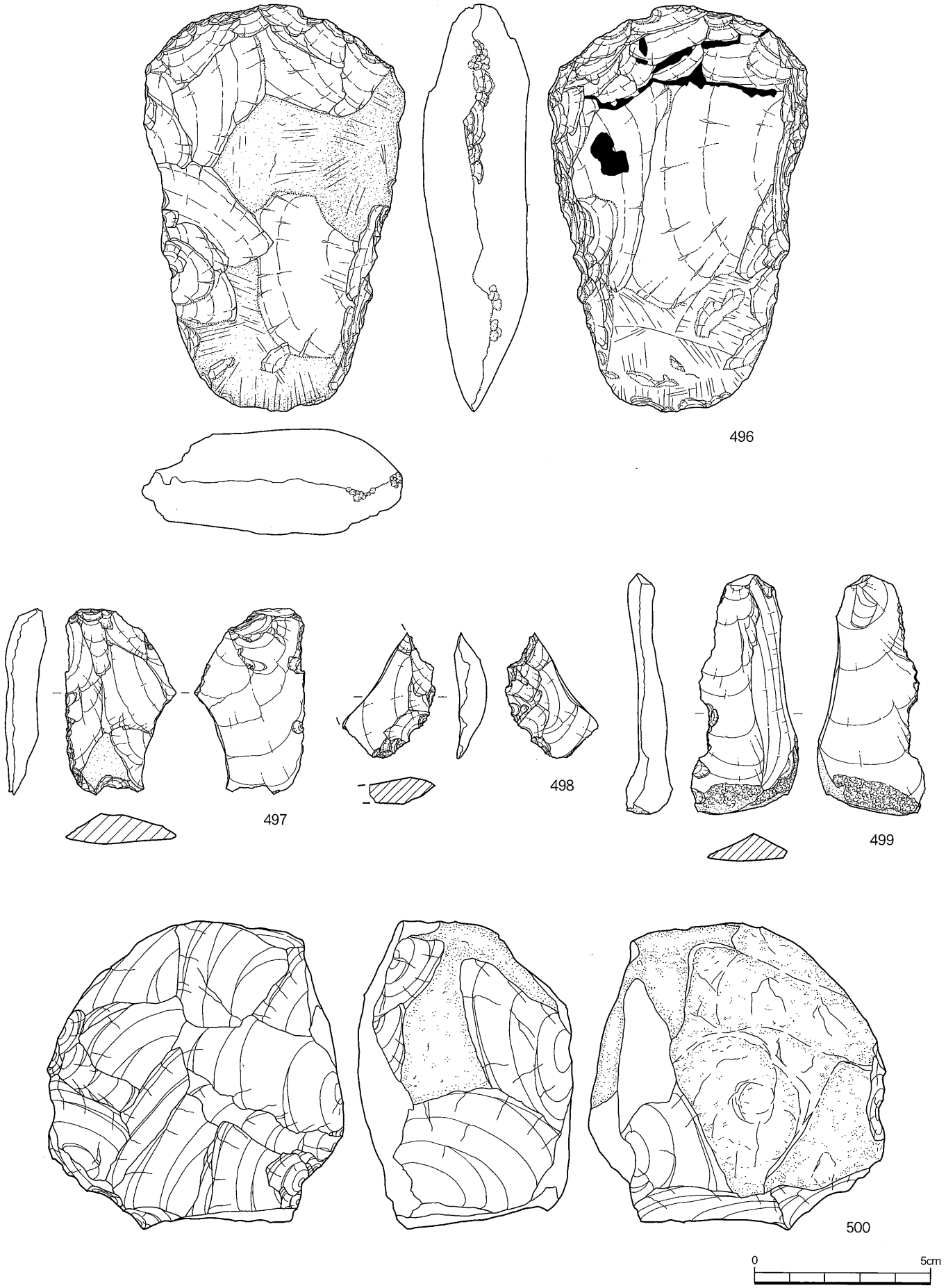




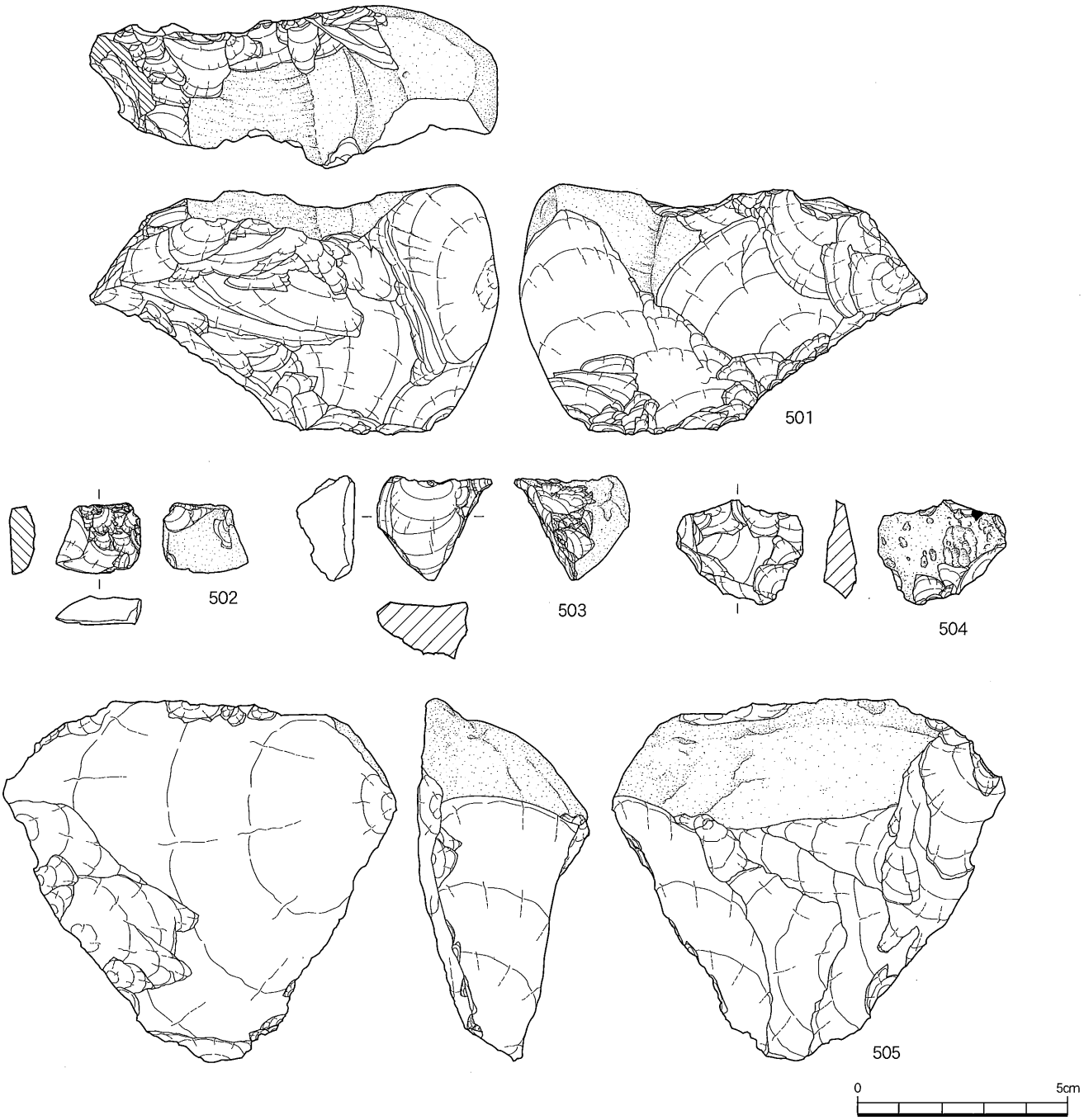
第 63 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑤(S=2/3)



第 64 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑥(S=2/3)



第 65 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑦(S=2/3)



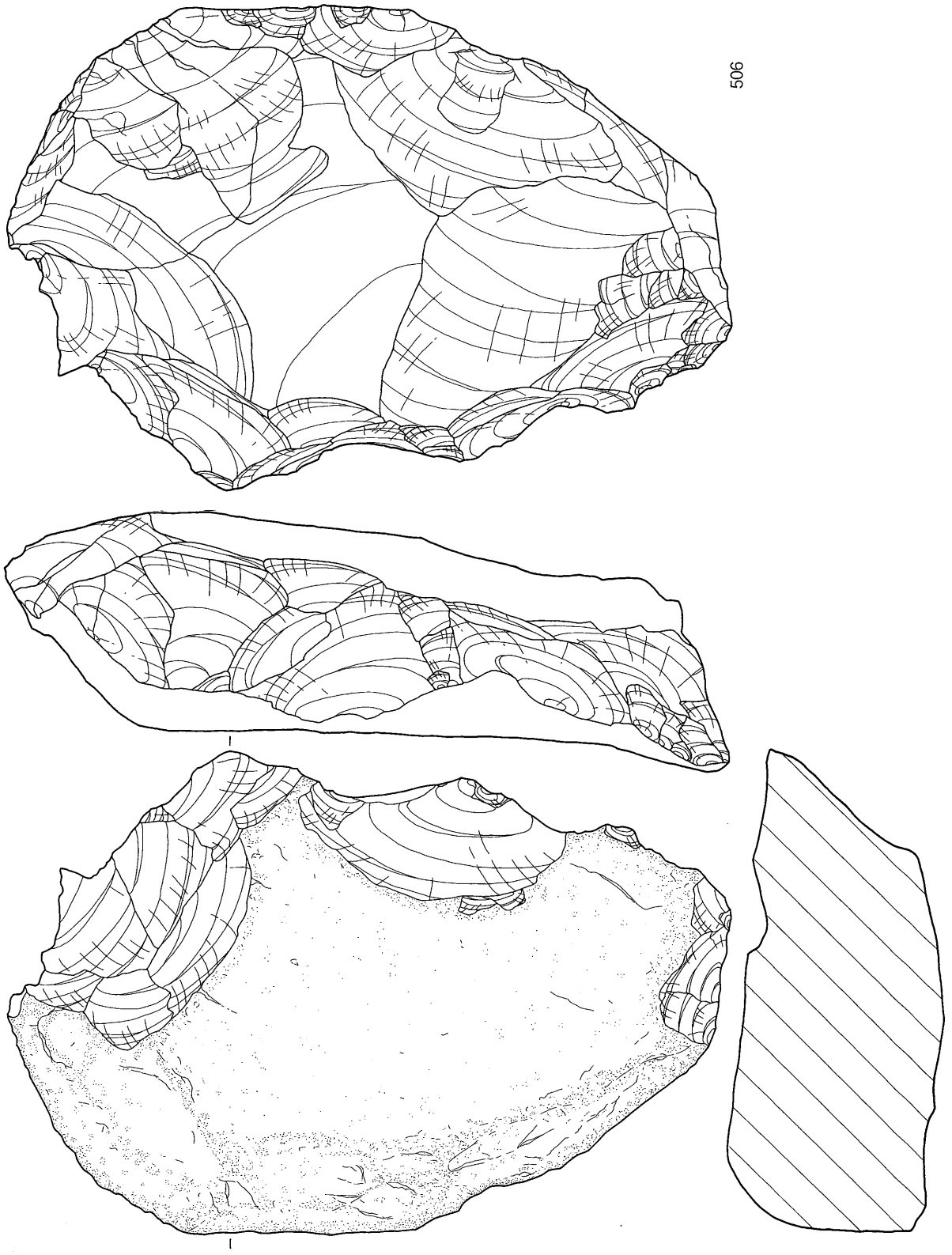
第 66 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑧(S=2/3)

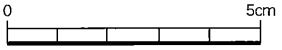
④　石鏃Ⅴ類が調査区の南東部に分布する。

石鏃Ⅴ類は姫島産黒曜石を主要な石材としている。そのため姫島産黒曜石製の石器の分布状況が一部重なるようである。しかし、石鏃Ⅴ類の分布は姫島産黒曜石製の石器よりもさらに東側に分布が見られ、塞ノ神式土器の分布の中心からは外れるようである。この石鏃Ⅴ類の分布域に最も分布が集中する土器は条痕文土器であり、石鏃Ⅴ類については縄文早期終末の時期にあたる可能性が考えられる。このことは使用石材の面から考えても前述した縄文早期後半以降姫島産黒曜石を多用するようになったという仮説とも矛盾しない。しかし、やはり他の型式の土器の存在も確認されているため、さらに他の遺跡の状況なども踏まえて再度検証をおこなう必要がある。また出土点数が少ないが石鏃Ⅵ類も姫島産黒曜石を多用しており、石鏃Ⅴ類と分布がおおむね重なりそうである。

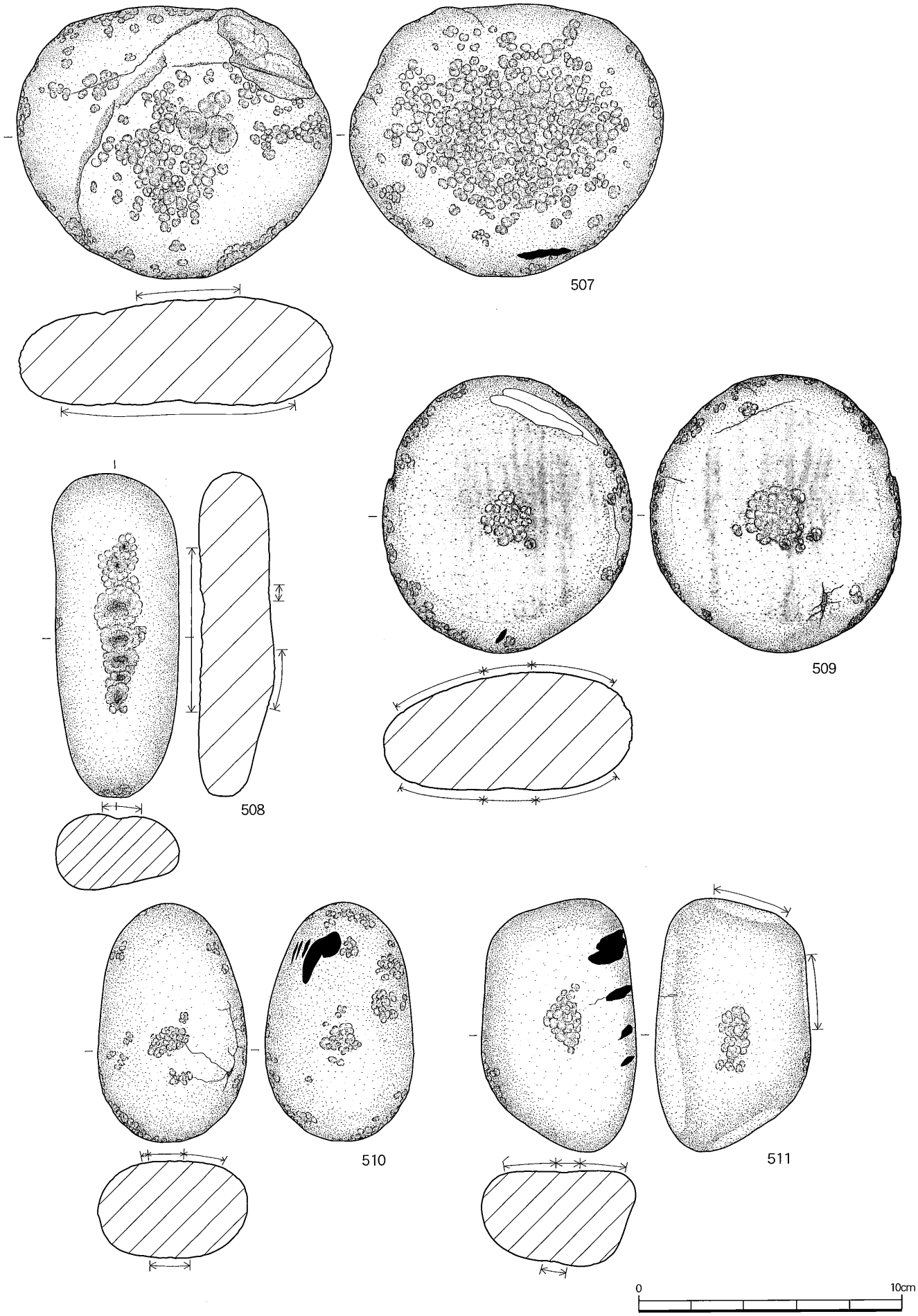
⑤　石鏃Ⅶ類が調査区の南半部に分布する。

石鏃Ⅶ類は姫島産黒曜石・安山岩を主要な石材としている。前述した石鏃Ⅴ類と使用石材については共通点があるが、その分布域は広く、姫島産黒曜石製の石器の分布と重なる。そこで前述したような問題点があるものの、一応石鏃Ⅶ類についても縄文早期後半以降のものと考えることができるだろう。

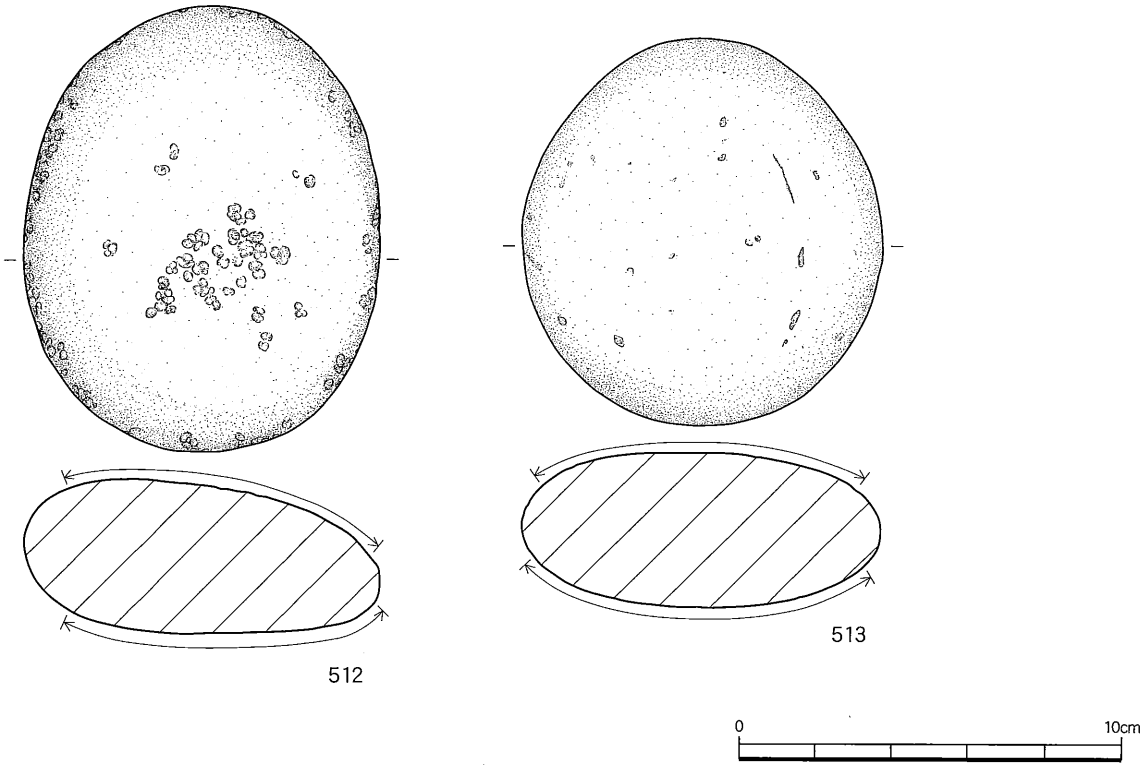




第 67 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑨(S=2/3)



第 68 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑩(S=1/2)



第 69 図　縄文時代早期遺物包含層出土石器実測図⑪(S=1/2)

第 9 表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表

遺物 No.	整理 No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備　　考
291	242	打製石鏃	F3	Ⅵ	チャート	(1.55)	(1.35)	0.2	(0.29)	先端部・淵部・脚部欠損
292	277	打製石鏃	C1	Ⅴ	チャート	1.15	1.3	0.35	0.43	
293	281	打製石鏃	C2	Ⅴ	チャート	1.4	1.5	0.35	0.45	
294	203	打製石鏃	F3	Ⅵ	チャート	(1.35)	(1.65)	0.4	(0.71)	脚部欠損
295	365	打製石鏃	―	Ⅴ	チャート	(1.35)	(1.4)	0.35	(0.54)	先端部・脚部欠損
296	210	打製石鏃	F4	Ⅵ	チャート	(1.45)	1.75	0.25	(0.38)	先端部欠損
297	208	打製石鏃	F4	Ⅵ	チャート	1.25	1.4	0.25	0.27	
298	233	打製石鏃	F4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.45)	(1.25)	0.25	(0.32)	脚部欠損
299	374	打製石鏃	E3	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.5	1.1	0.35	0.41	
300	371	打製石鏃	D4	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.4)	(1.05)	(0.35)	(0.37)	左側縁～基部欠損
301	209	打製石鏃	F4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	1.55	1.5	0.2	0.32	
302	357	打製石鏃	E5	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.5)	(1.25)	0.2	(0.26)	脚部欠損
303	232	打製石鏃	F4	Ⅵ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.65)	(1.35)	0.3	(0.41)	脚部欠損
304	310	打製石鏃	F4	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.45)	(1.4)	0.2	(0.24)	脚部欠損
305	350	打製石鏃	E4	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.5)	(1.35)	0.3	(0.44)	脚部欠損
306	362	打製石鏃	F4	Ⅴ	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.0)	1.5	(0.25)	(0.29)	先端部欠損
307	213	打製石鏃	B5	Ⅵ	黒曜石(針尾)	1.45	1.35	0.3	0.49	
308	191	打製石鏃	B5	Ⅵ	黒曜石(針尾)	1.25	(1.25)	0.3	(0.35)	右側縁部欠損
309	212	打製石鏃	B4	Ⅵ	黒曜石(姫島)	1.4	1.45	0.35	0.55	
310	193	打製石鏃	B5	Ⅵ	安山岩	1.25	1.2	0.35	0.4	一部光沢有

(　) の値は残存値を示す。

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
311	295	打製石鏃	E2	V	チャート	1.6	1.0	0.25	0.33	帖地型
312	284	打製石鏃	D3	—	チャート	1.4	1.05	0.25	0.5	帖地型
313	358	打製石鏃	E6	VI	チャート	(1.55)	1.15	0.25	(0.6)	帖地型、先端部・脚部欠損
314	290	打製石鏃	D7	V	チャート	2.35	1.2	0.3	0.8	帖地型
315	294	打製石鏃	D7	V	チャート	1.85	1.4	0.4	1.0	帖地型
316	200	打製石鏃	E6	VI	チャート	(2.95)	(1.1)	0.35	(1.13)	帖地型、基部欠損
317	198	打製石鏃	D5	V	チャート	3.2	(1.3)	0.3	(1.25)	帖地型、縁部欠損
318	275	打製石鏃	B7	V	黒曜石(腰岳)	(1.9)	1.05	0.3	(0.5)	帖地型、先端部・脚部欠損
319	286	打製石鏃	D6	V	黒曜石(針尾)	(2.4)	(1.8)	0.35	(1.1)	脚部欠損
320	347	打製石鏃	E3	V	安山岩	(1.45)	(1.05)	0.35	(0.66)	脚部欠損
321	276	打製石鏃	B8	V	チャート	(1.6)	(1.9)	0.3	(0.62)	鍬形鏃、先端部欠損
322	234	打製石鏃	—	VI	チャート	(1.35)	(2.0)	0.35	(0.66)	鍬形鏃、脚部欠損
323	221	打製石鏃	B5	VI	チャート	(2.75)	(1.75)	(0.35)	(1.0)	鍬形鏃、先端部・脚部欠損
324	299	打製石鏃	E3	V	チャート	3.4	2.4	0.5	2.34	鍬形鏃
325	300	打製石鏃	E4	V	チャート	3.25	1.8	0.4	1.59	鍬形鏃
326	314	打製石鏃	—	VI	チャート	(3.7)	(2.05)	0.3	(1.72)	鍬形鏃、脚部欠損
327	57	打製石鏃	C2	V	頁岩	(2.7)	2.3	3.5	(1.2)	鍬形鏃、先端部欠損
328	312	打製石鏃	—	VI	頁岩	2.8	2.0	0.4	(1.29)	鍬形鏃、縁部欠損
329	219	打製石鏃	B5	VI	頁岩	(2.2)	(1.45)	0.3	(0.7)	鍬形鏃、先端部・脚部欠損
330	271	打製石鏃	B6	V	黒曜石(桑ノ木津留)	1.75	(1.45)	0.3	(0.47)	鍬形鏃、脚部欠損
331	218	打製石鏃	B5	VI	黒曜石(姫島)	(2.05)	(1.5)	(0.35)	(0.5)	鍬形鏃、脚部欠損
332	226	打製石鏃	D7	VI	安山岩	(2.25)	1.55	0.45	(1.3)	鍬形鏃、先端部・脚部欠損
333	334	打製石鏃	C6	V	安山岩	(2.8)	(2.2)	0.3	(1.3)	鍬形鏃、先端部・脚部欠損
334	320	打製石鏃	C6	V	黒曜石(姫島)	(1.95)	1.5	0.4	(0.65)	脚部欠損
335	304	打製石鏃	E5	V	黒曜石(姫島)	1.05	1.45	0.25	0.4	
336	348	打製石鏃	E4	V	黒曜石(姫島)	(2.25)	(1.65)	0.35	(0.52)	脚部欠損
337	335	打製石鏃	C6	V	黒曜石(姫島)	(2.5)	(1.35)	0.3	(0.4)	先端部・脚部欠損
338	341	打製石鏃	D7	V	黒曜石(姫島)	(2.3)	(1.5)	0.4	(0.83)	
339	206	打製石鏃	F4	VI	黒曜石(姫島)	2.0	1.4	0.25	0.41	
340	356	打製石鏃	E5	V	黒曜石(姫島)	(2.3)	(1.35)	0.4	(0.62)	脚部欠損
341	305	打製石鏃	E5	V	黒曜石(姫島)	(3.3)	(1.8)	0.4	(1.04)	脚部欠損
342	283	打製石鏃	C6	V	安山岩	(2.1)	(1.5)	0.4	(0.55)	脚部欠損
343	307	打製石鏃	E5	V	安山岩	(2.45)	1.55	0.35	(0.69)	先端部欠損
344	354	打製石鏃	E5	V	安山岩	3.6	1.8	0.4	1.31	
345	355	打製石鏃	E5	V	黒曜石(姫島)	(3.4)	(2.0)	(0.6)	(2.15)	先端部・脚部欠損
346	282	打製石鏃	C6	V	黒曜石(姫島)	2.15	1.6	0.4	0.66	
347	296	打製石鏃	E3	V	黒曜石(姫島)	2.0	1.55	0.3	0.45	
348	313	打製石鏃	—	VI	黒曜石(姫島)	1.65	1.35	0.35	0.4	
349	322	打製石鏃	D6	V	流紋岩	2.15	1.55	0.4	0.89	
350	321	打製石鏃	C6	V	黒曜石(針尾)	2.5	2.15	0.55	1.9	
351	323	打製石鏃	E3	V	黒曜石(針尾)	1.75	(1.45)	0.25	(0.34)	
352	293	打製石鏃	D7	V	黒曜石(姫島)	(2.0)	(1.2)	(0.35)	(0.6)	
353	366	打製石鏃	B1	V	黒曜石(姫島)	(2.45)	(1.3)	0.6	(1.14)	脚部欠損
354	243	打製石鏃	F4	VI	黒曜石(姫島)	(1.7)	(1.35)	0.3	(0.58)	脚部欠損
355	317	打製石鏃	C1	V	黒曜石(姫島)	1.0	1.2	0.2	0.2	
356	241	打製石鏃	C2	VI	黒曜石(姫島)	(1.4)	(1.15)	0.35	(0.4)	先端部・脚部欠損
357	214	打製石鏃	C2	VI	黒曜石(姫島)	(2.0)	1.55	0.35	(0.71)	脚部欠損
358	239	打製石鏃	B1	VI	安山岩	(1.75)	(1.6)	0.3	(0.61)	先端部・脚部欠損
359	370	打製石鏃	C3	V	安山岩	(1.9)	(1.5)	(0.45)	(0.8)	脚部欠損
360	244	打製石鏃	—	VI	安山岩	(2.65)	(1.85)	0.6	(1.76)	脚部欠損
361	199	打製石鏃	E5	VI	安山岩	2.65	2.1	0.45	1.6	

(　)の値は残存値を示す。

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
362	324	打製石鏃	E4	V	ホルンフェルス	(4.05)	2.55	0.5	(4.17)	先端部欠損
363	59	打製石鏃	C1	V	頁岩	(3.0)	(1.7)	0.3	(1.6)	先端部・脚部欠損
364	367	打製石鏃	B7	V	頁岩	(2.6)	(1.55)	(0.25)	(1.1)	先端部・脚部欠損
365	353	打製石鏃	E5	V	黒曜石(腰岳)	(1.9)	(1.4)	0.3	(0.42)	先端部・脚部欠損
366	330	打製石鏃	C1	V	黒曜石(針尾)	(1.65)	(1.4)	0.3	(0.36)	脚部欠損
367	344	打製石鏃	D7	V	黒曜石(針尾)	1.85	1.5	0.4	0.59	
368	342	打製石鏃	D7	V	黒曜石(針尾)	(2.25)	(1.3)	0.4	(0.64)	脚部欠損
369	375	打製石鏃	―	V	黒曜石(姫島)	(1.35)	1.25	0.3	(0.3)	先端部・脚部欠損
370	195	打製石鏃	C1	VI	黒曜石(姫島)	(1.9)	1.5	0.3	(0.47)	脚部欠損
371	228	打製石鏃	E5	VI	黒曜石(姫島)	(1.5)	(1.3)	0.3	(0.31)	先端部・脚部欠損
372	289	打製石鏃	D7	V	黒曜石(姫島)	2.15	1.5	0.3	0.53	
373	311	打製石鏃	―	V	黒曜石(姫島)	2.1	1.5	0.4	0.76	
374	343	打製石鏃	D7	V	黒曜石(姫島)	(2.0)	(1.2)	0.3	(0.4)	脚部欠損
375	340	打製石鏃	D6	V	黒曜石(姫島)	(2.4)	1.6	0.35	(0.8)	先端部欠損
376	352	打製石鏃	E5	V	安山岩	(2.1)	1.85	0.35	(1.0)	先端部欠損
377	202	打製石鏃	E6	VI	黒曜石(西北九州)	2.6	1.7	0.4	1.0	
378	205	打製石鏃	F4	VI	黒曜石(針尾)	1.65	1.15	0.3	0.35	
379	303	打製石鏃	E4	V	黒曜石(針尾)	1.55	1.45	2.5	0.35	
380	309	打製石鏃	F4	V	黒曜石(針尾)	1.7	1.45	0.3	0.39	
381	364	打製石鏃	―	V	黒曜石(針尾)	1.6	(1.75)	0.25	(0.3)	脚部欠損
382	201	打製石鏃	E6	VI	黒曜石(針尾)	2.2	1.6	0.4	0.8	
383	196	打製石鏃	C2	VI	黒曜石(針尾)	2.2	1.5	0.25	0.5	
384	274	打製石鏃	B7	VI	黒曜石(姫島)	2.85	2.4	0.45	1.58	
385	319	打製石鏃	C4	V	黒曜石(姫島)	(1.9)	1.55	0.55	(1.0)	先端部欠損
386	215	打製石鏃	E5	VI	黒曜石(姫島)	2.0	1.55	0.4	0.7	
387	332	打製石鏃	C3	V	黒曜石(姫島)	(2.2)	1.85	0.35	(0.8)	先端部欠損
388	291	打製石鏃	D7	V	黒曜石(姫島)	2.05	1.75	0.3	0.8	
389	327	打製石鏃	B7	V	安山岩	2.25	2.2	0.45	1.47	
390	298	打製石鏃	E3	V	チャート	2.0	1.7	0.4	1.05	
391	287	打製石鏃	D6	V	チャート	(1.85)	(1.6)	0.45	(0.97)	脚部欠損
392	361	打製石鏃	F4	V	チャート	(2.75)	(1.75)	0.45	(1.4)	脚部欠損
393	273	打製石鏃	B6	V	チャート	2.65	1.25	0.25	0.8	
394	194	打製石鏃	B7	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	1.5	0.3	0.55	
395	227	打製石鏃	E4	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.75)	(1.65)	0.3	(0.77)	先端部・脚部欠損
396	297	打製石鏃	E3	V	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.85)	(1.5)	0.3	(0.48)	脚部欠損
397	197	打製石鏃	C2	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.1	1.65	0.3	0.87	
398	351	打製石鏃	E4	V	黒曜石(針尾)	(2.75)	(1.85)	0.55	(1.87)	脚部欠損
399	318	打製石鏃	C1	V	黒曜石(姫島)	1.75	1.4	0.3	0.6	
400	316	打製石鏃	B4	V	黒曜石(姫島)	(1.8)	1.45	0.3	(0.6)	先端部欠損
401	279	打製石鏃	C1	V	黒曜石(姫島)	(1.7)	1.55	0.3	(0.63)	脚部欠損
402	331	打製石鏃	C2	V	黒曜石(姫島)	(1.6)	1.8	0.4	(0.7)	先端部欠損
403	315	打製石鏃	―	VI	黒曜石(姫島)	1.85	(1.3)	0.35	(0.53)	脚部欠損
404	373	打製石鏃	E2	V	安山岩	(1.3)	(1.35)	0.5	(0.66)	先端部・脚部欠損
405	192	打製石鏃	B5	VI	安山岩	1.95	1.4	3.0	0.56	
406	308	打製石鏃	E5	V	黒曜石(針尾)	(1.5)	(1.3)	0.25	(0.26)	脚部欠損
407	288	打製石鏃	D7	V	黒曜石(針尾)	1.85	1.55	0.35	0.57	
408	280	打製石鏃	C2	V	黒曜石(姫島)	(1.55)	(1.4)	0.4	(0.57)	脚部欠損
409	278	打製石鏃	C1	V	黒曜石(姫島)	1.35	1.55	0.3	0.35	
410	337	打製石鏃	D3	V	黒曜石(姫島)	(3.1)	(2.0)	0.4	(1.51)	先端部・脚部欠損
411	360	打製石鏃	F4	V	黒曜石(姫島)	(2.15)	1.8	0.4	(1.04)	先端部欠損
412	229	打製石鏃	E6	VI	黒曜石(姫島)	(2.95)	(1.75)	0.45	(1.3)	脚部欠損

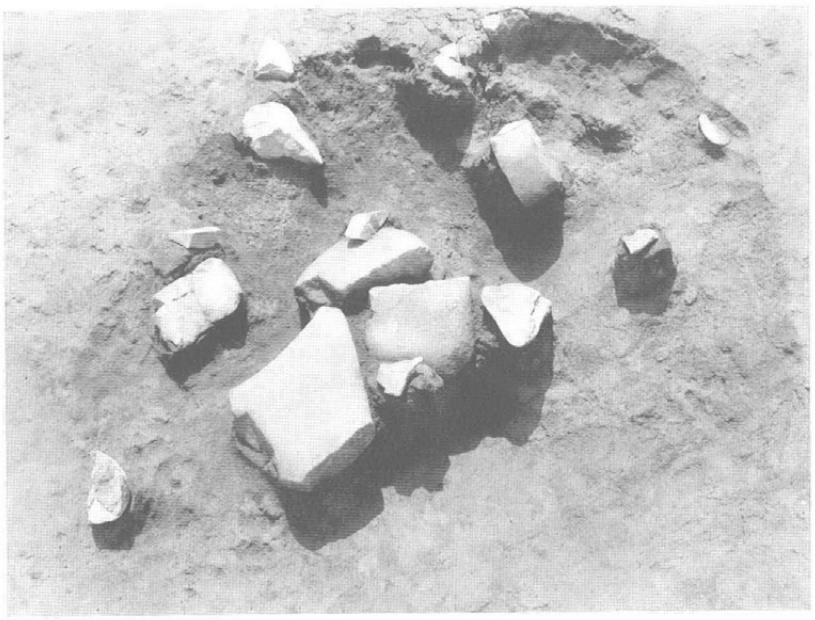
(　)の値は残存値を示す。

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
413	285	打製石鏃	D4	V	黒曜石(姫島)	2.2	1.4	0.3	0.62	
414	306	打製石鏃	E5	V	安山岩	(1.4)	1.8	0.35	(0.42)	先端部・脚部欠損
415	338	打製石鏃	D3	V	安山岩	(2.05)	(1.35)	0.3	(0.54)	脚部欠損
416	302	打製石鏃	E4	V	安山岩	1.5	1.2	0.3	0.3	
417	58	打製石鏃	C2	VI	チャート	(1.95)	1.5	0.5	(0.9)	脚部欠損
418	231	打製石鏃	F3	VI	チャート	(1.85)	(1.55)	0.3	(0.6)	脚部欠損
419	336	打製石鏃	C7	V	チャート	(2.2)	(2.8)	0.4	(1.45)	先端部・脚部欠損
420	301	打製石鏃	E4	V	頁岩	2.6	1.45	0.55	(1.5)	脚部欠損
421	346	打製石鏃	E3	V	黒曜石(針尾)	(1.8)	(1.3)	(0.3)	(0.43)	先端部・脚部欠損
422	326	打製石鏃	B4	V	黒曜石(姫島)	(2.0)	(1.8)	0.35	(0.7)	脚部欠損
423	270	打製石鏃	B1	V	黒曜石(姫島)	(2.25)	(1.6)	0.3	(0.6)	脚部欠損
424	222	打製石鏃	B6	VI	黒曜石(姫島)	(1.95)	(1.45)	0.35	(0.46)	脚部欠損
425	240	打製石鏃	C2	VI	黒曜石(姫島)	(1.6)	(1.35)	0.45	(0.61)	脚部欠損
426	217	打製石鏃	A2	VI	黒曜石(姫島)	(1.8)	(1.1)	0.35	(0.58)	脚部欠損
427	329	打製石鏃	C1	V	安山岩	(2.15)	(1.35)	(0.45)	(0.83)	脚部欠損
428	368	打製石鏃	C1	V	安山岩	(1.6)	1.75	(0.25)	(0.6)	先端部欠損
429	223	打製石鏃	D3	VI	黒曜石(西北九州)	(1.8)	(1.75)	0.35	(0.7)	脚部欠損
430	272	打製石鏃	B6	V	チャート	(1.95)	(1.5)	0.55	(1.3)	脚部欠損
431	220	打製石鏃	B5	VI	チャート	(2.0)	(1.55)	0.4	(0.95)	脚部欠損
432	372	打製石鏃	D5	V	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.85)	(1.7)	(0.4)	(0.78)	先端部・脚部欠損
433	230	打製石鏃	F3	VI	黒曜石(腰岳)	(1.65)	(1.15)	0.3	(0.39)	脚部欠損
434	207	打製石鏃	F4	VI	黒曜石(腰岳)	1.5	1.7	0.3	0.48	
435	363	打製石鏃	—	V	黒曜石(姫島)	(1.45)	(1.15)	0.3	(0.33)	先端部・脚部欠損
436	339	打製石鏃	D3	V	黒曜石(姫島)	(1.9)	(1.35)	0.3	(0.5)	脚部欠損
437	292	打製石鏃	D7	V	黒曜石(姫島)	2.1	1.45	0.45	0.78	
438	345	打製石鏃	E3	V	黒曜石(姫島)	(1.8)	(1.45)	0.4	(0.62)	先端部・脚部欠損
439	359	打製石鏃	F3	V	黒曜石(姫島)	(1.9)	(1.8)	0.35	(0.5)	脚部欠損
440	224	打製石鏃	D3	VI	黒曜石(姫島)	(2.35)	(1.55)	0.4	(0.85)	脚部欠損
441	328	打製石鏃	C1	V	黒曜石(姫島)	(2.9)	(1.8)	0.4	(1.3)	先端部・脚部欠損
442	349	打製石鏃	E4	V	安山岩	(1.5)	(1.6)	0.35	(0.64)	先端部・脚部欠損
443	333	打製石鏃	C6	V	安山岩	(1.9)	(1.7)	0.35	(0.58)	脚部欠損
444	225	打製石鏃	D5	VI	安山岩	(1.85)	1.65	0.65	(1.39)	先端部欠損
445	398	打製石鏃未製品	E4	V	チャート	2.8	2.55	1.1	7.2	
446	325	打製石鏃未製品	E5	V	チャート	2.8	2.25	0.95	4.14	
447	377	打製石鏃未製品	B7	V	チャート	2.7	2.65	0.85	4.78	
448	246	打製石鏃未製品	F2	VI	チャート	2.15	1.6	0.65	2.45	
449	256	打製石鏃未製品	—	VI	チャート	2.35	1.65	0.5	1.9	
450	245	打製石鏃未製品	C2	VI	チャート	2.05	2.05	0.7	2.45	
451	379	打製石鏃未製品	C1	V	黒曜石(桑ノ木津留)	2.7	2.2	1.1	5.4	
452	252	打製石鏃未製品	F4	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.35	1.35	0.4	0.6	
453	249	打製石鏃未製品	F3	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.6	1.2	0.5	0.7	
454	253	打製石鏃未製品	F4	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.05	1.6	0.65	1.9	
455	250	打製石鏃未製品	F3	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.4	1.6	0.5	1.5	
456	251	打製石鏃未製品	F4	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	2.0	1.7	0.8	1.9	
457	248	打製石鏃未製品	F3	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.85)	1.7	0.7	(1.4)	先端部欠損
458	376	打製石鏃未製品	B7	V	黒曜石(針尾)	1.6	2.1	0.5	0.92	
459	380	打製石鏃未製品	E3	V	黒曜石	1.7	1.8	0.8	2.17	
460	278	打製石鏃未製品	C1	V	黒曜石(姫島)	1.35	21.55	0.3	0.35	
461	369	打製石鏃未製品	C2	V	黒曜石(姫島)	(1.45)	1.3	(0.3)	(1.4)	先端部欠損
462	381	打製石鏃未製品	E4	V	黒曜石(姫島)	2.95	2.35	1.05	4.9	
463	382	打製石鏃未製品	E5	V	安山岩	2.35	2.1	0.9	3.85	

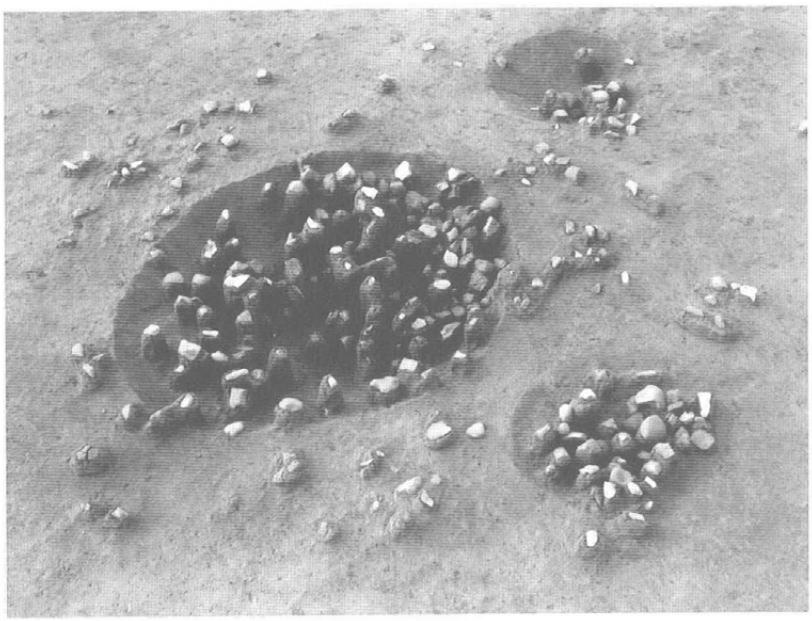
(　)の値は残存値を示す。

遺物No.	整理No.	器種	出土グリッド	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	備考
464	247	打製石鏃未製品	F3	VI	玉髄	3.0	2.45	0.85	5.65	
465	383	打製石鏃未製品	E6	V	ホルンフェルス	2.65	2.2	0.95	3.75	
466	189	尖頭器未製品	ー	ー	安山岩	6.3	3.3	1.2	19.7	
467	262	尖頭状石器未製品	C6	VI	頁岩	4.3	4.0	1.1	17.4	
468	261	尖頭状石器未製品	B4	VI	頁岩	4.5	2.9	1.3	17.05	
469	263	尖頭状石器未製品	E4	VI	頁岩	4.85	3.9	1.25	17.9	
470	396	抉入石器	E5	V	黒曜石(腰岳)	1.8	1.3	0.4	0.7	
471	204	異形石器	F3	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	(1.3)	(1.55)	0.25	(0.48)	脚部欠損
472	395	異形石器	D5	ー	頁岩	3.0	2.5	0.6	3.8	
473	188	異形石器	ー	ー	流紋岩	(5.0)	(3.35)	1.0	(15.3)	脚部欠損
474	390	石錐	D7	V	チャート	3.85	1.9	1.05	6.4	
475	389	石錐	C2	V	チャート	2.4	1.65	0.6	1.9	
476	394	石錐	E5	V	チャート	2.2	2.0	0.75	1.8	
477	392	石錐	E4	V	頁岩	4.1	4.35	1.2	(15.8)	
478	259	石錐	F4	VI	流紋岩	2.3	1.9	0.4	1.2	
479	388	石錐	C1	V	黒曜石	3.85	1.6	0.75	2.4	
480	391	石錐	E2	V	黒曜石(姫島)	3.25	1.55	0.8	2.4	
481	393	石錐	E6	V	安山岩	3.65	1.35	0.7	2.4	
482	258	石錐	E6	VI	玉髄	3.55	2.25	1.0	6.5	
483	386	石匙	E4	V	黒曜石(姫島)	2.65	4.0	0.8	4.5	
484	384	石匙	D5	V	サヌカイト	2.7	5.8	1.15	14.0	
485	385	石匙	D7	V	砂岩	3.25	4.3	0.65	6.0	
486	402	スクレイパー	B1	V	流紋岩	12.45	9.1	1.7	210.0	
487	406	スクレイパー	ー	VI	尾鈴山酸性岩	10.15	8.7	2.9	274.7	
488	265	スクレイパー	B7	VI	チャート	(4.2)	(4.5)	(1.25)	(14.7)	
489	424	スクレイパー	D6	VI	流紋岩	6.8	4.2	1.8	54.78	
490	403	スクレイパー	E3	V	流紋岩	7.9	5.05	2.5	88.8	
491	405	スクレイパー	F3	V	流紋岩	5.25	3.0	1.3	17.6	
492	266	スクレイパー	F4	VI	頁岩	5.9	3.0	1.55	24.8	
493	404	スクレイパー	E4	V	頁岩	7.55	4.1	1.15	34.27	
494	408	磨製石斧	C1	V	頁岩	4.9	2.8	0.65	13.3	
495	409	磨製石斧	ー	V	ホルンフェルス	(3.75)	(4.2)	(1.2)	(22.6)	
496	1	石斧	C1	V	安山岩	11.7	7.4	3.05	304.03	
497	411	剥片	D4	V	チャート	5.35	3.2	1.2	18.4	
498	264	剥片	E8	VI	頁岩	(3.6)	(2.65)	(0.95)	(5.3)	
499	410	剥片	C4	V	流紋岩	6.85	3.1	1.4	16.0	
500	61	剥片	B8	VI	頁岩	8.9	8.5	6.2	598	
501	423	石核	C1	V	頁岩	6.1	9.8	4.1	204.83	
502	399	石核	E4	VI	黒曜石(桑ノ木津留)	1.7	2.0	0.7	2.6	
503	390	石核	D7	V	チャート	3.85	1.9	1.05	6.4	
504	413	石核	E2	V	安山岩	2.5	3.0	0.8	7.09	
505	426	石核	C7	VI	凝灰岩	8.75	9.45	4.2	292.06	
506	989	石核	ー	V	黒曜石(姫島)	18.1	12	6.3	1245	
507	430	敲石	D3	VI	砂岩	10.55	11.95	4.2	706.8	
508	429	敲石	E3	VI	砂岩	12.4	4.8	2.85	256.8	
509	431	磨石	D7	VI	砂岩	10.25	9.5	4.5	603.1	
510	432	敲石	D7	VI	砂岩	9.2	5.65	4.3	286.0	
511	433	敲石	E3	VI	砂岩	9.75	5.95	3.8	318.5	
512	428	磨石	D3	VI	砂岩	11.8	9.4	4.1	627.6	
513	427	磨石	D7	VI	尾鈴山酸性岩	10.3	9.5	4.1	576.9	

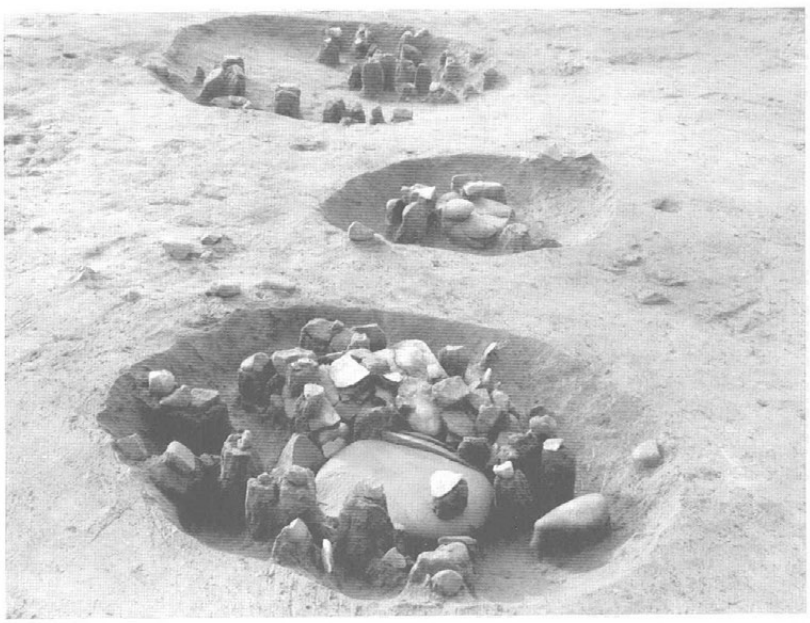
(　)の値は残存値を示す。



SI-2《^{14}C 年代：8190±40 年 BP》



SI-21・32・33



SI-29・30・31

写真図版 9　縄文時代早期遺構①

SI-17

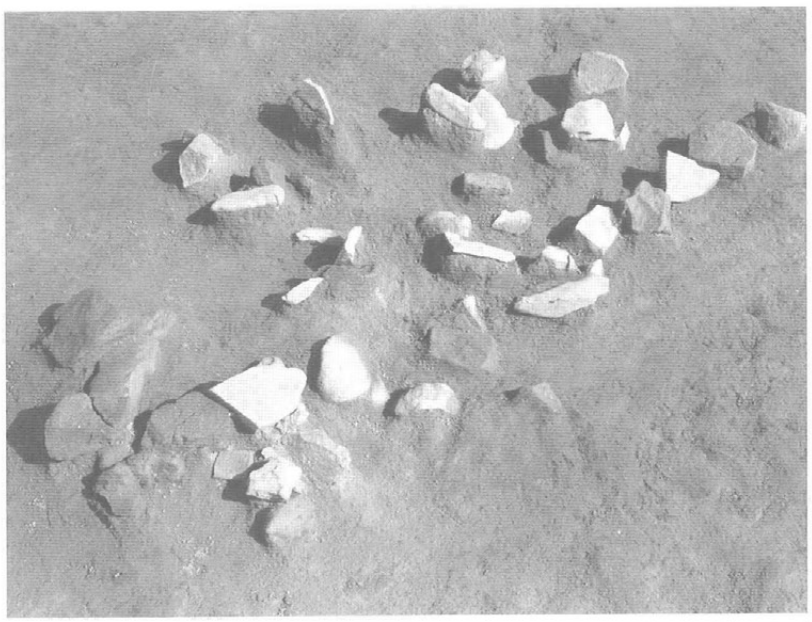
SI-17　底石

SI-16

写真図版 10　縄文時代早期遺構②

SI-22

SI-23

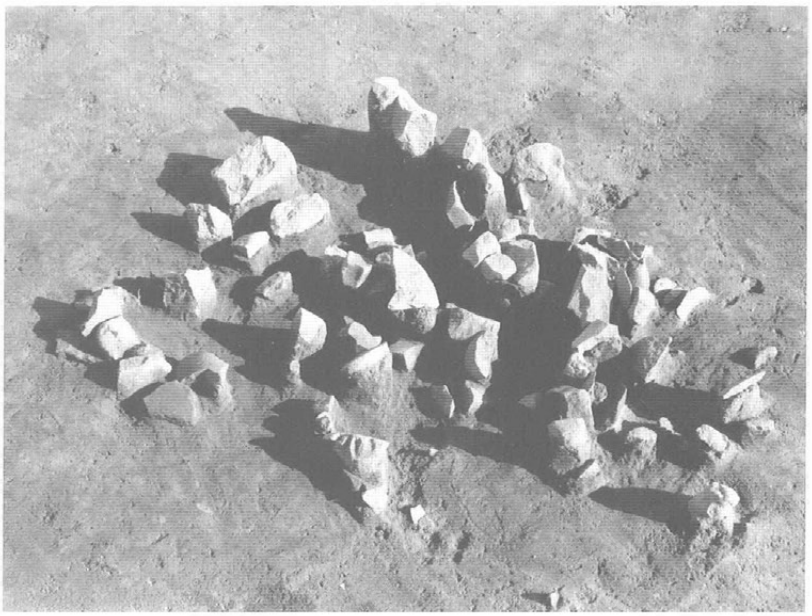


SI-44

写真図版 11　縄文時代早期遺構③

SI-9

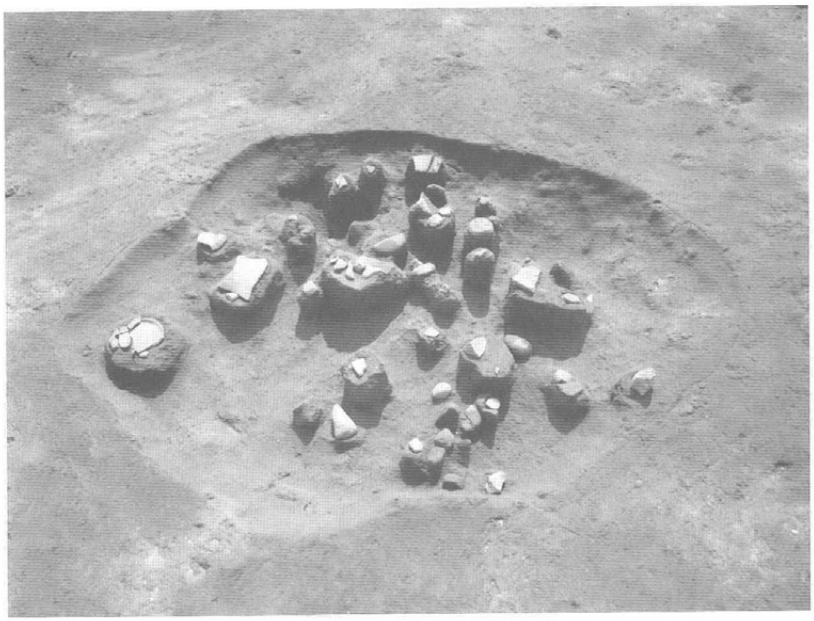
SI-37



SI-41

写真図版 12　縄文時代早期遺構④

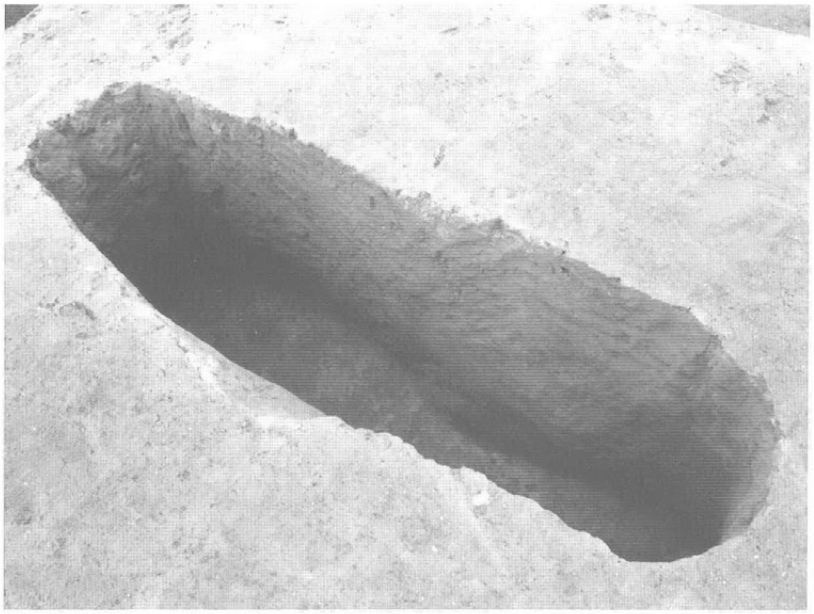
SI-5



SC-1

SC-22

写真図版 13　縄文時代早期遺構⑤

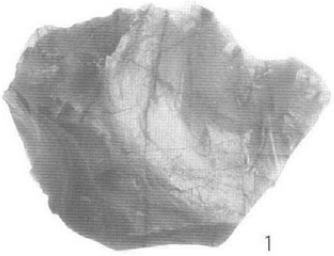


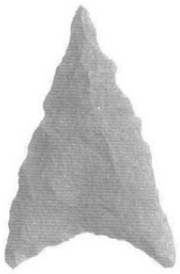
SC-23

SC-24

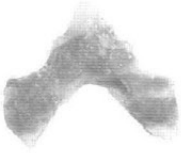
SC-26

写真図版 14　縄文時代早期遺構⑥


1

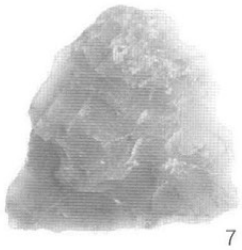

2

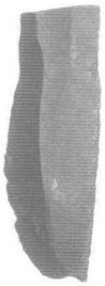
3

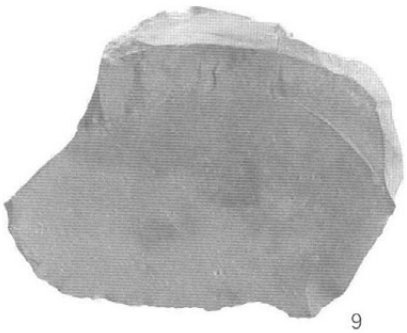

4

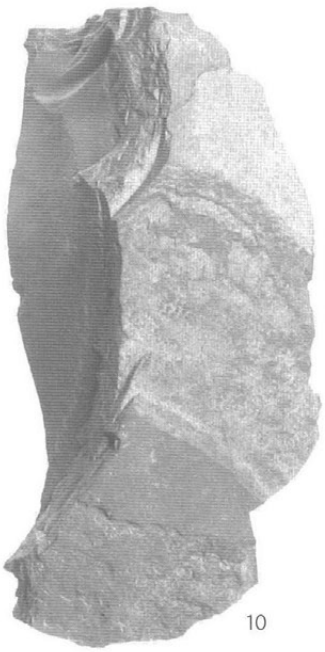
5

6


7


8


9

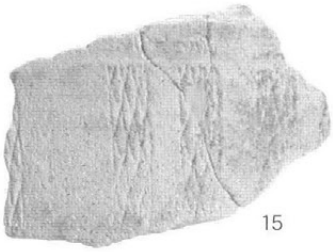

10

20

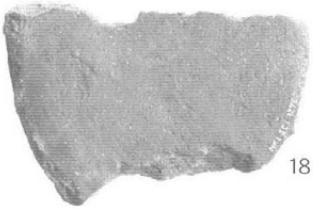
21

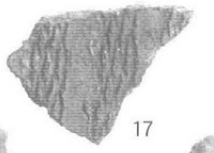
写真図版 15　遺構内（集石遺構・土坑）出土遺物①

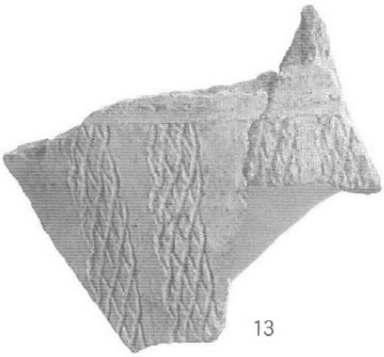
11


15

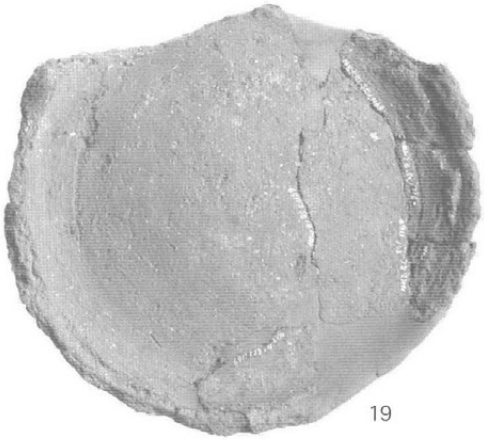
16


18


17


13

14


19

12

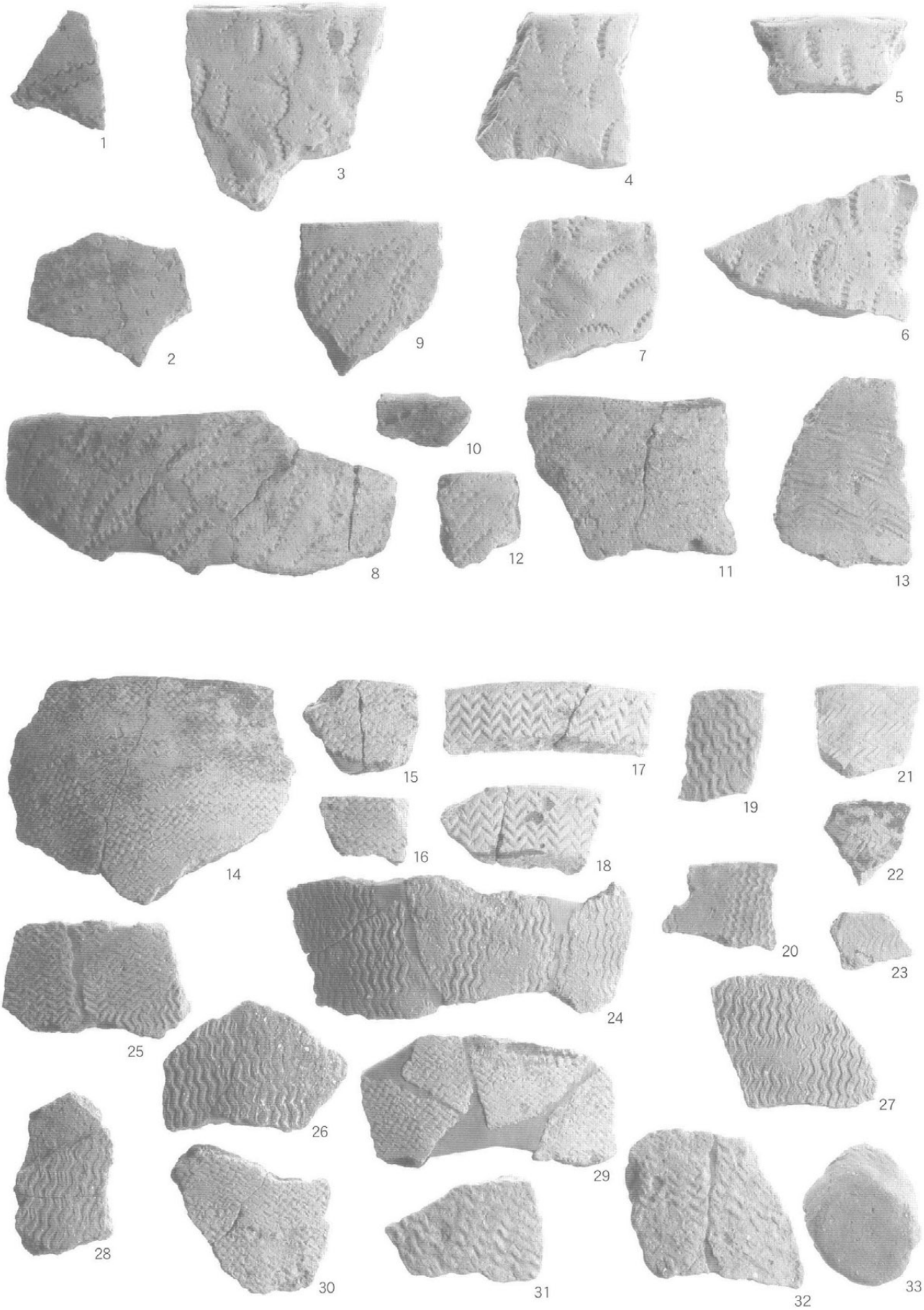
22

23

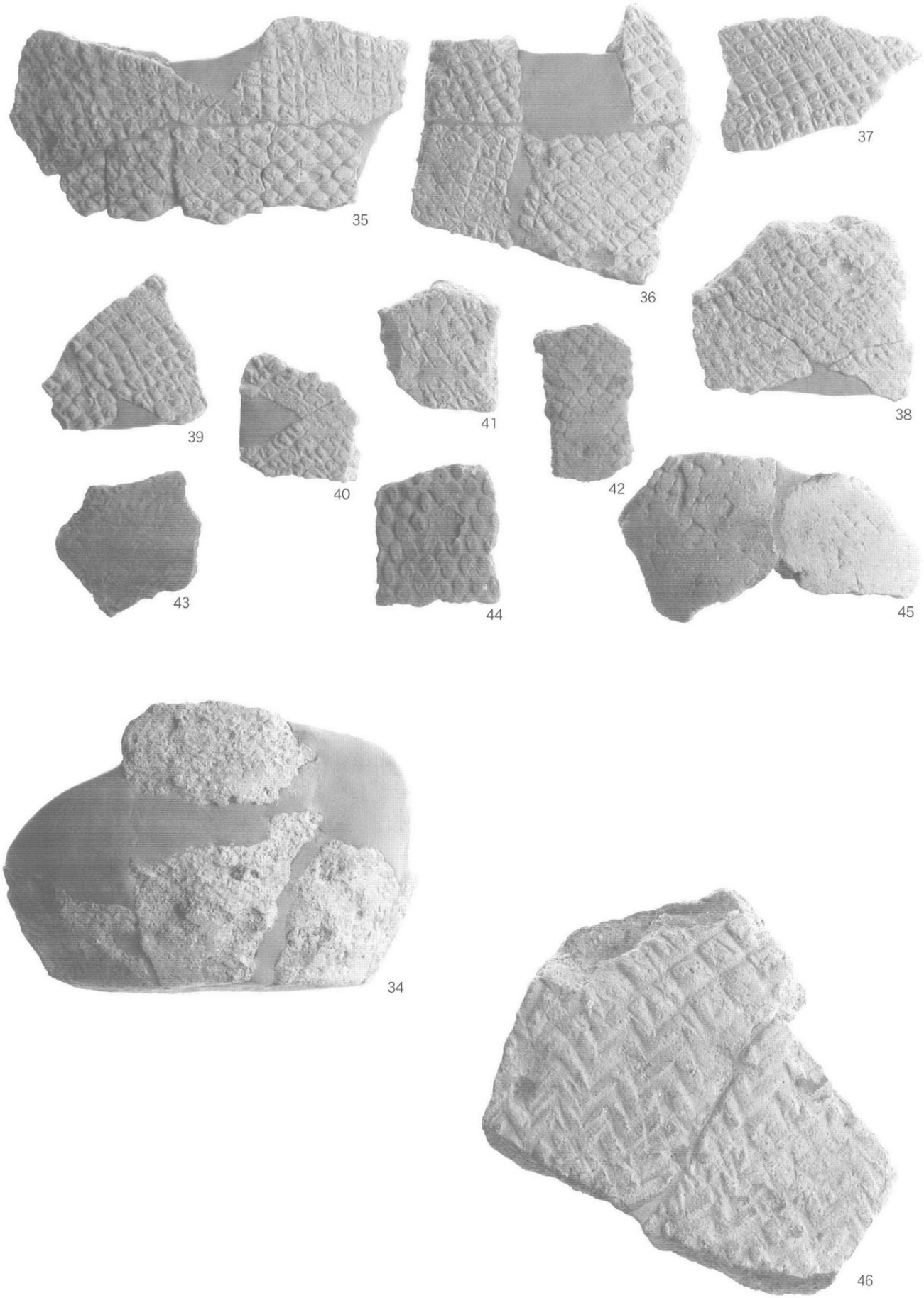
24

25

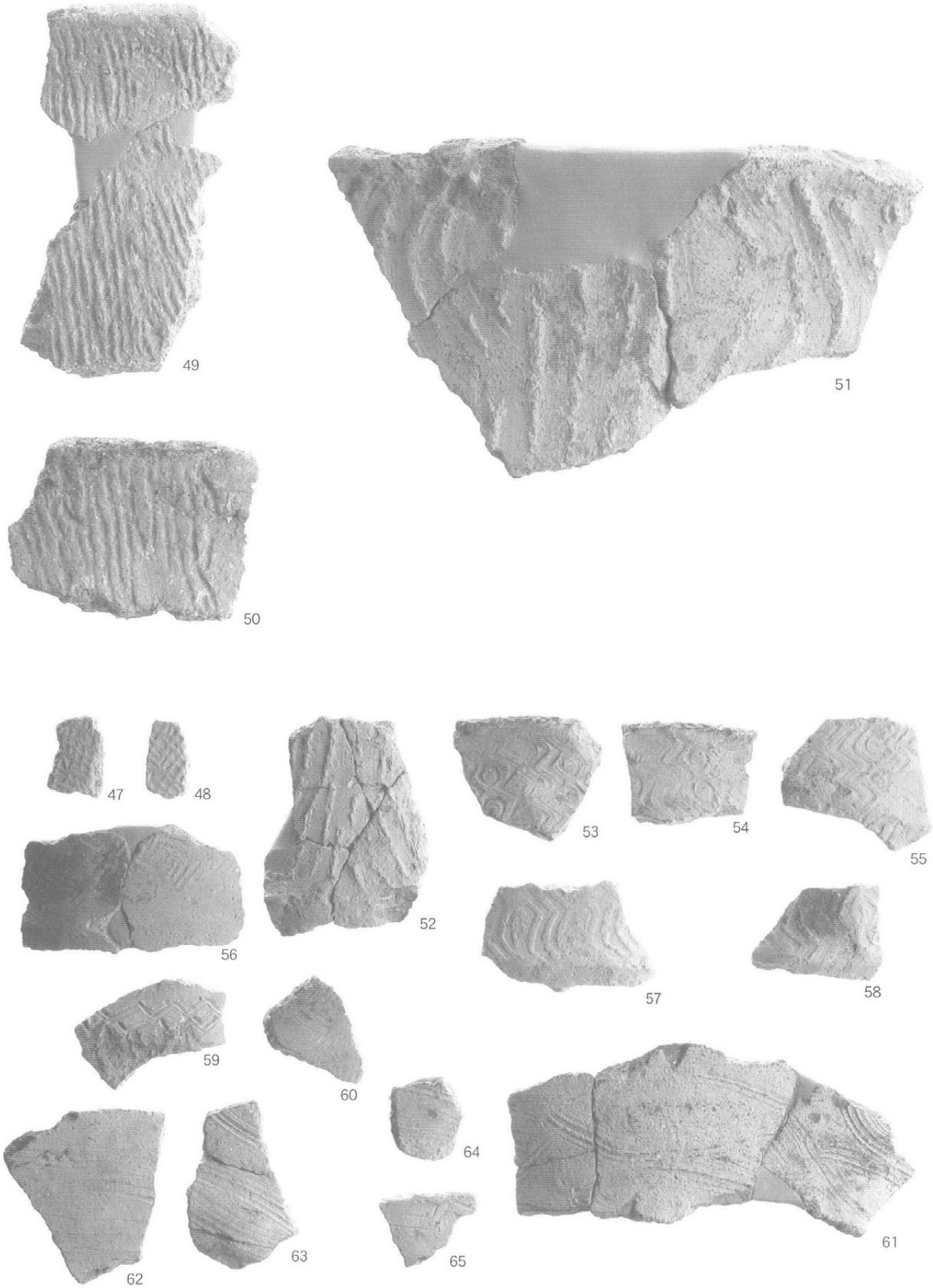
写真図版 16　遺構内（集石遺構・土坑）出土遺物②



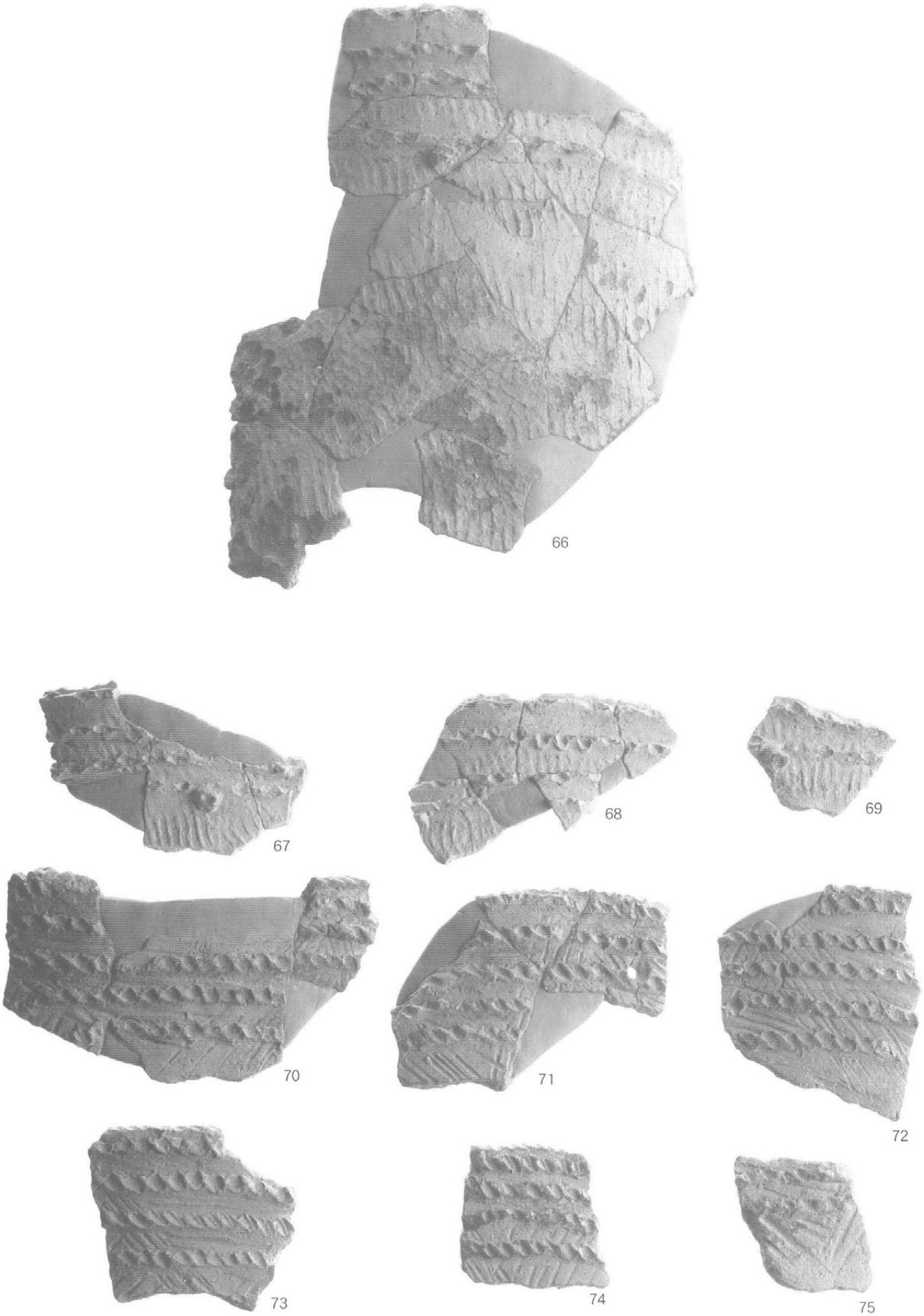
写真図版 17　縄文時代早期遺物包含層出土土器①



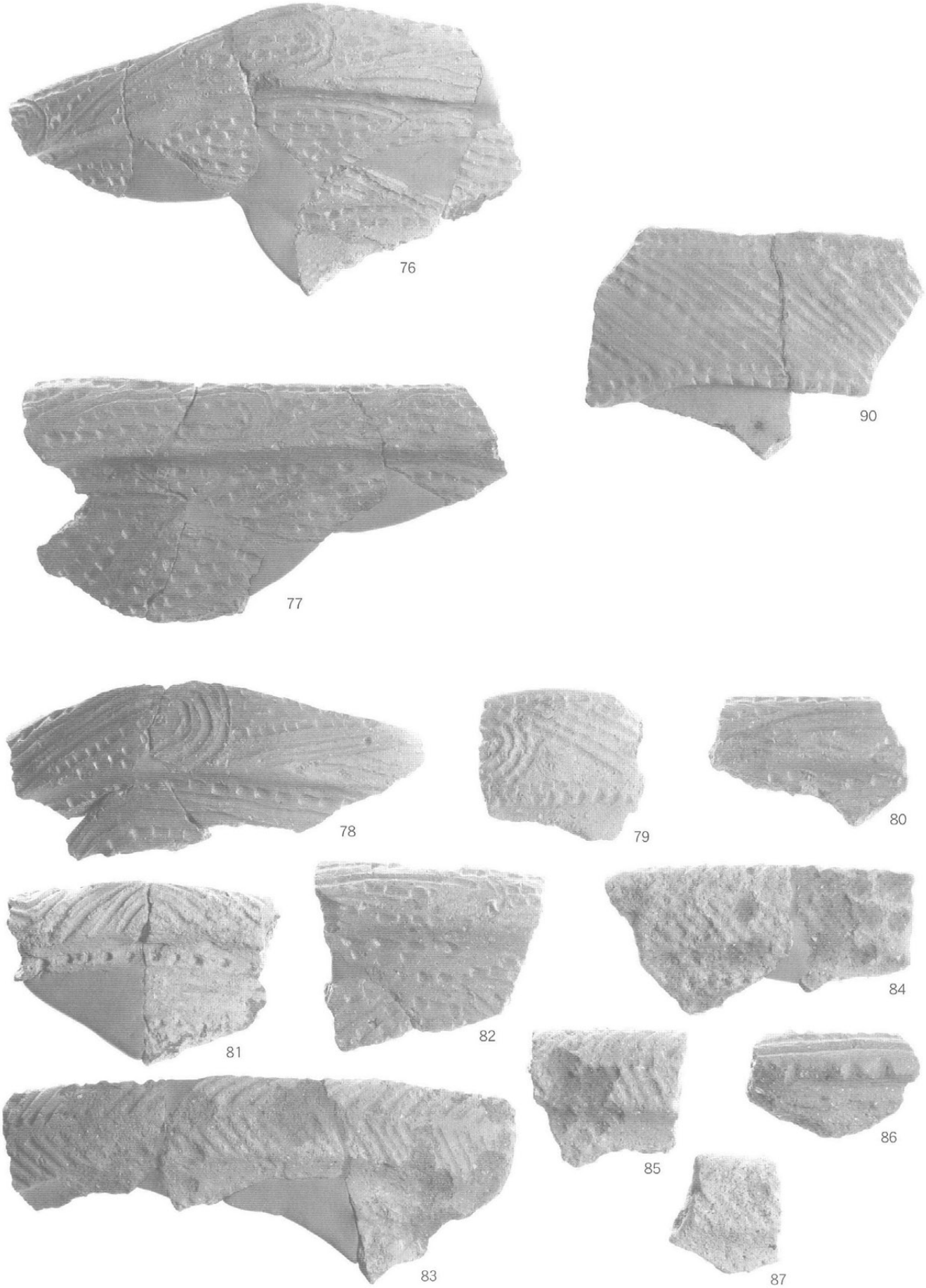
写真図版 18　縄文時代早期遺物包含層出土土器②



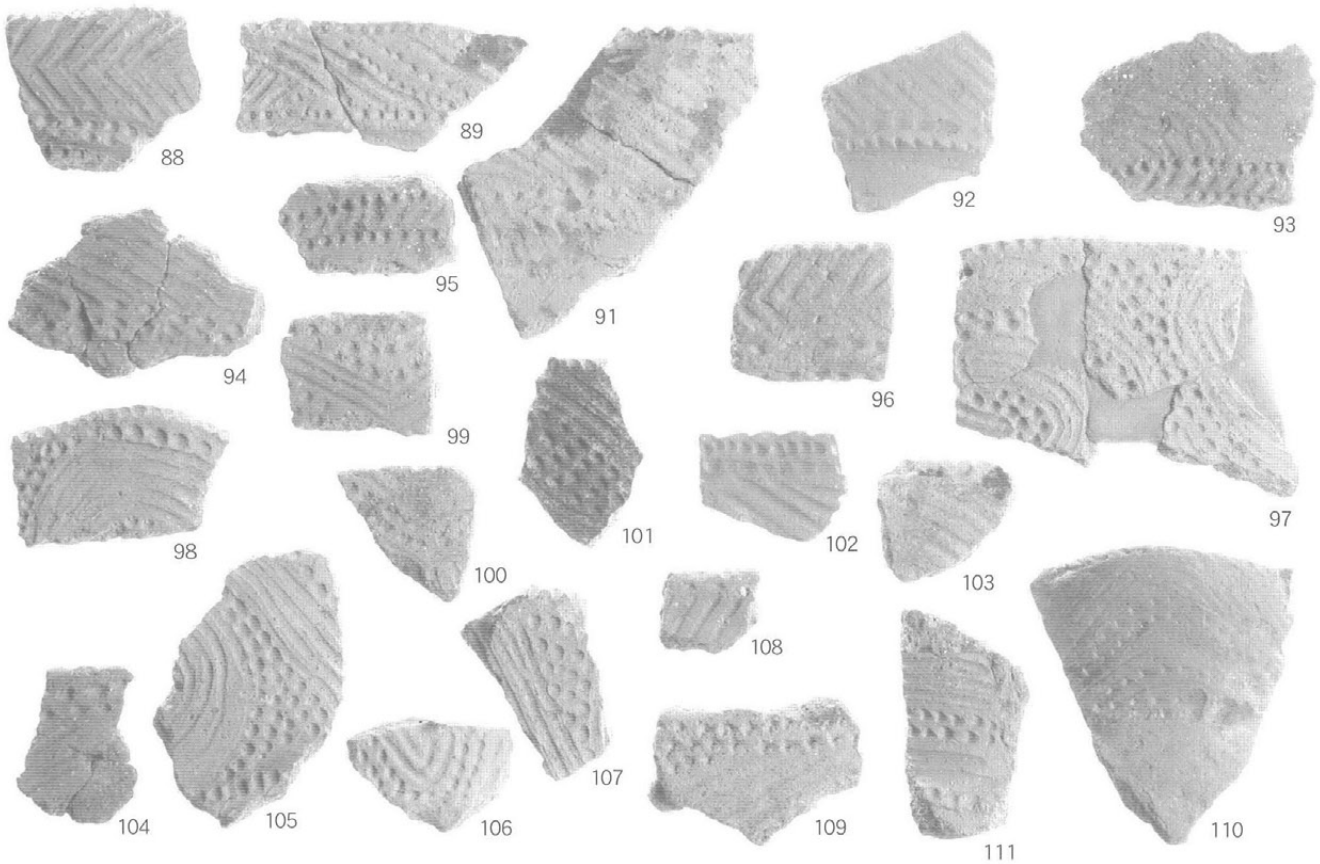
写真図版 19　縄文時代早期遺物包含層出土土器③

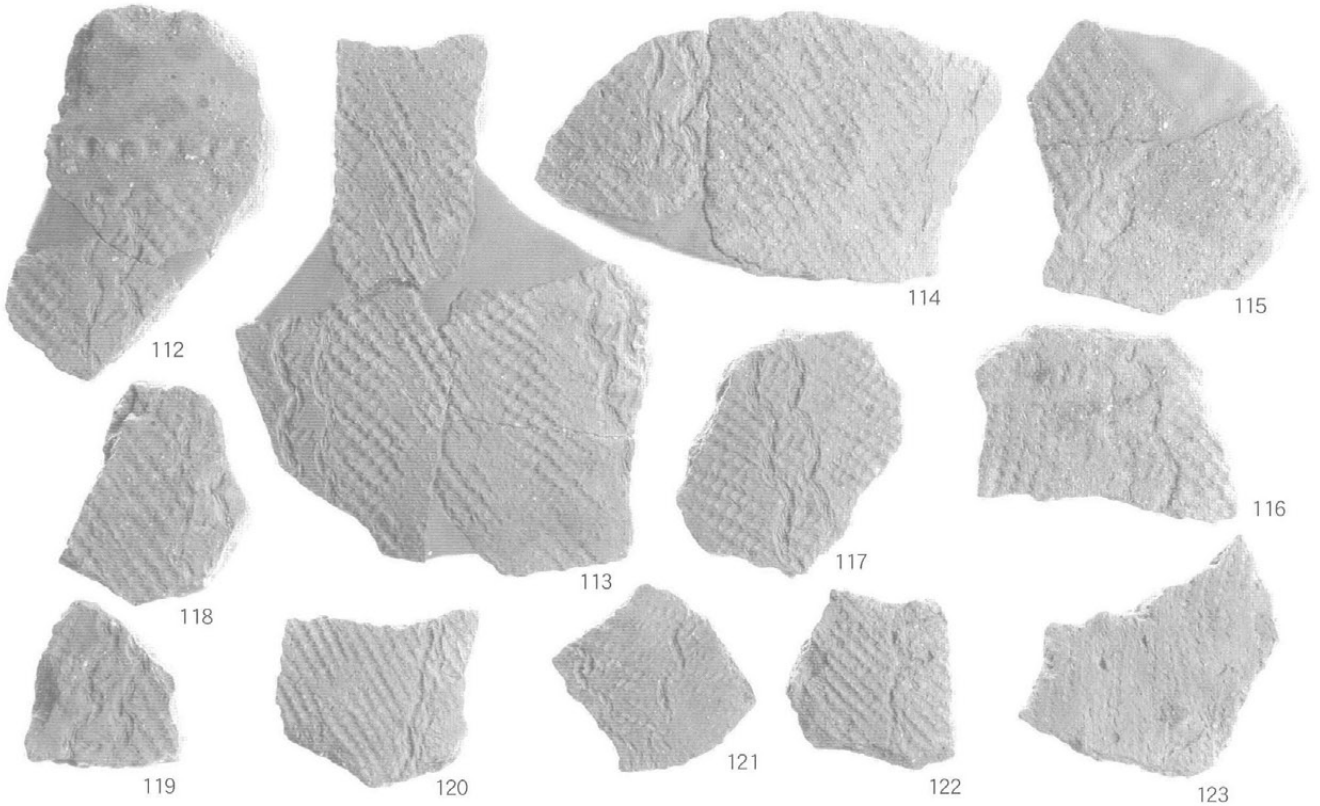


写真図版 20　縄文時代早期遺物包含層出土土器④

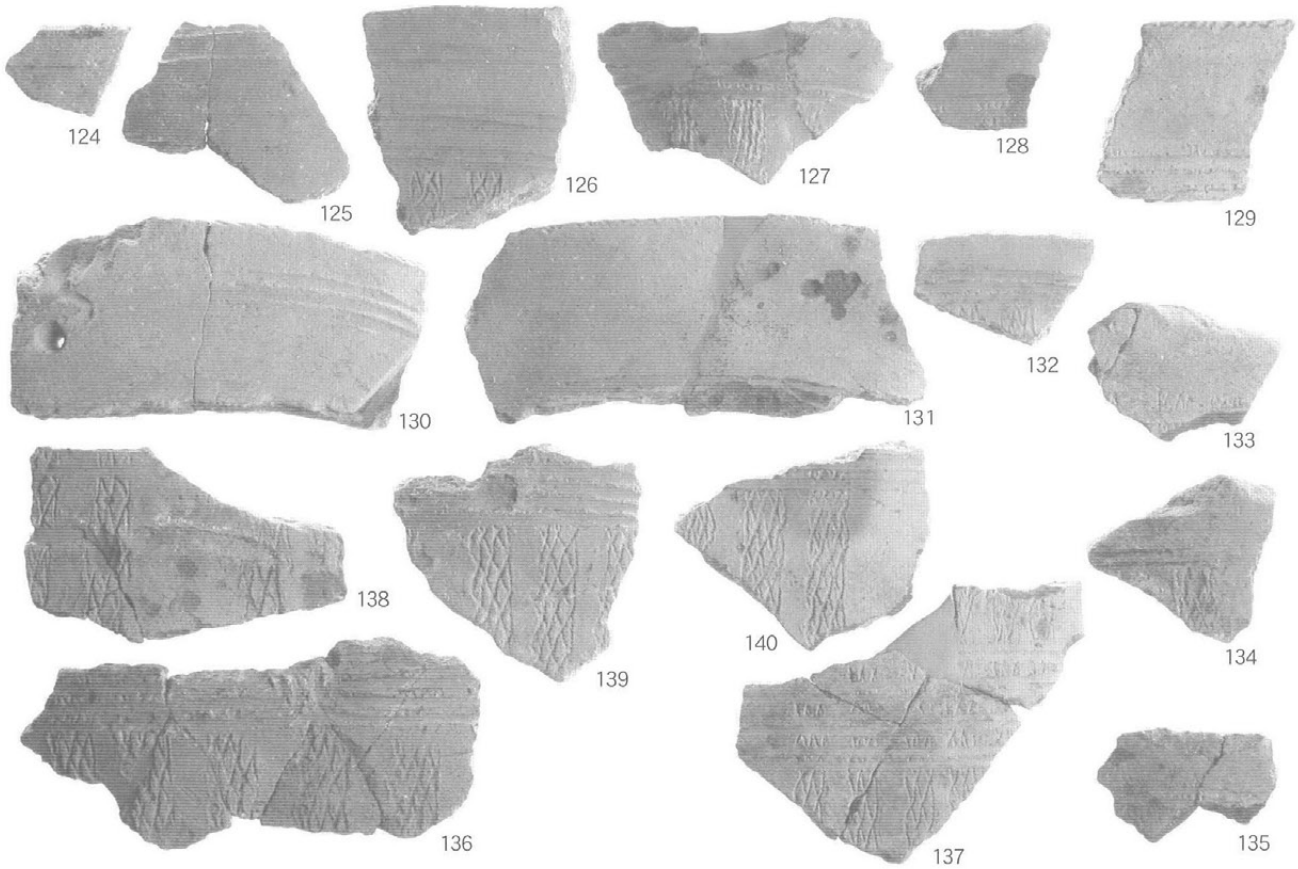


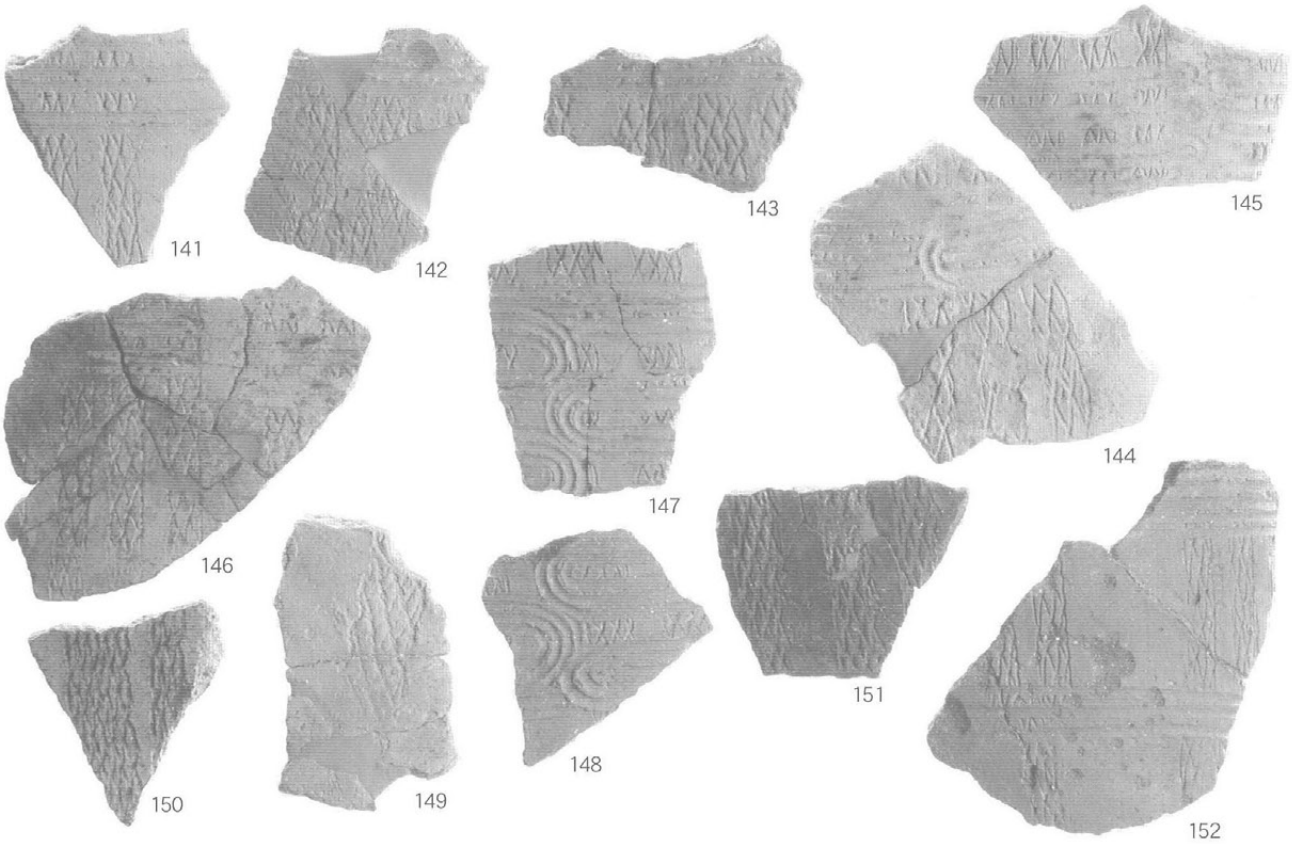
写真図版 21　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑤



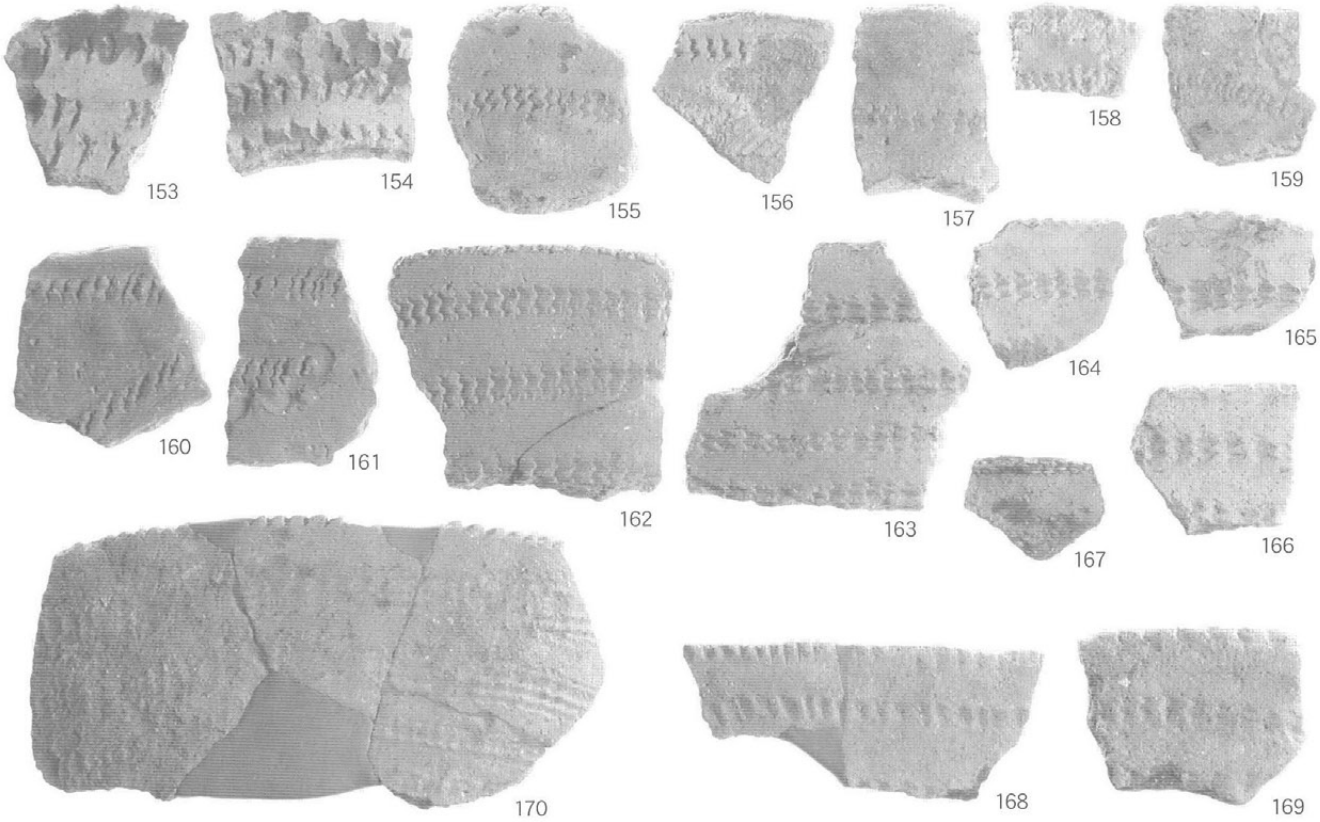


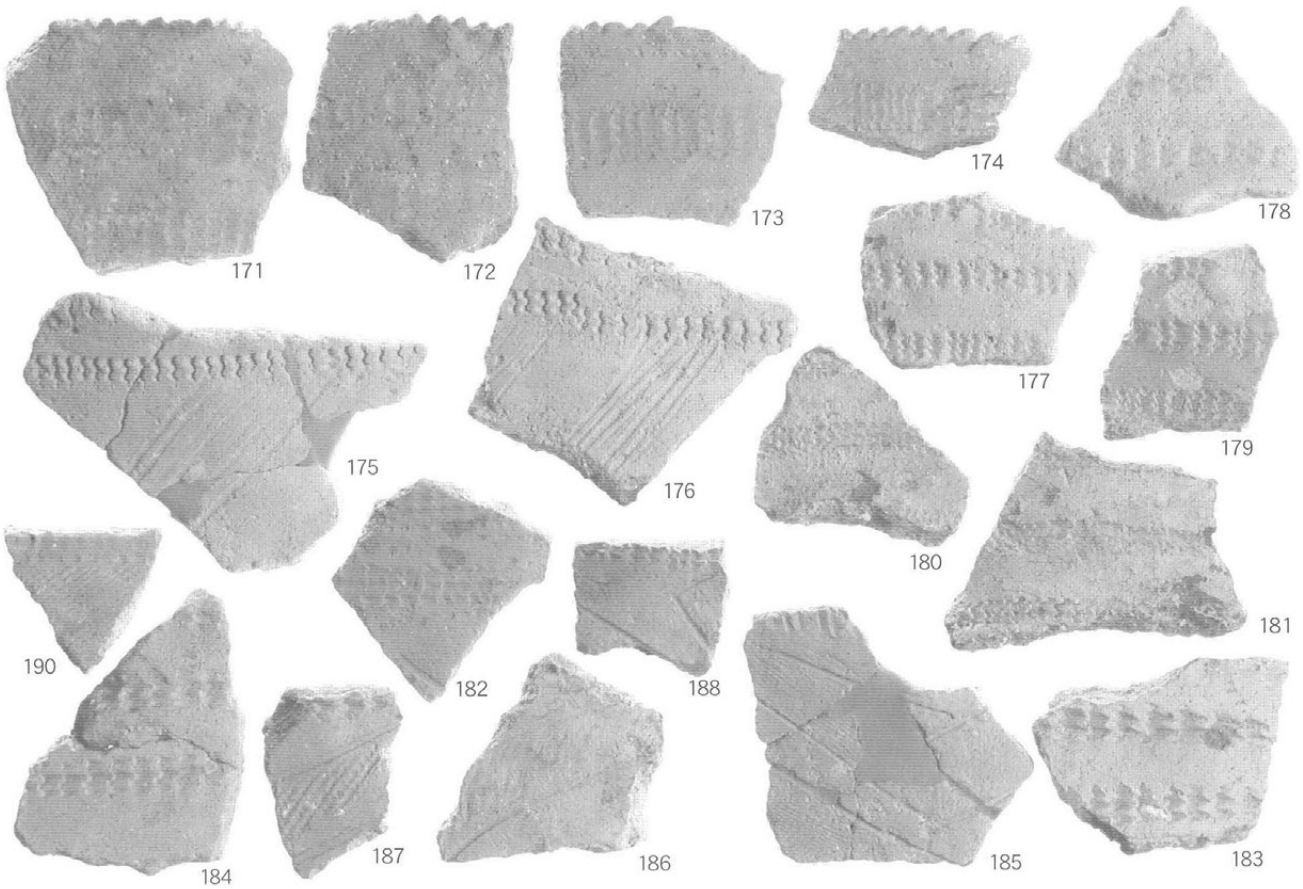
写真図版 22　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑥



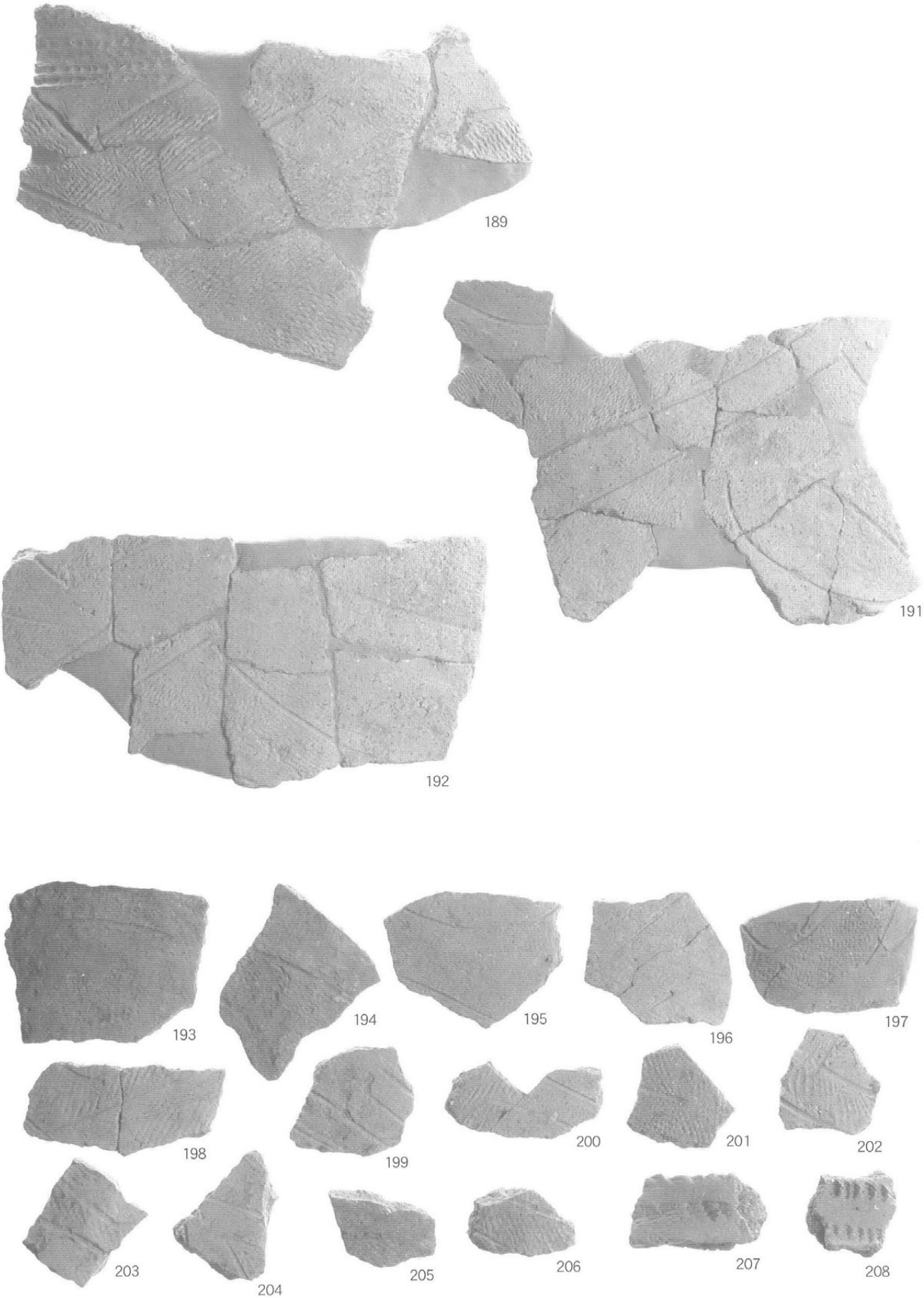


写真図版 23　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑦

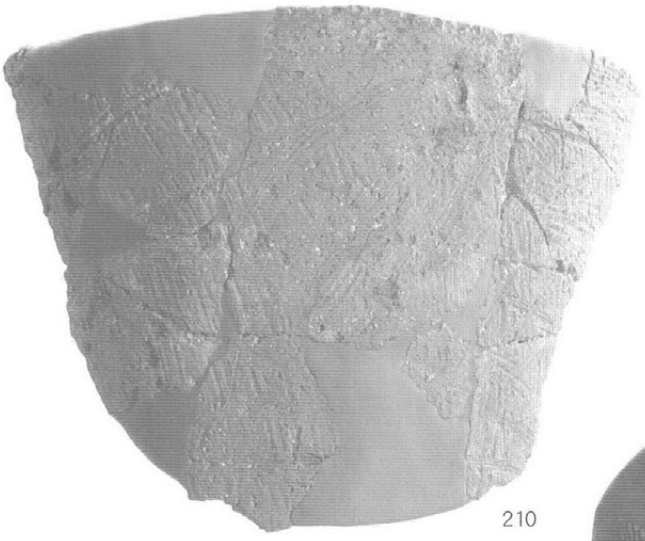




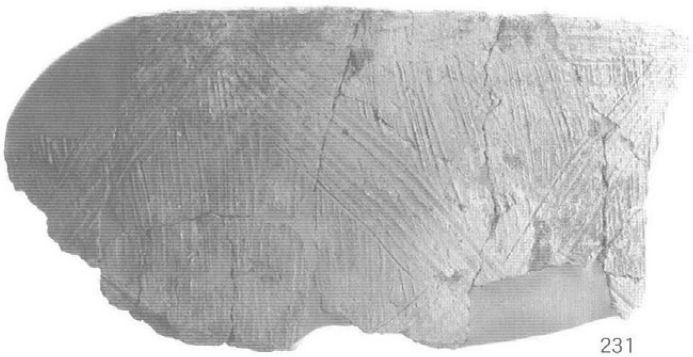
写真図版 24　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑧



写真図版 25　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑨



210

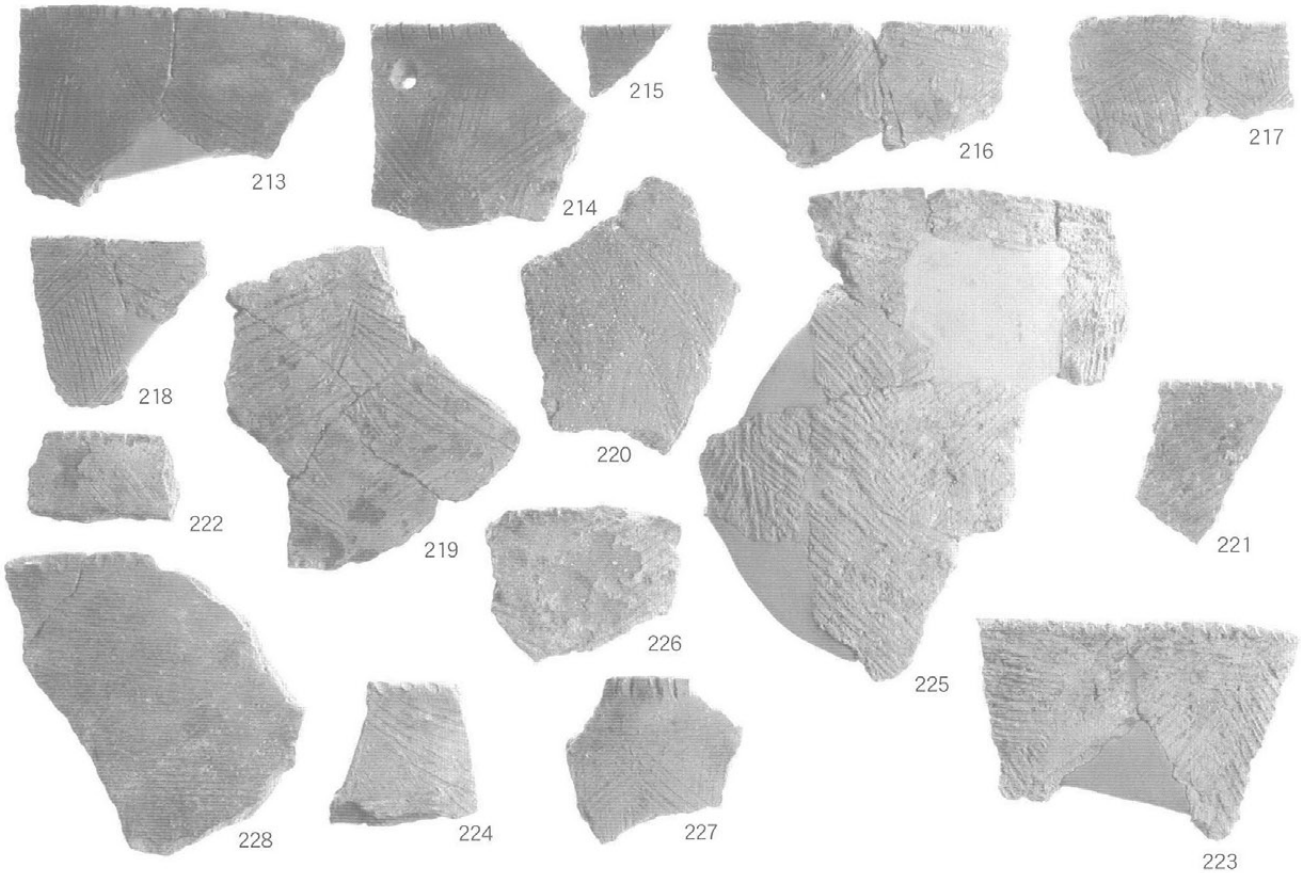


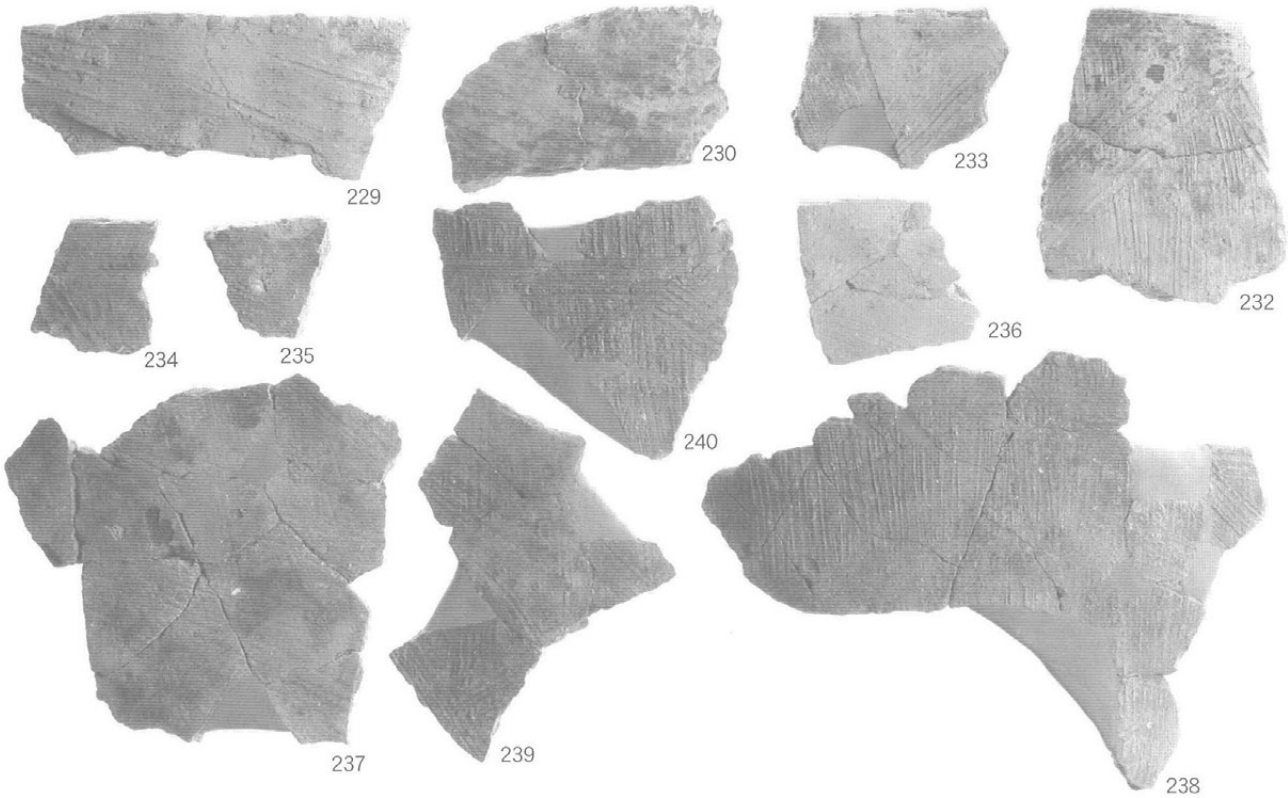
231

211

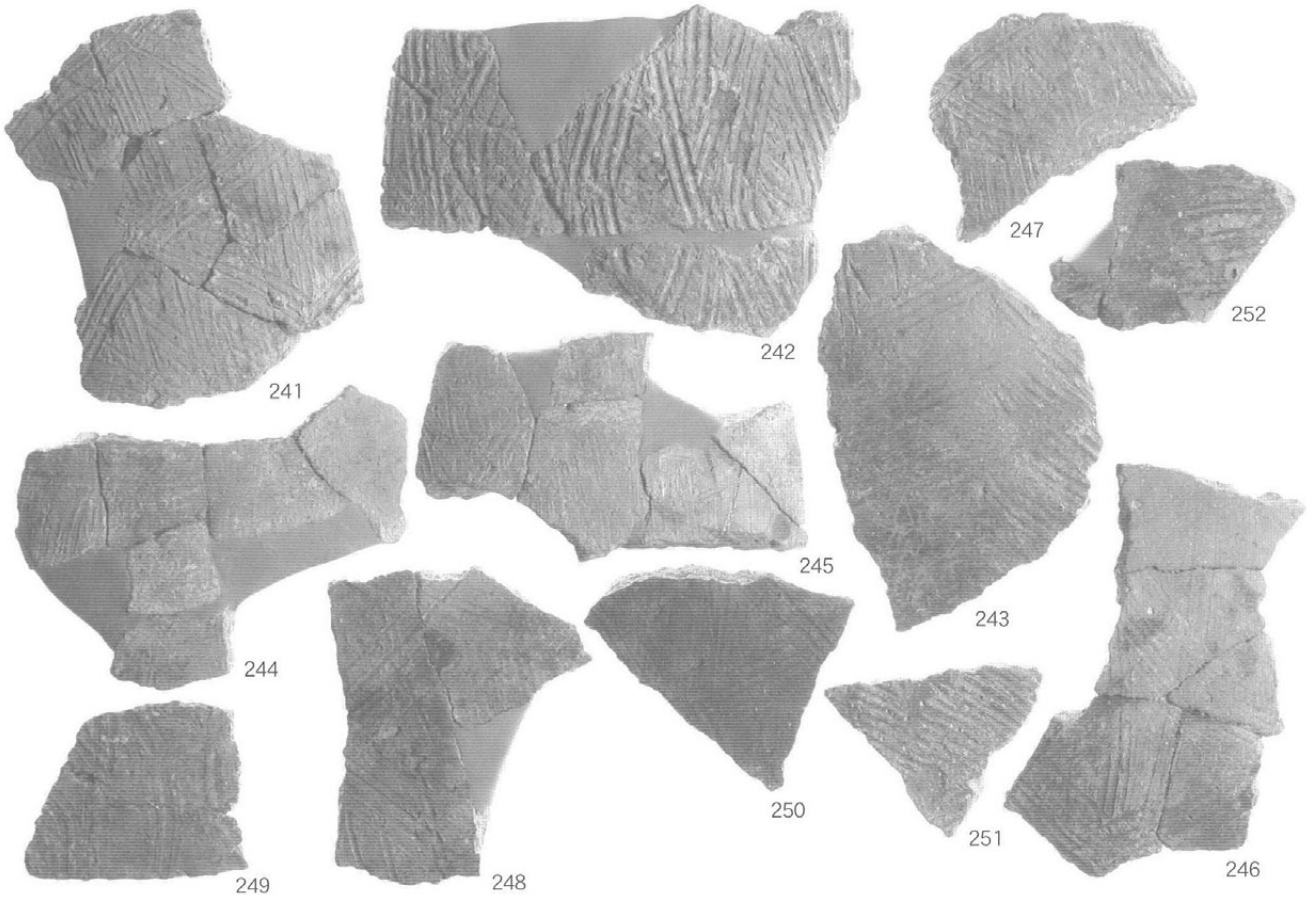
212

写真図版 26　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑩

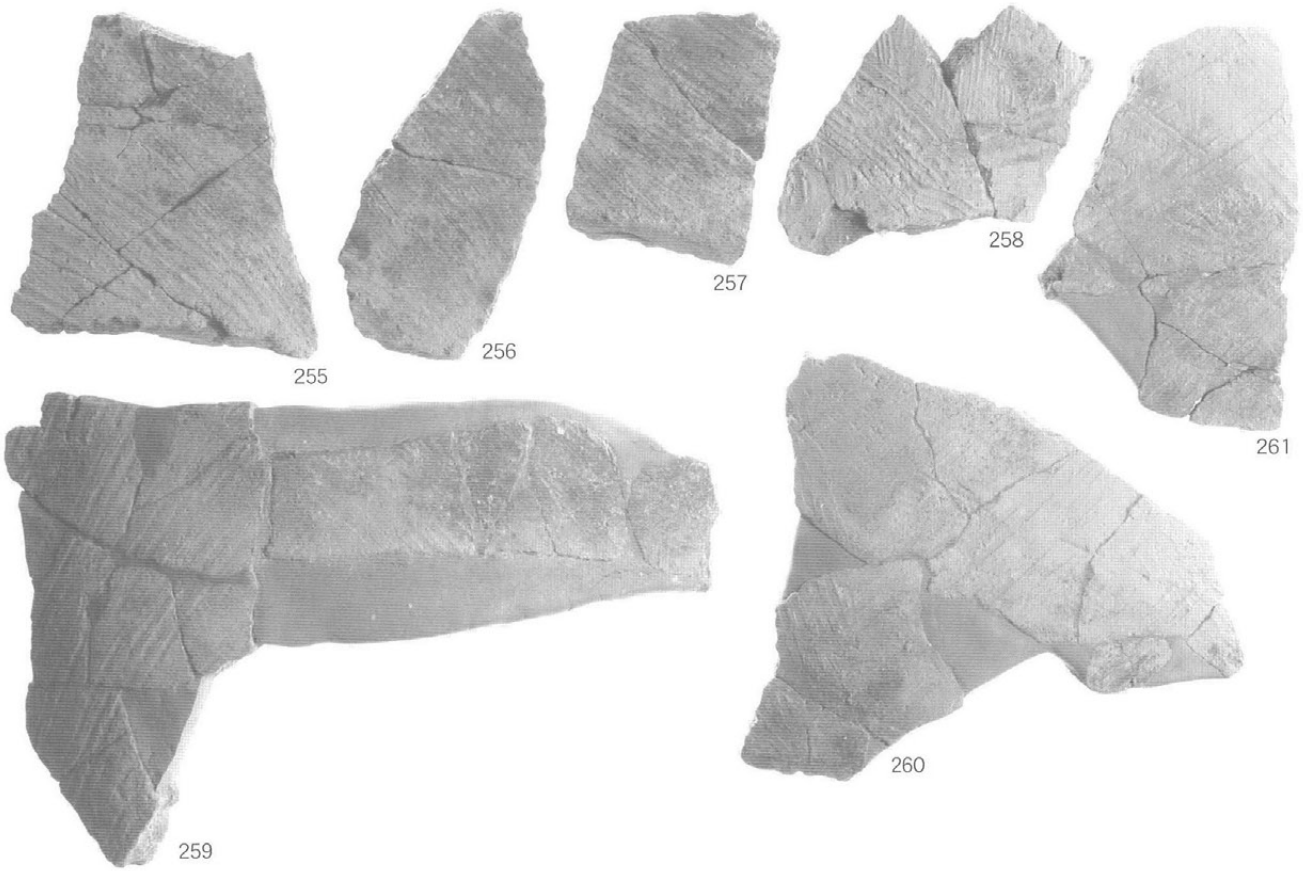




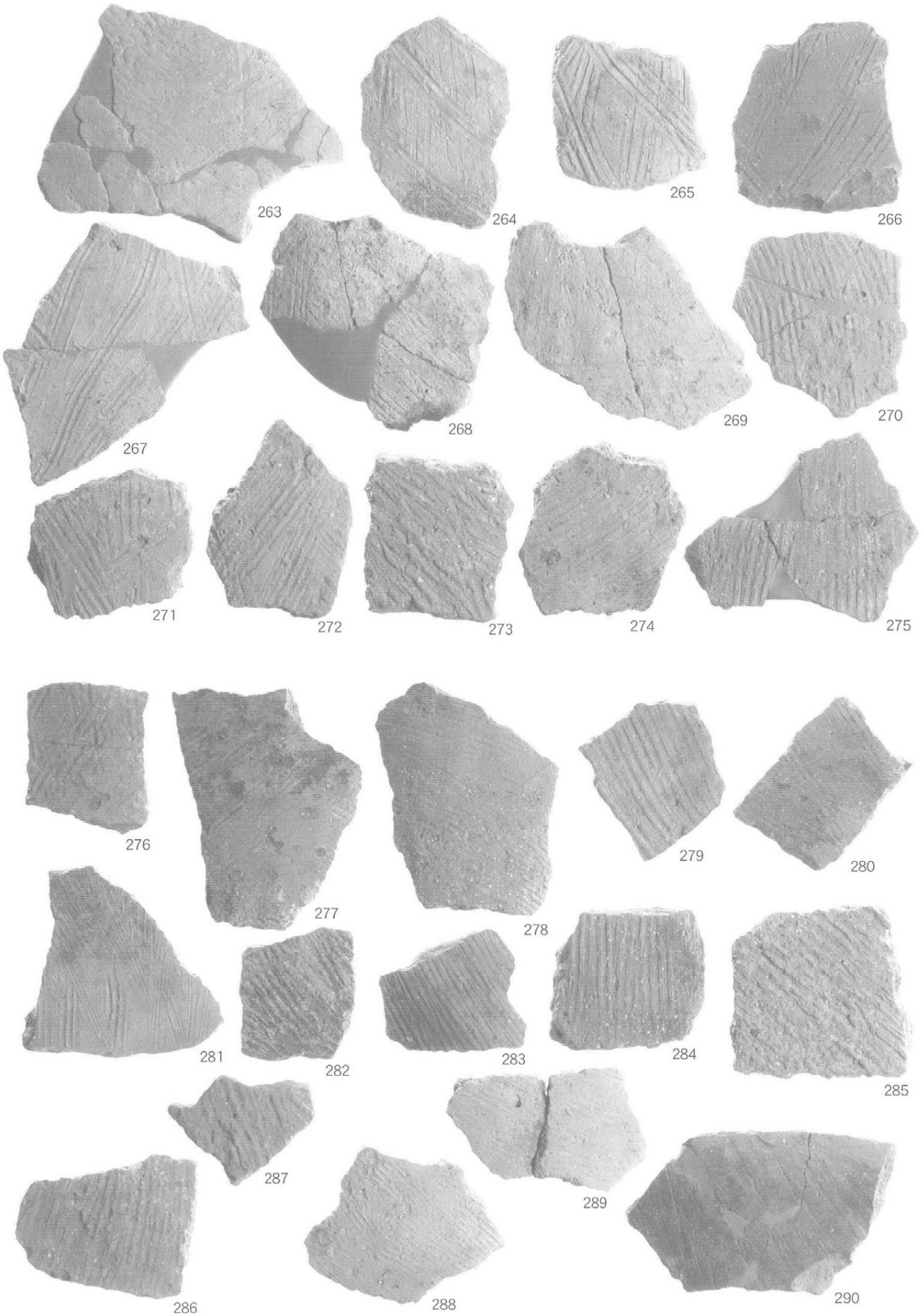
写真図版 27　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑪



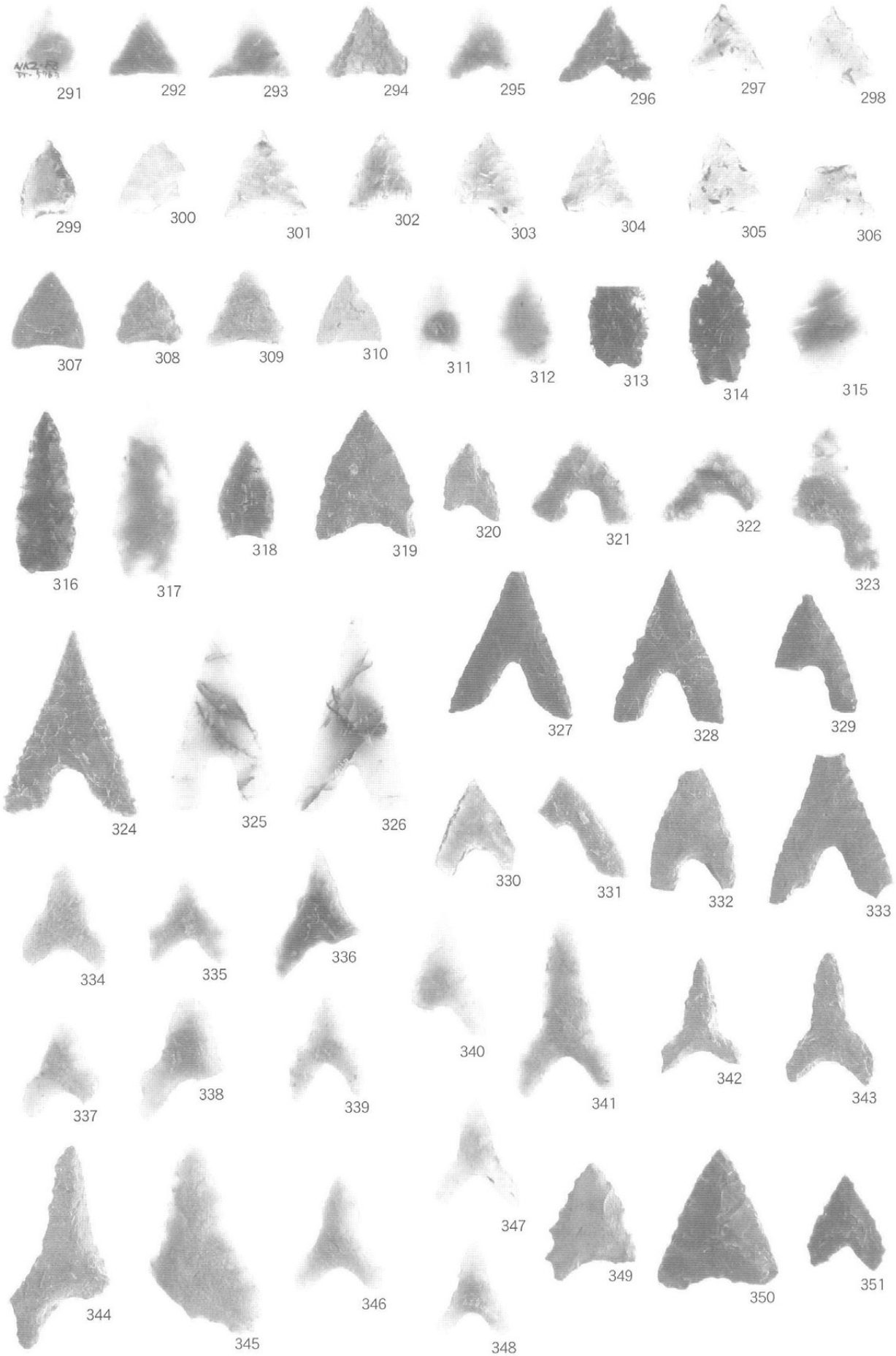
写真図版 28　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑫



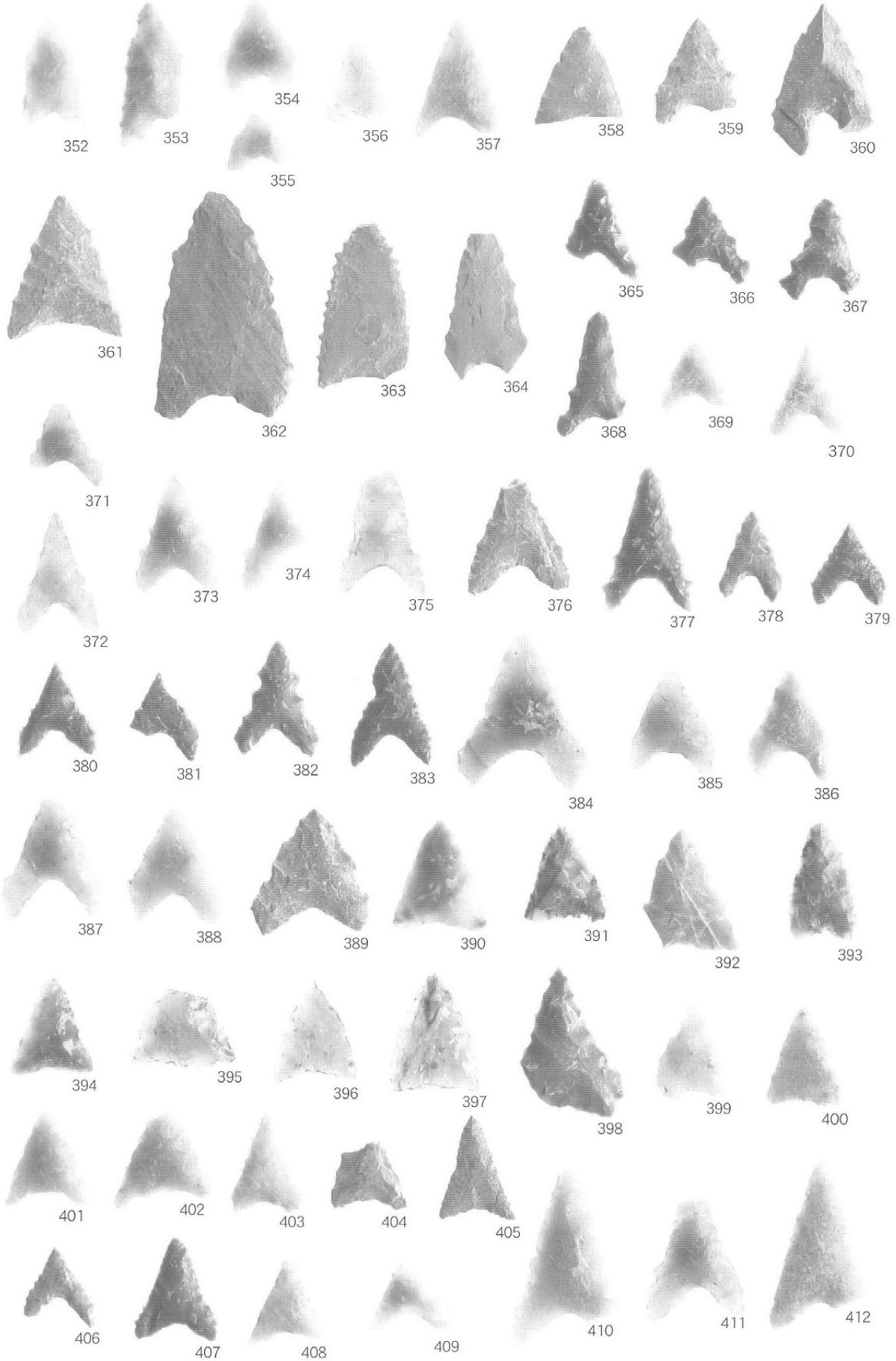
写真図版 29　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑬



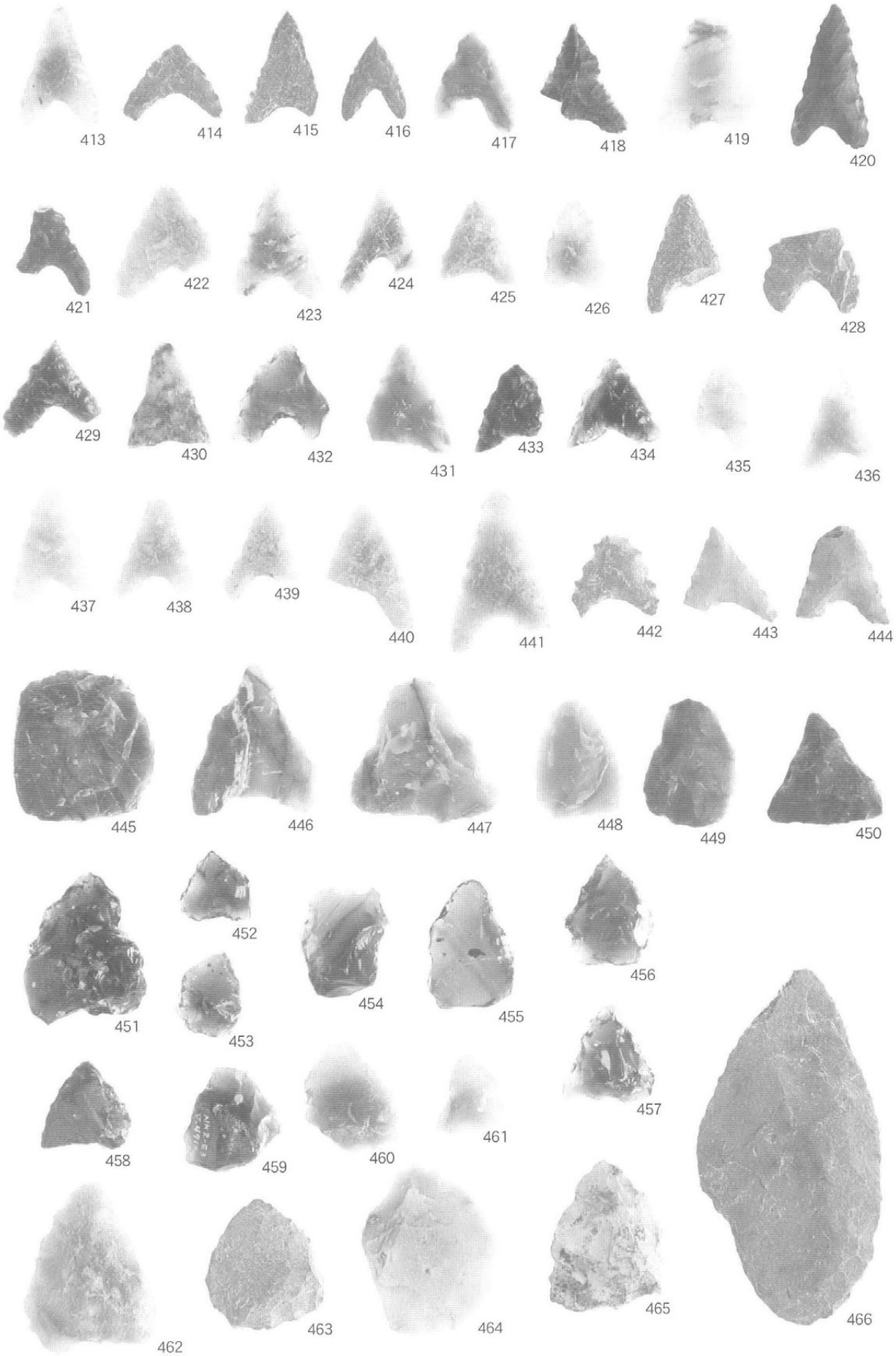
写真図版 30　縄文時代早期遺物包含層出土土器⑭



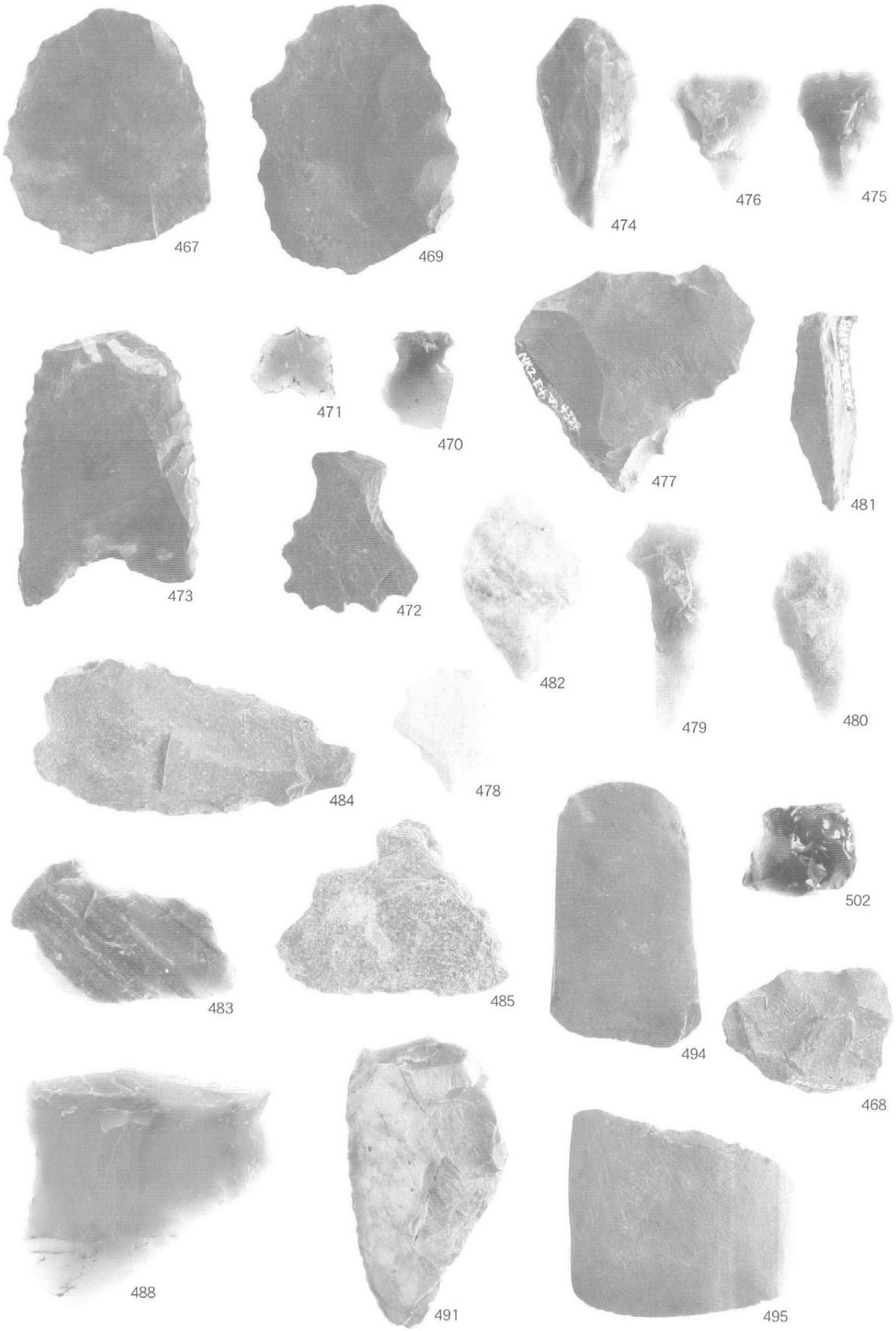
写真図版 31　縄文時代早期遺物包含層出土石器①



写真図版 32　縄文時代早期遺物包含層出土石器②



写真図版 33　縄文時代早期遺物包含層出土石器③



写真図版 34　縄文時代早期遺物包含層出土石器④